元総社蒼海遺跡群

元総社小見Ⅲ遺跡
元総社草作Ⅴ遺跡

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2002

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

序

前橋市は、雄大な裾野を広げる赤城山を背に、坂東太郎として名高い利根川や詩情豊かな広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情にあふれた美しい県都です。

前橋市域は古代より豊かな文化があふれる地であり、東日本でも際だった内容を示しています。今から約２万８千年前の旧石器を始めとして、10基を数える国指定の古墳、関東の華とうたわれた前橋城に関するもの等多くの文化財が残されています。

自然環境に恵まれたこの地では、古代から人々の生活の跡が市内ほぼ全域にわたり残されています。古代の人々が暮らした家の跡や使用した石器や土器などの道具、水田跡なども多く、周辺の埋蔵文化財発掘調査によって多くの新しい知見が集積されています。

平成15年３月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団　長　　阿　部　明　雄

例　言

1．本書は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社小見Ⅲ遺跡・草作Ⅴ遺跡発掘調査報告書である。

2．遺跡は、群馬県前橋市元総社町地内に所在する。

3．調査は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団が主体となり、前橋市教育委員会の指導のもと、山武考古学研究所が担当した。調査面積・期間・担当者は次の通りである。

調査面積　　5,440㎡（元総社小見Ⅲ遺跡　4,594㎡　　元総社草作Ⅴ遺跡　846㎡）

発掘・整理調査期間　平成14年8月20日～平成15年３月７日

発掘・整理担当者　　長谷川一郎・土生朗治（山武考古学研究所）

4．本書の執筆分担は次の通りである。

第Ⅰ章　齊木一敏（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）　第Ⅲ～Ⅶ章　長谷川一郎（山武考古学研究所）

第Ⅱ章　松川由之（山武考古学研究所）　第Ⅴ～Ⅶ章　土生朗治（山武考古学研究所）

5．調査にかかわる遺物・図面・写真等の資料は、一括して前橋市教育委員会が保管している。

6．発掘・整理調査参加者は次の通りである。

青木千賀子　天野晴治　飯沼泰子　石田利子　石原一茂　礒田二郎　礒田政男　宇津木明子　梅山　淳
大野京子　岡田光史　岡田うめ　小野沢昌子　金井道治　金井百合子　上和田慶治　栗原幸男
黒澤文男　小出拓磨　小林ちか子　小林　勝　近藤四郎　斉藤みつ子　酒井正通　桜井れい　桜井敬一
佐藤京子　佐藤之利夫　下田正衛　須田安雄　須田宗孝　須藤ユクエ　関谷智己　田村小百合
竹生正明　戸部孝一　富田信夫　中澤愛次郎　中島辰男　萩原真理子　服部　明　松田　実
馬渕恵美子　黛　準一　宮下哲之　森田俶弘　吉田三枝子　吉田善紀　六本木恭子　綿貫瑛一

凡　例

1．挿図中に記載した北は座標北を示す。

2．本遺跡の略称は元総社小見Ⅲ遺跡「14A116」、元総社草作Ⅴ遺跡「14A117」である。

3．各遺構の略称は次の通りである。

Y…弥生時代の住居跡　H…古墳・奈良・平安時代の竪穴住居跡　B…柱穴列　W…溝跡

Ⅰ…井戸跡　D…土坑　A…道路状遺構　DB…土坑墓　例外として火葬跡は略称を使用していない。

4．遺構・遺物の実測図の縮尺は次の通りである。

全体図…１／200

遺構　竪穴住居跡・柱穴列・井戸跡・土坑墓の平面・断面図…１／80　竈の平面・断面図…１／40

遺物　土器…１／４・１／６　瓦…１／６　鉄製品・紡錘車…１／２　臼玉…１／１

5．計測値については、（　）は現存値、〔　〕は復元値を表す。

6．遺物・遺構の挿図中に使用したスクリーントーン表示は以下の通りである、

陶器断面　施釉範囲　スス付着範囲　黒色処理

赤彩　破断面　粘土

目　次

序
例言・凡例
第Ⅰ章　調査に至る経緯 ……1
第Ⅱ章　遺跡の位置と環境 ……1
　第1節　遺跡の立地……1
　第2節　歴史的環境……1
第Ⅲ章　調査の方法と経過 ……5
　第1節　発掘調査の経過……5
　　第1項　調査方針……5
　　第2項　調査の経過……5
　第2節　整理調査の経過 ……7
第Ⅳ章　基本層序 ……7
第Ⅴ章　元総社小見Ⅲ遺跡 ……8
　第1節　遺構と遺物……8
　　第1項　竪穴住居跡……8
　　第2項　柱穴列 ……21
　　第3項　道路状遺構 ……21
　　第4項　溝跡 ……21
　　第5項　井戸跡 ……22
　　第6項　土坑 ……22
　　第7項　土坑墓 ……22
　　第8項　集石 ……23
第Ⅵ章　元総社草作Ⅴ遺跡……23
　第1節　遺構と遺物 ……23
　　第1項　竪穴住居跡 ……23
　　第2項　溝跡 ……29
　　第3項　井戸跡 ……30
　　第4項　土坑 ……30
　　第5項　土坑墓 ……31
　　第6項　火葬跡 ……31
第Ⅶ章　まとめ……31

表目次

Tab. 1　周辺の遺跡一覧表 ……2
Tab. 2　小見Ⅲ・竪穴住居跡（縄文）一覧表……37
Tab. 3　小見Ⅲ・竪穴住居跡（古墳～平安）一覧表 ……37
Tab. 4　小見Ⅲ・柱穴列一覧表……40
Tab. 5　小見Ⅲ・道路状遺構一覧表……40
Tab. 6　小見Ⅲ・溝跡一覧表……40
Tab. 7　小見Ⅲ・井戸跡一覧表……41
Tab. 8　小見Ⅲ・土坑一覧表……41
Tab. 9　小見Ⅲ・土坑墓一覧表……42
Tab.10　小見Ⅲ・集石一覧表……42
Tab.11　草作Ⅴ・竪穴住居跡（古墳～平安）一覧表 ……42
Tab.12　草作Ⅴ・溝跡一覧表……44
Tab.13　草作Ⅴ・井戸跡一覧表……44
Tab.14　草作Ⅴ・土坑一覧表……45
Tab.15　草作Ⅴ・土坑墓一覧表……46
Tab.16　草作Ⅴ・火葬跡一覧表……46
Tab.17　小見Ⅲ・遺物観察表……46
Tab.18　草作Ⅴ・遺物観察表……50

挿図目次

Fig. 1　元総社小見Ⅲ・草作Ⅴ遺跡位置図
Fig. 2　地籍図
Fig. 3　遺跡周辺の地形図 ……4
Fig. 4　基本層序土層図 ……7
Fig. 5　時期別の竪穴住居跡の主軸方向 ……32
Fig. 6　時期別の竪穴住居跡の配置図 ……33・34
Fig. 7　元総社小見Ⅲ・草作Ⅴ遺跡全体図 …53・54
Fig. 8　元総社小見Ⅲ遺跡１区全体図 ……55・56
Fig. 9　元総社小見Ⅲ遺跡２区全体図 ……57・58
Fig.10　元総社小見Ⅲ遺跡３区全体図 ……59・60
Fig.11　元総社小見Ⅲ遺跡４区全体図 ……61・62
Fig.12　元総社小見Ⅲ遺跡５区全体図 ……63・64
Fig.13　元総社草作Ⅴ遺跡全体図 ……65・66
Fig.14　小見Ⅲ・２区Ｊ－１号住居跡、１区Ｈ－１～３号住居跡 ……67
Fig.15　小見Ⅲ・１区Ｈ－４号住居跡、２区Ｈ－２・４・５号住居跡 ……68
Fig.16　小見Ⅲ・２区Ｈ－９・10・14号住居跡 …69
Fig.17　小見Ⅲ・２区Ｈ－15・16・18号住居跡 …70
Fig.18　小見Ⅲ・２区Ｈ－19～22号住居跡 ……71
Fig.19　小見Ⅲ・２区Ｈ－23～25・35号住居跡 ……72
Fig.20　小見Ⅲ・２区Ｈ－26・29・30・31号住居跡 ……73
Fig.21　小見Ⅲ・２区Ｈ－27・32～34・36号住居跡 ……74
Fig.22　小見Ⅲ・３区Ｈ－１～５号住居跡 ……75
Fig.23　小見Ⅲ・３区Ｈ－６・８・９号住居跡 …76
Fig.24　小見Ⅲ・３区Ｈ－10～14号住居跡 ……77
Fig.25　小見Ⅲ・３区Ｈ－15～17号住居跡、４区Ｈ－１・３・６号住居跡 ……78
Fig.26　小見Ⅲ・４区Ｈ－７～10号住居跡 ……79
Fig.27　小見Ⅲ・４区Ｈ－11～13・15・17号住居跡 ……80
Fig.28　小見Ⅲ・５区Ｈ－１～３号住居跡 ……81
Fig.29　小見Ⅲ・５区Ｈ－４号住居跡、３区Ｂ－１号柱穴列、４区Ｂ－１号柱穴列 ……82
Fig.30　小見Ⅲ・１区Ｗ－１号溝跡、２区Ｗ－１号溝跡、３区Ｗ－１・２号溝跡 ……83
Fig.31　小見Ⅲ・３区Ｗ－３号溝、４区Ｗ－１号溝跡 ……84
Fig.32　小見Ⅲ・４区Ｗ－１・２・４・５号溝跡、Ａ－１号道路状遺構 ……85

Fig.33 小見Ⅲ・5区W－3・4号溝跡、DB－2・4号土坑墓 ……86
Fig.34 小見Ⅲ・5区W－3～5号溝跡、5区D－6号土坑 ……87
Fig.35 小見Ⅲ・5区W－3号溝跡、5区Ⅰ－2号井戸跡、4区D－2号土坑 ……88
Fig.36 小見Ⅲ・5区D－5号土坑、2区DB－1号土坑墓、5区DB－1・2号土坑墓、4区S－1号集石 ……89
Fig.37 草作Ⅴ・H－1・3～5号住居跡 ……90
Fig.38 草作Ⅴ・H－6・11・12号住居跡 ……91
Fig.39 草作Ⅴ・H－13・15号住居跡 ……92
Fig.40 草作Ⅴ・H－16・19号住居跡 ……93
Fig.41 草作Ⅴ・H－18・21・23～25号住居跡 ……94
Fig.42 草作Ⅴ・H－27～30号住居跡 ……95
Fig.43 草作Ⅴ・H－35～37号住居跡 ……96
Fig.44 草作Ⅴ・W－1・2号溝跡 ……97
Fig.45 草作Ⅴ・D－12・18号土坑 ……98
Fig.46 草作Ⅴ・D－16・20号土坑 ……99
Fig.47 草作Ⅴ・D－22～25号土坑、DB－1号土坑墓、1号火葬跡 ……100
Fig.48 小見Ⅲ・2区J－1号住居跡、1区H－1・3・4号住居跡、2区H－2・4・5号住居跡出土遺物 ……101
Fig.49 小見Ⅲ・2区H－5・8・9・10・14号住居跡出土遺物 ……102
Fig.50 小見Ⅲ・2区H－14・15・18・19・23・24・25号住居跡出土遺物 ……103
Fig.51 小見Ⅲ・2区H－25・29・30・32・33号住居跡、3区H－1・8～10・13号住居跡出土遺物 ……104
Fig.52 小見Ⅲ・3区H－14・17号住居跡、4区H－1・3・7～10・15号住居跡、5区H－1号住居跡出土遺物 ……105
Fig.53 小見Ⅲ・5区H－1～4号住居跡、2区W－1号溝跡、3区W－2号溝跡、4区W－1・2号溝跡、5区W－3号溝跡、2区Ⅰ－1号井戸跡出土遺物 ……106
Fig.54 小見Ⅲ・5区W－3号溝跡、5区Ⅰ－1号井戸跡、2区D－8号土坑、4区D－2号土坑、5区D－5号土坑、2区DB－1号土坑墓、5区DB－3号土坑墓、3区遺構外、4区遺構外出土遺物 ……107
Fig.55 草作Ⅴ・H－1・3・4・8・10・11・13号住居跡出土遺物 ……108
Fig.56 草作Ⅴ・H－13・16・18・19・21・25・27・29・30号住居跡出土遺物 ……109
Fig.57 草作Ⅴ・H－30・35～37号住居跡、W－2号溝跡、D－16・20・22・23号土坑、遺構外出土遺物 ……110

写真図版目次

PL.1
小見Ⅲ・1区全景
小見Ⅲ・2区全景
小見Ⅲ・3区全景
小見Ⅲ・4区全景
小見Ⅲ・5区全景
小見Ⅲ・2区J－1号住居跡全景
小見Ⅲ・1区H－1号住居跡全景
小見Ⅲ・1区H－2号住居跡全景

PL.2
小見Ⅲ・1区H－3号住居跡全景
小見Ⅲ・1区H－4号住居跡全景
小見Ⅲ・2区H－2号住居跡全景
小見Ⅲ・2区H－4号住居跡全景
小見Ⅲ・2区H－4号住居跡竈全景
小見Ⅲ・2区H－5号住居跡全景
小見Ⅲ・2区H－8号住居跡全景
小見Ⅲ・2区H－8号住居跡出土耳環出土状況

PL. 3

小見Ⅲ・２区Ｈ－９号住居跡全景

小見Ⅲ・２区Ｈ－９号住居跡竈全景

小見Ⅲ・２区Ｈ－10号住居跡全景

小見Ⅲ・２区Ｈ－14号住居跡全景

小見Ⅲ・２区Ｈ－15号住居跡全景

小見Ⅲ・２区Ｈ－16号住居跡全景

小見Ⅲ・２区Ｈ－17号住居跡全景

小見Ⅲ・２区Ｈ－18号住居跡遺物出土状況

PL. 4

小見Ⅲ・２区Ｈ－18号住居跡全景

小見Ⅲ・２区Ｈ－19号住居跡全景

小見Ⅲ・２区Ｈ－21号住居跡全景

小見Ⅲ・２区Ｈ－22号住居跡全景

小見Ⅲ・２区Ｈ－23・35号住居跡全景

小見Ⅲ・２区Ｈ－24号住居跡全景

小見Ⅲ・２区Ｈ－25号住居跡出土遺物

小見Ⅲ・２区Ｈ－25号住居跡全景

PL. 5

小見Ⅲ・２区Ｈ－26・30・31・34・36号住居跡全景

小見Ⅲ・２区Ｈ－27号住居跡全景

小見Ⅲ・２区Ｈ－29号住居跡全景

小見Ⅲ・２区Ｈ－32号住居跡全景

小見Ⅲ・２区Ｈ－33号住居跡全景

小見Ⅲ・３区Ｈ－１号住居跡全景

小見Ⅲ・３区Ｈ－２・３号住居跡全景

小見Ⅲ・３区Ｈ－４号住居跡全景

PL. 6

小見Ⅲ・３区Ｈ－５号住居跡全景

小見Ⅲ・３区Ｈ－６号住居跡全景

小見Ⅲ・３区Ｈ－７号住居跡全景

小見Ⅲ・３区Ｈ－８号住居跡全景

小見Ⅲ・３区Ｈ－９号住居跡全景

小見Ⅲ・３区Ｈ－９号住居跡竈全景

小見Ⅲ・３区Ｈ－11号住居跡全景

小見Ⅲ・３区Ｈ－13号住居跡全景

PL. 7

小見Ⅲ・３区Ｈ－14号住居跡全景

小見Ⅲ・３区Ｈ－15号住居跡全景

小見Ⅲ・３区Ｈ－17号住居跡全景

小見Ⅲ・４区Ｈ－１号住居跡全景

小見Ⅲ・４区Ｈ－２号住居跡全景

小見Ⅲ・４区Ｈ－３号住居跡全景

小見Ⅲ・４区Ｈ－５号住居跡全景

小見Ⅲ・４区Ｈ－６号住居跡全景

PL. 8

小見Ⅲ・４区Ｈ－７号住居跡全景

小見Ⅲ・４区Ｈ－８号住居跡全景

小見Ⅲ・４区Ｈ－９号住居跡全景

小見Ⅲ・４区Ｈ－10号住居跡全景

小見Ⅲ・４区Ｈ－12号住居跡全景

小見Ⅲ・４区Ｈ－13号住居跡全景

小見Ⅲ・４区Ｈ－14号住居跡全景

小見Ⅲ・４区Ｈ－18号住居跡全景

PL. 9

小見Ⅲ・５区Ｈ－１号住居跡全景

小見Ⅲ・５区Ｈ－２号住居跡全景

小見Ⅲ・５区Ｈ－３号住居跡全景

小見Ⅲ・５区Ｈ－３号住居跡竈全景

小見Ⅲ・５区Ｈ－４号住居跡全景

小見Ⅲ・４区Ｂ－１号柱穴列全景

小見Ⅲ・３区Ｗ－１号溝跡Ｂトレンチセクション

小見Ⅲ・３区Ｗ－１号溝跡Ｄトレンチセクション

PL.10

小見Ⅲ・３区Ｗ－３号溝跡Ａトレンチセクション

小見Ⅲ・３区Ｗ－３号溝跡Ｂトレンチセクション

小見Ⅲ・４区Ｗ－１号溝跡Ｂトレンチセクション

小見Ⅲ・４区Ｗ－１・２号溝跡礫出土状況

小見Ⅲ・５区Ｗ－３号溝跡Ａトレンチ

小見Ⅲ・５区Ｗ－３号溝跡Ｂトレンチ道路面

小見Ⅲ・５区Ｗ－３号溝跡Ｂトレンチ道路面近景

小見Ⅲ・５区Ⅰ－２号井戸跡全景

PL.11

小見Ⅲ・２区Ｄ－８号土坑全景

小見Ⅲ・３区Ｄ－１号土坑全景

小見Ⅲ・４区Ｄ－１号土坑遺物出土状況

小見Ⅲ・５区Ｄ－５号土坑遺物出土状況
小見Ⅲ・２区ＤＢ－１号土坑墓遺物出土状況
小見Ⅲ・２区ＤＢ－１号土坑墓セクション
小見Ⅲ・５区ＤＢ－２号土坑墓人骨出土状況
小見Ⅲ・４区Ｓ－１集石セクション
PL.12
小見Ⅲ・４区Ｓ－１集石礫出土状況
草作Ⅴ・全景
草作Ⅴ・全景
草作Ⅴ・Ｈ－１号住居跡全景
草作Ⅴ・Ｈ－２号住居跡全景
草作Ⅴ・Ｈ－３号住居跡全景
草作Ⅴ・Ｈ－４号住居跡全景
草作Ⅴ・Ｈ－11号住居跡炭化物出土状況
PL.13
草作Ⅴ・Ｈ－11号住居跡竈全景
草作Ⅴ・Ｈ－11号住居跡白磁椀出土状況
草作Ⅴ・Ｈ－12号住居跡全景
草作Ⅴ・Ｈ－13号住居跡竈遺物出土状況
草作Ⅴ・Ｈ－13号住居跡全景
草作Ⅴ・Ｈ－14号住居跡遺物出土状況
草作Ⅴ・Ｈ－16号住居跡竈遺物出土状況
草作Ⅴ・Ｈ－16号住居跡全景
PL.14
草作Ⅴ・Ｈ－19号住居跡全景
草作Ⅴ・Ｈ－19号住居跡竈全景
草作Ⅴ・Ｈ－21号住居跡、Ｄ－12・18号土坑全景
草作Ⅴ・Ｈ－22号住居跡全景
草作Ⅴ・Ｈ－23号住居跡全景
草作Ⅴ・Ｈ－24号住居跡全景
草作Ⅴ・Ｈ－27号住居跡全景
草作Ⅴ・Ｈ－28号住居跡全景
PL.15
草作Ⅴ・Ｈ－29号住居跡全景
草作Ⅴ・Ｈ－30号住居跡全景
草作Ⅴ・Ｈ－30号住居跡竈全景
草作Ⅴ・Ｈ－30号住居跡Ｐ－１～５確認状況
草作Ⅴ・Ｈ－30号住居跡Ｐ－１～５セクション
草作Ⅴ・Ｈ－30号住居跡掘り方全景
草作Ⅴ・Ｈ－31～33号住居跡全景
草作Ⅴ・Ｈ－35号住居跡全景
PL.16
草作Ⅴ・Ｈ－36号住居跡全景
草作Ⅴ・Ｈ－37号住居跡全景
草作Ⅴ・Ｗ－１号溝跡全景
草作Ⅴ・Ｗ－１号溝跡南側面（Ｄ－31・32）礫出土状況
草作Ⅴ・Ｗ－２号溝跡全景
草作Ⅴ・Ｄ－16号土坑全景
草作Ⅴ・Ｄ－20号土坑全景
草作Ⅴ・Ｄ－22～24号土坑全景
PL.17
草作Ⅴ・Ｄ－22・23号土坑遺物出土状況
草作Ⅴ・Ｄ－24号土坑全景
草作Ⅴ・Ｄ－26号土坑全景
草作Ⅴ・Ｄ－28～30号土坑全景
草作Ⅴ・ＤＢ－２号土坑墓人骨出土状況
草作Ⅴ・１号火葬跡確認状況
草作Ⅴ・１号火葬跡セクション
草作Ⅴ・１号火葬跡完掘
PL.18　小見Ⅲ・出土遺物
PL.19　小見Ⅲ・出土遺物
PL.20　小見Ⅲ・出土遺物
PL.21　小見Ⅲ・出土遺物
PL.22　小見Ⅲ・出土遺物
PL.23　草作Ⅴ・出土遺物
PL.24　草作Ⅴ・出土遺物

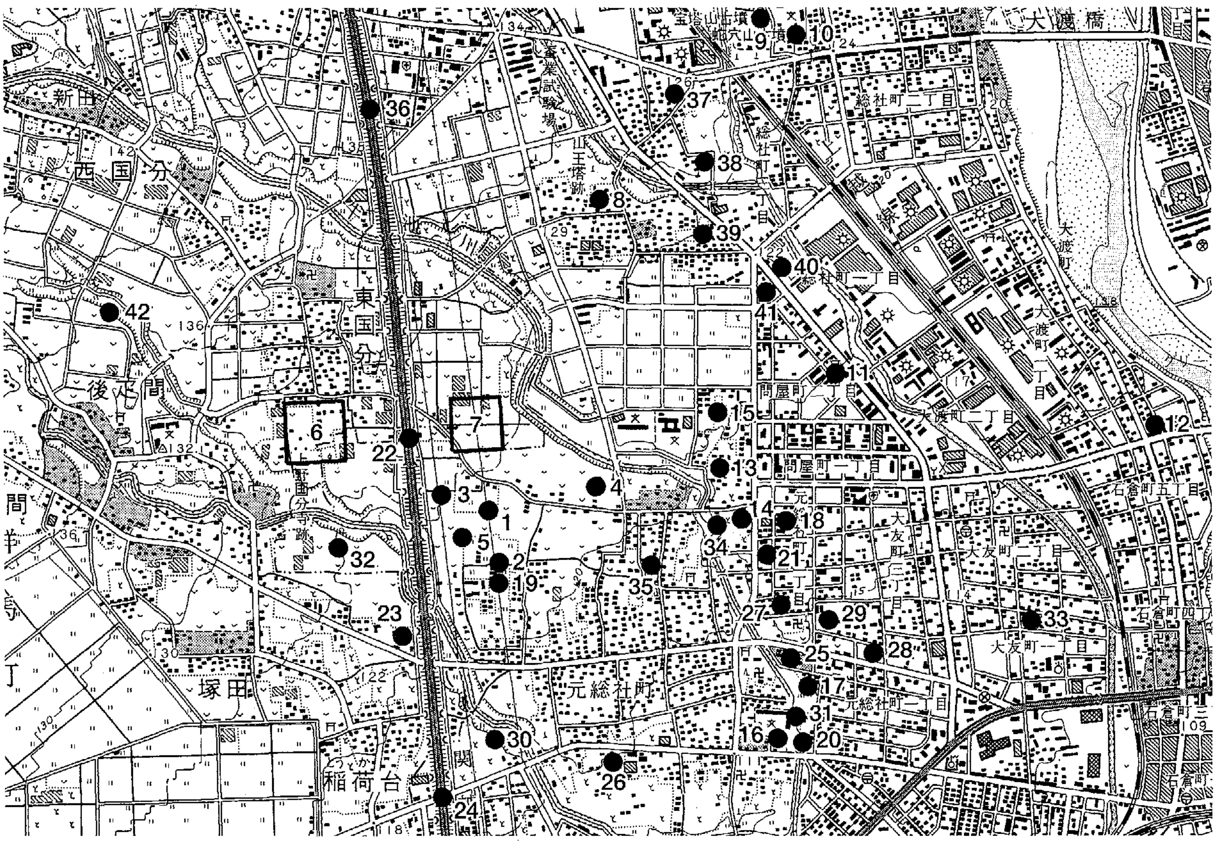
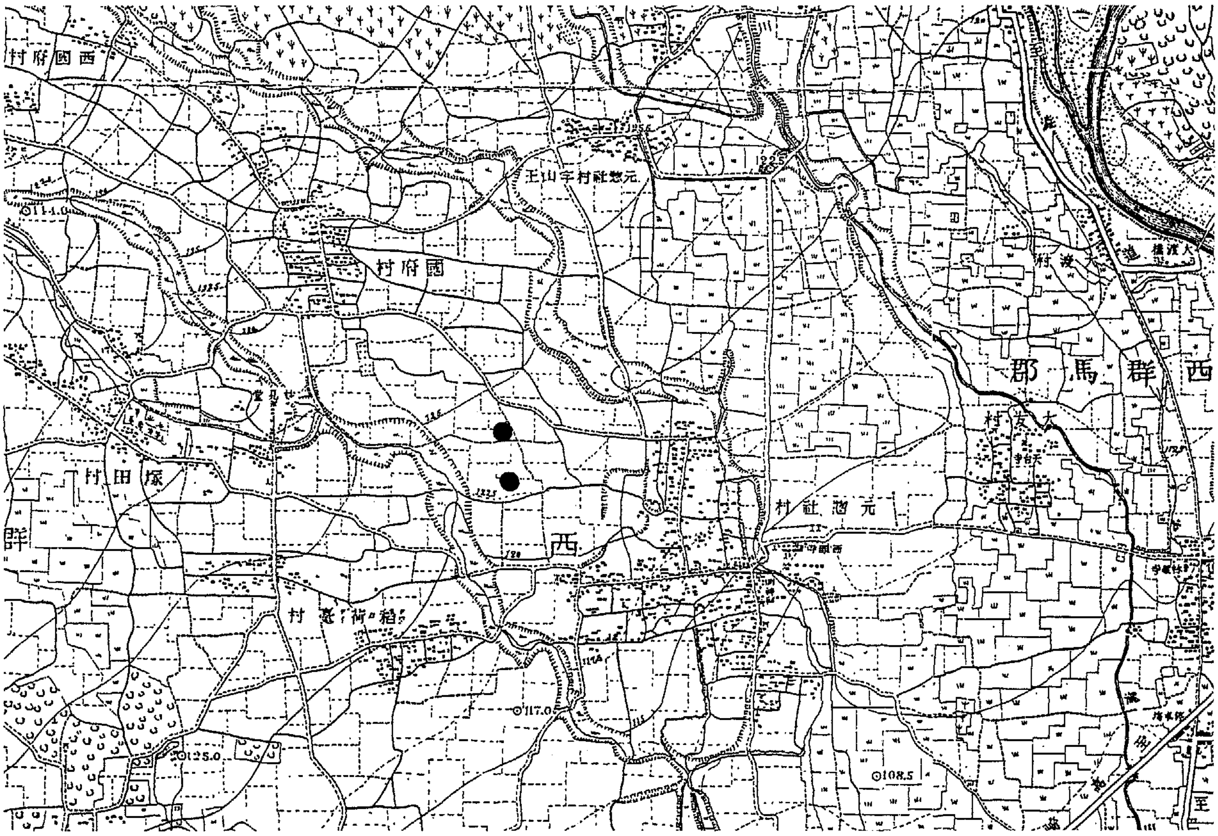


Fig. 1　元総社小見Ⅲ・草作Ⅴ遺跡位置図（1：25,000）



● 遺跡の位置

Fig. 2　地籍図（1：25,000）

第Ⅰ章　調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い実施された。

平成14年５月８日付けで、前橋市長　萩　原　弥惣治（区画二課）より埋蔵文化財発掘調査依頼が前橋市教育委員会（以下「市教委」という。）宛てに提出された。これを受け、市教委では内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団（以下「調査団」という。）に調査実施について通知をしたが、既に市内数カ所において調査団直営による発掘調査が実施されており、加えて本発掘調査を直営で行うことは困難と判断、本件に係る発掘調査は民間調査会社に委託し実施したい旨の回答を得た。これにより、調査依頼者と調査団との間で協議・調整を図り、民間調査会社による発掘調査を進める旨の覚書を締結、これを経てまず平成14年８月19日に調査依頼者である前橋市長　萩　原　弥惣治と前橋市埋蔵文化財発掘調査団　団長　阿部明雄との間で埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結した。その後、同年８月20日付けで民間調査会社である山武考古学研究所　所長　平岡和夫と前橋市埋蔵文化財発掘調査団　団長　阿部明雄との間で委託契約を締結し、現地調査開始に至る。

遺跡名称は『元総社小見Ⅲ遺跡・草作Ⅴ遺跡』、遺跡略称はそれぞれ14A116と14A117である。なお、遺跡名称中の『小見・草作』は旧地籍の小字名を採用し、ローマ数字の『Ⅲ・Ⅴ』は過年度に発掘調査を実施した遺跡と区別するため付したものである。

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

第１節　遺跡の立地

前橋市は、地質及び地形から東北部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地、東部の広瀬川低地帯、南部の現利根川氾濫原の４地域に分けられる。本遺跡の位置する前橋台地は、浅間山の山体崩壊が原因とされる前橋泥流により形成された洪積台地であり、河川の浸食や湿地化などを経て現在に至っている。台地の東側には広瀬川低地帯が幅３㎞の細長い沖積地として広がり、台地の中央には現利根川が北から南へ貫流している。

前橋台地の西には榛名山が聳え、その榛名山を源とする中小河川が利根川に向かって流下し相馬ヶ原扇状地を形作り、台地を刻んで細長い微高地を作り上げている。

元総社小見Ⅲ・草作Ⅴ遺跡は、染谷川と牛池川に挟まれた北西から南東に延びる微高地上に立地し、群馬県庁から西へ約３㎞、関越自動車道前橋インターチェンジから北へ約２㎞の地点に位置しており、北東に赤城山、北西に榛名山、西に浅間山・妙義山を望むことが出来る。

第２節　歴史的環境

本遺跡周辺は上野国府域として想定される地域であり、周辺で行われた発掘調査の成果からは縄文時代からの連綿とした生活の痕跡が発見されている。

縄文時代では上野国分僧寺・尼寺中間地域や産業道路東・西遺跡があり、前期・中期の集落遺跡が調査されている。本遺跡から西へおよそ300ｍのところに位置する小見遺跡（2001年発掘調査）では、諸磯ｂ式期・

Tab. 1　周辺の遺跡一覧表

番号	遺跡名	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中・近世
1	元総社小見Ⅲ遺跡（当該遺跡）					
2	元総社草作Ⅴ遺跡（当該遺跡）					
3	元総社小見Ⅱ遺跡	住居跡		住居跡	住居跡、道路状遺構	溝跡等
4	元総社小見内Ⅲ遺跡		住居跡	住居跡	住居跡、道路状遺構	溝跡、土坑墓等
5	元総社小見遺跡	住居跡		住居跡	住居跡	溝跡
6	上野国分寺跡				金堂基壇、塔基壇	
7	上野国分尼寺跡				南西隅・南東隅築垣	
8	山王廃寺遺跡			塔心礎、根巻石		
9	宝塔山古墳			方墳（７Ｃ末）		
10	蛇穴山古墳			方墳（８Ｃ初）		
11	稲荷山古墳			円墳		
12	王山古墳			前方後円墳（６Ｃ中）		
13	総社甲稲荷塚大道西遺跡Ａ区			住居跡	住居跡、掘立柱建物跡、溝跡	畠跡
14	総社閑泉明神北Ⅱ遺跡			住居跡	住居跡	溝跡
15	総社甲稲荷塚大道西遺跡Ｂ区 総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡			住居跡	住居跡	溝跡
16	元総社小学校校庭遺跡				掘立柱建物跡、柱穴群、周濠跡	
17	元総社明神遺跡　Ⅰ～ⅩⅢ			住居跡、水田跡、堀跡	住居跡、溝跡	住居跡、溝跡
18	閑泉樋遺跡				溝跡	
19	草作遺跡			住居跡	住居跡	井戸跡
20	寺田遺跡				溝跡	
21	閑泉樋南遺跡			住居跡	溝跡	
22	上野国分僧寺・尼寺中間遺跡	住居跡	住居跡	住居跡		掘立柱建物跡等
23	塚田村東遺跡				住居跡	
24	鳥羽遺跡			住居跡、鍛冶場跡	住居跡、掘立柱建物跡	
25	大友屋敷Ⅱ・Ⅲ遺跡			住居跡	住居跡、溝跡、地下式土坑	
26	天神遺跡・Ⅱ遺跡				住居跡	
27	屋敷遺跡・Ⅱ遺跡			住居跡	住居跡	堀跡等
28	堰越遺跡				住居跡、溝跡	
29	堰越Ⅱ遺跡				住居跡	
30	弥勒遺跡・Ⅱ遺跡			住居跡	住居跡	
31	元総社寺田遺跡			水田跡、溝跡	住居跡、溝跡	
32	上野国分寺参道遺跡			住居跡	住居跡	
33	大友宅地添遺跡				水田跡	
34	総社閑泉明神北遺跡			畠跡、水田跡、溝跡		溝跡
35	元総社宅地遺跡 １～23トレンチ			住居跡	住居跡、掘立柱建物跡、鍛冶場跡、溝跡、道路状遺構	溝跡、住居跡
36	国分境遺跡・Ⅱ・Ⅲ遺跡			住居跡	住居跡、畠跡（Ⅱ・Ⅲ遺跡）	土坑墓（Ⅱ・Ⅲ）
37	村東遺跡			住居跡、溝跡	住居跡	堀跡
38	大屋敷遺跡　Ⅰ～Ⅴ	住居跡		住居跡	住居跡	掘立柱建物跡等
39	昌楽寺廻向遺跡・Ⅱ遺跡				住居跡	
40	産業道路東遺跡	住居跡				
41	産業道路西遺跡	住居跡				
42	後正間遺跡　Ⅰ～Ⅲ			住居跡	住居跡	

加曾利Ｅ４式期の住居跡が１件ずつ検出されている。近隣の耕作地では土器や石器などが表採されていることから、今後の発掘成果に期待したい。

その他には下東西遺跡、清里南部遺跡群、清里・陣場遺跡、中島遺跡、長久保遺跡、熊野谷遺跡、北原遺跡、大屋敷遺跡Ⅰ～Ⅴ、元総社稲場遺跡なども挙げられ、時期としては前期から後期に及んでいる。

弥生時代の遺跡としては、本遺跡からおよそ３㎞南に日高遺跡がある。10～15㎝の厚さに堆積した浅間Ｃ軽石層に覆われた後期の水田・集落・方形周溝墓・壺棺墓などが検出されており、水田に残された多数の足跡など当時の稲作の姿を留めている。また、これらの水田を残した人々の集落が近接する旧河川の微高地上で検出されており、住居跡は14件を数え、良好な資料を提供している。

その他には、中期後半の環濠集落である清里・庚申塚遺跡と後期の住居が検出された上野国分僧寺・尼寺中間地域、桜ケ丘遺跡、下東西遺跡などが散見される程度である。

古墳時代においては本遺跡のある地域は「車」と呼ばれ、上毛地域における中心地域であった。本遺跡の西南西約３㎞には５世紀後半の三ツ寺Ⅰ遺跡があり、１辺90ｍ四方の規模をもつ豪族の居館跡として知られている。またそこから北西へ１㎞行ったところには同時期の保渡田古墳群があり、八幡塚古墳（全長102ｍ）・愛宕塚古墳（同92.4ｍ）・薬師塚古墳（同68.4ｍ）の前方後円墳３基が「コ」の字に並び、豪族との関連性が推定されている。

それに続くものとして北約２㎞の総社古墳群が挙げられる。この古墳群は横穴式石室が受容され始めたころから形成されたと考えられる。６世紀前半の川原石を用いた積石塚である王山古墳、それと相前後する遠見山遺跡、国指定史跡で前方部と後方部に石室を有する総社二子山古墳、巨石使用の横穴式石室をもつ愛宕山古墳、また県内最終末期と考えられ仏教文化の影響を強く受けた宝塔山古墳と蛇穴山古墳など、何れもこの地域に強大な権力の存在したことを示す古墳が多数所在する。

本遺跡の北北東１㎞には山王廃寺（放光寺）がある。出土した瓦などから７世紀の第４四半期ころの創建と見られ、官寺ではなく「上毛野君氏」による私寺であった可能性が高く、この地が「車評（くるまのこおり）」の中心地であったことを示している。

本遺跡の南東わずか数百メートルの、牛池川・染谷川に挟まれた現元総社町に国府域が想定されている。元総社小学校校庭遺跡では県下最大級の大型掘立柱建物跡１棟が見つかっており、閑泉樋遺跡・元総社明神遺跡・寺田遺跡で大規模な堀跡が相次いで発見され、国府の外郭の推定が可能になった。寺田遺跡からは33点の墨書土器が出土し、「国厨」・「国」・「□曹司」などの表記が見られ、国府を示す証左となっている。

国府は木簡の表記などから藤原京存続時に創建されたものと考えられる。和銅６年（713）「上毛野国」から「上野国」と改称され、弘仁２年（811）には国のランクが「上国」から「大国」に改められて親王任国に昇格している。この地域の重要性がより認識されるのではないだろうか。国府の外郭をなす堀は10世紀代には半ば埋まった状況にあり、管理が放棄されていた可能性がある。国府推定域は住宅も多く発掘調査もなかなか進まない状況であるが、今後の成果により明確にされるであろう。周辺遺跡には他に、閑泉樋南遺跡、小見遺跡、草作遺跡、大友屋敷遺跡、天神遺跡、染谷川遺跡、弥勒遺跡がある。

国分僧寺と尼寺は本遺跡の北にあり、２寺の間を関越自動車道が縦貫している。本遺跡はちょうど国分２寺と国府域とに挟まれたところに位置している。

国分僧寺は大正15年に国指定史跡となり、昭和40年代からは部分的ながら発掘調査が進められるようになった。国分僧寺の発掘調査は昭和55年から始まり、礎石、築地、堀などが確認されている。その結果国分僧寺の最重要伽藍と位置づけられた七重塔の造営時期は８世紀中葉と考えられ、文献資料とも整合している。

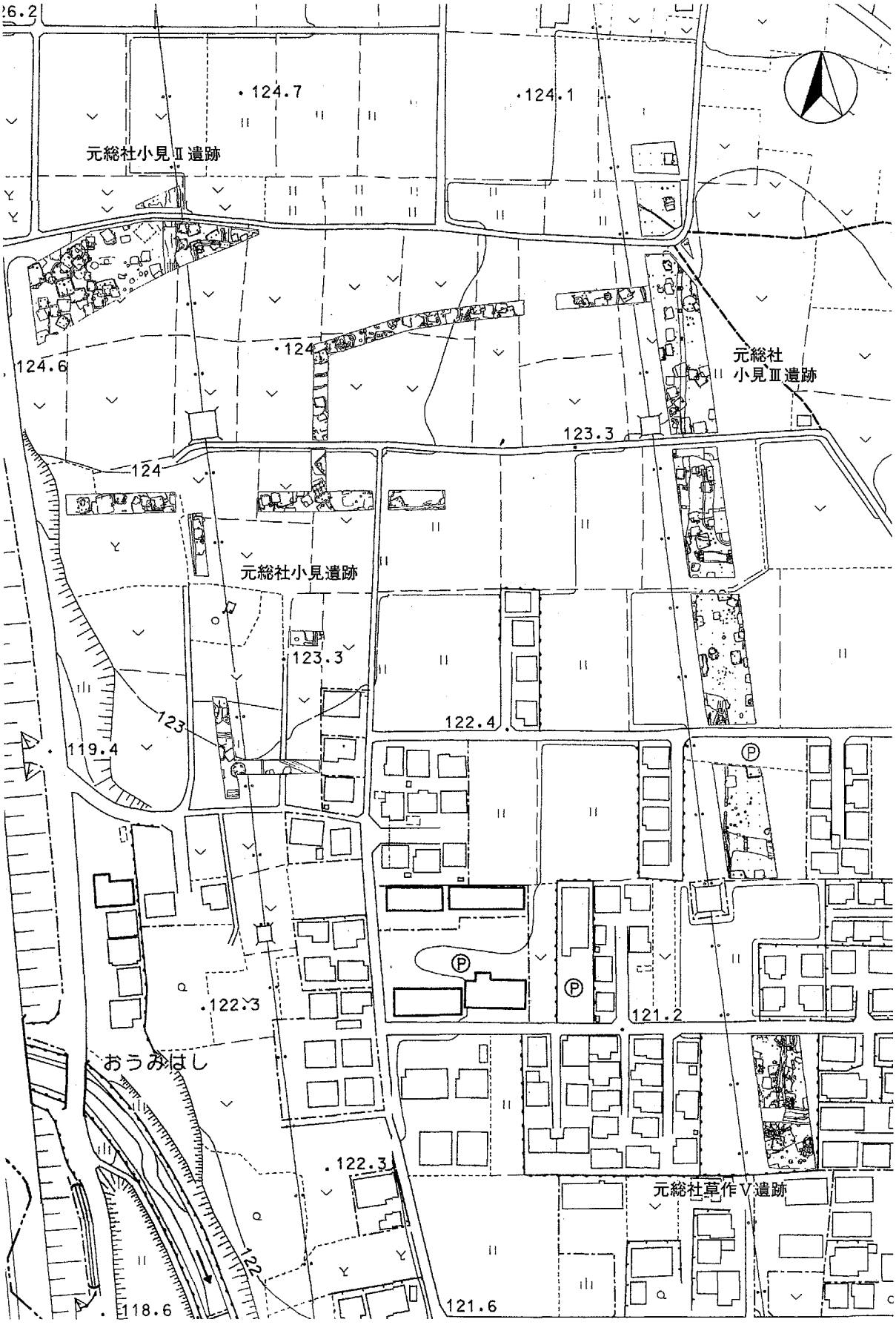


Fig. 3　遺跡周辺の地形図（1：2,500）

一方廃絶の時期は調査結果から12～13世紀代と考えられている。尼寺は県教委による簡単な範囲調査が行われたが、まだ本格的な調査は行われていない。

周辺の遺跡としては、中尾遺跡、鳥羽遺跡、上野国分僧寺・尼寺中間地域等があり、これらの遺跡からは奈良・平安時代の住居跡が多数検出されている。また、多くの遺跡から、緑釉陶器、灰釉陶器、白磁、硯、墨書土器等の出土がみられ、鳥羽遺跡からは神社跡と推定される特殊遺構も検出されている。

中世には1429年長尾氏により蒼海城が築かれる。蒼海城の縄張り自体も国府の地割を利用したものであることが確実視されており、また、現在の街路の相形は、蒼海城の堀割り跡が道路に変化したものである。

第Ⅲ章　調査の方法と経過

第１節　発掘調査の経過

第１項　調査方針

調査委託箇所は前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業の道路予定地で、元総社小見Ⅲ遺跡が4,594㎡、元総社草作Ⅴ遺跡846㎡である。元総社小見Ⅲ遺跡については調査区が狭長となり、現地調査では遺構番号付番等における混乱を避けるため、調査区を１～５区に区分した。遺構番号は各区ごとに個別に付番することとし、１区Ｈ－１号住居跡、２区Ｈ－１号住居跡のように遺構の前に必ず地区名を付すこととした。

グリッドは公共座標に基づいて４×４ｍで設定し、南北方向をＹ軸として北から南へＹ１、Ｙ２、Ｙ３…、東西方向をＸ軸として西から東へＸ１、Ｘ２、Ｘ３…と付番した。各グリッドの呼称は北西杭の名称を使用した。グリッドの起点（Ｘ０、Ｙ０）における公共座標（世界測地系）は以下の通りである。

世界測地系　　第Ⅸ系　Ｘ＝＋44354.898m　　Ｙ＝－72491.717m

（旧日本測地系　第Ⅸ系　Ｘ＝＋44000.000m　　Ｙ＝－72200.000m）

調査は表土掘削、遺構確認、測量基準杭打設、遺構掘り下げ、遺構精査、写真撮影、測量の手順で行った。

遺構の記録は１／20縮尺を基本として平面・断面図を作成し、遺構・遺物の規模や性格により、１／10、１／40縮尺を使用した。遺跡全測図は個別遺構図をもとに作成した。

写真撮影は調査の各段階に応じて随時行い、白黒35㎜判、カラーリバーサル35㎜判を使用した。

第２項　調査の経過

現地調査は平成14年８月20日から平成14年12月29日まで行った。調査経過は以下の通りである。

平成14年

８月下旬　発掘器材の搬入、トイレの設置等を行う。

９月上旬　草作Ⅴ遺跡より重機による表土除去を開始する。

遺構確認作業を行う。住居跡、溝跡を検出する。調査区中央部から南寄りにかけて住居跡が複雑に切り合っていることが確認される。

調査区南寄りから遺構調査を開始する。

降雨により調査区が水没したため、小見Ⅲ遺跡５区へと調査を移行する。

小見Ⅲ遺跡５区の遺構確認作業を行う。住居跡、溝跡、土坑墓などが検出される。

小見Ⅲ遺跡５区の遺構調査を開始する。

中旬　住居跡を中心に遺構調査を行う。
小見Ⅲ遺跡４区の表土除去を行う。
下旬　土坑墓、溝跡を中心に遺構調査を行う。
小見Ⅲ遺跡３区の表土除去を行う。
10月上旬　小見Ⅲ遺跡４区の遺構確認作業を行う。
小見Ⅲ遺跡４区の遺構調査を開始する。
小見Ⅲ遺跡２区の表土除去作業を行う。
降雨により作業を中断していた草作Ⅴ遺跡の調査を再開、小見Ⅲ遺跡４区の遺構調査を一時中断する。
小見Ⅲ遺跡５区の遺構実測を行う。
中旬　草作Ⅴ遺跡の遺構調査を行う。
小見Ⅲ遺跡５区の調査を終了する。
小見Ⅲ遺跡２・３区の遺構確認作業を行う。
下旬　草作Ⅴ遺跡の遺構調査を行う。
小見Ⅲ遺跡２区の表土除去作業を終了する。
小見Ⅲ遺跡１区の表土除去作業を行う。
11月上旬　小見Ⅲ遺跡４区の遺構調査を行う。
小見Ⅲ遺跡１区の遺構調査を開始する。
中旬　小見Ⅲ遺跡２区の遺構調査を開始する。
小見Ⅲ遺跡３区の遺構調査を開始する。
小見Ⅲ遺跡４区の遺構調査を行う。
下旬　草作Ⅴ遺跡の遺構調査を行う。
草作Ⅴ遺跡の終了全景撮影を行う。
小見Ⅲ遺跡２・３・４区の遺構調査を行う。
12月上旬　小見Ⅲ遺跡１区の調査を終了する。
小見Ⅲ遺跡２・３・４区の遺構調査を行う。
中旬　草作Ⅴ遺跡の調査を終了する。
小見Ⅲ遺跡２・３・４区の遺構調査を行う。
下旬　小見Ⅲ遺跡２・３・４区の遺構調査を終了する。
発掘器材の撤収を行う。調査区の埋め戻し作業を行う。

第２節　整理調査の経過

本遺跡の整理作業は、平成15年１月６日から平成15年３月７日まで行った。出土した遺物は全量水洗作業を行い、各遺構ごとに仕分けした。その後、コンピュータ制御によるインクジェットプリンターを使用し、注記を行った。なお、注記不可能な細片についてはビニール袋に入れ、必要事項を記入して整理した。遺物の接合・復元は可能な限り行い、接合には一般工作用強力接着剤（セメダインＣ）を、復元には必要に応じてエポキシ系樹脂（バイサム）を用いて修復を行った。現地で作製した実測図は各遺構ごとに整理し、図面保管封筒に保管した。

検出された遺構・遺物の数量に基づき、報告書作成用の割り付けを決定した。遺構図面は図面修正を加えた後に版組を行い、遺物実測は原寸実測を基本としてトレース作業、版組を行った。上記の作業に並行して、遺構・遺物の事実記載、調査内容についての原稿を執筆した。遺物写真撮影には、ブローニー判モノクロームフィルムを使用した。

第Ⅳ章　基本層序

本遺跡は相馬ヶ原扇状地の東縁にあり、遺跡内の微地形は北西から南東に向かって次第に低くなる。遺跡の大半は染谷川と牛池川に挟まれた微高地に立地する。最も北にあたる元総社小見Ⅲ遺跡１区から最も南に位置する元総社草作Ⅴ遺跡との比高差は約2.7mである。

遺構は総社砂層と通称される黄褐色の砂質土を掘り込んで構築されているが、元総社小見Ⅲ遺跡１区全域、２区北東端、元総社草作Ⅴ遺跡南半で黒褐色粘質土が厚く堆積していて、遺構はこれを掘り込んで構築されている。

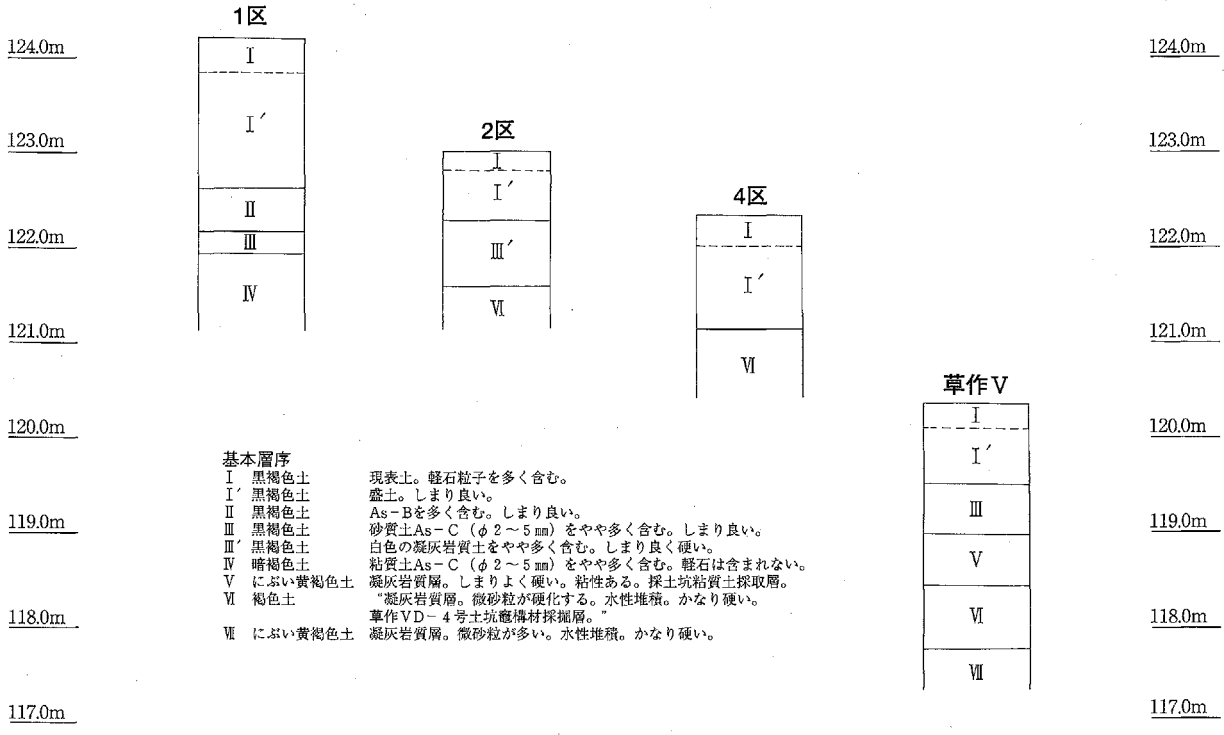


Fig. 4　基本層序土層図

第Ⅴ章　元総社小見Ⅲ遺跡

第１節　遺構と遺物

第１項　竪穴住居跡

元総社小見Ⅲ遺跡では縄文時代中期後半の住居跡１軒、古墳時代後期から平安時代にかけての住居跡76軒が検出されている。

２区Ｊ－１号住居跡（Fig.14、PL.１）

位置　X76・77、Y134・135グリッド　形状等　円形。東西（4.25）m、南北5.57m、壁現高0.11m。埋土と地山の質が近似し、明瞭ではなかったが、埋土中に含まれる凝灰岩質砂岩粒の有無によってプランを確定した。　床面　ほぼ平坦である。炉中央や北寄りに検出さている。西及び北に礫が遺存している。被熱痕は認められなかった。　壁溝　なし。　貯蔵穴　なし。　時期　出土遺物から加曾利Ｅ式と考えられる。　出土遺物　深鉢１点を図示した。

１区Ｈ－１号住居跡（Fig.14、PL.１）

位置　X75・76、Y121グリッド　形状等　主軸方向が短軸となる長方形。東西2.68m、南北3.71m、壁現高0.53m。　主軸方位　Ｎ－90°－Ｅ　床面　ほぼ平坦である。凝灰岩質砂岩の地山を床としている。北から南へ向かってわずかに下り、北辺と南辺での比高は５㎝である。　竈　東壁南寄りに付設され、壁面を掘り込んで構築される。燃焼部側壁及び奥壁で被熱による焼土化が顕著である。両袖部から石の抜き取り痕とみられる方形の落ち込みが検出されている。　壁溝　南辺西寄り、東辺竈より北、北辺、西辺で検出されている。　貯蔵穴　竈南に円形の掘り込みが検出されている。　重複　Ｈ－２号住居跡より新しい。　時期　出土遺物から８世紀中頃と考えられる。　出土遺物　須恵器蓋２点、須恵器坏２点、羽釜１点を図示した。

１区Ｈ－２号住居跡（Fig.14、PL.１）

位置　X76、Y121・122グリッド　形状等　西側をＨ－１号住居跡に切られ、東側は調査区外となるため全容は不明。東西（1.76）m、南北3.22m、壁現高0.39m。　主軸方位　不明。　床面　ほぼ平坦である。南半で硬化が認められる。黒褐色粘質土の地山を床としている。　竈　不明。　壁溝　南辺で検出されている。　貯蔵穴　不明。　重複　Ｈ－１号住居跡より古い。　時期　出土遺物から８世紀代と考えられる。　出土遺物　掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

１区Ｈ－３号住居跡（Fig.14、PL.２）

位置　X75・76、Y124・125グリッド　形状等　主軸方向が長軸となる長方形。東西3.00m、南北［2.75］m、壁現高0.13m。　主軸方位　Ｎ－72°－Ｅ　床面　やや凹凸がある。硬化面は明瞭ではない。10㎝前後の厚さで黒褐色土を貼っている。床下から楕円形の土坑状の掘り込みが検出されている。　竈　東壁中央やや南寄りに付設され、壁面を掘り込んで構築される。　壁溝　なし。　貯蔵穴　なし。　重複　Ｈ－４号住居跡より新しい。　時期　出土遺物から10世紀代と考えられる。　出土遺物　羽釜１点を図示した。

１区Ｈ－４号住居跡（Fig.15、PL.２）

位置　X75・76、Y125・126グリッド　形状等　主軸方向が長軸となる長方形。東西3.32m、南北2.35m、壁現高0.44m。南辺東寄りでは幅1.8m、奥行き0.3mで半円形に張り出している。　主軸方位　Ｎ－78°－Ｅ　床面　ほぼ平坦である。北及び西辺を除き硬化している。硬化は南東の張り出し部まで及んでいる。凝灰

岩質砂岩のブロックを含んだ黒褐色土を貼っている。　竈　東壁南寄りに付設される。黒褐色粘質土で構築される。奥壁で被熱による焼土化が顕著である。凝灰岩質砂岩の加工材を両袖に用いている。　壁溝　竈及び南東部を除き全周する。　貯蔵穴　なし。　重複　H－3号住居跡より古い。　時期　出土遺物から8世紀前半と考えられる。　出土遺物　須恵器蓋2点、坏1点を図示した。

1区H－5号住居跡（Fig.8）

位置　X72、Y121グリッド　形状等　竈のみの検出のため、全容は不明。　主軸方位　不明。　床面　不明。　竈　トンネル状の煙道部のみ検出。詳細不明。　壁溝　不明。　貯蔵穴　不明。　時期　特定できる資料の出土はなく詳細不明。

2区H－2号住居跡（Fig.15、PL.2）

位置　X75、Y136・137グリッド　形状等　主軸方向が短軸となる長方形。東西2.68m、南北4.08m、壁現高0.24m。　主軸方位　N－88°－E　床面　ほぼ平坦である。竈付近でわずかに硬化が認められるが明瞭ではない。凝灰岩質層の地山を床としている。　竈　東壁南寄りに付設され、壁面を掘り込んで構築される。支脚とみられる礫2本が遺存している。　壁溝　なし。　貯蔵穴　なし。　時期　詳細な時期は不明であるが瓦が出土しているところから律令以降と考えられる。　出土遺物　宇瓦1点、鉄製品（刀子）1点を図示した。

2区H－4号住居跡（Fig.15、PL.2）

位置　X74、Y138・139グリッド　形状等　西側が調査区外となるため全容は不明。東西（1.93）m、南北3.89m、壁現高0.55m。　主軸方位　N－79°－E　床面　やや凹凸がある。中央部が硬化している。　竈　東壁南寄りに付設される。凝灰岩質砂岩の加工材と黒褐色粘質土を用いて構築される。崩落した状況ではあるが凝灰岩質砂岩の袖石と、懸架石が出土している。　壁溝　検出部分で全周する。　貯蔵穴　南東角に検出されている。周辺部は床面から7～10cm高くなっている。　時期　出土遺物から6世紀前半と考えられる。

出土遺物　土師器坏2点、須恵器高坏1点を図示した。

2区H－5号住居跡（Fig.15、PL.2）

位置　X74・75、Y138・139グリッド　形状等　主軸方向が短軸となる長方形。東西2.12m、南北3.85m、壁現高0.30m。　主軸方位　N－81°－E　床面　ほぼ平坦である。　竈　東壁南寄りに付設され、壁面を掘り抜いて構築される。　壁溝　北東角南壁の一部を除いて検出されている。　貯蔵穴　なし。　時期　出土遺物から10世紀後半と考えられる。　出土遺物　須恵器椀1点、小皿1点、灰釉陶器段皿1点、羽釜2点、鉄製品（刀子・釘）2点を図示した。

2区H－8号住居跡（Fig.9、PL.2）

位置　X75、Y141グリッド　形状等　ほぼ正方形。住居跡としたが遺構の性格は不明。東西2.62m、南北2.83m、壁現高0.38m。　主軸方位　N－90°－E　床面　中央がやや硬化している。　竈　なし。　壁溝　なし。　貯蔵穴　なし。　時期　特定できる資料の出土はなく詳細不明。　出土遺物　銅製品（耳環）1点を図示した。

2区H－9号住居跡（Fig.16、PL.3）

位置　X74～76、Y141・142グリッド　形状等　主軸方向が長軸となる長方形。東西3.53m、南北3.30m、壁現高0.62m。　主軸方位　N－73°－E　床面　ほぼ平坦である。南半で硬化が認められる。黒褐色土を貼っている。　竈　東壁南寄りに付設される。暗褐色粘質土で構築される。袖石に凝灰岩質砂岩の加工材を用いている。焚き口南寄りから土師器甕が逆位で出土している。　壁溝　なし。　貯蔵穴　なし。　重複

H－10号住居跡より古い。　時期　出土遺物から８世紀前半と考えられる。　出土遺物　土師器甕１点、須恵器蓋１点、須恵器坏２点、鉄鉢１点を図示した。

２区Ｈ－10号住居跡（Fig.16、PL.３）

位置　X74・75、Y142・143グリッド　形状等　西側が調査区外となるため全容は不明。東西（2.14）m、南北4.57m、壁現高0.37m。　主軸方位　N－70°－E　床面　凹凸がある。周辺部を除き硬化している。凝灰岩質砂岩のブロックを含む黒褐色土を貼っている。　竈　東壁中央やや南寄りに検出されている。黒褐色粘質土で構築される。袖石に凝灰岩質砂岩の加工材を用いている。　壁溝　なし。　貯蔵穴　なし。　重複　H－９号住居跡より新しくH－20号住居跡より古い。　時期　出土遺物から８世紀代と考えられる。　出土遺物　須恵器坏１点、鉄製品（環状）１点を図示した。

２区Ｈ－14号住居跡（Fig.16、PL.３）

位置　X75・76、Y144・145グリッド　形状等　他遺構との重複が激しく全容は不明。東西（2.10）m、南北（2.95）m、壁現高0.33m。　主軸方位　N－93°－E　床面　ほぼ平坦である。　竈　東壁に付設される。凝灰岩質砂岩の加工材を構築材として用いている。　壁溝　なし。　貯蔵穴　なし。　重複　H－15号住居跡、D－３号土坑より新しい。　時期　出土遺物から７世紀末から８世紀初頭と考えられる。　出土遺物　土師器甕１点、土師器坏５点、須恵器壺１点を図示した。

２区Ｈ－15号住居跡（Fig.17、PL.３）

位置　X76・77、Y144・145グリッド　形状等　主軸方向が短軸となる長方形。東西3.59m、南北5.54m、壁現高0.53m。　主軸方位　N－83°－E　床面　凹凸がある。黒褐色土を貼って床としているが中央部では地山を直接床としている。　竈　東壁南寄りに付設され、壁面を掘り抜いて構築され、袖に黒褐色粘質土を用いている。北側の燃焼部側壁で被熱による焼土化が顕著である。　壁溝　なし。　貯蔵穴　なし。　重複　H－14号住居跡、W－１号溝跡より古い。　時期　出土遺物から７世紀後半と考えられる。　出土遺物　石製摺鉢１点を図示した。

２区Ｈ－16号住居跡（Fig.17、PL.３）

位置　X77・78、Y145グリッド　形状等　南側が調査区外となるため全容は不明。東西4.25m、南北（4.05）m、壁現高0.50m。　主軸方位　N－80°－E　床面　ほぼ平坦である。全体に硬くしまっている。凝灰岩質砂岩の地山を直接床としている。　竈　東壁に付設される。黒褐色粘質土で構築される。　壁溝　なし。　貯蔵穴　南東に円形の掘り込みが検出されている。　時期　出土遺物から８世紀前半と考えられる。　出土遺物　掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

２区Ｈ－17号住居跡（Fig.９、PL.３）

位置　X78・79、Y143・144グリッド　形状等　東側が調査区外となるため全容は不明。東西（2.34）m、南北3.42m、壁現高0.20m。　主軸方位　N－96°－E　床面　凹凸がある。黒褐色土が貼られるが部分的に凝灰岩質砂岩の地山が露呈している。　竈　不明。　壁溝　検出部分で全周する。　貯蔵穴　不明。　時期　出土遺物から９世紀代と考えられる。　出土遺物　掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

２区Ｈ－18号住居跡（Fig.17、PL.３・４）

位置　X77、Y140・141グリッド　形状等　正方形。東西3.12m、南北3.39m、壁現高0.29m。　主軸方位　N－85°－E　床面　やや凹凸がある。中央やや南寄りで硬化が認められる。黒褐色土を貼っているが、北東部分では凝灰岩質砂岩の地山を床としている。　竈　東壁南寄りに付設される。黒褐色粘質土で構築される。袖石に凝灰岩質砂岩の加工材を用いている。竈内外から瓦片が出土している。構築材として使用され

ていたものとみられる。燃焼部北壁及び奥壁で、被熱による焼土化が顕著である。　壁溝　断続的に検出されている。　貯蔵穴　南東角に円形の掘り込みが検出されている。　重複　H－29号住居跡より新しい。時期　出土遺物から10世紀後半と考えられる。　出土遺物　須恵器椀３点、須恵器皿１点、小皿１点、灰釉陶器椀１点、羽釜１点を図示した。

２区Ｈ－19号住居跡（Fig.18、PL.４）

位置　X77・78、Y140・141グリッド　形状等　東側が調査区となるため全容は不明。東西方向が長軸となる長方形とみられる。東西（3.36）m、南北3.15m、壁現高0.69m。　主軸方位　N－81°－E（南辺での計測）　床面　やや凹凸がある。中央部で硬化が認められる。凝灰岩質砂岩の地山及びH－29号住居跡埋土を床としている。　竈　不明。　壁溝　不明。　貯蔵穴　不明。　重複　H－29号住居跡より新しい。　時期　出土遺物から７世紀後半と考えられる。　出土遺物　土師器坏１点を図示した。

２区Ｈ－20号住居跡（Fig.18）

位置　X74・75、Y143グリッド　形状等　不明。竈煙道部のみの検出。　主軸方位　N－83°－E　床面　不明。　竈　東竈とみられる。　壁溝　不明。　貯蔵穴　不明。　重複　H－10号住居跡より新しい。　時期　特定できる資料の出土はなく詳細不明。　出土遺物　掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

２区Ｈ－21号住居跡（Fig.18、PL.４）

位置　X75、Y145・146グリッド　形状等　他遺構との重複が激しく、また、南東が調査区外となるため全容は不明。東西（2.11）m、南北（2.19）m、壁現高0.11m。　主軸方位　N－75°－E　床面　断面での確認のため不明瞭。黒褐色土を貼っている。　竈　東壁に付設される。　壁溝　不明。　貯蔵穴　不明。　重複　D－３号土坑より古い。　時期　出土遺物から７世紀から８世紀にかけての時期と考えられる。　出土遺物　掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

２区Ｈ－22号住居跡（Fig.18、PL.４）

位置　X74・75、Y134・135グリッド　形状等　主軸方向が短軸となる長方形。東西2.68m、南北3.56m、壁現高0.22m。　主軸方位　N－254°－E　床面　ほぼ平坦である。竈付近から中央にかけて硬化が認められる。凝灰岩質砂岩の地山を床とする。南東にピット２基（P－１・２）が検出されている。貼床は施されていない。本遺構に伴うか不明瞭。　竈　西壁南角に付設され、壁面を掘り抜いて構築される。遺存は不良である。廃棄時点で壊されたとみられ、周辺からは焼土化した竈内壁が散乱して出土している。　壁溝　西辺に検出されている。　貯蔵穴　なし。　重複　D－１号土坑より古い。　時期　出土遺物から９世紀代と考えられる。　出土遺物　掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

２区Ｈ－23号住居跡（Fig.19、PL.４）

位置　X76・77、Y139・140グリッド　形状等　ほぼ正方形。西辺に対して東辺がやや長くなる。東西4.05m、南北4.11m、壁現高0.48m。　主軸方位　N－74°－E　床面　凹凸がある。竈付近から西に向かって硬化が認められる凝灰岩質砂岩の地山を床としている。　竈　東壁南寄りに付設される。暗褐色粘質土で構築される。　壁溝　なし。　貯蔵穴　なし。　重複　H－35号住居跡より新しくH－18号住居跡、I－１号井戸跡より古い。　時期　出土遺物から８世紀前半と考えられる。　出土遺物　土師器甕１点、須恵器蓋１点、高坏１点、小皿１点を図示した。

２区Ｈ－24号住居跡（Fig.19、PL.４）

位置　X75、Y132・133グリッド　形状等　主軸方向が短軸となる長方形。東西2.59m、南北3.61m、壁現高0.34m。　主軸方位　N－79°－E　床面　ほぼ平坦である。中央部で硬化が認められる。２～４㎝の厚さ

で凝灰岩質砂岩粒子を多量に含む黒褐色粘質土を貼っている。　竈　東壁南寄りに付設され、壁面を掘り込んで構築される。内壁全体で被熱による焼土化が顕著である。　壁溝　なし。　貯蔵穴　なし。　重複　H－27号住居跡より新しくH－33号住居跡より古い。　時期　出土遺物から10世紀後半から11世紀前半と考えられる。　出土遺物　須恵器小皿1点、灰釉陶器皿1点を図示した。

2区H－25号住居跡（Fig.19、PL.4）

位置　X74・75、Y131グリッド　形状等　主軸方向が短軸となる長方形。東西2.54m、南北2.99m、壁現高0.42m。　主軸方位　N－70°－E　床面　ほぼ平坦である。中央から北東にかけて黒褐色土を貼っているが、南東部及び北西部では凝灰岩質砂岩の地山を床としている。竈付近で貼床下から土坑状の掘り込み2基（P－1・2）が検出されている。P－1埋土中に多量の焼土粒子が含まれている。　竈　東壁中央に付設され、壁面を掘り抜いて構築される。　壁溝　竈及び南東部を除いて検出されている。　貯蔵穴　なし。　重複　DB－1号土坑墓より古い。　時期　出土遺物から10世紀後半から11世紀前半と考えられる。　出土遺物　須恵器坏1点、小皿1点、灰釉陶器椀2点、鬼瓦1点を図示した。

2区H－26号住居跡（Fig.20、PL.5）

位置　X77、Y132・133グリッド　形状等　東側が調査区外となるため全容は不明。東西2.06m、南北4.82m、壁現高0.59m。　主軸方位　N－85°－E（南辺での計測）　床面　平坦である。南西部分で硬化が認められ、西壁北寄りに向かって延びている。凝灰岩質砂岩の地山を床としている。　竈　不明。　壁溝　北辺と西辺で検出されている。　貯蔵穴　不明。　重複　H－30・31号住居跡より新しくD－6・7号土坑より古い。　時期　出土遺物から10世紀代と考えられる。　出土遺物　掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

2区H－27号住居跡（Fig.21、PL.5）

位置　X74、Y133グリッド　形状等　不明。東西1.89m、南北1.60m、壁現高0.03m。　主軸方位　N－96°－E　床面　凝灰岩質砂岩の地山を床としている。おそらくは南半に対して北が4～6㎝ほど高くなるとみられる。北側の立ち上がりは確認できなかった。硬化面は竈付近北寄りで認められる。　竈　東壁南寄りに付設される。先端部をH－24号住居跡に切られ全容は不明。凝灰岩質砂岩を加工した支脚、袖部に丸瓦が遺存している。竈付近には構築材として用いられていたとみられる凝灰岩質砂岩の加工材が出土している。　壁溝　なし。　貯蔵穴　南東角に円形の掘り込みが検出されている。　重複　H－24号住居跡より古い。　時期　出土遺物から10世紀代と考えられる。　出土遺物　掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

2区H－29号住居跡（Fig.20、PL.5）

位置　X77・78、Y140・141グリッド　形状等　正方形。東西3.44m、南北3.49m、壁現高0.50m。　主軸方位　N－57°－E　床面　ほぼ平坦である。周辺部を除き硬化している。凝灰岩質砂岩の地山を床としている。　竈　東壁やや南寄りに付設され、壁面を掘り込んで構築される。北側内壁で被熱による焼土化が顕著である。南側では袖部に黒褐色粘質土が遺存している。　壁溝　東辺及び北・南辺の東寄りを除いて検出されているが、H－19号住居跡との重複部分ではH－19号住居跡構築時に壊された可能性がある。　貯蔵穴　南東角に検出されている。円形。　重複　H－18・19号住居跡より古い。　時期　出土遺物から7世紀後半と考えられる。　出土遺物　土師器坏2点、土師器甕1点、須恵器坏3点、須恵器蓋1点を図示した。

2区H－30号住居跡（Fig.20、PL.5）

位置　X77、Y132グリッド　形状等　不明。東西（0.64）m、南北（0.82）m、壁現高0.53m。　主軸方位不明。　床面　凝灰岩質砂岩の地山を床としている。　竈　不明。　壁溝　不明。　貯蔵穴　不明。　重複

H－26号住居跡より古い。　時期　出土遺物から7世紀後半から8世紀初頭と考えられる。　出土遺物　土師器坏1点を図示した。

2区H－31号住居跡（Fig.21、PL.30）

位置　X77、Y133・134グリッド　形状等　不明。東西（1.38）m、南北（0.81）m、壁現高（0.46）m。主軸方位　不明。　床面　凝灰岩質砂岩の地山を床としている。　竈　不明。　壁溝　不明。　貯蔵穴　不明。　重複　H－26号住居跡より古い。　時期　特定できる資料の出土はなく詳細不明。　出土遺物　掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

2区H－32号住居跡（Fig.20、PL.5）

位置　X75・76、Y142・143グリッド　形状等　ほぼ正方形。東西3.47m、南北3.62m、壁現高0.48m。主軸方位　N－52°－E　床面　ほぼ平坦である。中央から南壁中央に向かって硬化が認められる。凝灰岩質砂岩のブロックを含んだ黒褐色土を貼っている。　竈　東壁中央に付設される。暗褐色粘質土を用いて構築され、壁面は掘り込んでいない。　壁溝　なし。　貯蔵穴　なし。　重複　D－8号土坑より新しくW－1号溝跡より古い。　時期　出土遺物から7世紀中頃と考えられる。　出土遺物　土師器甕1点を図示した。

2区H－33号住居跡（Fig.20、PL.5）

位置　X75、Y132グリッド　形状等　H－24号住居跡と新旧関係を誤認したため全容は不明。東西2.25m、南北（2.45）m、壁現高0.03m。　主軸方位　N－90°－E　床面　検出部分ではほぼ平坦である。東寄りでわずかに硬化が認められる。暗褐色砂質土を床としている。　竈　東壁に付設され、壁面を掘り込んで構築される。　壁溝　不明。　貯蔵穴　不明。　重複　H－24号住居跡より新しい。　時期　出土遺物から11世紀前半と考えられる。　出土遺物　須恵器坏1点を図示した。

2区H－34号住居跡（Fig.20、PL.5）

位置　X77・78、Y134・135グリッド　形状等　不明。東西（1.96）m、南北2.65m、壁現高0.55m。　主軸方位　N－61°－E（南辺での計測）　床面　凹凸がある。黒褐色土を薄く貼っている。中央部から灰色粘質土が検出されている。　竈　不明。　壁溝　検出部分で全周する。　貯蔵穴　不明。　重複　J－1号住居跡、D－12号土坑より新しくH－36号住居跡より古い。　時期　特定できる資料の出土はなく詳細不明。　出土遺物　掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

2区H－35号住居跡（Fig.19、PL.4）

位置　X75、Y140グリッド　形状等　不明。東西（0.86）m、南北3.40m、壁現高0.51m。　主軸方位　N－81°－E（南辺での計測）　床面　凹凸がある。黒褐色土を薄く貼っている。　竈　不明。　壁溝　不明。　貯蔵穴　不明。　重複　H－23号住居跡より古い。　時期　特定できる資料の出土はなく詳細不明。　出土遺物　掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

2区H－36号住居跡（Fig.20、PL.5）

位置　X77・78、Y134グリッド　形状等　不明。東西（1.07）m、南北（2.26）m、壁現高（0.59）m。主軸方位　N－58°－E（南辺での計測）　床面　ほぼ平坦である。凝灰岩質砂岩の地山を床としている。竈　不明。　壁溝　不明。　貯蔵穴　不明。　重複　H－31・34号住居跡より新しい。　時期　特定できる資料の出土はなく詳細不明。　出土遺物　掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

3区H－1号住居跡（Fig.22、PL.5）

位置　X75・76、Y149・150グリッド　形状等　主軸方向が短軸となる長方形。東西2.68m、南北3.30m、壁現高0.21m。　主軸方位　N－90°－E　床面　凹凸がある。竈西側を中心に南寄りでわずかに硬化が認め

られる。掘り方の凹凸を埋める程度に黒褐色土を貼っている。　竈　東壁南寄りに付設される。凝灰岩質砂岩のブロックを混入した暗褐色粘質土で構築される。　壁溝　竈を除き全周する。　貯蔵穴　なし。　時期　7世紀末から8世紀前半と考えられる。　出土遺物　土師器坏2点を図示した。

3区H－2号住居跡（Fig.22、PL.5）

位置　X78・79、Y150・151グリッド　形状等　主軸方向が短軸となる長方形。北辺に対して南辺がやや長くなる。東西2.84m、南北3.78m、壁現高0.38m。　主軸方位　N－95°－E　床面　やや凹凸がある。南半が硬化しいている。地山を床としている。　竈　東壁南寄りに付設される。瓦及び礫を用いている。遺存状況は不良である。　壁溝　なし。　貯蔵穴　なし。　重複　H－3号住居跡より新しくA－1号道路状遺構より古い。　時期　出土遺物から10世紀代と考えられる。　出土遺物　掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

3区H－3号住居跡（Fig.22、PL.5）

位置　X78、Y150・151グリッド　形状等　東側をH－2号住居跡に切られ、全容は不明。東西（0.94）m、南北3.38m、壁現高0.24m。　主軸方位　不明。　床面　ほぼ平坦である。黒褐色土を薄く貼っている。

竈　不明。　壁溝　不明。　貯蔵穴　不明。　重複　H－2号住居跡より古い。　時期　出土遺物から10世紀代と考えられる。　出土遺物　掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

3区H－4号住居跡（Fig.22、PL.5）

位置　X78・79、Y154グリッド　形状等　東側をW－1号溝跡に切られるため全容は不明。東西（2.37）m、南北2.55m、壁現高0.22m。　主軸方位　N－178°－E　床面　ほぼ平坦である。竈付近でわずかに硬化が認められる。掘り方の凹凸を埋めるように黒褐色土を貼っている。　竈　南壁に付設され、壁面を掘り抜いて燃焼部を構築される。凝灰岩質砂岩を構築材として用いている。煙道は燃焼部から6cmほど高くなり、ほぼ水平に延びている。　壁溝　不明。　貯蔵穴　不明。　重複　W－1号溝跡より古い。　時期　出土遺物から9世紀代と考えられる。　出土遺物　掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

3区H－5号住居跡（Fig.22、PL.6）

位置　X77、Y158グリッド　形状等　不整方形。東壁北寄りがやや張り出す。東西2.95m、南北2.71m、壁現高0.06m。　主軸方位　N－102°－E　床面　ほぼ平坦である。黒褐色土を薄く貼っている。竈付近がやや硬化する感があるが明瞭ではない。黒褐色土を薄く貼っている。　竈　東壁南寄りに付設され、壁面を掘り抜いて構築される。　壁溝　なし。　貯蔵穴　なし。　重複　D－8号土坑より古い。　時期　出土遺物から9世紀後半と考えられる。　出土遺物　掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

3区H－6号住居跡（Fig.23、PL.6）

位置　X77、Y159グリッド　形状等　南側が調査区外となるため全容は不明。東西2.24m、南北（0.76）m、壁現高0.08m。　主軸方位　N－90°－E　床面　地山を床としている。凹凸を埋めるように黒褐色土を貼っている。ほぼ平坦である。　竈　不明。　壁溝　不明。　貯蔵穴　不明。　時期　出土遺物から10世紀以降と考えられる。　出土遺物　掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

3区H－7号住居跡（Fig.10、PL.6）

位置　X78・79、Y159グリッド　形状等　南側が調査区外となるため全容は不明。東西2.90m、南北（1.77）m、壁現高0.13m。主軸方位　N－91°－E（北辺での計測）　床面　やや凹凸がある。地山を直接床としている。　竈　不明。　壁溝　調査できた範囲では検出されていない。　貯蔵穴　不明。　時期　特定できる資料の出土はなく詳細不明。　出土遺物　掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

3区H－8号住居跡（Fig.23、PL.6）

位置　X77・78、Y154・155グリッド　形状等　正方形。東西3.24m、南北3.16m、壁現高0.31m。南東角がやや丸みを帯びる。　主軸方位　N－85°－E　床面　平坦である。ほぼ中央が硬化し、西壁中央へ向かって幅約80cmで硬化面が延びている。5～15cmの厚さで黒褐色土を貼っている。　竈　東壁中央に付設される。暗褐色粘質土で構築される。　壁溝　なし。　貯蔵穴　南東角に検出されている（P－1）。2段の掘り込みとなっている。床面から14cm下がり、さらに東側で26cm、もっとも深いところで床面から40cmである。　時期　出土遺物から6世紀後半と考えられる。　出土遺物　土師器坏1点、土師器壺1点、土師器甕1点を図示した。

3区H－9号住居跡（Fig.23、PL.6）

位置　X77～79、Y155・156グリッド　形状等　ほぼ正方形。東西4.86m、南北4.99m、壁現高0.17m。主軸方位　N－72°－E　床面　ほぼ平坦である。南東寄りと北西寄りで硬化が認められる。2～20cmの厚さで凝灰岩質砂岩のブロックを含む黒褐色土を貼っている。P－1からP－4が主柱穴とみられる。P－4では2基の重複が認められた。　竈　東壁中央やや南寄りに付設される。暗褐色粘質土及び砂質土を用いて構築される。煙道部は燃焼部から約10cmほど高くなり、緩やかな上がり傾斜で延びている。燃焼部底面及び側壁上面で被熱による焼土化が顕著である。　壁溝　なし。　貯蔵穴　南東に検出されている（P－5）。長方形。底面は2段となり、西半が東に比して約20cm低い。　重複　D－1号土坑より古い。　時期　出土遺物から6世紀後半と考えられる。　出土遺物　土師器坏1点を図示した。

3区H－10号住居跡（Fig.24）

位置　X76・77、Y155～157グリッド　形状等　西側が調査区外となり、W－2号溝跡に床面を切られるため全容は不明。東西（1.56）m、南北（5.02）m、壁現高0.45m。　主軸方位　N－64°－E（東辺での計測）　床面　ほぼ平坦である。5～10cmの厚さで、黒褐色土を貼っている。　竈　不明。　壁溝　南東角を除き検出されている。　貯蔵穴　不明。　重複　H－17号住居跡、W－2号溝より古い。　時期　出土遺物から6世紀後半と考えられる。　出土遺物　土師器坏1点を図示した。

3区H－11号住居跡（Fig.24、PL.6）

位置　X77・78、Y149グリッド　形状等　主軸方向が長軸となる長方形。東西2.51m、南北2.37m、壁現高0.29m。　主軸方位　N－94°－E　床面　ほぼ平坦である。凝灰岩質砂岩の地山及びH－14号住居跡埋土を床としている。南東寄りに硬化が認められる。　竈　東壁南寄りに付設され、壁面を掘り込んで構築される。　壁溝　なし。　貯蔵穴　なし。　重複　H－14号住居跡より新しい。　時期　出土遺物から10世紀以降と考えられる。　出土遺物　掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

3区H－12号住居跡（Fig.24）

位置　X80、Y157グリッド　形状等　東側が調査区外となり、南側はW－3号溝跡に切られるため全容は不明。東西（1.18）m、南北（1.32）m、壁現高0.27m。　主軸方位　N－81°－E（北辺での計測）床面やや凹凸がある。凝灰岩質砂岩の地山を床としている。　竈　不明。　壁溝　検出部分で認められる。　貯蔵穴　不明。　重複　W－3号溝跡より古い。　時期　特定できる資料の出土はなく詳細不明。　出土遺物　掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

3区H－13号住居跡（Fig.24、PL.6）

位置　X78、Y149グリッド　形状等　主軸方向が短軸となる長方形。東西1.64m、南北2.39m、壁現高0.08m。　主軸方位　N－96°－E　床面　ほぼ平坦である。竈付近から北西にかけて硬化が認められる。黒褐

色土を薄く貼っている。　竈　東壁南寄りに付設され、壁面を掘り抜いて構築される。　壁溝　なし。　貯蔵穴　なし。　重複　H－14・15号住居跡より新しくA－1号道路状遺構より古い。　時期　出土遺物から10世紀以降と考えられる。　出土遺物　灰釉陶器椀1点を図示した。

3区H－14号住居跡（Fig.24、PL.7）

位置　X77・78、Y148・149グリッド　形状等　正方形。東西3.25m、南北3.25m、壁現高0.35m。　主軸方位　N－71°－E　床面　ほぼ平坦である。凝灰岩質砂岩のブロックを含む黒褐色土を貼って床としている。　竈　東壁南寄りに付設される。遺存状況は不良である。北側に礫、凝灰岩質砂岩の加工材が袖石として遺存している。　壁溝　なし。　貯蔵穴　なし。　重複　H－11・13号住居跡、A－1号道路状遺構より古い。　時期　出土遺物から7世紀後半と考えられる。　出土遺物　土師器坏1点、須恵器坏1点を図示した。

3区H－15号住居跡（Fig.25、PL.7）

位置　X78・79、Y148～150グリッド　形状等　東側がW－1号溝跡に切られるため全容は不明。東西2.33m、南北5.04m、壁現高0.55m。　主軸方位　N－83°－E（北辺での計測）　床面　ほぼ平坦である。凝灰岩質砂岩のブロックを含んだ黒褐色土を貼っている。中央部から西壁南寄りに硬化面が延びている。主柱穴とみられるピット2基（P－1・2）が検出されている。　竈　不明。　壁溝　検出部分で全周している。　貯蔵穴　不明。　重複　H－16号住居跡より新しく、H－13号住居跡、W－1号溝跡より古い。　時期　出土遺物から8世紀前半と考えられる。　出土遺物　掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

3区H－16号住居跡（Fig.25）

位置　X78・79、Y150グリッド　形状等　北側がH－15号住居跡、東側はW－1号溝跡に切られるため全容は不明。東西（2.32）m、南北（1.51）m、壁現高0.13m。　主軸方位　N－76°－E（南辺での計測）　床面　ほぼ平坦である。黒褐色土を貼っている。　竈　不明。　壁溝　不明。　貯蔵穴　不明。　重複　H－2・15号住居跡、W－1号溝跡より古い。　時期　特定できる資料の出土はなく詳細不明。　出土遺物　掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

3区H－17号住居跡（Fig.25、PL.7）

位置　X76・77、Y155・156グリッド　形状等　西側をH－10号住居跡、W－2号溝跡に切られるため全容は不明。東西（1.34）m、南北2.90m、壁現高0.11m。　主軸方位　N－78°－E　床面　ほぼ平坦である。黒褐色土を貼っている。　竈　東壁南寄りに検出されている。壁面を掘り込んで構築される。燃焼部底面全体で被熱による焼土化が顕著である。　壁溝　不明。　貯蔵穴　不明。　重複　H－10号住居跡より新しくW－2号溝跡より古い。　時期　出土遺物から11世紀前半と考えられる。　出土遺物　須恵器椀1点を図示した。

4区H－1号住居跡（Fig.25、PL.7）

位置　X80、Y170グリッド　形状等　西側をW－1号溝に切られるため全容は不明。東西（1.08）m、南北2.98m、壁現高0.07m。西側が調査区外となるため全容は不明。　主軸方位　N－67°－E　床面　凹凸がある。竈付近でやや硬化する部分がある。黒褐色土を薄く貼っている。　竈　東壁南寄りに検出されている。壁面を掘り込んで構築される。　壁溝　不明。　貯蔵穴　南東角に検出されている（P－1）。円形。竈構築材とみられる凝灰岩質砂岩の加工材が出土している。　重複　W－1号溝跡より古い。　時期　出土遺物から7世紀前半と考えられる。　出土遺物　土師器坏1点を図示した。

4区H－2号住居跡（Fig.11、PL.7）

位置　X81・82、Y169・170グリッド　形状等　東側が調査区外となるため全容は不明。東西（2.70）m、南北3.80m、壁現高0.18m。　主軸方位　N－90°－E　床面　やや凹凸がある。北に対して南が約10cmほど低くなる。全体にしまりがあり、硬化面は特定できなかった。凝灰岩質砂岩の地山を床としている。　竈　不明。　壁溝　北壁と西壁北半に検出されている。　貯蔵穴　不明。　時期　出土遺物から9世紀代と考えられる。　出土遺物　掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

4区H－3号住居跡（Fig.25、PL.7）

位置　X78・79、Y165・166グリッド　形状等　D－4～6号土坑と新旧関係を誤認したため全容は不明。東西（2.76）m、南北2.06m、壁現高0.24m。　主軸方位　N－79°－E　床面　ほぼ平坦である。竈付近から西にかけて硬化が認められる。凝灰岩質砂岩の地山に黒褐色粘質土を薄く貼っている。　竈　東壁に2基検出されている。いずれも壁面を掘り込んで構築される。南竈では構築材に瓦が用いられている。検出状況から1軒の住居跡と捉えられた。2基の竈については灰の検出状況から最終的に使用されていたのは南竈の可能性が高い。　壁溝　不明。　貯蔵穴　南東角に円形の掘り込みが検出されれているが、本遺構に伴うものかは不明。　重複　D－4～6号土坑より新しい。　時期　出土遺物から10世紀代と考えられる。　出土遺物　羽釜1点を図示した。

4区H－4号住居跡（Fig.11）

位置　X81・82、Y167・168グリッド　形状等　東側が調査区外となるため全容は不明。東西（1.69）m、南北2.85m、壁現高0.45m。　主軸方位　N－90°－E　床面　やや凹凸がある。凝灰岩質砂岩の地山に凹凸を埋めるように黒褐色土を貼っている。　竈　不明。　壁溝　不明。　貯蔵穴　不明。　時期　出土遺物から10世紀以降と考えられる。　出土遺物　掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

4区H－5号住居跡（Fig.11、PL.5）

位置　X81・82、Y166・167グリッド　形状等　東側が調査区外となるため全容は不明。東西3.34m、南北（3.34）m、壁現高（0.52）m。　主軸方位　不明瞭。　床面　やや凹凸がある。凝灰岩質砂岩の地山に凹凸を埋めるように黒褐色土を貼っている。　竈　不明。　壁溝　検出部分で全周する。　貯蔵穴　南寄りに1基（P－1）検出されている。　時期　特定できる資料の出土はなく詳細不明。　出土遺物　掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

4区H－6号住居跡（Fig.25、PL.5）

位置　X80・81、Y165・166グリッド　形状等　主軸方向が短軸となる長方形。東西3.32m、南北（1.13）m、壁現高0.53m。　主軸方位　N－87°－E　床面　ほぼ平坦である。硬化面は明瞭ではない。凝灰岩質砂岩ブロックを多く含む黒褐色粘質土を5～8cmの厚さで貼っている。四隅及び中央やや北西寄り、南辺中央付近にピットが検出されている。深さは3～10cmほどの浅いピットである。　竈　東壁南寄りに付設される。煙道部は地山をトンネル状に掘り抜いて構築される。袖部は焼土ブロック（φ2～10mm）及び凝灰岩質砂岩粒子と、これをブロック状（φ5～10mm）に含む粘性のある黒褐色土で構築される。　壁溝　なし。　貯蔵穴　なし。　時期　出土遺物から6世紀から7世紀にかけての時期と考えられる。　出土遺物　掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

4区H－7号住居跡（Fig.26、PL.8）

位置　X81、Y163・164グリッド　形状等　東側が調査区外となるため全容は不明。東西（3.56）m、南北3.46m、壁現高0.29m。　主軸方位　N－77°－E　床面　ほぼ平坦である。地山黄褐色砂質土を床としてい

る。東寄りに幅１ｍほどの硬化した部分が検出されている。中央にピット１基（Ｐ－１）が検出されている。竈　東側が調査区外となり、不明であるが、硬化面の検出状況や焼土粒子の検出状況から、東に付設されていた可能性が高い。　壁溝　不明。　貯蔵穴　南東に検出されている。　重複　Ｈ－８号住居跡、Ｗ－３号溝跡、Ｄ－１号土坑より古い。　時期　出土遺物から７世紀末から８世紀初頭と考えられる。　出土遺物　土師器坏１点を図示した。

４区Ｈ－８号住居跡（Fig.26、PL.８）

位置　Ｘ81、Ｙ163・164グリッド　形状等　東側が調査区外となるため全容は不明。東西（1.84）ｍ、南北4.15m、壁現高0.19m。　主軸方位　不明。　床面　ほぼ平坦である。厚さ５㎝前後で黒褐色粘質土を貼っている。　竈　不明。　壁溝　不明。　貯蔵穴　不明。　重複　Ｈ－７号住居跡より新しくＷ－３号溝跡、Ｄ－１号土坑より古い。　時期　出土遺物から11世紀前半と考えられる。　出土遺物　須恵器高台付皿１点を図示した。

４区Ｈ－９号住居跡（Fig.26、PL.８）

位置　Ｘ81、Ｙ162・163グリッド　形状等　東側が調査区外となるため全容は不明。東西（1.60）ｍ、南北（3.85）ｍ、壁現高0.38m。　主軸方位　不明。　床面　やや凹凸がある。凝灰岩質砂岩の地山を床としている。　竈　不明。　壁溝　不明。　貯蔵穴　不明。　重複　Ｈ－19・20号住居跡より新しい。　時期　出土遺物から９世紀から10世紀と考えられる。　出土遺物　須恵器椀１点、女瓦１点を図示した。

４区Ｈ－10号住居跡（Fig.26、PL.８）

位置　Ｘ79、Ｙ162グリッド　形状等　ほぼ正方形。東西2.23m、南北2.43m、壁現高0.09m。　主軸方位　Ｎ－86°－Ｅ　床面　凝灰岩質砂岩の地山を床としている。　竈　東壁中央やや南寄りに付設される。　壁溝　なし。　貯蔵穴　なし。　時期　出土遺物から６世紀から７世紀にかけての時期と考えられる。　出土遺物　土師器坏１点を図示した。

４区Ｈ－11号住居跡（Fig.27）

位置　Ｘ79・78、Ｙ162・163グリッド　形状等　主軸方向が短軸となる長方形。東西3.49m、南北2.22m、壁現高0.19m。　主軸方位　Ｎ－82°－Ｅ　床面　ほぼ平坦である。壁際を除き、全体に硬化が認められる。暗褐色粘質土の地山を床としている。　竈　東壁南寄りに付設され、壁面を掘り込んで構築される。　壁溝　なし。　貯蔵穴　なし。　時期　特定できる資料の出土はなく詳細不明。　出土遺物　掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

４区Ｈ－12号住居跡（Fig.27、PL.８）

位置　Ｘ79・80、Ｙ160・161グリッド　形状等　北側が調査区外となるため全容は不明。東西（2.11）ｍ、南北4.56m、壁現高0.36m。　主軸方位　Ｎ－81°－Ｅ　床面　ほぼ平坦である。竈付近に硬化が認められる。凝灰岩質砂岩のブロックを含んだ黒褐色土を深いところで20㎝の厚さで貼っている。柱穴は２基（Ｐ－１・２）検出されている。主柱穴とみられる。柱穴掘り方は柱痕部を除き貼床が施されている。　竈　東壁に付設される。粘性のある暗褐色土で構築される。　壁溝　検出部分で全周する。　貯蔵穴　南東角に検出（Ｐ－３）されている。楕円形。埋土上層に灰の堆積が認められた。　重複　Ｈ－13号住居跡より古い。　時期　出土遺物から６世紀代と考えられる。　出土遺物　掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

４区Ｈ－13号住居跡（Fig.27、PL.８）

位置　Ｘ80・81、Ｙ160・161グリッド　形状等　主軸方向が長軸となる長方形。東西（3.27）ｍ、南北（2.84）ｍ、壁現高0.12m。　主軸方位　Ｎ－115°－Ｅ　床面　ほぼ平坦である。東半で硬化が認められる。

掘り方の凹凸を埋めるように黒褐色土を貼っている。一部凝灰岩質砂岩の地山が露呈している。　竈　東壁南寄りに付設され、壁面を掘り込んで構築される。　壁溝　なし。　貯蔵穴　なし。　重複　H－12号住居跡より新しい。　時期　出土遺物から9世紀代と考えられる。　出土遺物　掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

4区H－14号住居跡（Fig.11、PL.8）

位置　X81、Y160・161グリッド　形状等　東側が調査区外となるため全容は不明。東西（1.00）m、南北（3.57）m、壁現高0.16m。　主軸方位　不明。　床面　ほぼ平坦である。H－21埋土中及び凝灰岩質砂岩の地山を床としている。　竈　不明。　壁溝　不明。　貯蔵穴　不明。　重複　H－21号住居跡より新しい。　時期　出土遺物から10世紀以降と考えられる。　出土遺物　掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

4区H－15号住居跡（Fig.27）

位置　X77、Y161・162グリッド　形状等　西側が調査区外となるため全容は不明。東西（1.61）m、南北4.13m、壁現高0.27m。　主軸方位　N－4°－E（東辺での計測）　床面　ほぼ平坦である。南半で硬化が認められる。主柱穴とみられるピット2基（P－1・2）が検出されている。凝灰岩質砂岩のブロックを含んだ黒褐色土を貼っている。　竈　調査できた範囲では検出されていないが、焼土粒子が床面北西にわずかに検出され、北竈の可能性が高い。　壁溝　調査できた範囲では検出されていない。　貯蔵穴　調査できた範囲では検出されていない。　重複　H－17号住居跡より新しい。　時期　出土遺物から6世紀後半と考えられる。　出土遺物　土師器坏2点を図示した。

4区H－17号住居跡（Fig.27）

位置　X77、Y161・162グリッド　形状等　西側大半がH－15号住居跡に切られ、また、調査区外となるため全容は不明。東西1.15m、南北（2.87）m、壁現高0.27m。　主軸方位　N－91°－E　床面　黒褐色土を貼っている。　竈　東壁に付設される。　壁溝　調査できた範囲では検出されていない。　貯蔵穴　不明。　重複　H－15号住居跡より古い。　時期　出土遺物から6世紀後半から7世紀代にかけての時期と考えられる。　出土遺物　掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

4区H－18号住居跡（Fig.11、PL.8）

位置　X77、Y162・163グリッド　形状等　西側が調査区外となるため全容は不明。東西（1.04）m、南北（3.88）m、壁現高（0.26）m。　主軸方位　N－346°－E（東辺での計測）　床面　ほぼ平坦である。北半が硬化している。　竈　不明。貯蔵穴の位置からおそらく北竈とみられる。　壁溝　調査できた範囲では検出されていない。　貯蔵穴　北東隅に検出されている。　時期　出土遺物から6世紀代と考えられる。　出土遺物　掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

4区H－19号住居跡（Fig.11）

位置　X81、Y163グリッド　形状等　北側をH－9号住居跡、南側をH－8号住居跡に切られ、東側が調査区外となるため全容は不明。東西（1.06）m、南北（1.17）m、壁現高（0.05）m。　主軸方位　不明。　床面　検出部分でほぼ平坦である。　竈　不明。　壁溝　調査できた範囲では検出されていない。　貯蔵穴　不明。　重複　H－8・9号住居跡より古い。　時期　特定できる資料の出土はなく詳細不明。　出土遺物　掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

4区H－20号住居跡（Fig.11）

位置　X81、Y162グリッド　形状等　北側をH－21号住居跡、南側をH－9号住居跡に切られ、東側が調査区外となるため全容は不明。東西（1.00）m、南北（0.71）m、壁現高（0.31）m。　主軸方位　不明瞭。

床面　検出部分でほぼ平坦である。　竈　不明。　壁溝　調査できた範囲では検出されていない。　貯蔵穴　不明。　重複　H－9・21号住居跡より古い。　時期　特定できる資料の出土はなく詳細不明。　出土遺物　掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

4区H－21号住居跡（Fig.11）

位置　X81、Y161グリッド　形状等　東側が調査区外となるため全容は不明。東西（0.58）m、南北（4.62）m、壁現高（0.42）m。　主軸方位　不明。　床面　検出部分でほぼ平坦である。凝灰岩質砂岩ブロック（φ5～30㎜）を多量に含む暗褐色砂質土を10㎝前後貼っている。　竈　不明。　壁溝　調査できた範囲では検出されていない。　貯蔵穴　不明。　重複　H－20号住居跡より新しくH－14号住居跡より古い。　時期　特定できる資料の出土はなく詳細不明。　出土遺物　掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

5区H－1号住居跡（Fig.28、PL.9）

位置　X81～83、Y175・176グリッド　形状等　北及び東側が調査区外となるため全容は不明。東西（5.03）m、南北（4.08）m、壁現高0.20m。　主軸方位　N－81°－E（南辺での計測）　床面　やや凹凸がある。中央部が硬化している。凝灰岩質砂岩の地山を直接床とする。ピットは4基検出され、P－1・2が主柱穴と考えられる。P－3・4は西壁に検出された小穴で間仕切りに関わるものか。　竈　不明。　壁溝　検出部分で全周する。　貯蔵穴　不明。　時期　出土遺物から6世紀後半と考えられる。　出土遺物　土師器坏5点、土師器甕2点、須恵器坏1点、須恵器壺1点、石製品（砥石）1点を図示した。

5区H－2号住居跡（Fig.28、PL.9）

位置　X80、Y176・177グリッド　形状等　主軸方向が短軸となる長方形。東西3.69m、南北3.95m、壁現高0.23m。西壁南寄りに半円形の張り出しがある。埋土中に焼土ブロックの混入が認められたが火床部は認められなかった。　主軸方位　N－268°－E　床面　全体に凹凸がある。中央部のやや狭い範囲で硬化が認められる。南寄りが2～4㎝ほど高くなっている。この高まりでは凝灰岩質砂岩の地山が露呈しているが、他の部分では微砂を多く含む黒褐色土を1～2㎝の厚さで貼っている。　竈　西壁中央やや北寄りに付設される。W－1号溝跡によって上面が切られ、遺存は良くない。下部でわずかに暗褐色粘質土の袖が検出されている。　壁溝　なし。　貯蔵穴　なし。　重複　W－1号溝跡より古い。　時期　出土した遺物が少量のため断定はできないが7世紀代と考えられる。　出土遺物　土師器甕1点を図示した。

5区H－3号住居跡（Fig.28、PL.9）

位置　X82・83、Y185グリッド　形状等　南側が調査区外となるため全容は不明。東西3.17m、南北（2.97）m、壁現高0.22m。　主軸方位　N－90°－E　床面　やや凹凸がある。北半が竈前に対して10㎝程度高くなっている。この低い部分で硬化が認められる。　竈　東壁に付設される。黒褐色粘質土を用いて構築されている。燃焼部側壁上面で被熱による焼土化が顕著である。本竈前面において貼床下から旧竈の痕跡が確認されている。　壁溝　不明。　貯蔵穴　不明。　時期　出土した遺物が少量のため断定はできないが7世紀代と考えられる。　出土遺物　須恵器高坏1点を図示した。

5区H－4号住居跡（Fig.29、PL.9）

位置　X80・81、Y184・185グリッド　形状等　南側が調査区外となるため全容は不明。東西5.03m、南北（2.85）m、壁現高0.24m。東壁の竈北には、幅83㎝、奥行31㎝の張り出しが検出されている。張り出し部の底面は床面とほぼ同じ高さである。　主軸方位　N－88°－E　床面　ほぼ平坦である。凝灰岩質砂岩の地山を床としているが、掘り方の凹凸を埋める程度に黒褐色土を貼っている。　竈　東壁に付設される。南半が調査区外となるため全容は不明。凝灰岩質砂岩のブロックを黒褐色粘質土で構築される。遺存している北

側では凝灰岩質砂岩の加工材を袖石に用いている。　壁溝　検出部分で竈を除き全周する。溝内には直径８～10cm、壁溝底面からの深さ８～10cmの小穴が検出されている。　貯蔵穴　不明。　重複　Ｗ－４号溝跡より古い。　時期　出土遺物から10世紀代と考えられる。　出土遺物　滑石製臼玉１点を図示した。

５区Ｈ－５号住居跡（Fig.12）

位置　X79、Y181グリッド　形状等　Ｗ－２・３号溝跡に大半を切られ、全容は不明。東西（0.74）m、南北（0.68）m、壁現高0.14m。　主軸方位　不明。　床面　調査できた範囲ではほぼ平坦。黄褐色砂質土の地山を床としている。　竈　不明。　壁溝　不明。　貯蔵穴　不明。　重複　Ｗ－２号溝跡、Ｄ－４号土坑より古い。　時期　特定できる資料の出土はなく詳細不明。　出土遺物　掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

第２項　柱穴列

３区Ｂ－１号柱穴列（Fig.29）

位置　X78・79、Y154～156グリッド　形状等　東西方向の５基を柱穴列とした。柱間寸法は北から1.55m、2.10m、2.10m、1.60mである。　主軸方位　Ｎ－154°－Ｅ　柱穴　埋土中にＡｓ－Ｃ、Ｈｒ－ＦＡを含む。径43～63cm、深さ17～53cm。確認できた柱痕径は18～20cmである。　重複　Ａ－１号道路状遺構より古い。

時期　時期を特定できる遺物はなかったが、埋土の状況から古代以前と考えられる。

４区Ｂ－１号柱穴列（Fig.29、PL.９）

位置　X77、Y160・161グリッド　形状等　南北方向の２基を柱穴列とした。柱間寸法は2.20mである。おそらくは調査区外北西に建物跡が延びると思われる。　主軸方位　Ｎ－20°－Ｅ　柱穴　形状は楕円形である。底面は柱痕部が方形に深くなる。Ｐ－１長軸0.82m、短軸0.71m、深さ0.65m。Ｐ－２長軸0.79m、短軸0.79m、深さ0.65m。埋土中に確認できた柱痕径は20cmである。　時期　時期を特定できる遺物はなかったが埋土の状況から古代以前と考えられる。

第３項　道路状遺構

道路状遺構は３区で１条、４区で１条が検出されている。いずれも帯状に延びる硬化面として検出されたものである。これらは重複するすべての遺構より新しいもので、比較的新しい時期の遺構である可能性がある。また、溝跡としたものの中で５区Ｗ－１号溝跡は底面及び埋土中に硬化面が検出され、道路として使用されていたことが想定されるものである。規模などの詳細については道路状遺構一覧表（Tab.５）にまとめた。

第４項　溝跡

溝跡は１区で１条、２区で１条、３区で４条、４区で５条、５区で５条で計16条が検出されている。

１区Ｗ－１号溝跡は埋土の状況から古代以前が想定されるもので、他の14条は埋土の状況や出土遺物から中世以降と考えられる。中世以降が想定される溝跡では３・４・５区から規模の大きい薬研状のものが検出されている。いずれも隣接する蒼海城の堀割りに関わる遺構と考えられる。２区Ｗ－１号溝跡は南北に直線に走行し、南へさらに延び、３区Ｗ－４号溝跡と同一の遺構として捉えられる。３区Ｗ－１号溝跡は調査区の東壁際に検出され、北東部ではほぼ調査区に沿うように西へ屈曲している。断面形は深い薬研状である。３区Ｗ－２号溝跡は調査区の西辺に検出され、北部は西に向かって屈曲している。深さは2.47mで、断面形は

「U字」状である。この屈曲した角部にW－4号溝が接続する。3区W－3号溝跡は東西に走行し、西端部は調査区内で立ち上がっている。深さは2.47mで、断面形は「V字」状である。Bトレンチ東壁での土層観察によると、南側では北側に比して、立ち上がりが高くなり、南側に土塁が構築されていたと考えられる。3区W－4号溝跡は3区W－2号溝跡から北へ延び、2区W－1号溝跡としてさらに北へ延びている。4区W－1号溝跡は西は調査区外へと延び、X79・80、Y169・170グリッド内で南へ屈曲して立ち上がっている。Bトレンチ西壁での土層観察によると、南側では北側に比して、立ち上がりが高くなり、南側に土塁が構築されていたと考えられる。埋土中から板碑が出土している。4区W－2号溝跡は調査区外南から下り傾斜で北へ延び、4区W－1号溝跡に接続する。4区W－1号溝跡から4区W－2号溝跡にかけて人頭大の礫が多量に出土している。礫に混入して石鉢が出土している。4区W－2号溝跡はさらに調査区外南方へと延びていて、5区W－1号溝跡へと連続した同一の遺構と考えられる。4区W－3号溝跡は調査区東側に検出されたもので、埋土の様子から近・現代の遺構と考えられる。4区W－4号溝跡は4区W－1溝跡南端から南西に延びるものでA－1号道路状遺構硬化面下層に検出されている。4区W－5号溝跡は4区南西端に検出された浅い溝状の落ち込みである。5区W－1号溝跡は4区W－2号溝跡から連続し、X80、Y181グリッドで立ち上がっている。これと同一線上に延び、立ち上がり以南を4区W－2号溝跡とした。同溝跡は南では5区W－3号溝跡と接続し、同溝跡の側面に直交して下り、底面に接続している。5区W－3号溝跡は深さ0.85～1.30mの断面形が「U字」状となる掘り込みで、底面南寄りでは幅1.0～1.92mの硬化面が帯状に延び、道路として機能していたと考えられる。Bトレンチ内では礫が敷設されている。底面上方に複数の硬化面が検出され、ある程度の期間道路として機能していたことが考えられる。本遺構の北側面上方にはDB－3・4号土坑墓があり、土層観察から道路として機能していたのと同時期に墓地が存在していたと考えられる。遺物は埋土中から五輪塔（空風輪、水輪）が出土している。5区W－4号溝跡は4区W－3号溝跡から南へ向かって分岐している。5区W－5号溝跡はW－3号溝跡底面部分から西へ分岐している。上面はW－3号溝跡内の道路面から硬化面が連続している。各溝の規模など詳細については小見Ⅲ・溝跡一覧表（Tab.6）にまとめた。

第5項　井戸跡

井戸跡は2区で1基、4区で1基、5区で2基が検出されている。この中で、5区Ⅰ－2号井戸跡は埋土の状況から古代以前の可能性が高い。他のものは埋土の様子から中世以降が考えられる。遺物では2区Ⅰ－1号井戸跡から常滑広口壺、5区Ⅰ－1号井戸跡から茶臼が出土している。規模等の詳細については井戸跡一覧表（Tab.7）にまとめた。

第6項　土坑

土坑としたものは26基が検出されている。この中で4区で検出されたD－4～6号土坑は採土坑の可能性が高い。同じく4区で検出されたD－2号土坑は埋土中に多量の焼土が混入し、周辺にはピット群が検出されている。D－2号土坑とピット群との関連が考えられる。規模等の詳細については土坑一覧表（Tab.8）にまとめた。

第7項　土坑墓

土坑墓は古代と想定されるもの1基、埋土の状況から中世以降が想定されるもの4基で、計5基が検出さ

れている。古代と想定される２区ＤＢ－１号土坑墓は２区Ｈ－25号住居跡と重複し、同住居跡より新しい。人骨の遺存状況は不良で埋葬形態は不明である。遺物は緑釉陶器皿、灰釉陶器耳皿、須恵器小皿、須恵器椀が出土している。土坑墓の詳細については土坑墓一覧表（Tab.９）にまとめた。

第８項　集石

４区Ｓ－１号集石（Fig.36、PL.11・12）

位置　Ｘ77・78、Ｙ165～167グリッド　形状等　東西（2.76）m、南北7.98m、深さ0.50m。西側が調査区外となるため全容は不明。検出部分では掘り込み底面形状ともに不整形である。拳大から人頭大の礫が多量に出土していて、これに混入して中世陶器が出土している。　時期　埋土の状況や出土遺物から中世以降と考えられる。

第Ⅵ章　元総社草作Ⅴ遺跡

第１節　遺構と遺物

第１項　竪穴住居跡

Ｈ－１号住居跡（Fig.37、PL.12）

位置　Ｘ84・85、Ｙ200・201グリッド　主軸方位　Ｎ－82°－Ｅ　形状等　主軸方向が短軸となる長方形。東西3.65m、南北（3.95）m、壁現高0.14m。　床面　やや凹凸がある。全体にしまっている。凹凸を埋める程度に黒褐色土を敷いている。　竈　東壁に付設される。黒褐色粘質土の構築材がわずかに残存する。　壁溝　西辺と南辺西寄りに検出されている。　貯蔵穴　南東に検出されている。楕円形で北及び東に中段を有する。　重複　Ｈ－２・３・23号住居跡、Ｗ－２号溝跡より古い。　時期　出土遺物から６世紀後半から７世紀前半と考えられる。　出土遺物　土師器鉢１点、土師器壺１点を図示した。

Ｈ－２号住居跡（Fig.13、PL.12）

位置　Ｘ84、Ｙ200グリッド　主軸方位　不明。　形状等　北側が調査区外となり、東側はＷ－２号溝跡、Ｈ－１・23号住居跡に切られるため全容は不明。東西（1.79）m、南北（2.15）m、壁現高0.05m。　床面　やや凹凸がある。全体にしまっている。検出部のほぼ中央に床下土坑が検出されている。　竈　不明。　壁溝　西辺に検出されている。　貯蔵穴　不明。　重複　Ｈ－１・23号住居跡より新しく、Ｗ－２号溝跡、Ｄ－５号土坑より古い。Ｈ－３号住居跡との関係は不明。　時期　出土遺物から9世紀から10世紀と考えられる。　出土遺物　掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

Ｈ－３号住居跡（Fig.37、PL.12）

位置　Ｘ84、Ｙ200・201グリッド　主軸方位　Ｎ－192°－Ｅ　形状等　東側がＷ－２号溝跡に切られ、北側がＨ－２号住居跡と重複するため、全容は不明。東西（1.87）m、南北（1.48）m、壁現高0.07m。　床面　やや凹凸がある。全体にしまっている。竈前に床下土坑が２基検出されている。　竈　南に付設され壁面を掘り込んで燃焼部を構築される。　壁溝　不明。　貯蔵穴　不明。　重複　Ｗ－２号溝跡、Ｈ－２号住居跡との関係は不明。　時期　出土遺物から11世紀前半と考えられる。　出土遺物　須恵器坏１点、瓦１点、鉄製品２点を図示した。

H－4号住居跡（Fig.37、PL.12）

位置　X82・83、Y202・203グリッド　主軸方位　N－100°－E　形状等　西側が調査区外となるため、全容は不明。東西（3.14）m、南北5.30m、壁現高0.07m。　床面　地山を直接床としている。やや凹凸がある。西寄りでは重複するH－6号住居跡埋土中に床を貼っている。　竈　東壁南寄りに付設される。遺存は不良で構築材を抜きとった痕跡がみられる。　壁溝　北辺に検出されている。　貯蔵穴　不明。　重複　H－5・6号住居跡より新しい。　時期　出土遺物から10世紀前半と考えられる。　出土遺物　須恵器小型壺1点、灰釉陶器椀1点、羽釜2点を図示した。

H－5号住居跡（Fig.37）

位置　X82、Y201・202グリッド　主軸方位　N－122°－E　形状等　西側が調査区外となり、南側はH－4号住居跡に切られるため全容は不明。東西（2.55）m、南北（2.73）m、壁現高0.03m。　床面　地山を直接床としている。ほぼ平坦である。　竈　不明。　壁溝　北辺に検出されている。　貯蔵穴　不明。　重複　H－4・6号住居跡、D－4号土坑より古い。　時期　特定できる資料の出土はなく詳細不明。出土遺物　掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

H－6号住居跡（Fig.38）

位置　X82、Y202・203グリッド　主軸方位　N－86°－E　形状等　西側が調査区外となるため全容は不明。東西（0.66）m、南北（4.03）m、壁現高0.10m。　床面　3層上面が床とみられるが明瞭ではなく、H－4号住居跡構築の際にすでに掘削された可能性もある。　竈　東壁南寄りに付設される。遺存は不良である。　壁溝　北辺に検出されている。　貯蔵穴　不明。　重複　H－5号住居跡より新しく、H－4号住居跡より古い。　時期　出土遺物から10世紀以降と考えられる。　出土遺物　掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

H－7号住居跡（Fig.13）

位置　X82、Y201グリッド　主軸方位　不明。　形状等　竈のみの検出のため詳細不明。東西（0.25）m、南北（1.17）m、壁現高0.02m。　竈　東壁に付設される。部分的な検出で詳細不明。　壁溝　不明。　貯蔵穴　不明。　時期　特定できる資料の出土はなく詳細不明。　出土遺物　掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

H－8号住居跡（Fig.13）

位置　X82、Y204グリッド　主軸方位　N－87°－E　形状等　竈のみの検出のため詳細不明。東西（0.13）m、南北（1.10）m、壁現高0.06m。　竈　東壁に付設される。　壁溝　不明。　貯蔵穴　不明。　時期　出土遺物から10世紀中頃と考えられる。　出土遺物　須恵器椀1点を図示した。

H－9号住居跡（Fig.13）

位置　X82、Y204・205グリッド　主軸方位　N－102°－E　形状等　竈を含む東側一部のみ検出のため詳細不明。東西（0.68）m、南北（1.64）m、壁現高0.02m。　床面　検出できた部分でほぼ平坦。凝灰岩質砂岩の地山を床としている。　竈　東壁に付設される。　壁溝　北辺に検出されている。　貯蔵穴　不明。　時期　出土遺物から10世紀以降と考えられる。　出土遺物　掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

H－10号住居跡（Fig.13）

位置　X82、Y205グリッド　主軸方位　不明。　形状等　竈煙道のみの検出のため詳細不明。東西（0.69）m、南北（0.28）m、壁現高0.11m。　竈　東壁に付設される。　壁溝　不明。　貯蔵穴　不明。　時期　出土遺物から10世紀以降と考えられる。　出土遺物　鉄製品（釘）1点、鉄製品（鉄鏃）1点を図示した。

H－11号住居跡（Fig.38、PL.12・13）

位置　X83・84、Y208・209グリッド　主軸方位　N－98°－E　形状等　西側が調査区外となり、北側はW－1号溝跡、D－16号土坑に切られるため、全容は不明。東西（3.73）m、南北（4.45）m、壁現高0.08m。　床面　D－20号土坑埋土内を床としている。全体に硬い土質で硬化部分は特定できなかった。南西寄りに土坑状の掘り込みが2基検出されている。掘り込み内からは住居跡埋土から連続して馬骨、炭化物が出土している。　竈　東壁南寄りに付設される。壁面を掘り込んで構築し、凝灰岩質砂岩の加工材を袖石、天井石に用いている。煙道は燃焼部からほぼ水平に長く延びている。　壁溝　不明。　貯蔵穴　不明。　重複　D－20号土坑より新しく、W－1号溝跡、D－16号土坑より古い。　時期　出土した白磁椀から11世紀中頃から12世紀初頭と考えられる。　出土遺物　白磁椀1点、鉄製品（鉄鏃）1点を図示した。

H－12号住居跡（Fig.38、PL.13）

位置　X83、Y209・210グリッド　主軸方位　N－103°－E　形状等　西側が調査区外となり全容は不明。東西（3.13）m、南北4.32m、壁現高0.10m。　床面　全体に硬い土質で硬化部分は特定できなかった。西寄りに被熱により著しく焼土化し、硬くしまっている箇所が検出されている。中央部にはピットが検出されているが、埋土上面は硬化している。本遺構に伴うものかは不明瞭。　竈　東壁南寄りに付設され、壁面を掘り込んで構築される。煙道は燃焼部からほぼ水平に長く延びている。　壁溝　不明。　貯蔵穴　不明。　重複　H－13・15号住居跡より新しい。　時期　特定できる資料の出土はなく詳細不明。　出土遺物　掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

H－13号住居跡（Fig.39、PL.13）

位置　X83・84、Y209・210グリッド　主軸方位　N－98°－E　形状等　主軸方向が短軸となる長方形。東西3.76m、南北5.12m、壁現高0.27m。　床面　北半では地山を床としているが、南半では凹凸を埋める程度に黒褐色土を敷いている。ピットは8基検出されているが性格は不明瞭。P－4・6・8では上面に貼床が施されている。北寄りは間仕切り状の溝が検出されている。　竈　東壁南寄りに付設され、壁面を掘り込んで構築される。凝灰岩質砂岩の加工材を袖石、支脚に用いている。焚き口は広く支脚は2基検出され、いずれも小皿が被せられ、これも被熱を受けている。　壁溝　北辺に検出さている。　貯蔵穴　南東隅に検出（P－7）されている。長方形で南側はオーバーハングする。　重複　H－14～16号住居跡より新しく、H－12号住居跡より古い。　時期　出土遺物から10世紀後半と考えられる。　出土遺物　須恵器小皿3点、須恵器蓋1点、鉄製品（釘）1点を図示した。

H－14号住居跡（Fig.13、PL.13）

位置　X84、Y210グリッド　主軸方位　不明。　形状等　北側をH－12・13号住居跡に切られ全容は不明。東西（2.55）m、南北（0.38）m、壁現高0.04m。　床面　検出部分でほぼ平坦。凝灰岩質砂岩の地山を床としている。　竈　不明。　壁溝　不明。　貯蔵穴　不明。　重複　H－13・15号住居跡より古い。　時期　出土遺物から10世紀以降と考えられる。　出土遺物　掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

H－15号住居跡（Fig.39）

位置　X83・84、Y209・210グリッド　主軸方位　N－70°－E　形状等　東側をH－13号住居跡に切られるため全容は不明。東西（3.16）m、南北4.57m、壁現高0.34m。　床面　ほぼ平坦である。全体に硬い土質で硬化部分は特定できなかった。3～5㎝の厚さで黒褐色土を貼っているが北側では凝灰岩質砂岩の地山を床としている。　竈　不明。　壁溝　北辺に検出されている。　貯蔵穴　不明。　重複　H－12～14号住居跡、D－19号土坑より古い。　時期　出土遺物から10世紀以降と考えられる。　出土遺物　掲載可能な遺

物の出土はみられなかった。

H－16号住居跡（Fig.40、PL.13）

位置　X84・85、Y208・209グリッド　主軸方位　N－68°－E　形状等　主軸方向が短軸となる長方形。東西4.25m、南北4.97m、壁現高0.18m。　床面　黒褐色土を3～10cmの厚さで貼っている。P－1～4の4基が主柱穴とみられる。　竈　北東壁中央やや南寄りに付設される。地山と同質の凝灰岩質砂岩の加工材を両袖に用いている。構築材として用いられたとみられる土師器甕が出土している。　壁溝　なし。　貯蔵穴　南東隅に検出されている（P－5）。円形。　重複　H－13号住居跡、D－8号土坑より古い。　時期　出土遺物から6世紀後半と考えられる。　出土遺物　土師器甕2点を図示した。

H－17号住居跡（Fig.13）

位置　X84・85、Y211グリッド　主軸方位　N－1°－E　形状等　南側が調査区外となるため全容は不明。東西2.58m、南北（0.57）m、壁現高0.02m。　床面　ほぼ平坦である。黒褐色粘質土を床とする。　竈　北壁東寄りに付設される。　壁溝　不明。　貯蔵穴　不明。　時期　特定できる資料の出土はなく詳細不明。　出土遺物　掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

H－18号住居跡（Fig.41）

位置　X83・84、Y211グリッド　主軸方位　N－81°－E　形状等　東及び南側が調査区外となるため全容は不明。東西（3.53）m、南北（1.57）m、壁現高0.04m。　床面　ほぼ平坦である。黒褐色粘質土を床とする。　竈　東壁に付設される。　壁溝　不明。　貯蔵穴　不明。　時期　出土遺物から11世紀前半から中頃と考えられる。　出土遺物　須恵器小皿2点を図示した。

H－19号住居跡（Fig.40、PL.14）

位置　X86・87、Y210グリッド　主軸方位　N－93°－E　形状等　主軸方向が長軸となる長方形。東西3.01m、南北2.83m、壁現高0.25m。　床面　ほぼ平坦である。D－18号土坑埋土を床としている。全体に硬い土質で硬化部分は特定できなかった。　竈　東壁南寄りに付設される。壁面を掘り抜いて構築され、凝灰岩質砂岩の加工材を支脚に用いている。煙道はトンネル状に掘り抜かれていたとみられ、燃焼部から緩い傾斜で長く延びている。燃焼部側壁と煙道部内壁で被熱による焼土化が顕著である。　壁溝　なし。　貯蔵穴　なし。　重複　H－21号住居跡、D－18号土坑より新しい。　時期　出土遺物から11世紀前半と考えられる。　出土遺物　土師器小皿1点、須恵器坏1点を図示した。

H－20号住居跡（Fig.13）

位置　X86、Y210グリッド　主軸方位　不明。　形状等　竈煙道部のみの検出のため、全容は不明。東西（0.68）m、南北（0.25）m、壁現高0.35m。　竈　西竈とみられる。　壁溝　不明。　貯蔵穴　不明。　重複　D－20号土坑より古い。　時期　特定できる資料の出土はなく詳細不明。　出土遺物　掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

H－21号住居跡（Fig.41、PL.14）

位置　X86、Y209・210グリッド　主軸方位　N－66°－E　形状等　主軸方向が短軸となる長方形。東西2.48m、南北3.00m、壁現高0.23m。　床面　ほぼ平坦である。灰色シルト質土の地山に黒褐色土を薄く貼っている。　竈　東壁中央やや南寄りに付設される。暗褐色粘質土で袖を構築される。南側をD－20号土坑に切られる。　壁溝　なし。　貯蔵穴　不明。　重複　H－19号住居跡、I－2号井戸跡、D－20号土坑より古い。　時期　出土遺物から7世紀後半から8世紀初頭と考えられる。　出土遺物　土師器坏1点、石製品（紡錘車）1点を図示した。

H－22号住居跡（Fig.13、PL.14）

位置　X85、Y203グリッド　主軸方位　N－107°－E　形状等　西側がH－29号住居跡、南側がH－30号住居跡に切られ全容は不明。東西（1.86）m、南北（3.90）m、壁現高0.05m。　床面　ほぼ平坦である。検出部分のほぼ中央に被熱により焼け締まった箇所が検出されている。3～10cmの厚さで黒褐色土を貼っている。検出部分北西寄りにピット（P－1）が検出されている。P－2は床下から検出された土坑状の掘り込みである。　竈　不明。　壁溝　検出部分で全周する。　貯蔵穴　不明。　重複　H－29・30号住居跡、D－21・27号土坑より古い。　時期　特定できる資料の出土はなく詳細不明。　出土遺物　掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

H－23号住居跡（Fig.41、PL.14）

位置　X84・85、Y200グリッド　主軸方位　N－258°－E　形状等　北側が調査区外となり全容は不明。東西（2.31）m、南北（3.17）m、壁現高0.15m。　床面　凹凸がある。凝灰岩質砂岩の地山を床としている。　竈　西壁に付設される。　壁溝　不明。　貯蔵穴　なし。　重複　H－1・2号住居跡より新しく、W－2号溝跡より古い。H－3号住居跡との関係は不明。　時期　出土遺物から9世紀代と考えられる。　出土遺物　掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

H－24号住居跡（Fig.41、PL.14）

位置　X83、Y203・204グリッド　主軸方位　N－93°－E　形状等　南辺に対して北辺が短くなる長方形。主軸方向が短軸となる。東西3.28m、南北3.90m、壁現高0.06m。　床面　凹凸がある。全体にしまっている。北寄りでは凝灰岩質砂岩の地山を直接床としている。南半では黒褐色土を3～5cmの厚さで貼っている。竈前面は周辺部に対して3cmほど窪んでいる。　竈　南東隅に付設される。地山を掘り抜いて構築される。煙道は燃焼部からほぼ水平に延びている。南側壁で被熱による焼土化が顕著である。　壁溝　北辺西寄りに検出されている。　貯蔵穴　なし。　重複　H－25号住居跡より新しい。　時期　出土遺物から10世紀以降と考えられる。　出土遺物　掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

H－25号住居跡（Fig.41）

位置　X83・84、Y203・204グリッド　主軸方位　N－86°－E　形状等　西側がH－24号住居跡に切られ全容は不明。竈北側に半円形の張り出しがあるが、本遺構に伴うものかは不明。東西（1.60）m、南北3.25m、壁現高0.10m。　床面　やや凹凸がある。5～10cmの厚さで黒褐色土を貼っている。　竈　東壁南寄りに付設される。地山を掘り抜いて構築される。　壁溝　不明。　貯蔵穴　南東に検出されている。円形。北側に段を有する。　重複　H－26号住居跡より新しく、H－24号住居跡より古い。　時期　詳細は不明だが瓦が出土しているところから律令期以降と考えられる。　出土遺物　宇瓦1点を図示した。

H－26号住居跡（Fig.13）

位置　X83・84、Y203・204グリッド　主軸方位　不明。　形状等　H－24・25号住居跡に切られるため全容は不明。東西2.30m、南北（3.32）m、壁現高0.03m。　床面　凹凸がある。5～10cmの厚さで黒褐色土を貼っている。　竈　不明。　壁溝　不明。　貯蔵穴　不明。　重複　H－24・25・37号住居跡より古い。　時期　特定できる資料の出土はなく詳細不明。　出土遺物　掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

H－27号住居跡（Fig.42、PL.14）

位置　X86・87、Y205・206グリッド　主軸方位　不明。　形状等　東側が調査区外となり、南側はW－1号溝跡に切られ全容は不明。東西（1.09）m、南北（4.18）m、壁現高0.24m。　床面　ほぼ平坦である。ピットは3基検出されている。P－1・2は西壁に検出されている。　竈　不明。　壁溝　不明。　貯蔵穴

不明。　重複　W－1号溝跡より古い。　時期　出土遺物から古墳時代後期と考えられる。　出土遺物　須恵器高坏1点、土師器甕1点を図示した。

H－28号住居跡（Fig.42、PL.14）

位置　X84、Y202・203グリッド　主軸方位　N－292°－E　形状等　東側をW－1号溝跡に切られるため全容は不明。東西（0.88）m、南北2.75m、壁現高0.11m。　床面　やや凹凸がある。凝灰岩質砂岩の地山を直接床としている。　竈　南西角に付設される。煙道は燃焼部から緩い傾斜でやや南に向かって延びている。　壁溝　西辺に検出されている。　貯蔵穴　不明。　重複　H－37号住居跡より新しくW－1号溝跡、D－5号土坑より古い。　時期　特定できる資料の出土はなく詳細不明。　出土遺物　掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

H－29号住居跡（Fig.42、PL.15）

位置　X85、Y202・203グリッド　主軸方位　N－116°－E　形状等　西側をW－2号溝跡に切られるため全容は不明。東西（1.79）m、南北3.87m、壁現高1.11m。　床面　やや凹凸がある。凝灰岩質砂岩の地山を床としているが、掘り方の凹凸を埋めるように黒褐色土を貼っている。　竈　南東角に付設され、壁面を掘り込んで構築される。四角柱状の凝灰岩質砂岩の加工材を用いている。周辺からは構築材として用いられたとみられる瓦片が出土している。　壁溝　不明。　貯蔵穴　不明。　重複　H－22・30号住居跡、D－28～30号土坑より新しく、W－2号溝跡より古い。　時期　出土遺物から10世紀後半から11世紀前半と考えられる。　出土遺物　羽釜1点、鉄製品（釘）1点を図示した。

H－30号住居跡（Fig.42、PL.15）

位置　X84・85、Y204・205グリッド　主軸方位　N－103°－E　形状等　西側をW－1号溝跡に切られるため全容は不明。北東隅に楕円形の掘り込みが検出されている。本住居跡に伴う張り出しと考えられたが断定はできなかった。東西（2.43）m、南北4.22m、壁現高0.11m。　床面　ほぼ平坦である。北寄り部分では凝灰岩質砂岩の地山を床としている。南半では凹凸を埋めるように黒褐色土を貼っている。中央やや北寄りで被熱による焼土化が認められる。西寄りでは貼床下から円形の掘り込み（P－1～3）が検出されている。　竈　東壁南寄りに付設され、壁面を掘り抜いて構築されている。煙道は燃焼部からほぼ水平に延びている。凝灰岩質砂岩の加工材を、両袖石、支脚に用いている。燃焼部から煙道にかけての側壁上面で、被熱による焼土化が顕著である。　壁溝　東辺に検出されている。　貯蔵穴　南寄りに円形の掘り込みが検出されているが、性格不明。　重複　H－22号住居跡より新しく、H－29号住居跡、W－2号溝跡より古い。　時期　出土遺物から10世紀後半から11世紀前半と考えられる。　出土遺物　羽釜2点を図示した。

H－31号住居跡（Fig.13、PL.15）

位置　X83、Y205・206グリッド　主軸方位　N－86°－E　形状等　W－1・2号溝跡に切られるため全容は不明。東西（4.25）m、南北（3.96）m、壁現高0.19m。　床面　凝灰岩質砂岩の地山を床とする。　竈　不明。　壁溝　不明。　貯蔵穴　不明。　重複　H－32号住居跡より新しくI－1号井戸跡より古い。D－25号土坑との関係は不明瞭。H－33号住居跡と重複するが、埋土からは判断できず、また、床面の高低差もなく、新旧関係は捉えられなかった。　時期　出土遺物から10世紀以降と考えられる。　出土遺物　掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

H－32号住居跡（Fig.13、PL.15）

位置　X83、Y205グリッド　主軸方位　N－88°－E　形状等　隅部がわずかに検出されたのみ。全容は不明。東西（0.65）m、南北（0.54）m、壁現高0.19m。　床面　凝灰岩質砂岩の地山を床とする。　竈　不

明。　壁溝　不明。　貯蔵穴　不明。　重複　H－31・33号住居跡より古い。　時期　特定できる資料の出土はなく詳細不明。　出土遺物　掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

H－33号住居跡（Fig.13、PL.15）

位置　X83・84、Y205・206グリッド　主軸方位　N－96°－E　形状等　W－1・2号溝跡に切られるため全容は不明。東西（2.52）m、南北（1.74）m、壁現高0.12m。　床面　凝灰岩質砂岩の地山を床とする。　竈　不明。　壁溝　不明。　貯蔵穴　不明。　重複　H－32号住居跡より新しい。H－31号住居跡と重複するが、埋土からは判断できず、また、床面の高低差もなく、新旧関係は捉えられなかった。　時期　出土遺物から10世紀以降と考えられる。　出土遺物　掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

H－35号住居跡（Fig.43、PL.15）

位置　X84・85、Y205・206グリッド　主軸方位　N－81°－E　形状等　南側をW－1号溝跡に切られるため全容は不明。東西（3.31）m、南北2.50m、壁現高0.21m。　床面　遺存している西寄りではほぼ平坦。黒褐色土を部分的に貼っている。主柱穴とみられるピット2基が検出されている。　竈　床面西寄りからわずかながら粘土、土師器甕片が出土し、これから判断して西竈の可能性が高い。　壁溝　検出部分で全周する。　貯蔵穴　不明。　重複　H－36号住居跡、W－1・2号溝跡、I－6号井戸跡、D－22～24号土坑より古い。　時期　出土遺物から6世紀後半と考えられる。　出土遺物　土師器坏1点、甕2点、滑石製臼玉1点を図示した。

H－36号住居跡（Fig.43、PL.16）

位置　X85、Y205グリッド　主軸方位　不明。　形状等　西側をW－1号溝、南側をI－6号井戸跡、D－22・23号土坑に切られるため全容は不明。東西3.63m、南北2.13m、壁現高0.24m。　床面　ほぼ平坦である。黒褐色土を3～5㎝の厚さで貼っている。北壁付近では凝灰岩質砂岩の地山を床とする。　竈　不明。　壁溝　不明。　貯蔵穴　不明。　重複　H－35号住居跡より新しく、I－6号井戸跡、D－22・23・24号土坑より古い。　時期　出土遺物から8世紀後半から末と考えられる。　出土遺物　須恵器小皿1点、須恵器椀1点を図示した。

H－37号住居跡（Fig.43、PL.16）

位置　X83・84、Y202・203グリッド　主軸方位　不明。　形状等　東西方向が長軸なる長方形とみられる。H－28号住居跡、W－2号溝跡に切られるため全容は不明。東西（3.98）m、南北2.20m、壁現高0.08m。　床面　ほぼ平坦である。凹凸を埋める程度に黒褐色土を貼っている。　竈　不明。　壁溝　不明。　貯蔵穴　不明。　重複　H－26号住居跡より新しくH－28号住居跡、W－2号溝跡より古い。　時期　出土遺物から6世紀後半と考えられる。　出土遺物　土師器坏3点を図示した。

H－38号住居跡（Fig.13）

位置　X82、Y200グリッド　主軸方位　不明。　形状等　南東隅部分のみの検出で詳細は不明。東西（0.84）m、南北（0.45）m、壁現高0.02m。　床面　不明。　竈　不明。　壁溝　不明。　貯蔵穴　不明。　時期　出土遺物から9世紀から10世紀前半と考えられる。　出土遺物　掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

第2項　溝跡

W－1号溝跡（Fig.44、PL.16）

位置　X84～87、Y206・207グリッド　主軸方位　N－110°－E　形状等　断面形状は逆台形で、ほぼ直

線に走行している。検出長（17.25）m、上幅4.93m、下幅1.33～1.87m、深さ1.78m。東壁での土層観察によると、北側では南側に比して、立ち上がりが高くなり、北側に土塁が構築されていたと考えられる。南側面には本溝跡埋没過程（10層）に2基の土坑（D－31・32号土坑）が掘り込まれている。　時期　埋土の状況から中世以降と考えられる。　出土遺物　掲載可能な遺物の出土はみられなかった。

W－2号溝跡（Fig.44、PL.16）

位置　X84・85、Y200～206グリッド　主軸方位　N－5°－E　形状等　断面形状は浅い「U字」状で、ほぼ直線に走行している。検出長（23.50）m、上幅2.86m、下幅0.31m。　所見　断面形状や南寄りの一部で底面の硬化が観察されたことから、道路として使用されていた可能性がある。また、W－1号溝跡に切られ、同溝跡以南では検出されていない。W－1号溝跡南ではD－16号土坑とした不整形な落ち込みがあり、同土坑は出土遺物や埋土の状況から中世と考えられる遺構であり、W－2号溝跡はこれとの関連が考えられる。

時期　出土遺物や埋土の様子から中世以降と考えられる。　出土遺物　須恵器小皿1点、常滑広口壺1点を図示した。

第3項　井戸跡

井戸跡は5基が検出されている。いずれも埋没土の状況などから判断して、中世以降と考えられる。規模などの詳細は井戸跡一覧表（Tab.13）にまとめた。

第4項　土坑

土坑は33基が検出されている。この中で、円形の掘り込みが連続して複数掘り込まれた痕跡として捉えられたものがある。D－12・18・20・22・23号土坑がこれにあたり、掘削された地層から、粘質土を採取した痕跡ではないかと判断された。さらに、D－23号土坑内に検出されたD－24号土坑としたものは、粘質土の下層にあたる凝灰岩質砂岩層を長方形に掘り込んだ痕跡として検出されている。D－16号土坑は北側がW－1号溝跡に切られ全容は不明であるが、浅い不整形の落ち込みである。出土した内耳鍋や埋土の様子から中世以降が考えられる。W－1号溝跡に切られるため明言はできないが、W－2号溝跡との関連が考えられる。D－31・32号土坑はW－1号溝跡南側面に検出されたもので、同溝跡埋没過程のある時期に掘り込まれたとみられる。多量の礫とともに馬骨が出土している。以下に記述したものを含め、規模等の詳細は土坑一覧表（Tab.14）にまとめた。

D－20号土坑（採土坑）（Fig.46、PL.16）

位置　X83・84、Y207・208グリッド　形状等　不整形。長軸（7.42）m、短軸（4.62）m、深さ（0.21）m。底面形状は径0.9～3.02mの土坑状の掘り込みが複雑に重複している様相をみせている。この中に15～28cmほどの方形のピットが検出されている。土層観察ではピット部分の埋没が先行している。本遺構に伴う可能性が高いが性格は不明。　重複　H－11号住居跡、D－8・16号土坑より古い。　所見　にぶい黄褐色粘質土（基本層序Ⅴ層）を掘り込んでいるところから、採土坑としての性格が考えられる。　時期　古代以前と想定される。須恵器蓋を図示したが、流れ込みとみられ時期の特定には結びつかないとみられる。　出土遺物　須恵器蓋1点を図示した。

D－22号土坑（採土坑）（Fig.47、PL.17）

位置　X85、Y205・206グリッド　形状等　不整形。長軸2.81m、短軸1.27m、深さ0.32m。底面形状は0.5m～0.9mの土坑状の掘り込みが連続して掘り込まれた様相をみせている。D－23号土坑と同質の遺構とみら

れる。　重複　H－35・36号住居跡より新しい。　所見　にぶい黄褐色粘質土（基本層序Ⅴ層）を掘り込んでいるところから、採土坑としての性格が考えられる。　時期　出土遺物から10世紀代と考えられる。　出土遺物　羽釜１点を図示した。

D－23号土坑（採土坑）（Fig.47、PL.17）

位置　X84・85、Y206グリッド　形状等　不整形。長軸2.70m、短軸（2.09）m、深さ0.17m。0.3～1.3mの円形、楕円形の掘り込みが連続して掘り込まれた様相をみせている。D－22と同質の遺構とみられる。重複　H－35・36号住居跡より新しくW－１号溝跡より古い。　所見　にぶい黄褐色粘質土（基本層序Ⅴ層）を掘り込んでいるところから、採土坑としての性格が考えられる。　時期　出土遺物から10世紀代と考えられる。　出土遺物　羽釜１点を図示した。

D－24号土坑（採土坑）（(Fig.47、PL.17）

位置　X85、Y206グリッド　形状等　長軸（1.61）m、短軸（0.67）m、深さ0.28m。長方形か。南側をW－１号溝跡に切られるため全容は不明だがおそらくは直線を基調とした形状とみられる。凝灰岩質砂岩の地山（基本層序Ⅵ層）を長方形に切り出した痕跡と考えられる。D－22・23号土坑との関連が考えられる。重複　H－35・36号住居跡より新しく、W－１号溝跡より古い。　時期　埋土の様子から古代以前と考えられる。

第５項　土坑墓

土坑墓は３基検出され、いずれも埋土の状況から中世以降が想定されるものである。各土坑墓の詳細は土坑墓一覧表（Tab.15）にまとめた。

第６項　火葬跡

１号火葬跡（(Fig.47、PL.17）

位置　X85、Y210グリッド　形状等　長軸0.86m、短軸0.57m。深さ0.10m。楕円形。　埋土　多量の炭化物とこれに混入して焼骨が出土している。　時期　出土遺物はなく断定はできないが、埋土の状況から中世以降と考えられる。

第Ⅶ章　まとめ

本遺跡からは縄文時代中期、古墳時代後期から奈良・平安時代、中世以降の各時代にわたる資料が得られている。この中で量的な主体を占めるのは６世紀から11世紀にかけての遺構と遺物である。

本遺跡は、国府推定域の北西側に近接し、また、調査区の西には国分僧寺、北側には国分尼寺が隣接する地域である。ここでは元総社遺跡群で適用されている従来の時期区分にしたがい、Ⅰ期（～７世紀前半、律令期以前）、Ⅱ期（７世紀後半～10世紀初頭、律令期）、Ⅲ期（10世紀前半～、律令以後）の３期に大別して集落跡を概観する。

Ⅰ期（～７世紀前半）

縄文時代の遺構は竪穴住居跡が２区から１軒検出されている。平面プランは円形で、遺物では加曾利Ｅ４式の土器が出土している。

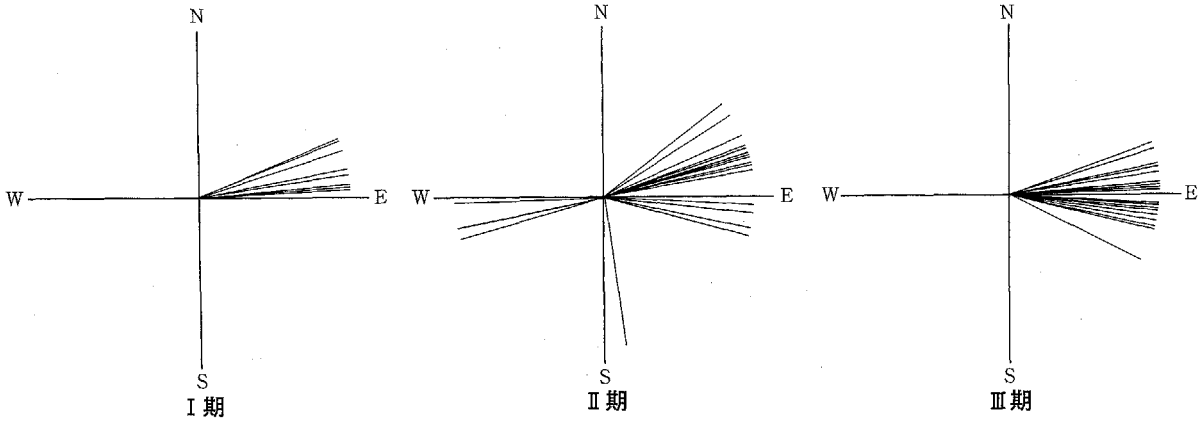


Fig. 5　時期別の竪穴住居跡の主軸方向

6世紀から7世紀前半の住居跡は、時期の想定ができたもので17軒が検出されている。元総社小見Ⅲ遺跡2区から元総社草作Ⅴ遺跡にかけて広く検出されているが、3区南寄りから4区北寄りにややまとまりがみられる。主軸方向はN－67°－EからN－87°－Eの範囲にまとまり、平均値はN－78°－Eである。竈は東壁中央やや南寄りに敷設されるものが大半である。

古墳時代の出土遺物は、小見Ⅲ遺跡では6世紀前半から、草作Ⅴ遺跡では6世紀後半から見られ始める。小見Ⅲ・2区H－4号住居跡からは、6世紀前半頃の土師器坏とともに在地産と思われる無蓋の小型高坏が出土している。6世紀後半には小見Ⅲ遺跡、草作Ⅴ遺跡ともに土師器の坏・甕が比較的多く出土し、引き続き在地産須恵器も出土している。小見Ⅲ遺跡の5区H－1号住居跡からは底部手持ち篦削り調整の須恵器坏と体部の器厚の厚い壺が出土している。鉄製品では6世紀代の左鎌が出土している。

Ⅱ期（7世紀後半～10世紀初頭）

この時期に該当する住居跡は、時期の想定ができたもので27軒が検出されている。調査区全域に分布しているものの、とくに2区南寄りで密度が高い。主軸方向はN－70°－EからN－80°－Eの範囲にまとまり、平均値はN－78°－Eである。平面形状は整った方形を呈するものが多い。主柱穴と想定されるピットが検出されたのは3区H－15号住居跡のみである。竈は東壁中央もしくは東壁南寄りに付設されるものが大半であるが、小見Ⅲ・3区H－22号住居跡では西壁南端に、小見Ⅲ・3区H－4号住居跡では南壁に、小見Ⅲ・5区H－2号住居跡、草作Ⅴ・H－23号住居跡では西壁に付設されている。

この時期の出土遺物は、小見Ⅲ遺跡では7世紀後半から8世紀前半代の須恵器や土師器が多く出土している。小見Ⅲ・2区H－29号住居跡からは、底部手持ち篦削り調整の「ハ」の字に開く蓋模倣須恵器坏が出土している。共伴する土師器の甕や須恵器の蓋は7世紀後半頃のものである。小見Ⅲ・2区H－14号住居跡や小見Ⅲ・3区H－1号住居跡からは7世紀末～8世紀前半頃の暗文の入った土師器坏が出土している。草作Ⅴ遺跡では、7世紀後半から末頃の須恵器がH－13号住居跡やD－20号土坑から出土している。

Ⅲ期（10世紀前～）

この時期に該当する住居跡は、時期の想定ができたもので27軒が検出されている。調査区全域に広く分布しているが、とくに、元総社草作Ⅴ遺跡では10世紀後半から11世紀と想定される住居跡が高い密度で検出さ

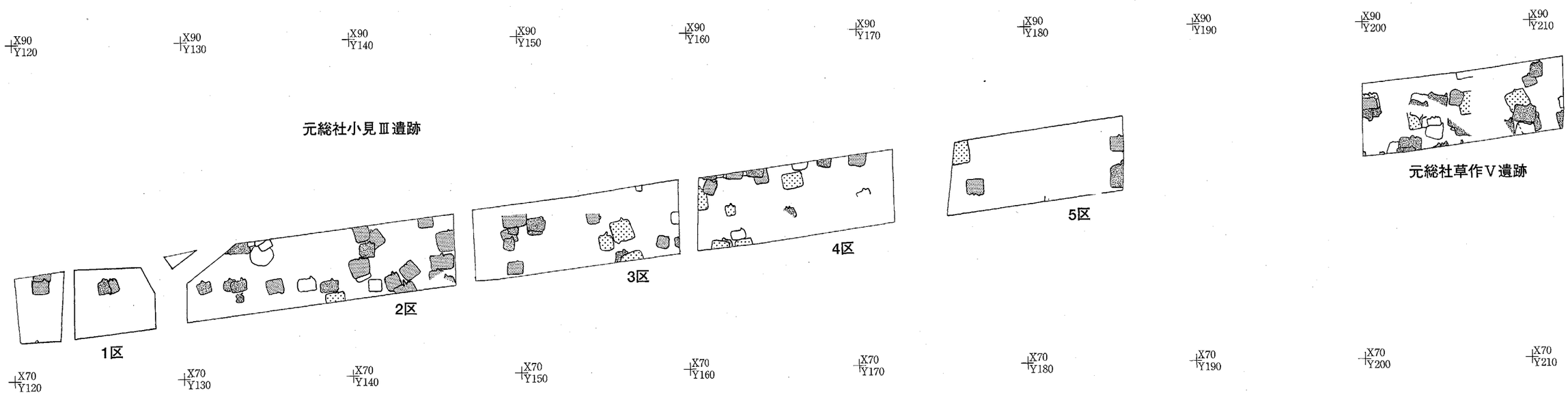


Fig. 6　時期別の竪穴住居跡の配置図

れている。主軸方向はN－78°－EからN－104°－Eの範囲にまとまり、平均値はN－90°－Eである。掘り込みが浅いものが多く、竈は東壁南隅に壁面を掘り抜いて構築され、煙道が水平に長く延びるものが多い。

この時期の出土遺物は、両遺跡とも10世紀後半から11世紀前半頃の羽釜、椀、小皿、灰釉陶器等が見られる。小見Ⅲ・2区H－25号住居跡からは、10世紀後半頃の灰釉椀と10世紀後半から11世紀前半頃のロクロ土師器椀や小皿とともに国分僧寺出土鬼瓦と同形の鬼瓦片が出土している。

中世以降の遺構では規模の大きい溝跡が小見Ⅲ遺跡3・4・5区、元総社草作Ⅴ遺跡で検出されている。本遺跡は中世に長尾氏が古代の国府を引き継いで築城したとされる蒼海城の西方にあたる。蒼海城は同心円状の築城が発達する以前の城郭発達史上初期の城とされている。主家を中心として、その周辺に有力者が館をおいて居住し、方眼状の築城が形成されたと想定されている。今回の調査で検出された溝跡は、調査範囲の制約から、その全体像を捉えることはできなかったが、蒼海城に関する碁盤目状の堀割りの一部が検出されたものと考えられる。

中世の出土遺物では、溝跡の埋土中から常滑広口壺や内耳鍋、石鉢、五輪塔部材、硯石等が出土している。草作Ⅴ・W－2号溝出土の常滑片は13世紀前半のもので、朱描花文の土師質土器小皿片も出土している。小見Ⅲ・2区Ⅰ－1号井戸出土の常滑広口壺は13世紀後半のものである。小見Ⅲ・5区W－3号溝出土の灰釉小皿は釉調や形が16世紀前半代の大窯期のものと思われる。

採土坑について

遺跡内は黒褐色粘質土が堆積する旧谷地形とみられる地区がある。小見Ⅲ・1区全域、2区北端部、南端部、草作Ⅴ遺跡南半部がこれに相当する。

元総社小見Ⅲ遺跡、元総社草作Ⅴ遺跡ともに、この旧谷地形の地点から、円形の土坑が繰り返し掘り込まれた遺構が検出されている。小見Ⅲ・2区D－3・8号土坑、4区D－4～6号土坑、草作Ⅴ遺跡ではD－12・18・20・22・23号土坑がこれにあたる。これらの土坑はにぶい黄褐色粘質土層（基本層序Ⅴ層）を掘り込み、凝灰岩質砂岩層（基本層序Ⅵ層）まで達している。これらの土坑は粘性の強いⅤ層を採取する目的で掘り込まれた可能性が考えられる。本遺跡の住居跡竈はこの粘質土に似た土質のものが多くみられ、竈構築材などに用いる粘質土採取を目的とした採土坑が繰り返し掘られた痕跡と考えられる。

さらに、草作Ⅴ・D－24号土坑は粘質土の下層にあたる凝灰岩質砂岩層を長方形に掘り込んだ痕跡として検出されている。「鳥羽遺跡」（群馬県埋蔵文化財調査事業団 1990）では凝灰岩質砂岩層を長方形に連続的に掘り込んだ遺構が検出されている。掘り込み内には取り残したと考えられる用材も検出されている。遺構の性格として、竈焚口部を形成する袖材やこれに架かる天井材などに使用する構築材を採取した痕跡とされる。元総社草作Ⅴ遺跡D－24号土坑はこれと酷似し、同様の目的で掘り込まれたものでほぼ間違いないとみられる。本遺跡を含め、周辺地区では同質の加工材を竈に使用した例が数多くみられる。

草作Ⅴ遺跡H－11号住居跡出土白磁椀について

元総社草作Ⅴ遺跡ではH－11号住居跡から白磁椀が出土している。白磁椀は竈内燃焼部のやや北寄りから出土しいる。H－11号住居跡は埋土中から多量の炭化物と馬骨が出土しているなど、他の住居跡にはない特徴を示している。住居内から時期を示す他の遺物は出土していない。

白磁椀は体部は直線的に開き、玉縁を有する。高台は厚く、削り出しはわずかである。胎土はやや灰色気味の白色である。釉は黄色を帯びた白色で外面体部下半と底部には施釉していない。見込みには沈線は巡ら

ない。博多遺跡群第56次調査ＳＫ0281からはⅡ・Ⅳ・Ⅴ期の白磁椀が多量に出土している。このうちⅣ期のものでは見込みに沈線が巡るものとないものが出土していて、沈線が巡るものの比率が半数以上を占めている。本遺跡で出土した白磁椀は前述の特徴から大宰府分類におけるⅣ－１類に相当するとみられ、11世紀中葉から12世紀初頭が想定される。

東関東の出土例では官衙、寺院遺跡からの出土がほとんどである。元総社草作Ⅴ遺跡周辺では出土例は比較的多く、閑泉樋遺跡、寺田遺跡、元総社明神遺跡Ⅵ、天神遺跡、鳥羽遺跡、上野国分僧寺・尼寺中間地域、山王廃寺で出土例がある。いずれも国府推定域内や寺院内、もしくはその周辺部に位置している。本遺跡は推定国府域の西辺にあたり、国分僧寺・尼寺にも近接している。Ｈ－11号住居跡の性格特定は困難であるが、今回の白磁椀の出土はこれらの周辺地区との関連が考えられる。

参考文献

前橋市史編さん委員会『前橋市史』

山崎　一　昭和53年　『群馬県古城塁址の研究』上巻

群馬県教育委員会・（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　1990　『鳥羽遺跡　Ｌ・Ｍ・Ｎ・Ｏ区』

群馬県教育委員会・（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　1988　『上野国分僧寺・尼寺中間地域（３）』

群馬県教育委員会・（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　1990　『上野国分僧寺・尼寺中間地域（４）』

群馬県教育委員会・（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　1991　『上野国分僧寺・尼寺中間地域（５）』

群馬県教育委員会・（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　1992　『上野国分僧寺・尼寺中間地域（８）』

群馬県教育委員会・（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　1993　『上野国分尼寺跡　上野国分二寺中間地域』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1997　『上野国分寺参道遺跡』

木津博明　1988．11　「上野国分尼寺々地考」『群馬の考古学』

前橋市教育委員会　1988　『芳賀東部団地遺跡Ⅱ －古墳～平安時代編　その２－』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2000　『元総社小見遺跡』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2001　『五代江戸屋敷』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2001　『元総社宅地遺跡・上野国分尼寺寺域確認調査Ⅱ』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2001　『総社甲稲荷塚大道西遺跡・総社閑泉明神北Ⅱ遺跡・総社甲稲荷塚大道西Ⅱ遺跡』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2001　『元総社小見内Ⅲ遺跡』

菅波正人　2001　「博多遺跡群第56次調査ＳＫ0281－白磁碗」『季刊考古学』第75号

Tab. 2　小見Ⅲ・竪穴住居跡（縄文）一覧表

地区	遺構名	位置	規模（m）			平面形状	炉	壁溝	貯蔵穴	主な出土遺物	時期
		グリッド	東西	南北	壁高						
2区	J－1	X76・77、Y134・135	(4.25)	5.57	0.11	円形	有	無	無	深鉢	加曾利E式

Tab. 3　小見Ⅲ・竪穴住居跡（古墳～平安）一覧表

地区	遺構名	位置	規模（m）			平面形状	主軸方位	竈	壁溝	貯蔵穴	重複 旧＜新	主な出土遺物	時期
		グリッド	東西	南北	壁高								
1区	H－1	X75・76、Y121	2.68	3.71	0.53	横長長方形	N－90°－E	東（南寄り）	有	南東	H－2＜	須恵器蓋、須恵器坏、羽釜	8C中
1区	H－2	X76、Y121・122	(1.76)	3.22	0.39	不明	不明	不明	有	不明	＜H－1		8C
1区	H－3	X75・76、Y124・125	3.00	[2.75]	0.13	縦長長方形	N－72°－E	東（南寄り）	無	無	H－4＜	羽釜	10C
1区	H－4	X75・76、Y125、126	3.32	2.35	0.44	不明	N－78°－E	東（南寄り）	有	無	＜H－3	須恵器蓋、須恵器坏	8C前
1区	H－5	X72、Y121	—	—	—	不明	不明	東	不明	不明			竈のみ
2区	H－1	欠番											
2区	H－2	X75、Y136・137	2.68	4.08	0.24	横長長方形	N－88°－E	東（南寄り）	無	無		宇瓦、鉄製品（刀子・釘）	律令以降
2区	H－3	欠番											
2区	H－4	X74、Y138・139	(1.93)	3.89	0.55	不明	N－79°－E	東（南寄り）	有	南東		土師器坏、須恵器高坏	6C前
2区	H－5	X74・75 Y138・139	2.12	3.85	0.30	横長長方形	N－81°－E	東（南寄り）	有	無		須恵器椀、小皿、灰釉陶器段皿、羽釜、鉄製品（刀子）	10C後
2区	H－6	欠番											
2区	H－7	欠番											
2区	H－8	X75、Y141	2.62	2.83	0.38	正方形	N－90°－E	無	無	無		銅製品（耳環）	
2区	H－9	X74・75・76、Y141・142	3.53	3.30	0.62	縦長長方形	N－73°－E	東（南寄り）	無	無	＜H－10	土師器甕、須恵器蓋、須恵器坏、鉄鉢	8C前
2区	H－10	X74・75、Y142・143	(2.14)	4.57	0.37	不明	N－70°－E	東（南寄り）	無	無	H－9＜＜H－20	須恵器坏、鉄製品（環状）	8C
2区	H－11	欠番											
2区	H－12	欠番											
2区	H－13	欠番											
2区	H－14	X75・76、Y144・145	(2.10)	(2.95)	0.33	不明	N－93°－E	東	無	無	H－15、D－3＜	土師器甕、土師器坏、須恵器壺	7C末～8C初
2区	H－15	X76・77、Y144・145	3.59	5.54	0.53	横長長方形	N－83°－E	東（南寄り）	無	無	H－14、W－1	石製摺鉢	7C後
2区	H－16	X77・78、Y145	4.25	(4.05)	0.50	不明	N－80°－E	東	無	南東			8C前
2区	H－17	X78・79、Y143・144	(2.34)	3.42	0.20	不明	N－96°－E	不明	有	不明		※図面内容不明	9C
2区	H－18	X77、Y140・141	3.12	3.39	0.29	正方形	N－85°－E	東（南寄り）	有	南東	H－29＜	須恵器椀、須恵器皿、小皿、灰釉陶器椀、羽釜	10C後
2区	H－19	X77・78、Y140・141	(3.36)	3.15	0.69	長方形	N－81°－E（南辺での計測）	不明	不明	不明	H－29＜	土師器坏	7C後
2区	H－20	X74・75、Y143	—	—	—	不明	N－83°－E	東	不明	不明	H－10＜		竈のみ

地区	遺構名	位置	規模（m）			平面形状	主軸方位	竈	壁溝	貯蔵穴	重複 旧＜新	主な出土遺物	時期
		グリッド	東西	南北	壁高								
2区	H－21	X75・76、Y145・146	(2.11)	(2.19)	0.11	不明	N－75°－E	東	不明	不明	＜D－3		7C～8C
2区	H－22	X74・75、Y134・135	2.68	3.56	0.22	横長長方形	N－254°－E	西（南寄り）	有（西）	無	＜D－1		9C
2区	H－23	X76・77、Y139・140	4.05	4.11	0.48	正方形	N－74°－E	東（南寄り）	無	無	H－35＜＜H－18、I－1	土師器甕、須恵器蓋、高坏、小皿	8C前
2区	H－24	X75、Y132・133	2.59	3.61	0.34	横長長方形	N－79°－E	東（南寄り）	無	無	H－27＜＜H－33	須恵器小皿、灰釉陶器、皿	10C後～11C前
2区	H－25	X74・75、Y131	2.54	2.99	0.42	横長長方形	N－70°－E	東	有	無	＜DB－1	須恵器坏、皿、灰釉陶器椀、鬼瓦	10C後～11C前
2区	H－26	X77、Y132・133	2.06	4.82	0.59	不明	N－85°－E（南辺での計測）	不明	有	無	H－30・31＜＜D－6・7	須恵器坏、皿、灰釉陶器椀、鬼瓦	10C
2区	H－27	X74、Y133	1.89	1.60	0.03	不明	N－96°－E	東（南寄り）	無	南東	＜H－24		10C
2区	H－28	欠番											
2区	H－29	X77・78 Y140・141	3.44	3.49	0.50	正方形	N－57°－E	東（南寄り）	有	南東	＜H－18・19	土師器坏、土師器甕、須恵器坏、須恵器蓋	7C後
2区	H－30	X77、Y132	(0.64)	(0.82)	0.53	不明	不明	不明	不明	不明	＜H－26	土師器坏	7C後～8C初
2区	H－31	X77、Y133・134	(1.38)	(0.81)	(0.46)	不明	不明	不明	不明	不明	＜H－26		
2区	H－32	X75・76、Y142・143	3.47	3.62	0.48	正方形	N－52°－E	東	無	無	D－8＜＜W－1	土師器甕	7C中
2区	H－33	X75、Y132	2.25	(2.45)	0.03	不明	N－90°－E	東	不明	不明	H－24＜	土師器坏	11C前
2区	H－34	X77・78、Y134・135	(1.96)	2.65	0.55	不明	N－61°－E（南辺での計測）	不明	有	不明	J－1、D－12＜＜H－36		
2区	H－35	X75、Y140	(1.03)	3.72	0.51	不明	N－81°－E（南辺での計測）	不明	不明	不明	＜H－23		
2区	H－36	X77・78、Y134	(1.07)	(2.26)	(0.59)	不明	N－58°－E（南辺での計測）	不明	不明	不明	H－31・34＜		
3区	H－1	X75・76、Y149・150	2.68	3.30	0.21	横長長方形	N－90°－E	東（南寄り）	有	無			7C末～8C前
3区	H－2	X78・79、Y150・151	2.84	3.78	0.38	横長長方形	N－95°－E	東（南寄り）	無	無	H－3＜＜A－1		10C
3区	H－3	X78、Y150・151	(0.94)	3.38	0.24	不明	—	不明	不明	不明	＜H－2		10C
3区	H－4	X78・79、Y154	(2.37)	2.55	0.22	不明	N－178°－E	南	不明	不明	＜W－1		9C
3区	H－5	X77、Y158	2.95	2.71	0.06	不整方形	N－102°－E	東（南寄り）	無	無	＜D－8		9C後
3区	H－6	X77、Y159	2.24	(1.65)	0.08	不明	N－90°－E	不明	不明	不明			10C～
3区	H－7	X78・79、Y159	2.90	(1.77)	0.13	不明	N－91°－E（北辺での計測）	不明	不明	不明			
3区	H－8	X77・78、Y154・155	3.24	3.16	0.31	正方形	N－85°－E	東	無	南東		土師器坏、土師器壺、土師器甕	6C後
3区	H－9	X77・78・79、Y155・156	4.86	4.99	0.17	正方形	N－72°－E	東（南寄り）	無	南東	＜D－1	土師器坏	6C後

地区	遺構名	位置	規模（m）			平面形状	主軸方位	竈	壁溝	貯蔵穴	重複 旧＜新	主な出土遺物	時期
		グリッド	東西	南北	壁高								
3区	H－10	X76・77、Y155・156・157	(1.56)	(5.02)	0.45	不明	N－64°－E（東辺での計測）	不明	有	不明	＜H－17、W－2	土師器坏	6C後
3区	H－11	X77・78、Y149	2.51	2.37	0.29	縦長長方形	N－94°－E	東	無	無	H－14＜		10C～
3区	H－12	X80、Y157	(1.18)	(1.32)	0.27	不明	N－81°－E（北辺での計測）	不明	有	不明	＜W－3		
3区	H－13	X78、Y149	1.64	2.39	0.08	横長長方形	N－96°－E	東（南寄り）	無	無	H－11・15＜＜A－1	灰釉陶器椀	10C～
3区	H－14	X77・78、Y148・149	3.25	3.25	0.35	正方形	N－71°－E	東（南寄り）	無	無	＜H－11・13、A－1	土師器坏、須恵器坏	7C後
3区	H－15	X78・79、Y148・149・150	(2.58)	5.04	0.55	不明	N－83°－E（北辺での計測）	不明	有	不明	H－16＜＜H－13、W－1		8C前
3区	H－16	X78・79、Y150	(2.32)	(1.51)	0.13	不明	N－76°－E（南辺での計測）	不明	不明	不明	＜H－2・15、W－1		
3区	H－17	X76・77、Y155・156	(1.34)	2.90	0.11	不明	N－78°－E	東（南寄り）	不明	不明	H－10＜＜W－2	須恵器椀	11C前
4区	H－1	X80、Y170	(1.08)	2.98	0.07	不明	N－67°－E	東（南寄り）	不明	南東	＜W－1	土師器坏	7C前
4区	H－2	X81・82、Y169・170	(2.70)	3.80	0.18	不明	N－90°－E	不明	有	不明			9C
4区	H－3	X78・79、Y165・166	(2.76)	(2.06)	0.24	不明	N－79°－E	東（2基検出）	不明	不明	＜D－4～6	羽釜	10C
4区	H－4	X81・82、Y167・168	(1.69)	2.85	0.45	不明	N－90°－E	不明	無	不明			10C～
4区	H－5	X81・82、Y166・167	3.34	(1.50)	(0.52)	不明	不明	不明	有	不明			
4区	H－6	X80・81、Y165・166	3.32	4.33	0.53	横長長方形	N－87°－E	東（南寄り）	無	無			6C～7C
4区	H－7	X81、Y163・164	(3.56)	3.46	0.29	不明	N－77°－E	東か	不明	南東	＜H－8、W－3、D－1	土師器坏	7C末～8C初
4区	H－8	X81、Y163・164	(3.56)	3.46	0.29	不明	不明	不明	不明	不明	H－7＜＜W－3、D－1	須恵器高台付皿	11C前
4区	H－9	X81、Y162・163	(1.60)	(3.85)	0.38	不明	不明	不明	無	不明	H－20＜＜H－19	須恵器椀、女瓦	9C～10C
4区	H－10	X79、Y162	2.23	2.43	0.09	正方形	N－86°－E	東（南寄り）	無	無		土師器坏	6C～7C
4区	H－11	X77・78、Y162・163	3.49	2.22	0.19	横長長方形	N－82°－E	東（南寄り）	無	無			
4区	H－12	X79・80、Y160・161	(2.11)	4.56	0.36	不明	N－81°－E	東	有	南東	＜H－13		6C
4区	H－13	X80・81、Y160・161	(3.27)	(2.84)	0.12	縦長長方形	N－115°－E	東（南寄り）	無	無	H－12＜		9C
4区	H－14	X81、Y160・161	(1.00)	(3.57)	0.16	不明	主軸不明	不明	不明	不明	H－21＜		10C～
4区	H－15	X77、Y161・162	(1.61)	4.13	0.27	不明	N－4°－E（東辺での計測）	不明（北か）	不明	不明	H－17＜	土師器坏	6C後
4区	H－16	欠番											
4区	H－17	X77、Y161・162	(1.15)	(2.87)	0.27	不明	N－91°－E	東	不明	不明	H－15		6C後～7C
4区	H－18	X77、Y162・163	1.04	3.88	(0.26)	不明	N－346°－E（東辺での計測）	不明（北か）	不明	北東			6C

地区	遺構名	位置	規模（m）			平面形状	主軸方位	竈	壁溝	貯蔵穴	重複 旧＜新	主な出土遺物	時期
		グリッド	東西	南北	壁高								
4区	H－19	X81、Y163	(1.06)	(1.17)	(0.05)	不明	不明	不明	不明	不明	＜H－8・9		
4区	H－20	X81、Y162	(1.00)	(0.71)	(0.31)	不明	不明	不明	不明	不明	＜H－9・21		
4区	H－21	X81、Y161	(0.58)	(4.62)	(0.42)	不明	不明	不明	不明	不明	H－20＜＜H－14		
5区	H－1	X81～83、Y175・176	(5.03)	(4.08)	0.20	不明	N－81°－E（南辺での計測）	不明	有	不明		土師器坏、土師器甕、須恵器坏、須恵器壺、石製品（砥石）、滑石製臼玉	6C後
5区	H－2	X80、Y176・177	3.69	3.95	0.23	横長長方形	N－268°－E	西（北寄り）	無	無	＜W－1	土師器甕	
5区	H－3	X82・83、Y185	3.17	(2.97)	0.22	不明	N－90°－E	東	無	不明		須恵器高坏	7C
5区	H－4	X80・81、Y184・185	5.03	(2.85)	0.24	不明	N－88°－E	東	有	不明	＜W－4	滑石製臼玉	10C
5区	H－5	X79、Y181	(0.74)	(0.68)	0.14	不明	不明	不明	不明	不明	＜W－2、D－4		

Tab. 4　小見Ⅲ・柱穴列一覧表

地区	遺構番号	位置	南北軸方向	構造 東西×南北	柱間寸法 北－南	時期
		グリッド				
3区	B－1	X78・79 Y154～156	N－154°－E	南北4間	○1.55○2.10○2.10○1.60○	古代以前
4区	B－1	X77 Y160・161	N－20°－E	南北2間	○2.20○	古代以前

Tab. 5　小見Ⅲ・道路状遺構一覧表

地区	遺構名	位置	規模（m）			主軸方位	側溝	時期	備考
		グリッド	全長	全幅	深さ				
3区	A－1	X78、Y149～155	12.06	0.32	—	N－0°－E	無	中世以降	
4区	A－1	X79、Y170	(2.57)	(0.88)	—	N－7°－E	無	中世以降	

Tab. 6　小見Ⅲ・溝跡一覧表

地区	遺構名	位置	規模（m）			走行方向	主な出土遺物	時期	備考
		グリッド	検出長	上幅	深さ				
1区	W－1	X72～76、Y125～127	(8.15)	0.50	0.34	N－125°－E		古代	埋土はAs－Cを多く含む黒褐色土。直線的に。
2区	W－1	X76、Y131～146	(59.9)	1.54～1.90	0.43	N－1°－E	白磁椀	中世以降	直線的に走行。W－4と同一。
3区	W－1	X76～79、Y147・148 X79・80 Y149～156	東西（17.0） 南北（35.70）	(5.0)	3.15	南北走行。北で西に屈曲。		中世以降	堀。調査区北東で（西－南）に屈曲。底面レベルは東から西へ8cm下る。
3区	W－2	X75・76、Y150～159	南北（35.0） 東西（4.43）	2.80～4.35	0.69	南北走行。北で西に屈曲。	女瓦	中世以降	堀。北で（西－南）に屈曲する。底面レベルはほぼ水平。屈曲する角で4区W－4と接続する。
3区	W－3	X77～80、Y157・158	13.32	4.18	2.47	N－95°－E		中世以降	堀。西端は調査区内で立ち上がる。
3区	W－4	X76、Y147～150	11.0	1.00～2.58		南北走行		中世以降	2区W－1と同一。

地区	遺構名	位置	規模（m）			走行方向	主な出土遺物	時期	備考
		グリッド	検出長	上幅	深さ				
4区	W－1	X78・79、Y169～172	5.29	4.95	2.44	東西に走行し、東では南へ湾曲	板碑、硯	中世以降	堀。東西に走行し、東では南へ湾曲して立ち上がる。4区W－2と接続。底面レベルはほぼ水平。4区W－2号溝跡と連続して礫出土。
4区	W－2	X79・80、Y171・172	4.35	1.72	0.25～1.02	南北走行	石鉢	中世以降	北に向かって下り傾斜となり4区W－1と接続。4区W－1から連続して礫が出土。
4区	W－3	X81、Y164・165	5.20	0.51	0.27	N－7°－E		近・現代	
4区	W－4	X80、Y171・172	3.55	1.03～2.08	(0.30)	N－19°－E		中世以降	上面にA－1検出。
4区	W－5	X78、Y171・172	(4.33)	(1.03)	(0.33)	N－0°－E		中世以降	
5区	W－1	X80、Y175～179	13.75	0.58～1.05	0.12	N－3°－E		中世以降	5区W－2と同一。南で立ち上がる。＜H－2・DB－1
5区	W－2	X79・80、Y179～183	14.57	0.75～0.97	0.21	N－2°－E		中世以降	北で立ち上がる。W－1と同一。W－3と接続。
5区	W－3	X79～84、Y181～183	17.05	4.14～6.30	0.85～1.30	N－100°－E	五輪塔（空風輪、地輪）	中世以降	堀。道路として使用の痕跡あり。
5区	W－4	X80、Y183～185	9.43	0.98～1.10	0.90	N－6°－E		中世以降	W－3西部で別れ南へ走行。
5区	W－5	X79・80、Y182・183	0.89	0.92	0.17	N－92°－E		中世以降	W－3底部に検出。同溝跡から連続して上面が硬化している。同じくW－3底面にあるW－2から西へ分岐する。

Tab. 7　小見Ⅲ・井戸跡一覧表

地区	遺構名	位置	規模（m）			平面形状	時期	備考
		グリッド	全長	全幅	深さ			
3区	I－1	X76・77、Y140	(1.38)	1.07	—	円形	中世以降	
4区	I－1	X79・80、Y164	1.26	1.14	—	円形	中世以降	
5区	I－1	X80、Y180	0.79	0.72	—	円形	中世以降	
5区	I－2	X83、Y181	(2.52)	2.01	—	楕円形	古代以前	

Tab. 8　小見Ⅲ・土坑一覧表

地区	遺構名	位置	規模（m）			平面形状	主な出土遺物	時期	備考
		グリッド	横軸	短軸	深さ				
2区	D－1	X74・75、Y134・135	1.34	1.25	0.35	円形		中世以降	H－22＜
2区	D－2	X74、Y132	0.89	0.80	0.25	円形		中世以降	
2区	D－3	X75、Y114・115	3.50	1.75	0.44	不整形		古代以前	採土坑。土坑状の掘り込みが連続する。H－14＜。H－21との新旧不明瞭。
2区	D－4	欠番							
2区	D－5	欠番							
2区	D－6	X77、Y133	1.03	0.80	0.63	円形		古代以前	H－26＜
2区	D－7	X77、Y133	0.74	0.66	0.69	円形		古代以前	H－26との新旧不明瞭。
2区	D－8	X25、Y143・144	4.32	2.56	0.46	不整形	鉄製品（鎌）	古代以前	＜H－32
2区	D－9	欠番							
2区	D－10	X76・77、Y127	0.26	0.25	0.56	円形		古代以前	
2区	D－11	X77、Y127	0.37	0.34	0.33	円形		古代以前	
2区	D－12	X78、Y135	(0.82)	(1.03)	0.60	不明		古代以前	＜H－34
3区	D－1	X78・78、Y155	4.50	1.58	0.56	長方形		中世以降	H－9＜

地区	遺構名	位置	規模（m）			平面形状	主な出土遺物	時期	備考
		グリッド	横軸	短軸	深さ				
3区	D－2	X76・77、Y155	1.88	1.06	0.11	楕円形		中世以降	馬骨出土。
3区	D－3	X77、Y155	1.39	0.74	0.12	楕円形		中世以降	馬骨出土。
3区	D－4	欠番							
3区	D－5	X77、Y157	1.00	0.72	0.49	楕円形		古代以前	
3区	D－6	X78、Y157	0.78	0.56	0.28	楕円形		中世以降	W－3側面に検出。
3区	D－7	X57、Y158	1.10	0.88	0.29	楕円形		中世以降	H－5＜
3区	D－8	X77、Y157	0.72	0.70	0.31	円形		中世以降	H－5＜
4区	D－1	X81、Y163	(0.88)	(0.85)	0.22	円形		古代以前	H－7・8＜
4区	D－2	X80、Y161	0.71	0.59	0.10	円形	土師器坏	古墳時代後期	埋土中に焼土粒子多量。周辺のピット群と関連か。
4区	D－3	X81、Y171	1.76	1.11	0.30	隅丸長方形		中世以降	
4区	D－4	X78・79、Y165	2.48	2.34	0.48	隅丸方形		古代以前	採土坑か。H－3＜。
4区	D－5	X78、Y165・166	(1.45)	1.24	0.29	楕円形		古代以前	採土坑か。H－3＜。
4区	D－6	X79、Y165	1.00	(0.70)	0.24	円形		古代以前	採土坑か。H－3＜。
5区	D－1	X81、Y179	0.71	0.66	0.27	円形		不明	
5区	D－2	X80、Y179	0.75	0.66	0.12	不整円形		不明	
5区	D－3	X80、Y180	0.97	0.82	0.30	不整円形		不明	
5区	D－4	X79、Y181	—	—	0.58	不明		中世以降	W－3内検出。土坑墓か。
5区	D－5	X79、Y181	—	—	0.08	円形	五輪塔（地輪）	中世以降	W－4内検出。五輪塔（地輪）出土。土坑墓か。

Tab. 9　小見Ⅲ・土坑墓一覧表

地区	遺構名	位置	規模（m）			平面形状	埋葬形態	主な出土遺物	時期	備考
		グリッド	長軸	短軸	深さ					
2区	DB－1	X74・75、Y130	0.12	0.86	0.31.	不整形	不明	緑釉陶器皿、灰釉陶器耳皿、小皿、椀	10世紀	H－25より新しい。
5区	DB－1	X80、Y178	1.31	1.03	0.30	長方形	北頭位		中世以降	W－2号溝跡内に埋葬。
5区	DB－2	X80、Y181	1.18	0.70	0.54	長方形	北頭西顔側臥屈葬		中世以降	W－1埋没過程のある時期に埋葬。
5区	DB－3	X31、Y181	1.11	1.08	0.43	正方形	不明	石鉢	中世以降	W－1埋没過程のある時期に埋葬。
5区	DB－4	X31、Y181	0.78	0.60	0.36	正方形	不明	皇宋通宝（北宋1039）2点 洪武通宝（明1368）1点 永楽通宝（明1408）1点	中世	W－1埋没過程のある時期に埋葬。

Tab.10　小見Ⅲ・集石一覧表

地区	遺構名	位置	規模（m）			平面形状	時期	備考
		グリッド	東西	南北	壁高			
4区	S－1	X77・78、Y165～167	(2.76)	7.98	0.50	不明	中世以降	多量の礫とともに中世陶器出土。

Tab.11　草作Ⅴ・竪穴住居跡（古墳～平安）一覧表

遺構名	位置	規模（m）			平面形状	主軸方位	竈	壁溝	貯蔵穴	重複 旧＜新	主な出土遺物	時期
	グリッド	東西	南北	壁高								
H－1	X84・85、Y200・201	3.65	(3.95)	0.14	横長長方形	N－82°－E	東	有	南東	＜H－2・3・23、W－2	土師器鉢、土師器壺	6C後～7C前

遺構名	位置	規模（m）			平面形状	主軸方位	竈	壁溝	貯蔵穴	重複 旧＜新	主な出土遺物	時期
	グリッド	東西	南北	壁高								
H－2	X84、Y200	(1.79)	(2.15)	0.05	不明	不明	不明	有	不明	H－1・23＜＜W－2		9C～10C
H－3	X84、Y200・201	(1.48)	(1.87)	0.07	不明	N－192°－E	南	不明	不明	＜W－2	須恵器坏、瓦、鉄製品	11C前
H－4	X82・83、Y202・203	(3.14)	(5.30)	0.07	不明	N－100°－E	東（南寄り）	有	不明	H－5・6＜	須恵器小型壺、灰釉陶器椀、羽釜	10C前
H－5	X82、Y201・202	(2.55)	(2.73)	0.03	不明	N－122°－E	不明	有	不明	＜H－4・6、D－4		
H－6	X82、Y202・203	(0.66)	(4.03)	0.10	不明	N－86°－E	東（南寄り）	有	無	H－5＜＜H－4		10C～
H－7	X82、Y201	(0.25)	(1.17)	0.02	不明	不明	東	不明	不明			
H－8	X82、Y204	(0.13)	(1.10)	0.06	不明	N－87°－E	東	不明	不明		須恵器椀	10C中
H－9	X82、Y204・205	(0.68)	(1.64)	0.02	不明	N－102°－E	東	有	不明			10C～
H－10	X82、Y205	(0.69)	(0.28)	0.11	不明	不明	東	不明	不明		鉄製品（釘、鉄鏃）	10C～
H－11	X83・84、Y208・209	(3.73)	(4.45)	0.08	不明	N－98°－E	東（南寄り）	不明	不明	D－20＜＜W－1、D－16	白磁椀、鉄製品（鉄鏃）	11C中～12C初
H－12	X83、Y209・210	(3.13)	4.32	0.10	不明	N－103°－E	東（南寄り）	不明	不明	H－13・15＜		
H－13	X83・84、Y209・210	3.76	5.12	0.27	横長長方形	N－98°－E	東（南寄り）	有	南東	H－14～16＜＜H－12	須恵器小皿、須恵器蓋、鉄製品（釘）	10C後
H－14	X84、Y210	(2.55)	(0.38)	0.04	不明	不明	不明	不明	不明	＜H－13・15		10C～
H－15	X83・84、Y209・210	(3.16)	4.57	0.34	不明	N－70°－E	不明	有	不明	＜H－12～14、D－19		10C～
H－16	X84・85、Y208・209	4.25	4.97	0.18	横長長方形	N－68°－E	北東（南寄り）	無	南東	＜H－13、D－8	土師器甕	6C後
H－17	X84・85、Y211	2.58	(0.57)	0.02	不明	N－1°－E	北（東寄り）	不明	不明			
H－18	X83・84、Y211	(3.53)	(1.57)	0.04	不明	N－81°－E	東	不明	不明		須恵器小皿	11C前～11C中
H－19	X86・87、Y210	3.01	2.83	0.25	縦長長方形	N－93°－E	東（南寄り）	無	無	H－21、D－18＜	土師器小皿、須恵器坏	11C前
H－20	X86、Y210	(0.68)	(0.25)	0.35	不明	不明	西	不明	不明	＜D－18		
H－21	X86、Y209・210	2.48	3.00	0.23	横長長方形	N－66°－E	東	無	不明	＜H－19、I－2、D－20	土師器坏、石製品（紡錘車）	7C後～8C初
H－22	X85、Y203	(1.86)	(3.90)	0.05	不明	N－107°－E	不明	有	不明	＜H－29・30、D－21・27		
H－23	X84・85、Y200	(2.76)	(3.17)	0.15	不明	N－258°－E	西	不明	無	H－1・2＜＜W－2		9C
H－24	X83、Y203・204	3.28	3.90	0.06	横長長方形	N－93°－E	南東角	有	無	H－25＜		10C～
H－25	X83・84、Y203・204	(1.60)	3.25	0.10	不明	N－86°－E	東（南寄り）	不明	南東	H－26＜＜H－24	宇瓦	律令以降
H－26	X83・84、Y203・204	2.30	(3.32)	0.03	不明	不明	不明	不明	不明	＜H－24・25・37		
H－27	X86・87、Y205・206	(1.09)	(4.18)	0.24	不明	不明	不明	無	不明	＜W－1	須恵器高坏、土師器甕	古墳後期

遺構名	位置	規模（m）			平面形状	主軸方位	竈	壁溝	貯蔵穴	重複 旧＜新	主な出土遺物	時期
	グリッド	東西	南北	壁高								
H－28	X84、Y202・203	(0.88)	2.75	0.11	不明	N－292°－E	南西角	有	不明	H－37＜＜W－1、D－5		
H－29	X85、Y202・203	(1.79)	3.87	1.16	不明	N－116°－E	南東角	無	不明	H－22・30、D－28～30＜＜W－2	羽釜、鉄製品（釘）	10C後～11C前
H－30	X84・85、Y204・205	(2.43)	4.22	0.11	不明	N－103°－E	東（南寄り）	有	不明	H－22＜＜H－29、W－2	羽釜	10C後～11C前
H－31	X83、Y205・206	(4.25)	(3.96)	0.19	不明	N－86°－E	不明	不明	不明	H－32＜＜I－1。H－33、D－25との関係は不明。		10C～
H－32	X83、Y205	(0.65)	(0.54)	0.19	不明	N－88°－E	不明	不明	不明	＜H－31・33		
H－33	X83・84、Y205・206	(2.52)	(1.74)	0.12	不明	N－96°－E	不明	不明	不明	H－32＜。H－31との関係は不明。		10C～
H－34	欠番											
H－35	X84・85、Y205・206	(3.31)	2.50	0.21	不明	N－81°－E	西か	有	不明	＜H－36、W－1・2、I－6、D－22～24	土師器甕、土師器坏、滑石製臼玉	6C後
H－36	X85、Y205	3.63	2.13	0.24	不明	不明	不明	不明	不明	H－35＜＜I－6、D－22～24	須恵器小皿、須恵器椀	8C後～末
H－37	X83・84、Y202・203	(3.98)	2.20	0.08	不明	不明	不明	無	不明	H－26＜＜H－28、W－2	土師器坏	6C後
H－38	X82、Y200	(0.84)	(0.45)	0.02	不明	不明	不明	不明	不明			9C～10C前

Tab.12　草作Ⅴ・溝跡一覧表

遺構名	位置	規模（m）			走行方向	主な出土遺物	時期	備考
	グリッド	検出長	上幅	深さ				
W－1	X84～87、Y206・207	(17.25)	4.93	1.78	N－110°－E		中世以降	堀。H－27・28＜＜W－2
W－2	X84・85、Y200～206	(23.50)	2.86	0.31	N－5°－E	須恵器小皿、常滑広口壺	中世以降	道路状遺構の可能性あり。W－1、H－1・2・23・29・30・37＜

Tab.13　草作Ⅴ・井戸跡一覧表

遺構名	位置	規模（m）			平面形状	時期	備考
	グリッド	全長	全幅	深さ			
I－1	X84、Y202	1.43	1.10	—	円形	中世以降	
I－2	X86、Y210	0.89	0.87	—	円形	中世以降	H－21
I－3	X82、Y200	(1.45)	(0.85)	—	円形	中世以降	
I－4	X83、Y210	(0.33)	(1.05)	—	円形？	中世以降	
I－5	欠番						
I－6	X85、Y205	1.89	1.74	—	円形	中世以降	H－36＜

Tab.14　草作Ⅴ・土坑一覧表

遺構名	位　置	規模（m）			平面形状	時　期	主な出土遺物	新旧関係	備　考
	グリッド	横軸	短軸	深さ					
D－1	X85・86、Y202	(2.60)	1.75	0.34	不明	中世以降			
D－2	X85、Y202・203	3.50	0.76	0.17	長方形	時期不明			
D－3	X85、Y201	2.29	1.35	0.09	不整形	時期不明			
D－4	X82、Y201	0.77	0.69	0.22	円形	時期不明		H－5	
D－5	X84、Y203	0.72	0.55	0.58	円形	中世以降		＜H－28	
D－6	X82、Y202	0.63	0.62	0.31	円形	古代以前		H－4＜	
D－7	X82、Y202	0.82	(0.62)	0.16	円形	古代以前		H－5＜	
D－8	X84、Y208	0.97	1.19	0.18	長方形	近世		H－16・D－20＜	
D－9	X85、Y211	1.48	1.34	0.20	円形	近世			
D－10	X86、Y211	1.22	1.12	0.28	円形	中世以降		D－11＜	
D－11	X86、Y211	1.16	(1.03)	0.12	不整形	中世以降		＜D－10	
D－12	X86・87、Y209	(3.36)	(3.00)	(1.13)	円形	古代以前			円形の深い掘り込み。D－18と関連か
D－13	X83、Y205	2.35	1.95	0.17	不明	古代以前			
D－14	X86、Y201	0.77	0.57	0.57	円形	古代以前		D－33＜	
D－15	X86、Y186	0.97	0.94	0.11	円形	中世以降			
D－16	X83～85、Y207・208	(7.62)	(2.51)	(0.18)	不整形	中世	内耳鍋	H－11、D－20＜＜W－1	
D－17	X84・85、Y202	0.67	0.60	0.27	円形	中世以降		W－2との関係不明	
D－18	X86・87、Y210	(4.55)	(4.06)	(1.06)	不整形	古代以前		H－20＜＜H－19・21	採土坑。円形の掘り込みを連続的に掘り込んだ痕跡。
D－19	X83、Y210・211	(1.96)	(1.23)	0.53	不整形	中世以降		Ⅰ－4と同時期	
D－20	X83・84、Y207・208	(7.42)	(4.62)	(0.21)	不整形	古代以前	須恵器蓋	＜H－11、D－8・16	採土坑。円形の掘り込みを連続的に掘り込んだ痕跡。
D－21	X85、Y203	0.76	0.64	0.81	円形	古代以前		H－22	
D－22	X85、Y205・206	2.81	1.27	0.32	不整形	10C	羽釜	H－35・36＜	採土坑。円形の掘り込みを連続的に掘り込んだ痕跡。
D－23	X84・85、Y206	2.70	(2.09)	0.17	正方形	10C	羽釜	H－35・36＜＜W－1	採土坑。円形の掘り込みを連続的に掘り込んだ痕跡。
D－24	X85、Y206	(1.61)	(0.67)	0.28	長方形？	古代以前		H－35・36＜＜W－1	竈構材採掘坑。凝灰岩質砂岩を長方形に掘り込んだ痕跡。
D－25	X83・84、Y206	(2.30)	(2.21)	0.18	不整形	古代以前		H－31との関係不明	採土坑か。
D－26	X84、Y204・205	2.25	1.90	0.09	不整形	古代以前		＜W－2	採土坑か。
D－27	X85、Y203	(0.53)	(0.23)	0.26	円形	古代以前		H－22＜	
D－28	X84・85、Y203	0.67	0.56	0.56	円形	古代以前		＜H－29	
D－29	X84・85、Y203	0.46	(0.34)	0.65	円形	古代以前			
D－30	X84・85、Y203	0.90	0.58	0.81	円形	古代以前		＜H－29、W－2	
D－31	X85・86、Y207	(1.35)	(0.54)	0.44	不明	中世以降	馬骨、自然礫		W－1埋没過程のある時期に構築。
D－32	X86、Y207	(0.88)	(0.34)	0.25	不明	中世以降	馬骨、自然礫		W－1埋没過程のある時期に構築。
D－33	X85・86、Y200・201	(2.05)	(6.05)	0.30	円形	古代以前			

Tab.15　草作Ⅴ・土坑墓一覧表

遺構名	位　置	規模（m）			平面形状	埋葬形態	主な出土遺物	時　期	備　考
	グリッド	長軸	短軸	深さ					
ＤＢ－１	Ｘ85、Ｙ203	1.13	0.58	0.08	長方形	不明		中世以降	
ＤＢ－２	Ｘ84、Ｙ210	1.18	0.69	0.43	長方形	不明		中世以降	
ＤＢ－３	Ｘ86、Ｙ208	0.83	0.69	0.21	円形	不明		中世以降	

Tab.16　草作Ⅴ・火葬跡一覧表

遺構名	位　置	規模（m）			平面形状	時　期	備　考
	グリッド	長軸	短軸	深さ			
１号火葬跡	Ｘ85、Ｙ210	0.86	0.57	0.10	楕円形	中世以降	多量の炭化物に混入して焼骨出土。

Tab.17　小見Ⅲ・遺物観察表

番号	遺構番号	器種	①口径②器高③底径	①胎土②焼成③色調④遺存度	特徴	備考
1	２区Ｊ－１－埋	縄文深鉢	①－、②－、③［7.2］－	①透明・黒色鉱物粒を含んだ細砂粒②酸化焔③浅黄色④1/3	斜縄文。垂下する。２本の区画沈線間磨り消し。	
2	１区Ｈ－１－埋	蓋須恵器	①［11.3］、②－、③－	①白色岩片礫②還元焔③灰白色④1/3	轆轤調整。内面に短いかえりが付く。	
3	１区Ｈ－１－床	蓋須恵器	①17.2、②3.7、③摘み径3.10	①チャート礫②還元焔③灰白色④1/1	頂部：一部回転篦削り。端部：折り返し。	
4	１区Ｈ－１－床	坏須恵器	①12.0、②3.5、③6.8	①チャート礫②還元焔③灰白色④2/3	轆轤調整。底部：回転糸切り。	
5	１区Ｈ－１－床	坏須恵器	①13.3、②3.6、③7.8	①長石粒・黒色礫②還元焔③灰白色④5/6	轆轤調整。底部：回転糸切り。	
6	１区Ｈ－３－竈	羽釜	①［18.3］、②－、③－	①半透明砂粒②酸化焔③灰色④口縁部片		
7	１区Ｈ－４－埋	蓋須恵器	①［17.1］、②3.8、③－	①半透明砂粒少量、黒色小粒の吹き出し②還元焔③灰色④1/2	轆轤調整。内面に短いかえりが付く。	
8	１区Ｈ－４－埋	蓋須恵器	①［12.7］、②1.8、③－	①黒色小粒②還元焔③灰色④1/3	轆轤調整。内面に短いかえりが付く。	
9	１区Ｈ－４－埋	坏須恵器	①14.6、②3.9、③9.2	①白色砂粒少量②還元焔③灰色④6/7	口縁部：外傾。底部：回転篦切り離し無調整。	
10	２区Ｈ－２－埋	宇瓦	長さ－、幅－、厚さ3.0	①半透明砂粒②還元焔③灰色④6/7	瓦当文は右偏向唐草文。女瓦部凹凸面撫で。顎は段顎。	
11	２区Ｈ－２－埋	刀子	長さ：（7.0）、幅：1.8、厚さ：0.4、重さ：10.42g		棟関。刃関。	
12	２区Ｈ－４－床	坏須恵器	①12.8、②4.7、③－	①黒色礫②酸化焔③橙色④1/1	口縁部：外反、底～体部との境に稜を有す。篦削り。丸底。	
13	２区Ｈ－４－床	高坏須恵器	①－、②［9.7］、③－	①長石砂粒・灰色岩片礫②還元焔③灰色④2/3	口縁部：波状文。脚部：「ハ」の字に開く。	
14	２区Ｈ－４－床	坏土師器	①12.3、②4.6、③－	①チャート・長石礫②酸化焔③橙色④9/10	口縁部：外反、底～体部との境に稜を有す。篦削り。丸底。	
15	２区Ｈ－５－埋	椀須恵器	①11.5、②5.0、③6.6	①透明微粒②酸化焔③浅黄橙色④1/1	口縁部：内湾。脚部：「ハ」の字に開く。	
16	２区Ｈ－５－床	小皿須恵器	①10.2、②3.5、③5.4	①角閃石を含む細砂粒②酸化焔③黒色④1/1	口縁部：外反、横撫で。底部：回転糸切り。	
17	２区Ｈ－５－埋	段皿灰釉陶器	①［16.6］、②3.2、③9.0	①緻密②良好③灰白色④1/6		
18	２区Ｈ－５－竈	羽釜	①［18.9］、②－、③－	①半透明砂粒②弱還元焔③灰黄褐色④1/7	轆轤調整。口縁部：内傾。	
19	２区Ｈ－５－床	羽釜須恵器	①［20.4］、②－、③－	①透明微粒②還元焔③灰褐色④口縁部片	轆轤調整。口縁部：内傾。	
20	２区Ｈ－５－竈	刀子鉄製品	全長：（15.2）、刃部基幅：1.2、厚さ：0.3、重さ：18.4ｇ		棟関。	
21	２区Ｈ－５－竈	釘鉄製品	全長：9.3、幅：1.7、厚さ：0.3、重さ：9.93ｇ		断面方形。	

番号	遺構番号	器種	①口径②器高③底径	①胎土②焼成③色調④遺存度	特徴	備考
22	2区H－8－埋	耳環 銅製品	外径：3.1、内径：1.5、厚さ：0.8、重さ：24.97ｇ、材質：銅		銅製で中実。	
23	2区H－9－埋	蓋 須恵器	①15.4、②2.6、 ③－	①チャート礫②還元焔③灰白色④9/10	轆轤調整。内面に短いかえりが付く。低い円盤状のつまみが付く。	
24	2区H－9－竈	坏 須恵器	①［12.0］、②3.0、 ③［8.1］	①白色微粒・チャート礫②還元焔・良好③灰色④1/2	口縁部：外傾。底部：回転篦削り。	
25	2区H－9－竈	坏 須恵器	①［10.8］、②3.0、 ③［6.5］	①白色砂粒少量②還元焔・良好③灰色④2/5	口縁部：外傾。底部：回転篦削り。	
26	2区H－9－埋	鉄鉢 須恵器	①［15.6］、②－、 ③－	①精良・白色岩片礫②還元焔③灰色④口縁部片		
27	2区H－9－竈	甕 土師器	①23.1、②－、 ③－	①細砂粒②酸化焔③橙色④1/2	口縁部：外反、横撫で。胴部：外面削り、内面篦撫で。	
28	2区H－10－埋	坏 須恵器	①［12.8］、②3.2、 ③［8.0］	①黒色粒②還元焔・良好③灰色④1/2	口縁部：外傾。底部：回転篦削り。	
29	2区H－10－埋	環状鉄 製品	径：3.3、厚さ：0.2、重さ：5.72ｇ、遺存度：1/1		断面長方形	
30	2区H－14－床	坏 土師器	①［16.4］、②4.0、 ③－	①チャート小粒②酸化焔③橙色④1/2	口縁部：外反、底～体部との境に稜を有す。篦削り。丸底。	
31	2区H－14－床	坏 土師器	①13.4、②3.8、 ③－	①片岩小礫②酸化焔③橙色④3/4	口縁部：外反、底～体部との境に弱い稜を有す。篦削り。丸底。	
32	2区H－14－床	坏 土師器	①14.3、②4.1、 ③－	①白色軟質細粒②酸化焔③橙色④5/6	口縁部：直立、底～体部との境に弱い稜を有す。篦削り。丸底。	
33	2区H－14－竈	坏 土師器	①13.7、②4.1、 ③－	①角閃石の多い微砂粒②酸化焔③にぶい橙色④1/2	口縁部：内湾。篦削り。丸底。	
34	2区H－14－埋	坏 土師器	①15.3、②4.1、 ③5.6	①チャート粒少量②酸化焔③橙色④1/2	口縁部：内湾。指頭圧痕。丸底。内面暗文。	
35	2区H－14－床	甕 土師器	①22.2、②－、 ③－	①長石を含む砂礫多量②酸化焔③橙色④2/3	口縁部：外反、横撫で。胴部：外面削り。	
36	2区H－14－埋	壺 須恵器	①15.5、②－、 ③－	①長石小礫②還元焔③灰色④口縁部片	口縁部：外反。	
37	2区H－15－埋	凹石	長さ：2282、幅：15.5、厚さ：10.6、重さ：2885g、安山岩			
38	2区H－18－床	椀 須恵器	①［13.4］、②7.1、 ③［7.4］	①角閃石を含む微砂粒②酸化焔③灰黄色④2/3	口縁部：外傾して開く。脚部：「ハ」の字に開く。	
39	2区H－18－埋	皿 須恵器	①12.7、②3.6、 ③8.0	①角閃石を含む微砂粒②還元焔③灰黄色④9/10	口縁部：外傾して開く。脚部：「ハ」の字に開く。	
40	2区H－18－埋	小皿 須恵器	①10.0、②3.2、 ③4.9	①軽石小粒②弱還元焔③暗灰褐色④1/1	口縁部：外傾。底部：回転篦削り。	
41	2区H－18－埋	椀 灰釉陶器	①14.8、②4.6、 ③7.1	①緻密②良好③灰白色④2/3	高台部：三日月高台。灰釉漬け掛け。	
42	2区H－18－床	椀	①13.0、②6.0、 ③7.3	①細砂粒②酸化焔③浅黄橙色④3/5	口縁部：外傾して開く。脚部：「ハ」の字に開く。	
43	2区H－18－床	椀	①11.7、②4.4、 ③6.6	①灰色砂粒②酸化焔③灰白色④4/5	口縁部：外反。底部：回転糸切り後、高台貼り付け。	灯明皿
44	2区H－18－埋	羽釜	①［19.2］、②－、 ③－	①角丸小礫（φ4.5～㎜大）②酸化焔③にぶい黄褐色④1/6		
45	2区H－19－埋	坏 土師器	①11.1、②3.7、 ③2.0	①目立つ鉱物粒なし②酸化焔③橙色④6/7	口縁部：直立、底～体部との境に弱い稜を有す。篦削り。丸底。	
46	2区H－23－埋	蓋 須恵器	①［18.9］、②－、 ③－	①灰色岩片粒②還元焔③灰色④1/3	口縁部内面に短いかえりが付く。	
47	2区H－23－埋	小皿	①11.2、②4.1、 ③5.9	①透明子鉱物を含む微粒子②酸化焔③浅黄橙色④2/3	口縁部：外反。底部：回転糸切り離し。	
48	2区H－23－埋	高台付坏 須恵器	①20.0、②4.6、 ③15.0	①長石微粒・礫②還元焔③灰白色④4/5	底部回転篦削り調整。高台部貼り付け。	
49	2区H－23－床	甕 土師器	①22.6、②－、 ③－	①黒色鉱物粒その他細砂粒②酸化焔③橙色④1/2	口縁部：外反、横撫で。胴部：外面削り、内面ヘラ撫で。	

番号	遺構番号	器種	①口径②器高③底径	①胎土②焼成③色調④遺存度	特徴	備考
50	2区H－24－埋	小皿	①9.0、②2.1、③5.7	①透明微粒を含む微砂粒②酸化焔③灰褐色④1/1	口縁部：外傾。底部回転糸切り。	
51	2区H－24－埋	皿 灰釉陶器	①［12.4］、②2.5、③6.2	①緻密②良好③灰白色④1/3	三日月高台。	
52	2区H－25－床	坏 須恵器	①10.3、②4.3、③6.5	①透明砂礫②酸化焔③淡橙色④4/5	口縁部：内湾。底部：回転糸切り後高台貼り付け。	
53	2区H－25－埋	小皿	①9.0、②2.0、③5.1	①角閃石透明微粒を含む②酸化焔③にぶい橙黄色	口縁部：外傾。底部回転糸切り。	
54	2区H－25－埋	椀 灰釉陶器	①［15.6］、②6.5、③7.6	①緻密②良好③淡黄色④1/1	口縁部：内湾。底部：足の長い高台が付く。	
55	2区H－25－埋	椀 灰釉陶器	①16.4、②6.7、③8.3－	①緻密小気泡あり②還元焔③明灰色④1/1	口縁部：内湾。底部：足の長い高台が付く。	
56	2区H－25－床	鬼瓦	①－、②－、③厚さ3.5	①黒色鉱物粒その他細砂粒②酸化焔③橙色④－		
57	2区H－29－床	坏 土師器	①12.2、②－、③－	①長石砂粒少量②酸化焔③橙色④2/3	口縁部：内湾。篦削り。丸底。	
58	2区H－29－床	坏 土師器	①11.6、②3.1、③－	①黒色鉱物粒他微砂粒②酸化焔③橙色④1/2	口縁部：内湾。篦削り。丸底。	
59	2区H－29－埋	坏 須恵器	①11.0、②2.8、③6.4	①灰色細砂粒、黒色小粒少量②還元焔③灰色④7/8	口縁部：外傾。底部：篦削り。	
60	2区H－29－床	坏 須恵器	①［11.1］、②－、③－	①黒色微粒・白色微粒②還元焔③灰④1/3	口縁部：外反。篦削り。丸底。	
61	2区H－29－床	坏 須恵器	①11.6、②3.1、③－	①黒色粒少量②還元焔③灰白色④1/1	口縁部：外反。篦削り。丸底。	
62	2区H－29－竈	甕 土師器	①［20.9］、②－、③－	①細砂粒多量②酸化焔③橙色④2/3	口縁部：外反、横撫で。胴部：外面削り、内面ヘラ撫で。	
63	2区H－29－埋	蓋 須恵器	①［10.4］、②2.5、③－	①白色微粒・黒色粒②還元焔③灰色④1/7	轆轤調整。内面に短いかえりが付く。宝珠状のつまみが付く。	
64	2区H－30－埋	坏 土師器	①10.9、②3.1、③－	①角閃石粒、半透明鉱物粒②酸化焔③橙色④1/1	口縁部：内湾。篦削り。	
65	2区H－32－竈	甕 土師器	①19.8－、②－、③－	①黒色鉱物粒を含む②酸化焔③橙色④3/4	口縁部：外反、横撫で。胴部：長胴。外面削り、内面ヘラ撫で。	
66	2区H－33－床	坏 土師器	①［9.6］、②3.4、③5.7	①長石を含む細砂粒②酸化焔③明黄褐色④1/1	口縁部：外傾。	
67	3区H－1－竈	坏 土師器	①17.0、②4.8、③10.0	①長石微粒、黒色微粒極少量②酸化焔③橙色④1/1	口縁部：外傾、篦削り。内面放射状暗文。	
68	3区H－1－竈	坏 土師器	①14.6、②4.2、③4.0	①透明微粒子多量②酸化焔③にぶ橙色④1/1	口縁部：内湾。篦削り。丸底。	
69	3区H－8－床	坏 土師器	①－、②－、③4.2	①砂粒ほとんど含まず②酸化焔③橙色④2/3	口縁部：外反、底～体部との境に稜を有す。篦削り。丸底。	
70	3区H－8－埋	壺 土師器	①10.9、②－、③－	①灰色砂粒少量②酸化焔③橙色④1/3	口縁部：直立。胴部：外面削り。	
71	3区H－8－竈	甕 土師器	①－、②－、③［4.0］－	①砂粒多量②酸化焔③にぶい橙色④3/4	胴部：外面削り、内面ヘラ撫で。	
72	3区H－9－床	坏 土師器	①12.9、②4.0、③－	①透明微粒子・多量②酸化焔・良好③橙色④1/1	口縁部：外反、底～体部との境に稜を有す。篦削り。丸底。	
73	3区H－10－埋	坏 土師器	①12.6、②4.3、③－	①長石砂粒極少量②酸化焔③黄橙色④1/1	口縁部：外反、底～体部との境に稜を有す。篦削り。丸底。	
74	3区H－13－埋	椀 灰釉陶器	①13.2、②4.4、③6.4	①緻密②良好③灰黄色④1/1	底部回転糸切り。高台部に焼き割れあり。	
75	3区H－14－床	坏 土師器	①11.2、②3.7、③－	①透明微粒子多量②酸化焔③にぶ橙色④1/1	口縁部：内湾。篦削り。丸底。	
76	3区H－14－床	坏 須恵器	①11.3、②3.0、③－	①灰色砂粒②還元焔③灰白④1/1	底部手持篦削り。	
77	3区H－17－埋	碗 須恵器	①［20.0］、②－、③－	①角閃石粒、透明鉱物微粒②還元焔③にぶい橙色④1/3		篦記号「×」

番号	遺構番号	器種	①口径②器高③底径	①胎土②焼成③色調④遺存度	特徴	備考
78	4区H－1－埋	坏 土師器	①［13.0］、②4.0、 ③－	①橙色小粒②酸化焔③にぶい黄橙色④1/2	口縁部：外反、底～体部との境に稜を有す。篦削り。丸底。	
79	4区H－3－埋	羽釜	①［21.1］、②－、 ③－	①角閃石粒、透明微粒②還元焔③灰色④1/5		
80	4区H－7－床	坏 土師器	①11.0、②3.8、 ③－	①長石砂粒少量②酸化焔・良好③橙色④1/1	口縁部：内湾。篦削り。丸底。	
81	4区H－8－埋	高台付皿 須恵器	①13.6、②4.4、 ③8.0	①透明微粒②酸化焔③灰白色④1/1	脚部：「ハ」の字に開く。	
82	4区H－9－埋	椀 須恵器	①12.8、②4.5、 ③7.8	①透明微粒子②弱還元焔③灰褐色④1/3	口縁部：外傾して開く。脚部：「ハ」の字に開く。	
83	4区H－9－埋	女瓦	長さ－、幅－、 厚さ1.8	①半透明鉱物砂粒②還元焔③灰色④－		文字瓦「太□」
84	4区H－10－埋	坏 土師器	①［14.0］、②［5.0］、 ③－	①透明微粒子・多量②酸化焔③橙色④1/3	口縁部：外傾、横撫で。底部：篦削り。丸底。	
85	4区H－15－埋	坏 土師器	①［14.4］、②7.8、 ③－	①長石砂粒少量②酸化焔③橙色④1/2	口縁部：外反、底～体部との境に稜を有す。篦削り。丸底。	
86	4区H－15－埋	坏 土師器	①［13.0］、②4.4、 ③－	①透明微粒子・多量②酸化焔③にぶい黄橙色④1/3	口縁部：外反、底～体部との境に稜を有す。篦削り。丸底。	
87	5区H－1－床	坏 土師器	①12.3、②4.5、 ③－	①黒褐色粒②酸化焔③橙色④1/1	口縁部：直立、底～体部との境に弱い稜を有す。篦削り。丸底。	
88	5区H－1－床	坏 土師器	①12.3、②4.1、 ③－	①黒色粒少量②還元焔・良好③橙色④2/4	口縁部：直立、底～体部との境に弱い稜を有す。篦削り。丸底。	
89	5区H－1－埋	坏 土師器	①［11.0］、②3.7、 ③－	①黒褐色粒②酸化焔③橙色④1/1	口縁部：直立、底～体部との境に弱い稜を有す。篦削り。丸底。	
90	5区H－1－埋	坏 土師器	①［12.0］、②4.3、 ③－	①黒褐色粒多量②酸化焔・良好③橙色④1/2	口縁部：外反、底～体部との境に稜を有す。篦削り。丸底。	
91	5区H－1－埋	坏 須恵器	①12.4、②3.5、 ③－	①黒色粒・少量②還元焔③灰白色④2/3	轆轤調整。底部：手持ち篦削り。	
92	5区H－1－埋	壺 須恵器	①－、②－、 ③－	①黒色粒・チャート粒少量②還元焔③灰白色④2/3	底部：撫で。	
93	5区H－1－床	甕 土師器	①［21.3］、②－、 ③－	①長石細粒・精良②酸化焔③橙色④口縁部片	口縁部：外反、横撫で。胴部：外面削り。	
94	5区H－1－埋	砥石	長さ：19.7、幅：8.7、厚さ：6.7、重さ：2680g、石材：流文岩			
95	5区H－1－床	坏 土師器	①13.9、②3.8、 ③11.5	①長石細粒②酸化焔③橙色④ほぼ完形	口縁部：外傾、横撫で。底部：削り。平底気味。	
96	5区H－1－埋	甕 土師器	①［20.6］、②－、 ③－	①半透明微粒少量、角閃石②酸化焔③橙色④口縁部片	口縁部：外反、横撫で。胴部：外面削り。	
97	5区H－1－埋	甕 土師器	①22.8、②37.6、 ③［4.2］	①粗礫多量②酸化焔③橙色④ほぼ完形	口縁部：外反、横撫で。胴部：外面削り。	
98	5区H－1－埋	高坏 須恵器	①10.5、②－、 ③－	①白色細砂粒②還元焔③灰色④脚部片		
99	5区H－1－埋	臼玉	径：1.4、厚さ：0.9、孔径：0.2、重量：3.06g、石材：滑石			
100	2区W－1－埋	白磁碗	①－、②－、 ③－	①白色の緻密な胎土で微気泡粒あり②良好③白色④小片		
101	3区W－2－埋	女瓦	長さ－、幅－、厚さ3.0	①半透明鉱物砂粒②還元焔③橙色④－		文字瓦「武石」？
102	4区W－1－埋	板碑	長さ：－、幅：－、厚さ：1.7、重さ：－			梵字「□□」
103	4区W－1－埋	硯	長さ：［11.7］、幅：9.0、厚さ：［1.7］、重さ：304.5g、石材：粘板岩			
104	4区W－1・2－埋	石鉢	①－、②－、 ③［18.0］	石材：安山岩		
105	5区W－3－埋	水輪 五輪塔	長さ：23.0、幅：21.7、厚さ：14.1、重さ：7300g、石材：角閃石安山岩			梵字「□」

番号	遺構番号	器種	①口径②器高③底径	①胎土②焼成③色調④遺存度	特徴	備考
106	5区W－3－埋	空風輪 五輪塔	長さ：30.2、幅：16.7、重さ：4740g、石材：角閃石安山岩			梵字「□、□」
107	5区W－3－埋	皿 灰釉陶器	①［10.0］、②－、③－	①緻密②良好③灰白色④口縁部片		
108	2区Ⅰ－1－埋	広口壺 常滑	①［21.0］、②－、③－	①長石砂粒少量②良好③灰オリーブ色④口縁部片		
109	5区Ⅰ－1－埋	茶臼	①［34.0］、②－、③－	石材：安山岩		
110	2区D－8－床	鉄鎌	長さ：15.2、幅：3.2、厚さ：0.3、重さ：56.41g		左手鎌。	
111	4区D－2－埋	坏 土師器	①10.4、②3.5、③－	①黒色鉱物粒②酸化焔③橙色④ほぼ完形	口縁部：内湾。篦削り。丸底。	
112	5区D－5－埋	地輪 五輪塔	長さ：22.2、幅：20.8、厚さ：14.9、重さ9,700g、石材：角閃安山岩			梵字「□」
113	2区DB－1－底	皿 緑釉陶器	①12.2、②1.9、③6.8	①緻密②良好③緑灰色④1/1		
114	2区DB－1－底	耳皿 灰釉陶器	①11.8、②3.6、③4.3	①緻密②良好③灰白色④ほぼ完形		
115	2区DB－1－底	小皿	①9.7、②2.4、③5.8	①細砂粒②酸化焔③橙色④ほぼ完形	口縁部：外傾。底部回転糸切り。	
116	2区DB－1－底	椀	①15.3、②6.8、③9.6	①細砂粒②酸化焔③橙色④ほぼ完形	口縁部：内湾気味に開く。脚部：「ハ」の字に開く。	
117	5区DB－3－埋	石鉢	①－、②－、③［14.0］	石材：安山岩		
118	3区グリット	皿 灰釉陶器	①12.9、②2.5、③6.6	①緻密②良好③灰白色④1/2	上面に同一器種の重ね焼き痕	
119	3区グリット	段皿 灰釉陶器	①14.6、②2.7、③6.4	①緻密②良好③灰白色④1/2	灰釉刷毛掛けか	
120	4区グリット	女瓦	長さ－、幅－、厚さ2.5	①半透明鉱物砂粒②弱還元焔③灰褐色④－		文字瓦「子」

Tab.18　草作Ⅴ・遺物観察表

	遺構番号	器種	①口径②器高③底径	①胎土②焼成③色調④遺存度	特徴	備考
1	H－1－床	鉢 土師器	①10.0、②10.0、③、④	①片岩小礫・チャート粒②酸化焔③灰褐色④4/5	口縁部：外反、横撫で。体部：下半部撫で。	
2	H－1－貯	壺 土師器	①11.5、②10.8、③－	①酸化粒、精良②酸化焔③黄橙色④4/5	口縁部：直立。体部：篦削り。	
3	H－3－床	坏 須恵器	①［11.8］、②4.0、③5.7	①雲母微粒多量②酸化焔③にぶい黄橙色④1/2	口縁部：外反、横撫で。底部：回転糸切り。	
4	H－3－床	瓦	長さ－、幅－、厚さ1.8	①半透明砂粒②酸化焔③にぶい橙色④－		篦描文字瓦「人」
5	H－3－竈	不明鉄製品	長さ：5.7、幅：0.9、厚さ：0.5、重さ：34.95g		U字形に曲がる	
6	H－3－竈	不明鉄製品	長さ：［3.2］、幅：0.8、厚さ：0.5、重さ：3.51g			
7	H－4－床	小型壺か 須恵器	①－、②5.5、③－	①白色微粒多量②還元焔③灰白色④1/2	轆轤調整。底部：回転糸切り無調整。	
8	H－4－埋	椀 灰釉陶器	①13.0、②3.7、③7.0	①緻密②良好③灰白色④3/4	高台断面逆台形	
9	H－4－床	羽釜	①［20.0］、②－、③－	①チャート・微砂粒②還元③灰白色④1/20	轆轤調整。口縁部：内傾。	
10	H－4－床	羽釜	①［23.1］、②－、③－	①チャート・角閃石等を含む細砂粒②弱還元③灰白色④1/25	轆轤調整。口縁部：内傾。	
11	H－8－埋	椀 須恵器	①－、②－、③［7.8］	①細砂粒多量②酸化焔③にぶい橙色④1/3	轆轤調整。底部：回転糸切り、高台貼り付け。	
12	H－10－埋	釘	長さ：5.7、幅：0.7、厚さ：06、重さ：13.44g			

番号	遺構番号	器種	①口径②器高③底径	①胎土②焼成③色調④遺存度	特徴	備考
13	H－10－埋	鉄鏃	長さ：［7.2］、基部幅：0.85、厚さ：0.5、重さ：9.45g			
14	H－11－竈	白磁碗	①［16.5］、②6.9、③［7.3］	①緻密、微気泡②良好③灰白色④1/3	口縁部：内面に圏線が廻る。高台部：削りだし底高台。	
15	H－11－埋	鉄鏃	長さ：［3.3］、幅：0.36、厚さ：0.33、重さ：2.96g			
16	H－13－床	小皿 須恵器	①10.6、②2.8、③5.7	①細砂粒多量②酸化焔③にぶい橙色④1/1	口縁部：外反。底部：回転糸切り。	
17	H－13－床	小皿 須恵器	①10.5、②3.4、③4.4	①細砂粒多量②酸化焔③にぶい橙色④1/1	口縁部：外反。底部：回転糸切り。	
18	H－13－埋	小皿 須恵器	①10.1、②2.5、	①細砂粒多量②酸化焔③橙色④1/1	口縁部：外反、横撫で。底部：回転糸切り。	
19	H－13－埋	蓋 須恵器	①9.8、②2.0、③1.8	①黒色小粒②還元焔③褐灰色④1/1	轆轤調整。内面に短いかえりが付く。頂部：低い円盤状のつまみが付く。	
20	H－13－埋	釘	長さ：（4.6）、幅：0.8、厚さ：0.6、重さ：5.97g			
21	H－16－竈	甕 土師器	①［23.0］、②－、③－	①細砂粒多量②良好③にぶい橙色④1/23	口縁部：外反、横撫で。胴部：長胴。外面削り。	
22	H－16－竈	甕 土師器	①22.5、②－、③4.2	①、②酸化焔③にぶい黄橙色④3/4	口縁部：外反、横撫で。胴部：長胴。外面削り。	
23	H－18－埋	小皿 須恵器	①8.6、②2.1、③4.4	①細砂粒多量②酸化焔③浅黄橙色④1/1	口縁部：外傾。底部：回転糸切り。	
24	H－18－床	小皿 須恵器	①10.1、②2.4、③5.3	①角閃石粒②酸化焔③にぶい橙色④1/1	口縁部：外傾。底部：回転糸切り。	
25	H－19－竈	小皿 土師器	①9.2、②2.1、③4.8	①白色微粒②酸化焔③にぶい黄色④1/1	轆轤調整。底部：回転糸切り無調整。	
26	H－19－埋	坏 須恵器	①15.0、②4.2、③6.7	①黒色・透明鉱物微粒②酸化焔③灰白色④3/5	口縁部：外傾。底部：回転糸切り。	
27	H－21－床	坏 土師器	①11.2、②3.1、	①角閃石粒②酸化焔③橙色④1/1	口縁部：内彎、横撫で。体部～底部：削り。丸底。	
28	H－21－床	紡錘車	径：3.8、孔径：0.8、幅：、厚さ：0.8、重さ：23.7g、石材：滑石			
29	H－25－埋	宇瓦	①－、②－、③3.6	①長石砂粒②還元焔③にぶい黄橙色④	唐草文	
30	H－27－床	高坏 須恵器	①－、②－、③［13.0］	①白色（鉱物）微粒②還元焔③灰色④脚部片	轆轤調整。脚部：カキ目。	
31	H－27－床	甕 土師器	①［16.4］、②－、③－	①砂粒多量②酸化焔③浅黄橙色④1/6	口縁部：外反、横撫で。胴部：長胴。外面削り。	
32	H－29－竈	羽釜	①［29.2］、②－、③－	①黒色鉱物粒が目立つ②酸化焔③にぶい赤褐色④口縁部片	轆轤調整。口縁部：内傾。	
33	H－29－埋	釘	長さ：11.8、幅：1.2、厚さ：1.0、重さ：71.84g			
34	H－30－竈	羽釜	①［26.6］、②－、③－	①角閃石を含む細砂粒②酸化焔③浅黄橙色④口縁部片	轆轤調整。口縁部：内傾。	
35	H－30－竈	羽釜	①［23.6］、②－、③－	①角閃石を含む細砂粒②酸化焔③橙色④口縁部片	轆轤調整。口縁部：内傾。	
36	H－35－床	甕 土師器	①20.3、②－、③5.4－	①砂粒、砂礫多量②酸化焔③灰白色④1/3	口縁部：外反、横撫で。胴部：長胴。外面削り。	
37	H－35－埋	坏 土師器	①13.0、②4.7、	①酸化粒、長石粒②酸化焔③黄橙色④1/1	口縁部：外反、横撫で。体部～底部：削り。丸底。	
38	H－35－床	甕 土師器	①－、②－、③5.4－	①チャート礫他砂粒多量②酸化焔③にぶい橙色④1/23	底部片。	
39	H－35－床	臼玉 石製品	径：1.1、厚さ：0.8、孔径：0.2、重さ：1.74g		滑石製	
40	H－36－埋	小皿 須恵器	①［10.5］、②3.3、③4.5	①細砂粒多量②酸化焔③橙色④1/2	口縁部：外反、横撫で。底部：回転糸切り。	

番号	遺構番号	器種	①口径②器高③底径	①胎土②焼成③色調④遺存度	特徴	備考
41	H－36－埋	椀 須恵器	①［11.6］、②、 ③6.4	①灰色小粒（チャートか？）②還元焔③灰白色④1/3	轆轤調整。底部：回転糸切り、高台貼り付け。	
42	H－37－床	坏 土師器	①10.5、②3.1	①半透明砂粒②酸化・良好③橙色④1/1	口縁部：外反、横撫で。体部～底部：削り。丸底。	
43	H－37－埋	坏 土師器	①11.8、②3.9	①半透明砂粒②酸化焔・良好③橙色④1/1	口縁部：外反、横撫で。体部～底部：削り。丸底。	
44	H－37－埋	坏 土師器	①11.6、②3.7	①微粒子②酸化焔③橙色④1/1	口縁部：外反、横撫で。体部～底部：削り。丸底。	
45	W－2－埋	小皿	①－、②－、 ③－	①目立つ鉱物粒なし②酸化焔③橙色④底部片	底部片。見込み部に朱描き花文。	
46	W－2－埋	常滑広口壺	①－、②－、 ③－	①長石砂粒少量②良好③灰黄色④口縁部片		
47	D－16－埋	内耳鍋	①［35.6］、②［21.5］	①細砂粒多量②瓦質③褐灰色④1/2		
48	D－20－埋	蓋 須恵器	①［21.4］、②－、 ③－	①黒色小粒、精良②還元③明褐灰色④1/3	口縁部内面にかえりが付く。	
49	D－22－埋	羽釜	①［22.5］、②－、 ③－	①灰色角丸礫（チャート礫か）②還元焔③灰白色④1/12	轆轤調整。口縁部：内傾。	
50	D－23－埋	羽釜	①［17.3］、②－、 ③－	①輝石か角閃石か黒色鉱物粒②酸化焔③にぶい橙色④1/8	轆轤調整。口縁部：内傾。体部：下半部篦削り。	
51	遺構外	内耳鍋	①［30.4］、②－、 ③－	①微砂粒少量②弱還元③黒褐色④口縁部片		

Fig. 7　元総社小見Ⅲ・草作Ⅴ遺跡全体図

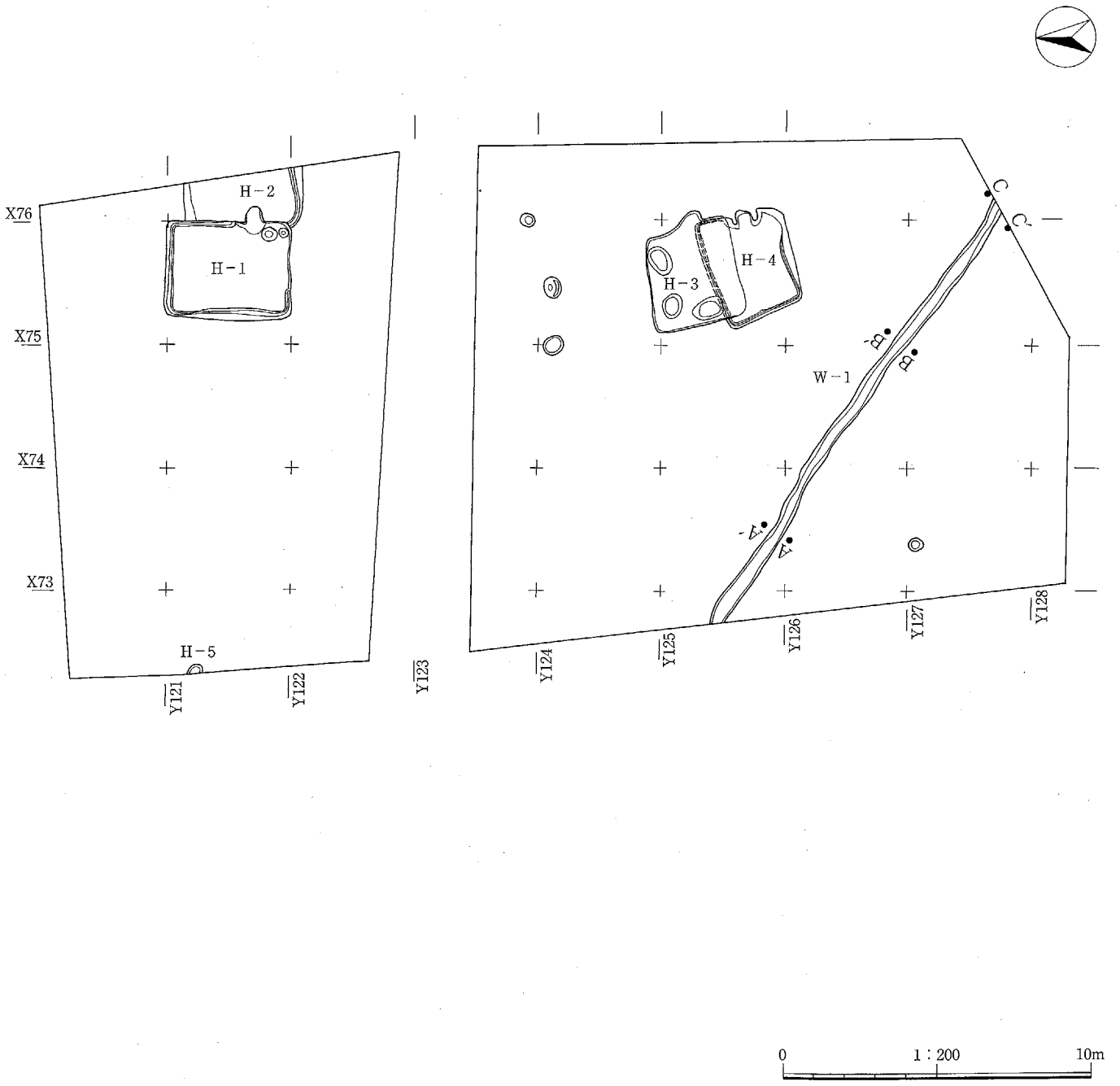


Fig. 8　元総社小見Ⅲ遺跡１区全体図

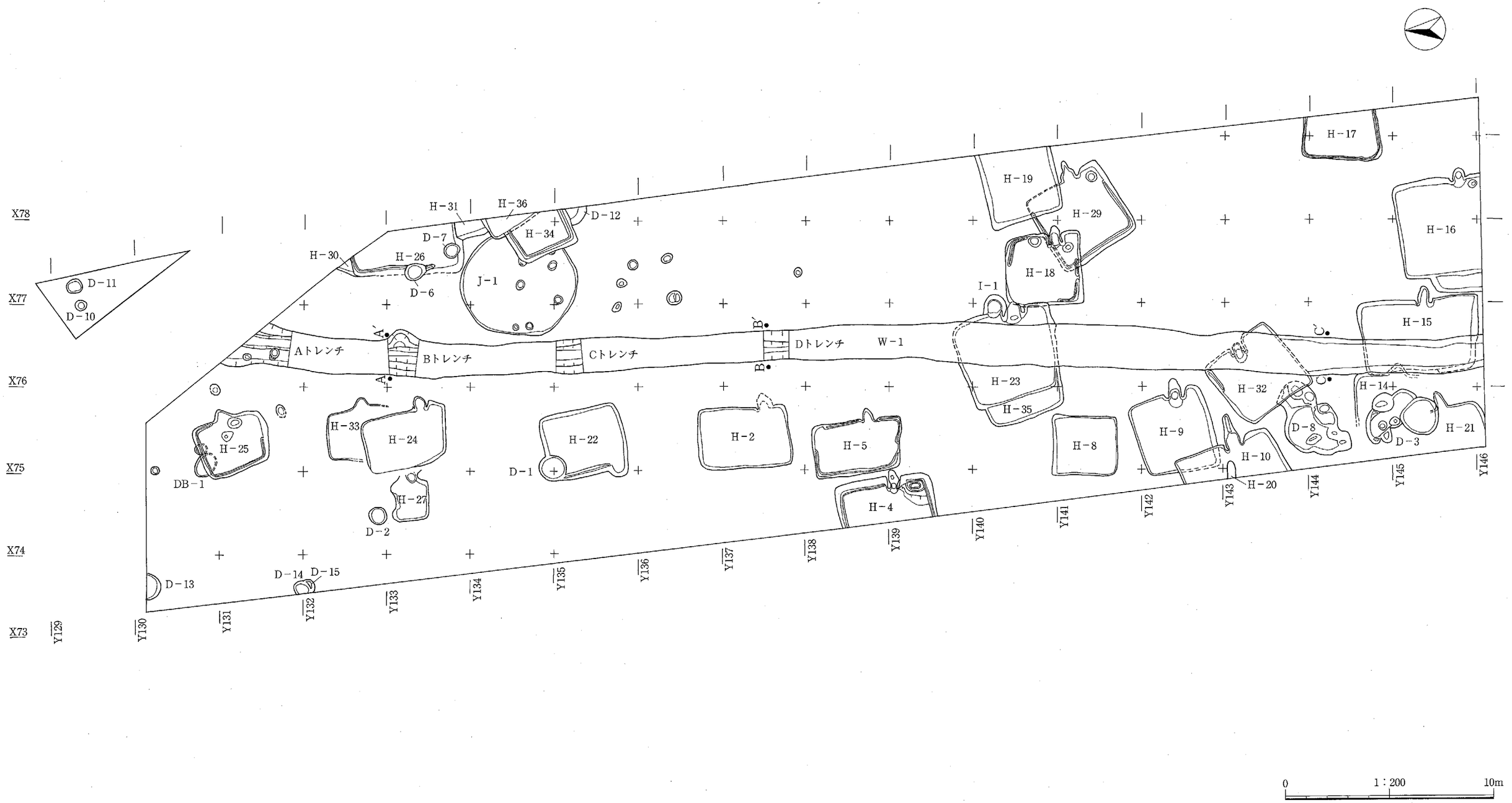


Fig. 9　元総社小見Ⅲ遺跡２区全体図

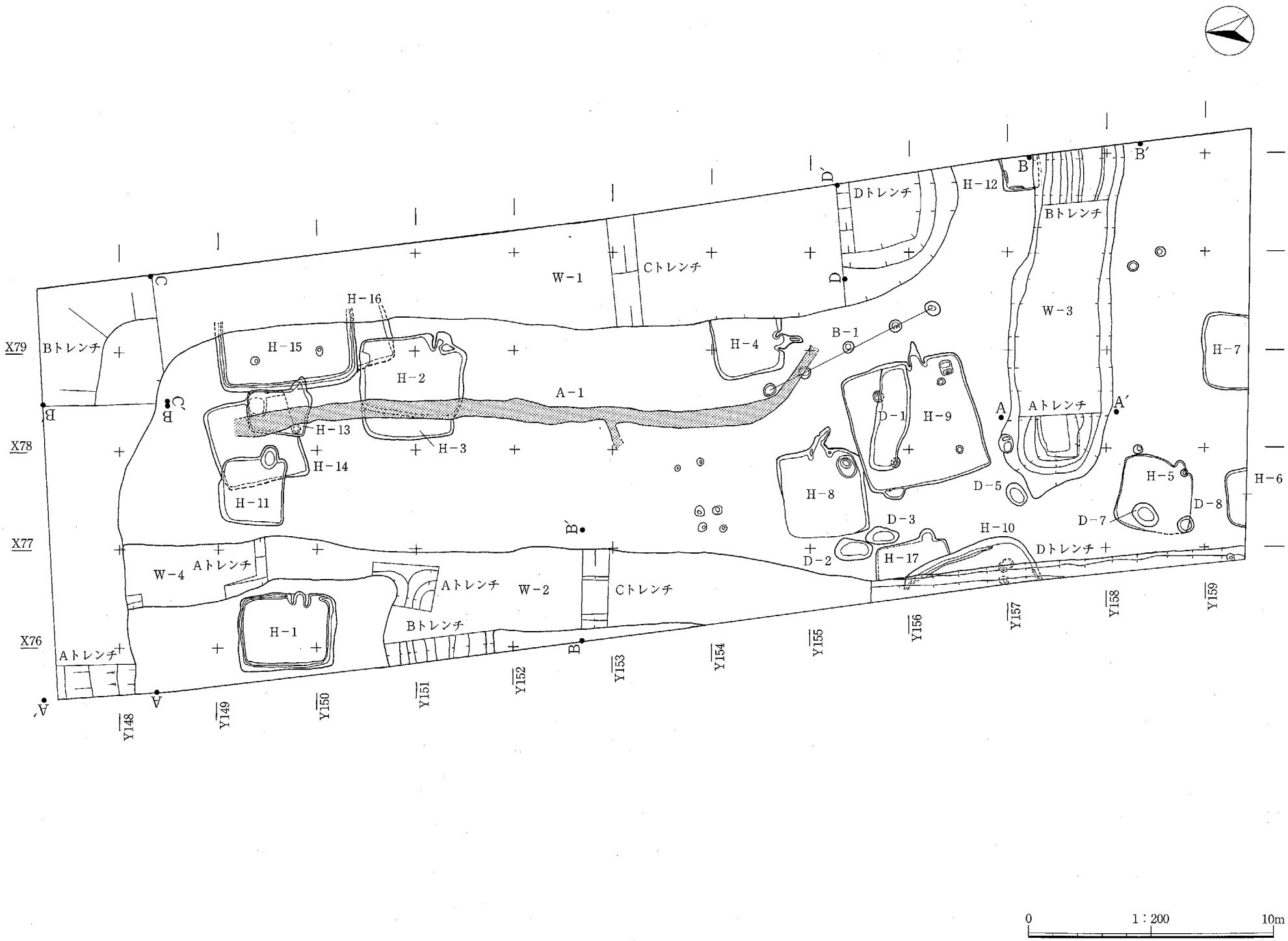


Fig.10　元総社小見Ⅲ遺跡３区全体図

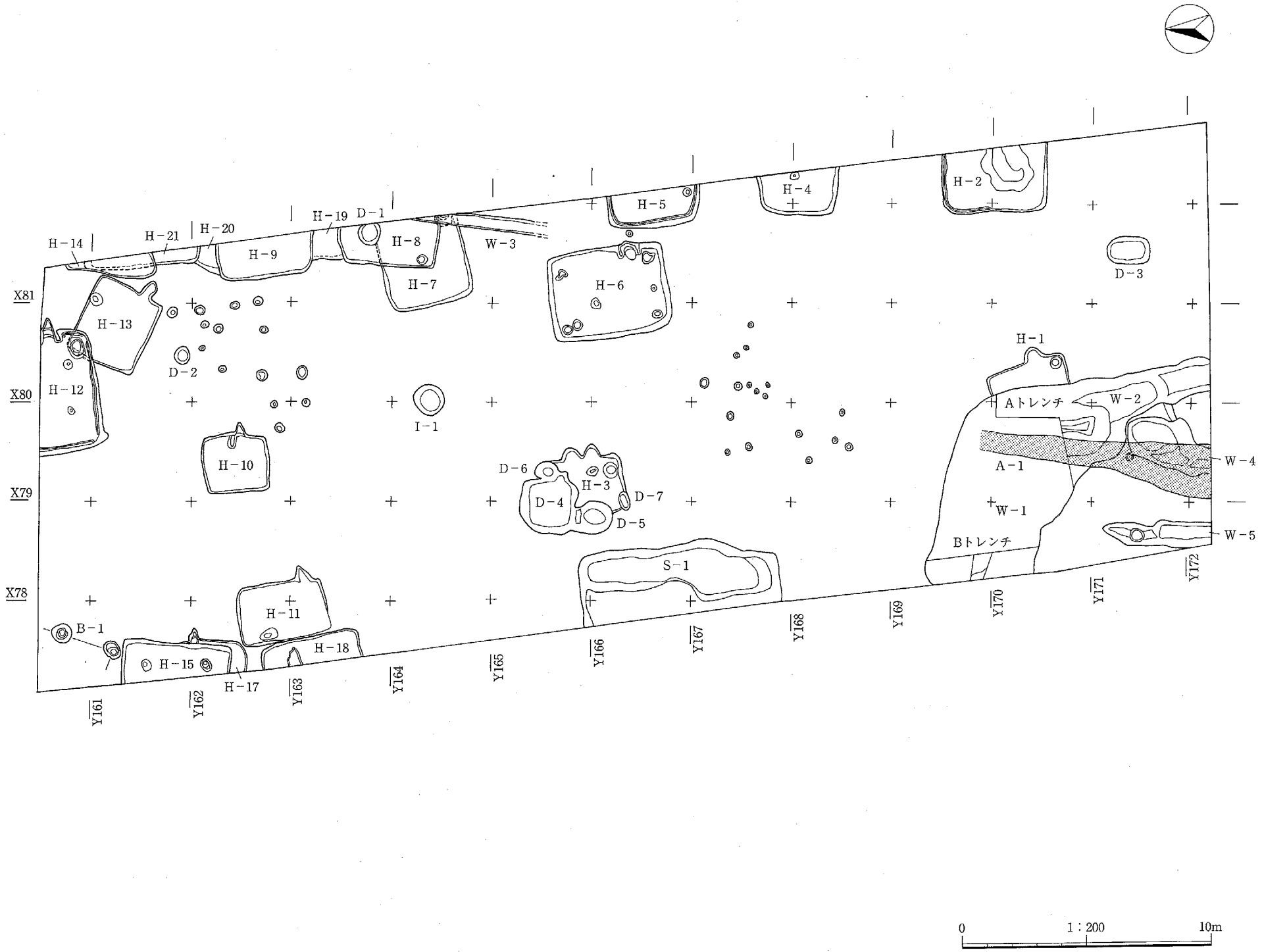
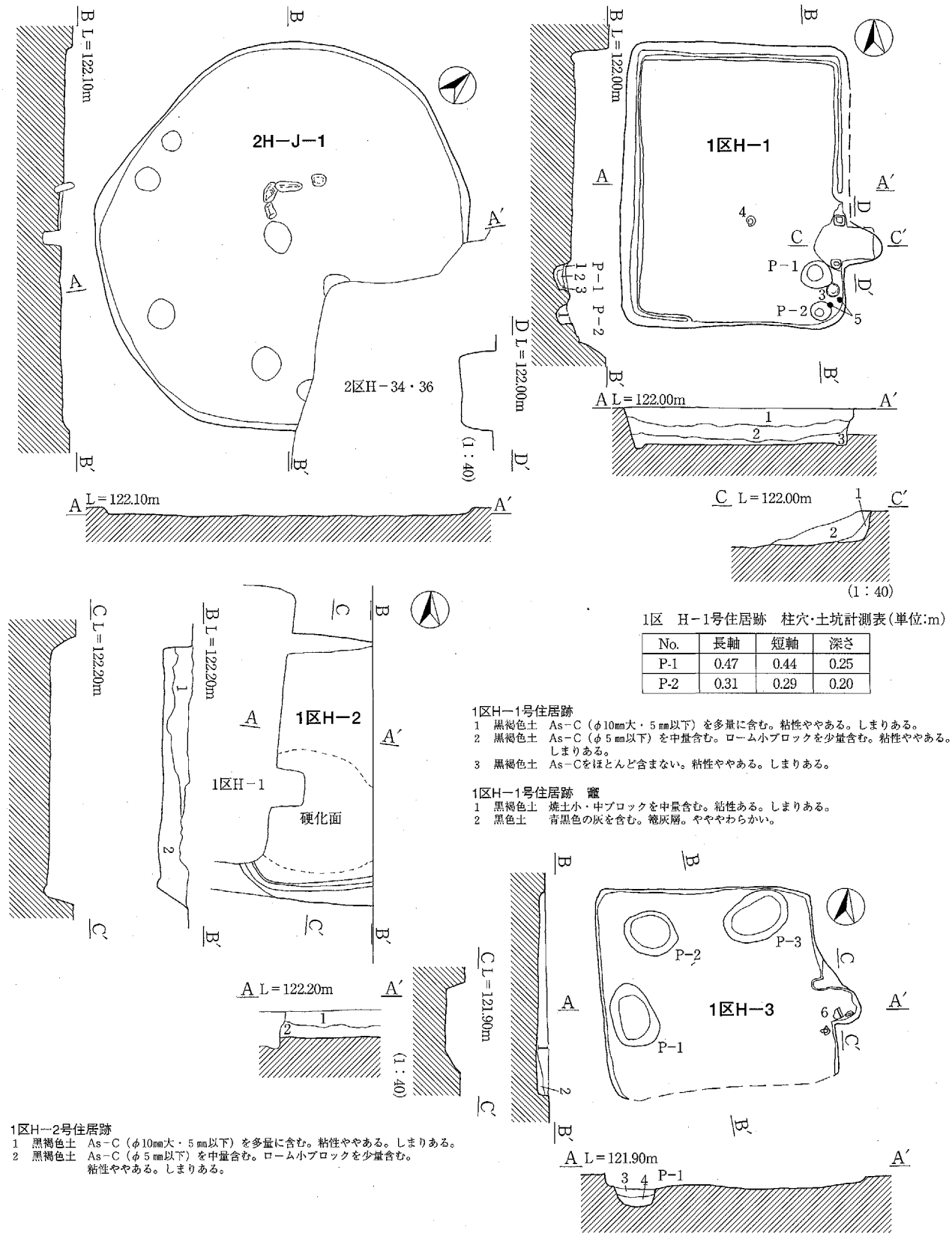


Fig.11　元総社小見Ⅲ遺跡４区全体図

Fig.12　元総社小見Ⅲ遺跡５区全体図

Fig.13　元総社草作Ⅴ遺跡全体図



1区　H−1号住居跡　柱穴･土坑計測表(単位:m)

No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.47	0.44	0.25
P-2	0.31	0.29	0.20

1区H−1号住居跡
1　黒褐色土　As−C（φ10㎜大・5㎜以下）を多量に含む。粘性ややある。しまりある。
2　黒褐色土　As−C（φ5㎜以下）を中量含む。ローム小ブロックを少量含む。粘性ややある。しまりある。
3　黒褐色土　As−Cをほとんど含まない。粘性ややある。しまりある。

1区H−1号住居跡　竈
1　黒褐色土　焼土小・中ブロックを中量含む。粘性ある。しまりある。
2　黒色土　青黒色の灰を含む。竈灰層。ややわらかい。

1区H−2号住居跡
1　黒褐色土　As−C（φ10㎜大・5㎜以下）を多量に含む。粘性ややある。しまりある。
2　黒褐色土　As−C（φ5㎜以下）を中量含む。ローム小ブロックを少量含む。粘性ややある。しまりある。

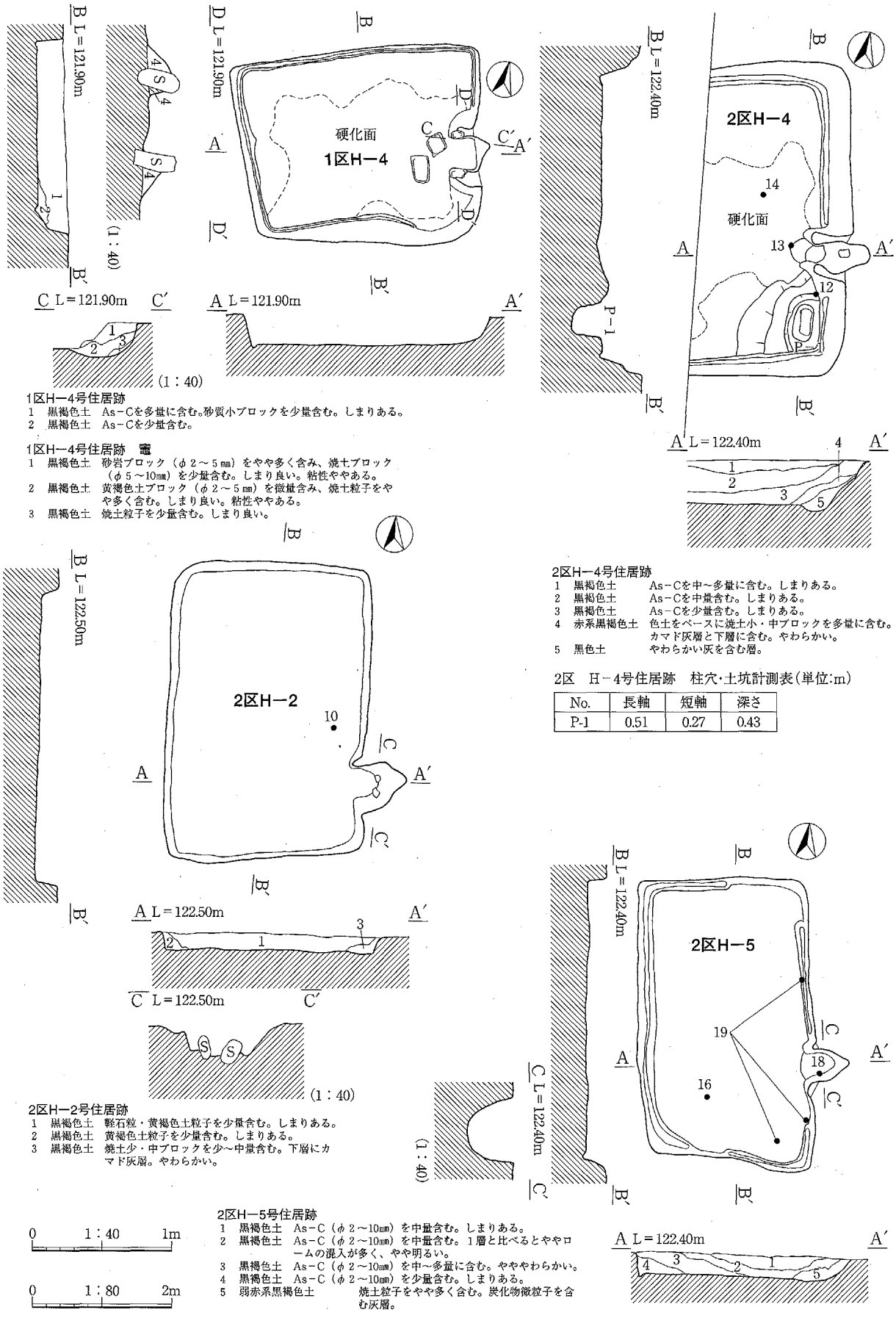
1区　H−3号住居跡　柱穴･土坑計測表(単位:m)

No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.91	0.63	0.29
P-2	0.75	0.63	0.26
P-3	0.95	0.61	0.16

1区H−3号住居跡
1　黒褐色土　As−Cを多量に含む。しまりある。
2　黒褐色土　As−C、砂質土小ブロックを少量含む。しまりある。
3　黒褐色土　As−Cを中〜多量に含む。しまりある。
4　黒褐色土　As−C、砂質小ブロックを少量含む。ややわらかい。

0　1：40　1m
0　1：80　2m

Fig.14　小見Ⅲ・2区Ｊ−1号住居跡、1区Ｈ−1〜3号住居跡



1区H−4号住居跡
1 黒褐色土 As−Cを多量に含む。砂質小ブロックを少量含む。しまりある。
2 黒褐色土 As−Cを少量含む。

1区H−4号住居跡 竈
1 黒褐色土 砂岩ブロック（φ2～5㎜）をやや多く含み、焼土ブロック（φ5～10㎜）を少量含む。しまり良い。粘性ややある。
2 黒褐色土 黄褐色土ブロック（φ2～5㎜）を微量含み、焼土粒子をやや多く含む。しまり良い。粘性ややある。
3 黒褐色土 焼土粒子を少量含む。しまり良い。

2区H−4号住居跡
1 黒褐色土 As−Cを中～多量に含む。しまりある。
2 黒褐色土 As−Cを中量含む。しまりある。
3 黒褐色土 As−Cを少量含む。しまりある。
4 赤系黒褐色土 色土をベースに焼土小・中ブロックを多量に含む。カマド灰層と下層に含む。やわらかい。
5 黒色土 やわらかい灰を含む層。

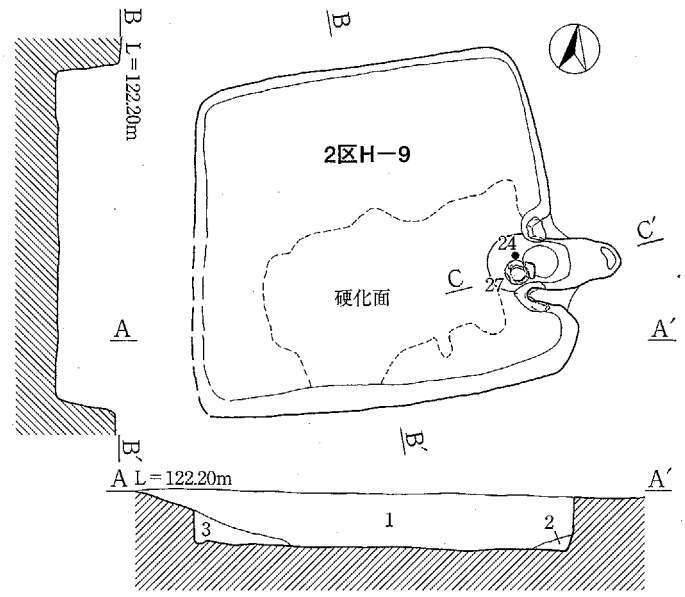
2区 H−4号住居跡 柱穴・土坑計測表(単位:m)

No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.51	0.27	0.43

2区H−2号住居跡
1 黒褐色土 軽石粒・黄褐色土粒子を少量含む。しまりある。
2 黒褐色土 黄褐色土粒子を少量含む。しまりある。
3 黒褐色土 焼土少・中ブロックを少～中量含む。下層にカマド灰層。やわらかい。

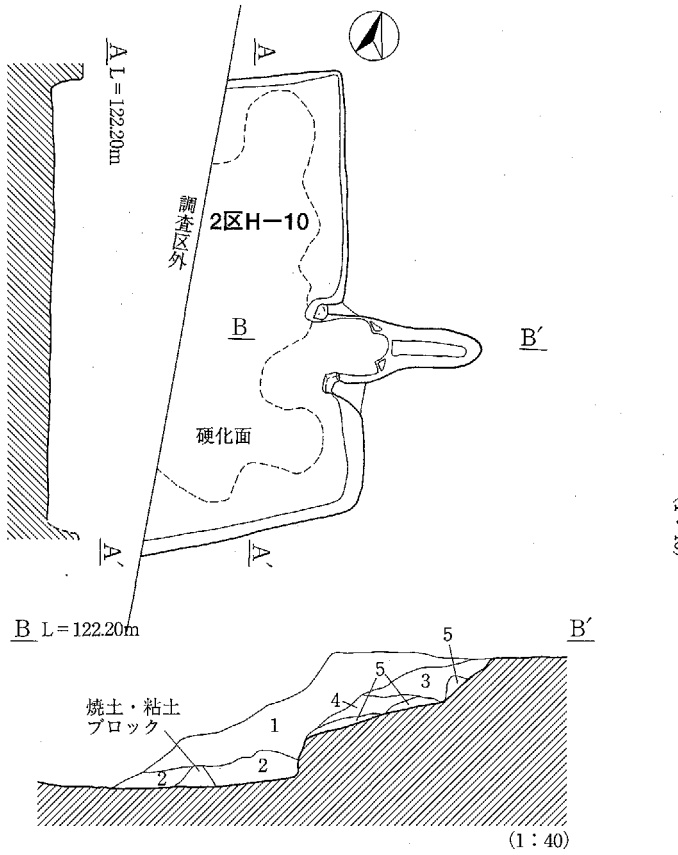
2区H−5号住居跡
1 黒褐色土 As−C（φ2～10㎜）を中量含む。しまりある。
2 黒褐色土 As−C（φ2～10㎜）を中量含む。1層と比べるとややローム の混入が多く、やや明るい。
3 黒褐色土 As−C（φ2～10㎜）を中～多量に含む。ややわらかい。
4 黒褐色土 As−C（φ2～10㎜）を少量含む。しまりある。
5 弱赤系黒褐色土 焼土粒子をやや多く含む。炭化物微粒子を含む灰層。

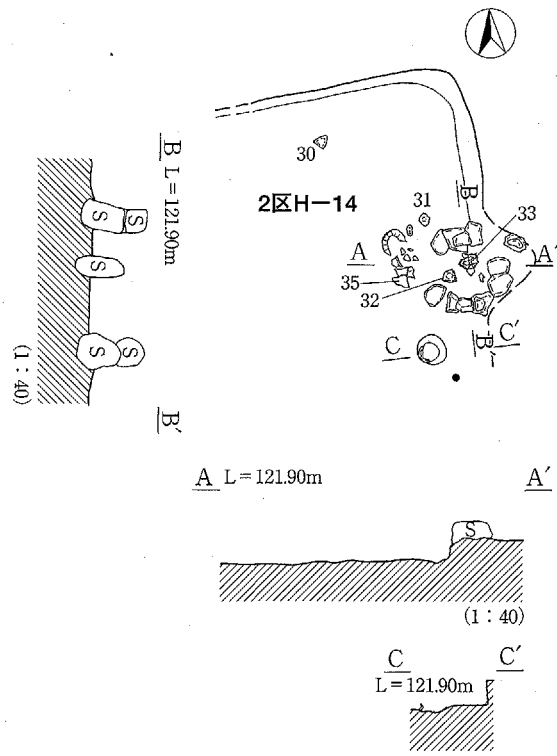
Fig.15 小見Ⅲ・1区H−4号住居跡、2区H−2・4・5号住居跡



2区H−9号住居跡　竈
1　黒褐色土　　As−C（φ2～5㎜）、砂岩ブロック（φ3～5㎜）、焼土小粒子を少量含む。しまり良い。
2　赤系黒褐色土　焼土ブロック（φ2～10㎜）を多量に含む。竈内壁崩落層。

2区H−9号住居跡
1　黒褐色土　As−Cを多くに含む。砂岩ブロック（φ3～5㎜）をやや多く含む。しまり良い。粘性ややある。
2　黒褐色土　砂岩ブロック（φ3～5㎜）を多く含む。しまり良い。粘性ややある。
3　黒褐色土　As−Cを多量に含む。砂岩ブロック（φ3～5㎜）をやや多く含み微砂を多く含む。しまり良い。粘性ややある。

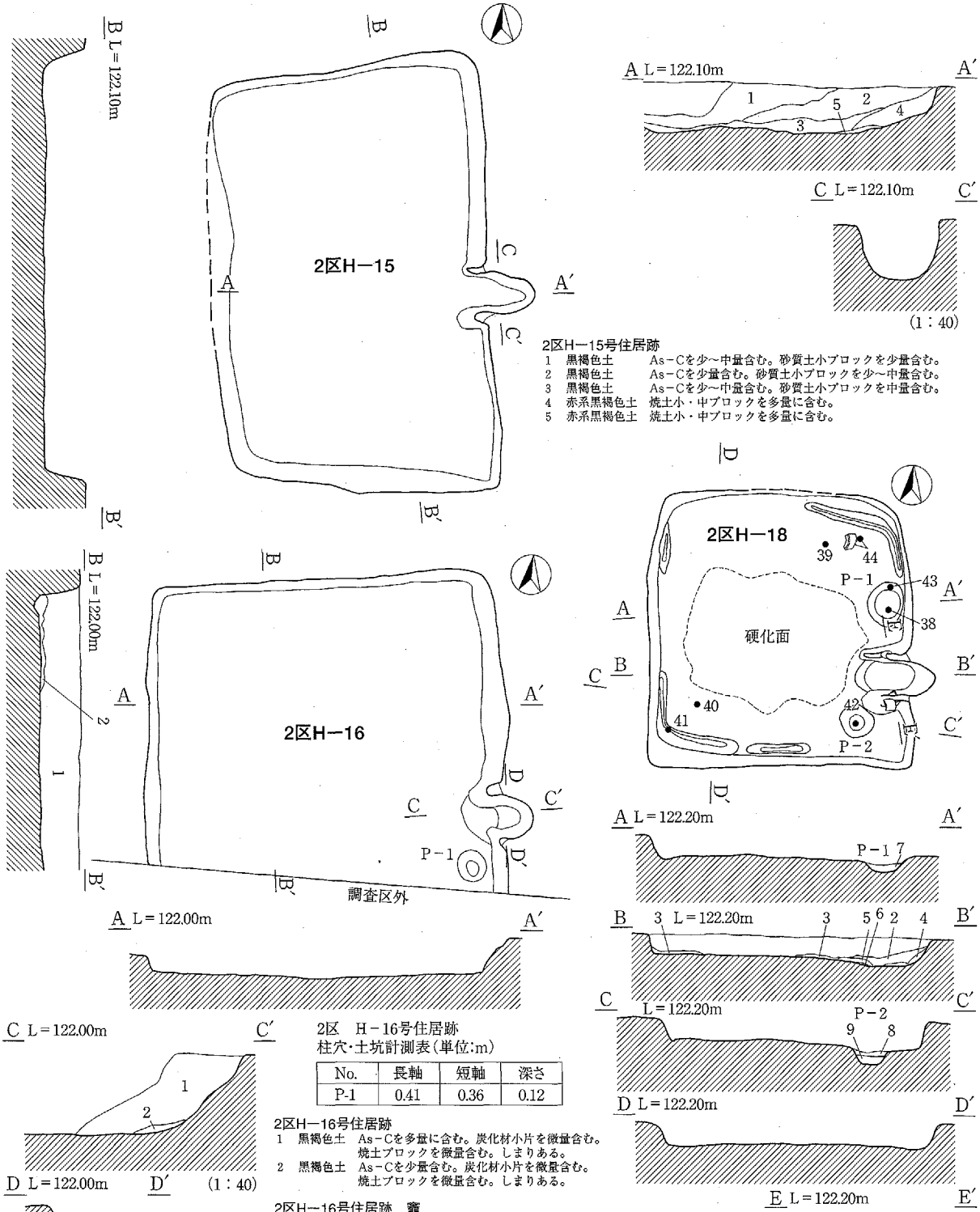




2区H−10号住居跡　竈
1　暗赤褐色土　焼土小・中ブロックを中～多量に含む。ややわらかい。
2　黒褐色土　　焼土粒子を少量含む。炭化粒、灰を多量に含む。竈灰層。やわらかい。
3　黒褐色土　　焼土粒子、灰を少量含む。
4　黒褐色土　　焼土ブロック（φ2～5㎜）を少量含む。灰を少量含む。
5　黒褐色土　　粘土粒子を多量に含む。粘性ある。

0　1：40　1m　　0　1：80　2m

Fig.16　小見Ⅲ・2区H−9・10・14号住居跡



2区H−15号住居跡
1 黒褐色土 As−Cを少〜中量含む。砂質土小ブロックを少量含む。
2 黒褐色土 As−Cを少量含む。砂質土小ブロックを少〜中量含む。
3 黒褐色土 As−Cを少〜中量含む。砂質土小ブロックを中量含む。
4 赤系黒褐色土 焼土小・中ブロックを多量に含む。
5 赤系黒褐色土 焼土小・中ブロックを多量に含む。

2区 H−16号住居跡
柱穴・土坑計測表(単位:m)

No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.41	0.36	0.12

2区H−16号住居跡
1 黒褐色土 As−Cを多量に含む。炭化材小片を微量含む。焼土ブロックを微量含む。しまりある。
2 黒褐色土 As−Cを少量含む。炭化材小片を微量含む。焼土ブロックを微量含む。しまりある。

2区H−16号住居跡 竈
1 赤褐色土 焼土ブロック及び粒子を中量含む。粘土ブロックを少量含む。炭化物を微量含む。
2 黒色土 やわらかい黒色土層。やや青味がった粉粒状でカマド灰層である。

2区H−18号住居跡
1 暗褐色土 As−C（φ2〜3㎜）を多量に含む。砂岩ブロック（φ3〜5㎜）をやや多く含む。しまり良い。粘性弱い。
2 暗褐色土 As−C（φ2〜3㎜）を少量含む。砂岩ブロック（φ3〜5㎜）を少量含む。しまり良い。粘性弱い。
3 暗褐色土 微砂をやや多く含む。しまり良い。粘性弱い。
4 黒褐色土 微砂をやや多く含む。焼土粒子を少量含む。しまり良い。粘性ない。
5 黒褐色土 焼土粒子、灰を多量に含む。しまりやや弱い。粘性ない。
6 黒色土 灰、粉炭を多量に含む。しまり弱い。粘性ない。
7 暗褐色土 As−C（φ2〜3㎜）を少量含む。砂岩ブロック（φ〜5㎜）をやや多く含む。しまり良い。粘性ない。
8 黒褐色土 灰を多く含む。しまり弱い。粘性ない。
9 暗褐色土 微砂を多量に含む。しまり弱い。粘性ない。

2区H−18号住居跡 竈
1 暗褐色土 砂岩粒子をやや多く含む。しまりややある。粘性ない。

2区 H−18号住居跡
柱穴・土坑計測表(単位:m)

No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.58	0.47	0.19
P-2	0.45	0.39	0.32

Fig.17 小見Ⅲ・2区H−15・16・18号住居跡

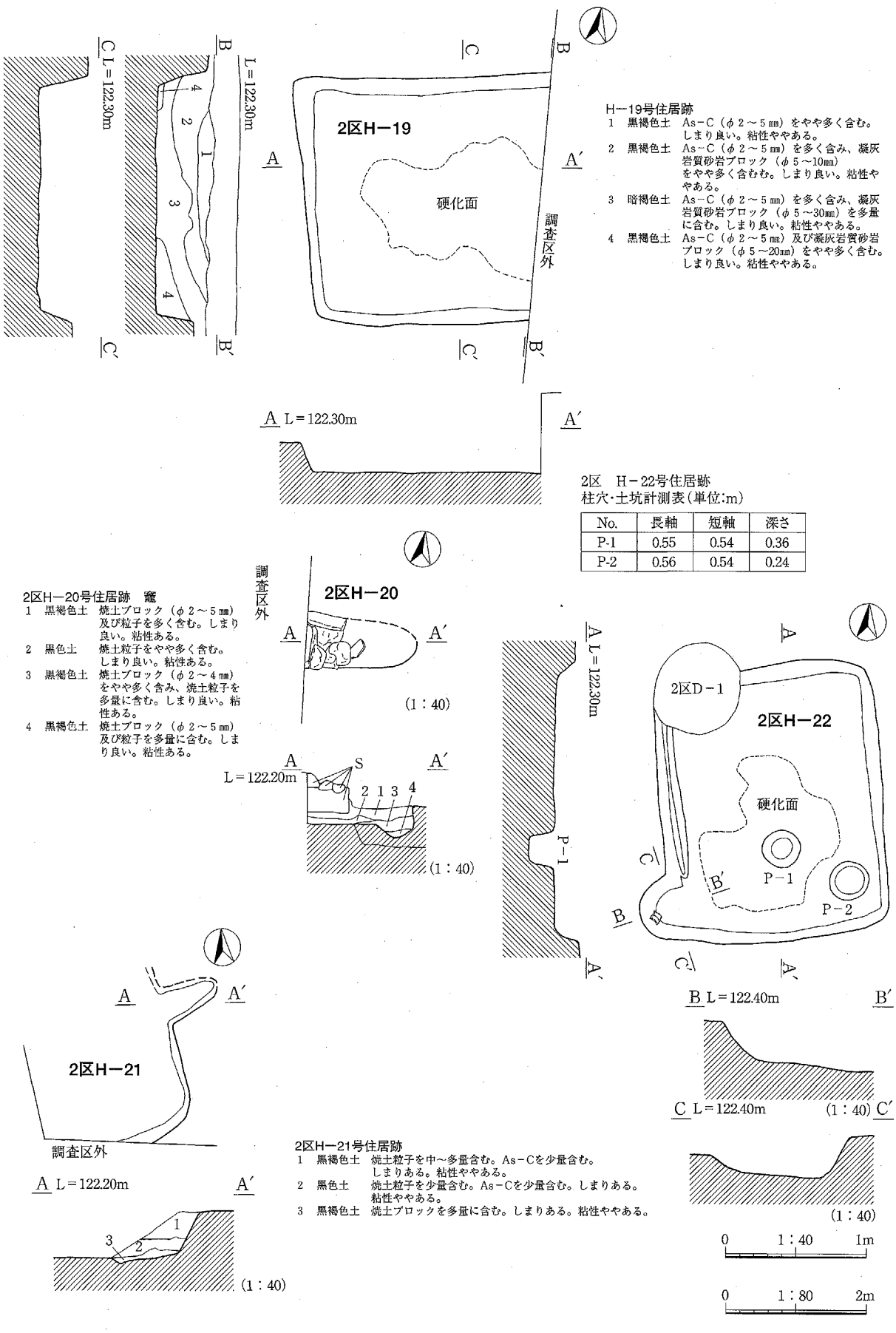
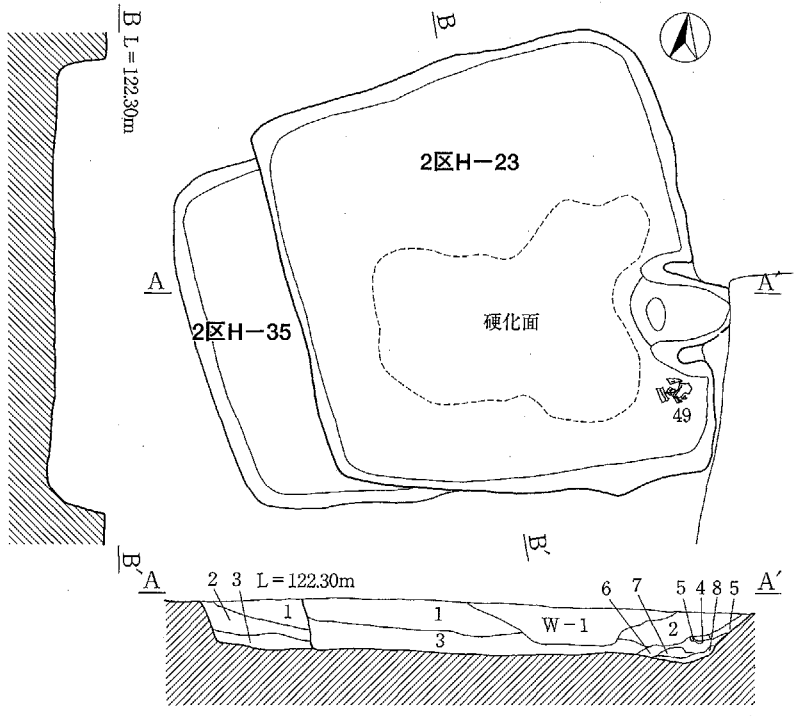


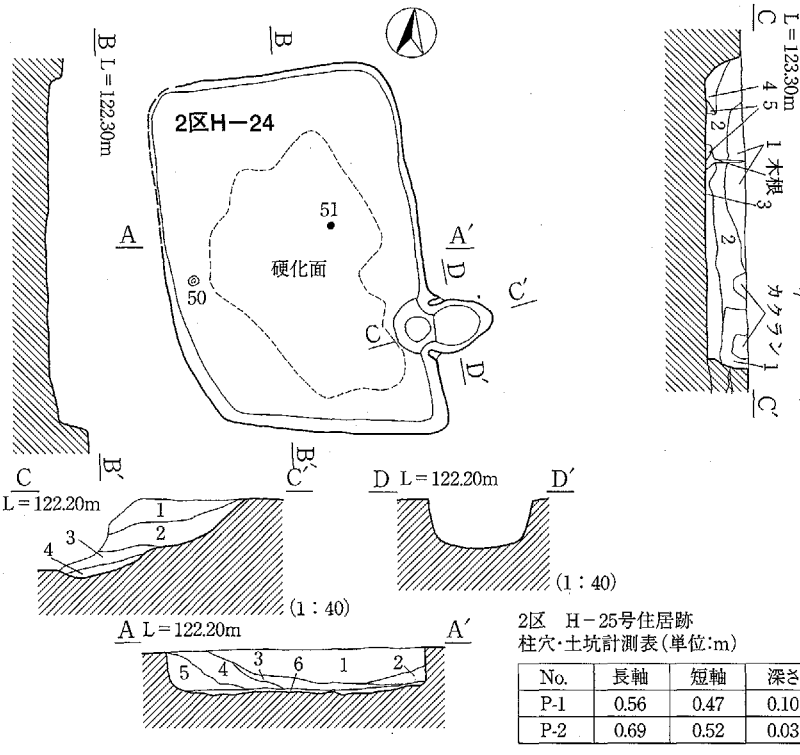
Fig.18 小見Ⅲ・２区Ｈ－19～22号住居跡

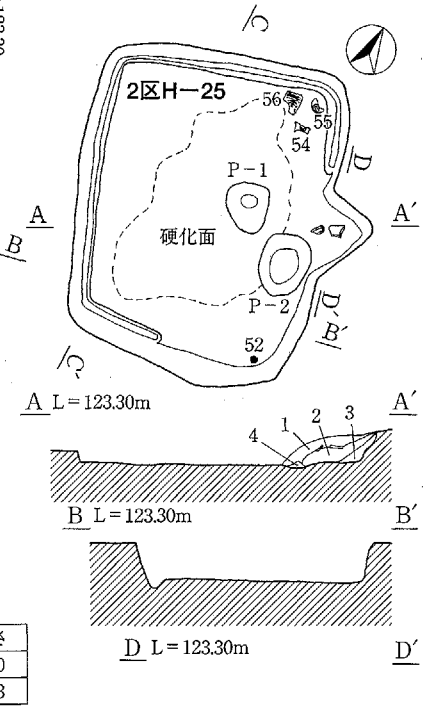


H−23号住居跡
1 黒褐色土 As−C（φ2～5㎜）を多量に含む。しまり良い。粘性ある。
2 黒褐色土 As−C（φ2～5㎜）及び砂岩ブロック（φ2～20㎜）を多く含む。しまり良い。粘性ある。
3 黒褐色土 As−C（φ2～5㎜）を多く含む。しまり良い。粘性ある。
4 暗褐色土 焼土粒子を多く含む。しまり良い。粘性ある。
5 赤褐色土 焼土ブロック（φ10～30㎜）及び粒子からなる（竈天井壁の崩落）。
6 黒褐色土 焼土粒子をやや多く含む。しまり良い。粘性ある。
7 黒褐色土 焼土粒子を多く含む。しまり良い。粘性ある。
8 黒褐色土 焼土粒子及び灰をやや多く含む。しまり良い。粘性ややある。

H−35号住居跡
1 黒褐色土 As−C（φ2～5㎜）を多く含み、砂岩ブロック（φ5～30㎜）をやや多く含む。しまりややある。粘性ある。
2 黒褐色土 As−C（φ2～5㎜）を多く含み、砂岩ブロック（φ5～10㎜）を多く含む。しまりややある。粘性ある。
3 黒褐色土 As−C（φ2～5㎜）を少量含み、砂岩ブロック（φ2～3㎜）及び微砂を多く含む。しまりややある。粘性ある。

2区H−25号住居跡
1 黒褐色土 As−C（φ2～5㎜）を多量に含む。しまり良く硬い。粘性ある。
2 黒褐色土 As−C（φ2～5㎜）を多く含む。しまり良く硬い。粘性ある。
3 黒褐色土 As−C（φ2～5㎜）をやや多く含む。凝灰岩質砂岩ブロック（φ3～5㎜）を少量含む。しまり良く硬い。粘性ある。
4 黒褐色土 As−C（φ2～5㎜）を少量含む。凝灰岩質砂岩ブロックを少量含む。
5 黒褐色土 凝灰岩質砂岩ブロック（φ5～10㎜）及び、粒子を多く含む。しまり良く硬い。粘性ある。



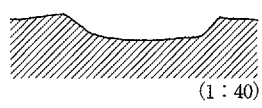


2区 H−25号住居跡
柱穴・土坑計測表(単位:m)

No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.56	0.47	0.10
P-2	0.69	0.52	0.03

2区H−24号住居跡 竈
1 暗褐色土 As−C（φ2～5㎜）を多く含む。微砂をやや多く含む。しまり良い。粘性弱い。
2 暗褐色土 As−C（φ2～5㎜）を少量含む。微砂、焼土粒子をやや多く含む。しまり良い。粘性弱い。
3 暗褐色土 焼土ブロック（φ2～5㎜）及び粒子を多く含む。しまり良い。粘性弱い。
4 暗褐色土 焼土粒子をやや多く含む。灰を多く含む。しまりややある。粘性ない。

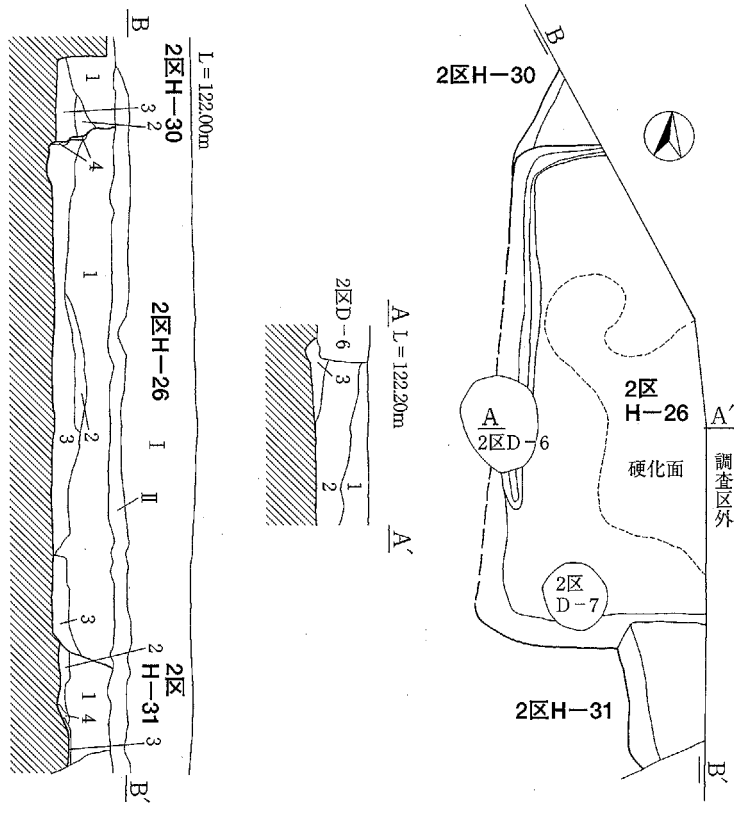
2区H−24号住居跡
1 暗褐色土 As−C（φ2～5㎜）を多量に含む。しまり良く硬い。粘性ややある。
2 暗褐色土 As−C（φ2～5㎜）をやや多く含む。しまり良く硬い。粘性ややある。
3 暗褐色土 As−C（φ2～5㎜）をやや多く含む。シルト質土粒子を多く含む。しまり良く硬い。粘性ややある。
4 暗褐色土 As−C（φ2～5㎜）を多量に含む。シルト質土粒子を多く含む。しまり良く硬い。粘性ややある。
5 暗褐色土 As−C（φ2～5㎜）を多く含み、砂岩ブロック（φ2～10㎜）をやや多く含む。しまり良く硬い。粘性ある。
6 暗褐色土 砂岩ブロック（φ2～5㎜）をやや多く含む。しまり良く硬い。粘性ない。



2区H−25号住居跡 竈
1 黒褐色土 As−C（φ2～3㎜）、焼土粒子、炭化物を少量含む。しまりない。粘性ある。
2 黒褐色土 As−C（φ2～3㎜）、焼土粒子、炭化物をやや多く含む。しまりない。粘性ある。
3 暗褐色土 シルト質土粒子を多く含む。しまり良い。粘性ある。
4 黒褐色土 シルト質土粒子を多く含む。焼土粒子を少量含む。しまり良い。粘性ある。

0 1：40 1m 0 1：80 2m

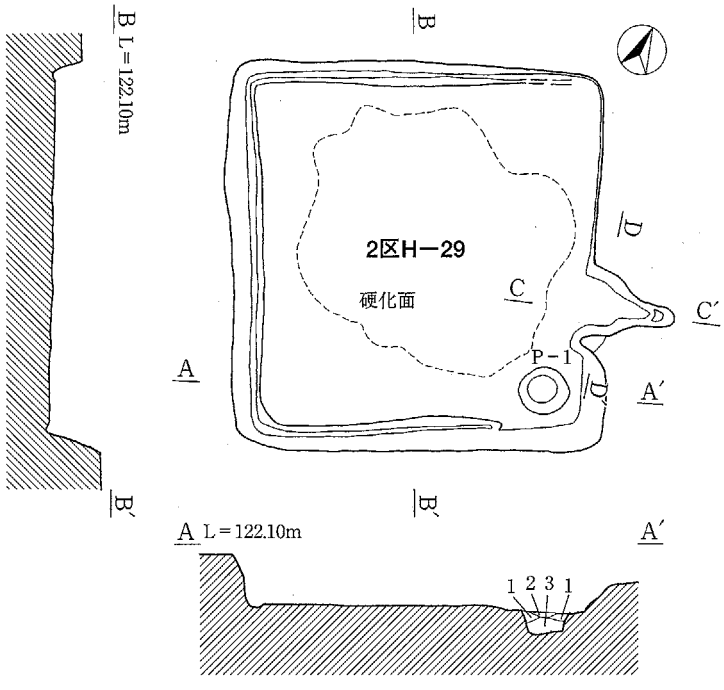
Fig.19 小見Ⅲ・2区H−23～25・35号住居跡

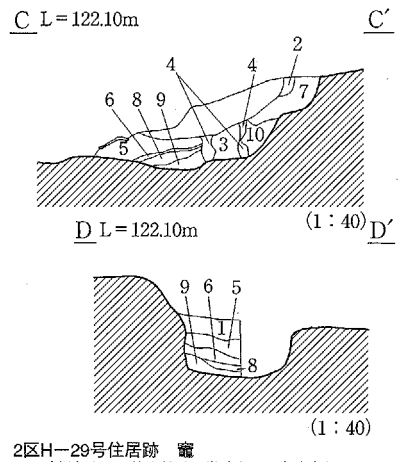


2区H−26号住居跡
1 黒褐色土 As−C（φ2～5㎜）を多量に含む。しまりよく硬い。粘性ある。
2 黒褐色土 As−C（φ2～5㎜）を多く含む。しまりよく硬い。粘性ある。
3 黒褐色土 As−C（φ2～5㎜）を多量に含む。しまりよく硬い。粘性ある。
4 黒褐色土 砂岩粒子を多く含む。しまり良い。粘性ある。

2区H−30号住居跡
1 黒褐色土 As−C（φ2～5㎜）を多量に含む。しまりよく硬い。粘性ある。
2 黒褐色土 As−C（φ2～5㎜）を多く含む。しまりよく硬い。粘性ある。
3 黒褐色土 As−C（φ2～5㎜）を多く含み、砂岩ブロック（φ3～5㎜）を多く含む。しまりよく硬い。粘性ある。

2区H−31号住居跡
1 黒褐色土 As−C（φ2～5㎜）を多く含む。しまりよく硬い。粘性ある。
2 黒褐色土 As−C（φ2～5㎜）を多く含み、砂岩ブロック（φ3～5㎜）を多く含む。しまりよく硬い。粘性ある。
3 黒褐色土 砂岩ブロック（φ3～5㎜）をやや多く含む。しまりよく硬い。粘性ある。
4 黒褐色土 砂岩ブロック（φ3～5㎜）を多く含む。しまりよく硬い。粘性ある。





2区H−29号住居跡 竈
1 暗褐色土 焼土粒子、微砂をやや多く含む。しまりややある。粘性ない。
2 明赤褐色土 焼土から成る。（元は砂質土）
3 暗褐色土 焼土粒子を多量に含む。しまりややある。粘性ない。
4 明赤褐色土 焼土ブロック（φ3～10㎜）及び粒子から成る。
5 黒褐色土 カマド天井部構材。6層が流れこむようにおちたのに対し5層は上から真下へ、落ちたもの。しまり良く硬い。粘性ある。
6 明赤褐色土 焼土ブロック（φ3～5㎜）から成る。天井部内壁面の崩落。
7 暗褐色土 焼土粒子を少量含む。しまりややある。粘性ない。
8 暗褐色土 灰層。
9 黒褐色土 灰層。
10 褐色土 焼土粒子をやや多く含む。しまりない。粘性ない。

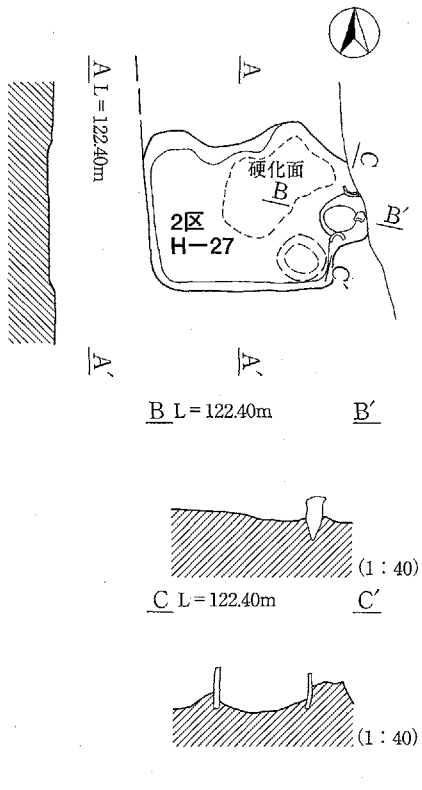
2区H−29号住居跡
1 黒褐色土 As−C（φ2～5㎜）を多く含み、砂岩ブロック（φ5～30㎜）をやや多く含む。しまり良い。粘性ややある。
2 黒褐色土 As−C（φ2～5㎜）、砂岩ブロック（φ5～10㎜）、微砂を多く含む。しまりややある。
3 黒褐色土 As−C（φ2～5㎜）を少量含み、砂岩ブロック（φ2～3㎜）、微砂を多く含む。しまりややある。

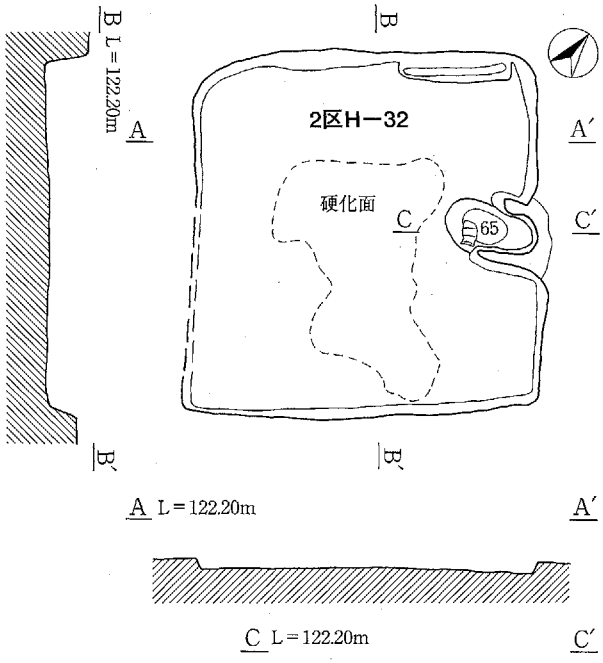
0 1：40 1m
0 1：80 2m

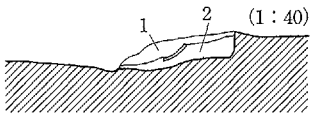
2区 H−29号住居跡柱穴・土坑計測表（単位:m）

No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.53	0.49	0.24

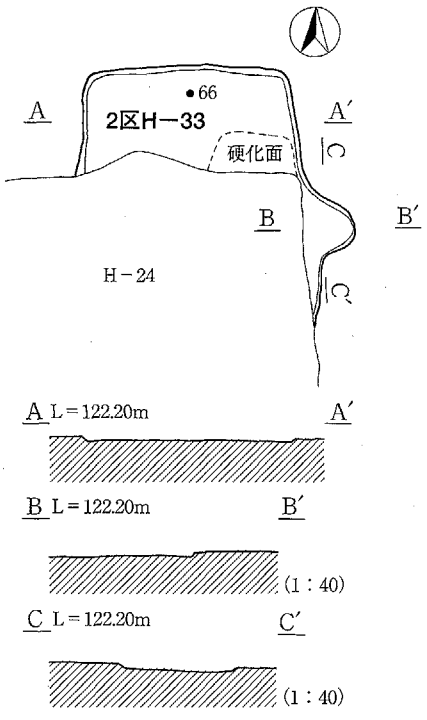
Fig.20 小見Ⅲ・2区H−26・29・30・31号住居跡

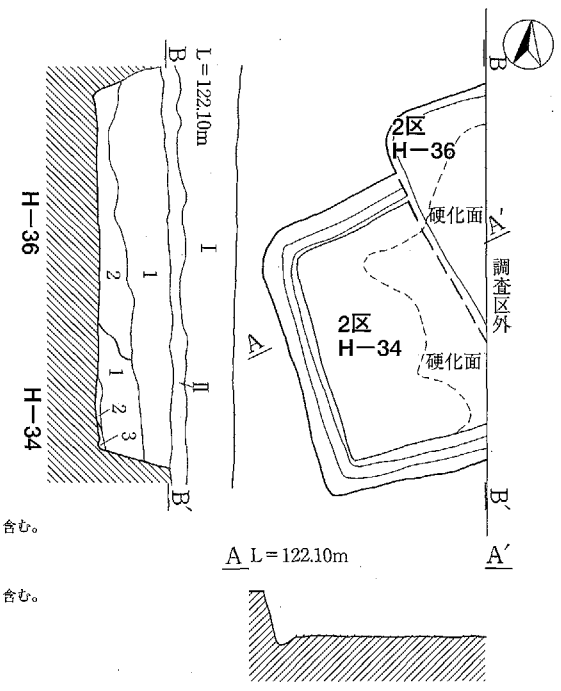






2区H−32号住居跡　竈
1　黒褐色土　焼土粒子を多く含む。
　　しまり良い。粘性ある。
2　黒褐色土　焼土粒子及び灰を多く含む。
　　しまり良い。粘性ある。



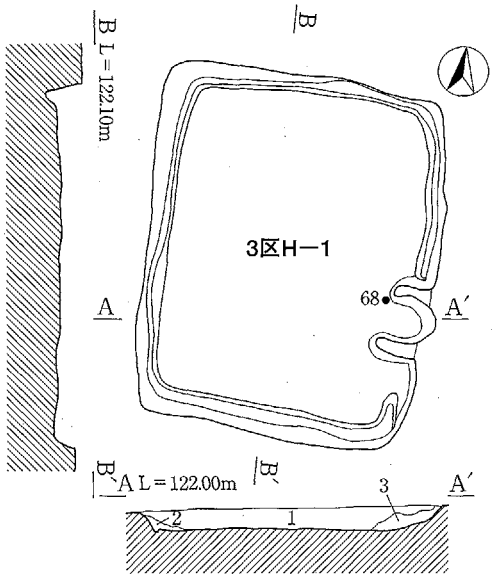


2区H−34号住居跡
1　黒褐色土　As−C（φ2～5㎜）を多く含み、砂岩ブロック（φ5～30㎜）をやや多く含む。
　　しまりややある。粘性ある。

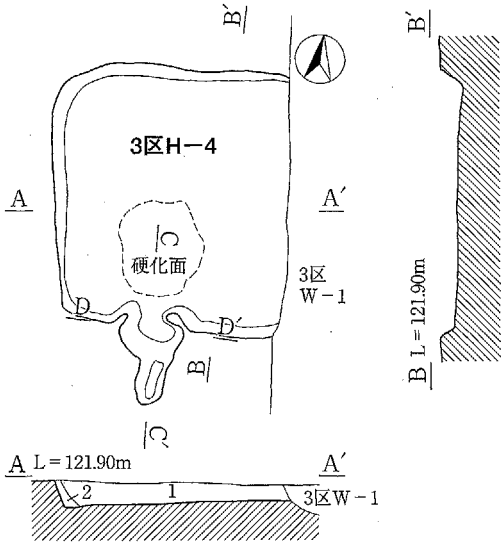
2区H−36号住居跡
1　黒褐色土　As−C（φ2～5㎜）を多く含み、砂岩ブロック（φ5～20㎜）をやや多く含む。
　　しまりややある。粘性ある。
2　黒褐色土　砂岩ブロック（φ5～10㎜）をやや多く含む。しまりややある。粘性ある。
3　黒褐色土　砂岩ブロック（φ5～20㎜）を多く含む。しまりややある。粘性ある。

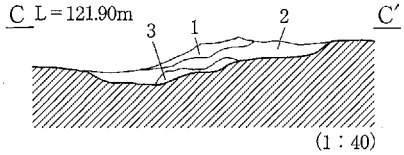
0　1：40　1m　0　1：80　2m

Fig.21　小見Ⅲ・2区Ｈ−27・32～34・36号住居跡

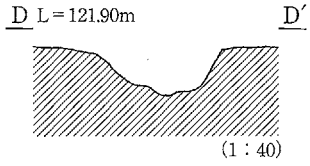


3区H−1号住居跡
1　黒褐色土　As−C（φ4〜8㎜大）を中〜多量に含む。砂質ローム小ブロックを少量含む。ややしまりある。
2　黒褐色土　黒褐色土主体、軽石含まず。ややわらかい。
3　黒褐色土　焼土小ブロックを少量含む。ややしまりある。カマド前焼土層。





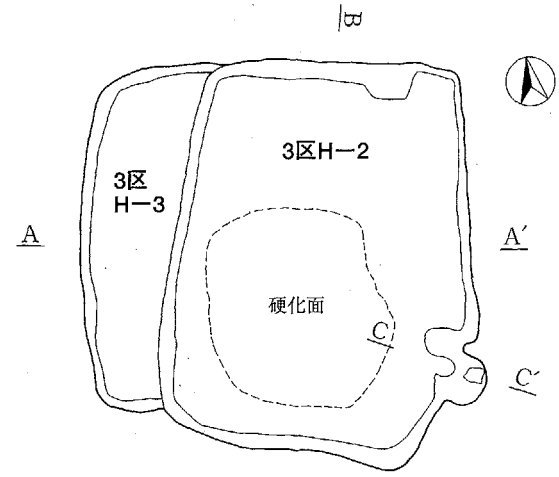
(1：40)

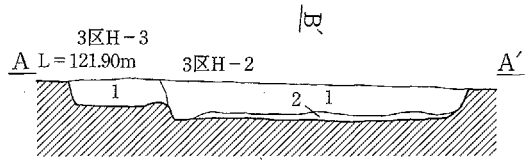


(1：40)

3区H−4号住居跡　竈
1　暗褐色土　焼土粒子をやや多く含む。しまりややある。粘性ない。砂質土。
2　赤褐色土　シルト質土が焼土化。天井部の崩落。
3　暗褐色土　焼土粒子及び灰をやや多く含む。しまりややある。粘性ない。砂質土。

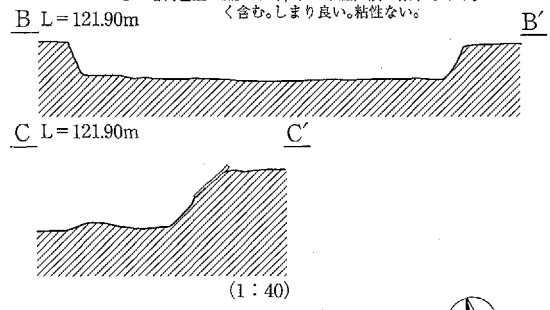
3区H−4号住居跡
1　暗褐色土　As−C（φ2〜5㎜）を多く含み、砂岩ブロック（φ2〜10㎜）微砂をやや多く含む。しまり良い。粘性ない。
2　暗褐色土　As−C（φ2〜5㎜）を多く含み、微砂をやや多く含む。しまり良い。粘性ない。



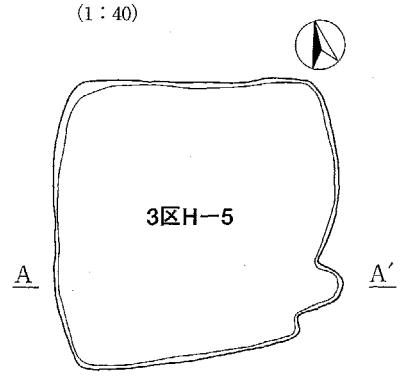


3区H−2号住居跡
1　暗褐色土　As−C（φ2〜5㎜）、微砂をやや多く含む。しまり良い。粘性ない。
2　暗褐色土　暗褐色土砂質土ブロック（φ2〜5㎜）、微砂を多く含む。しまり良い。粘性ない。

3区H−3号住居跡
1　暗褐色土　As−C（φ2〜5㎜）及び微砂をやや多く含む。しまり良い。粘性ない。



(1：40)



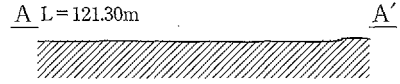
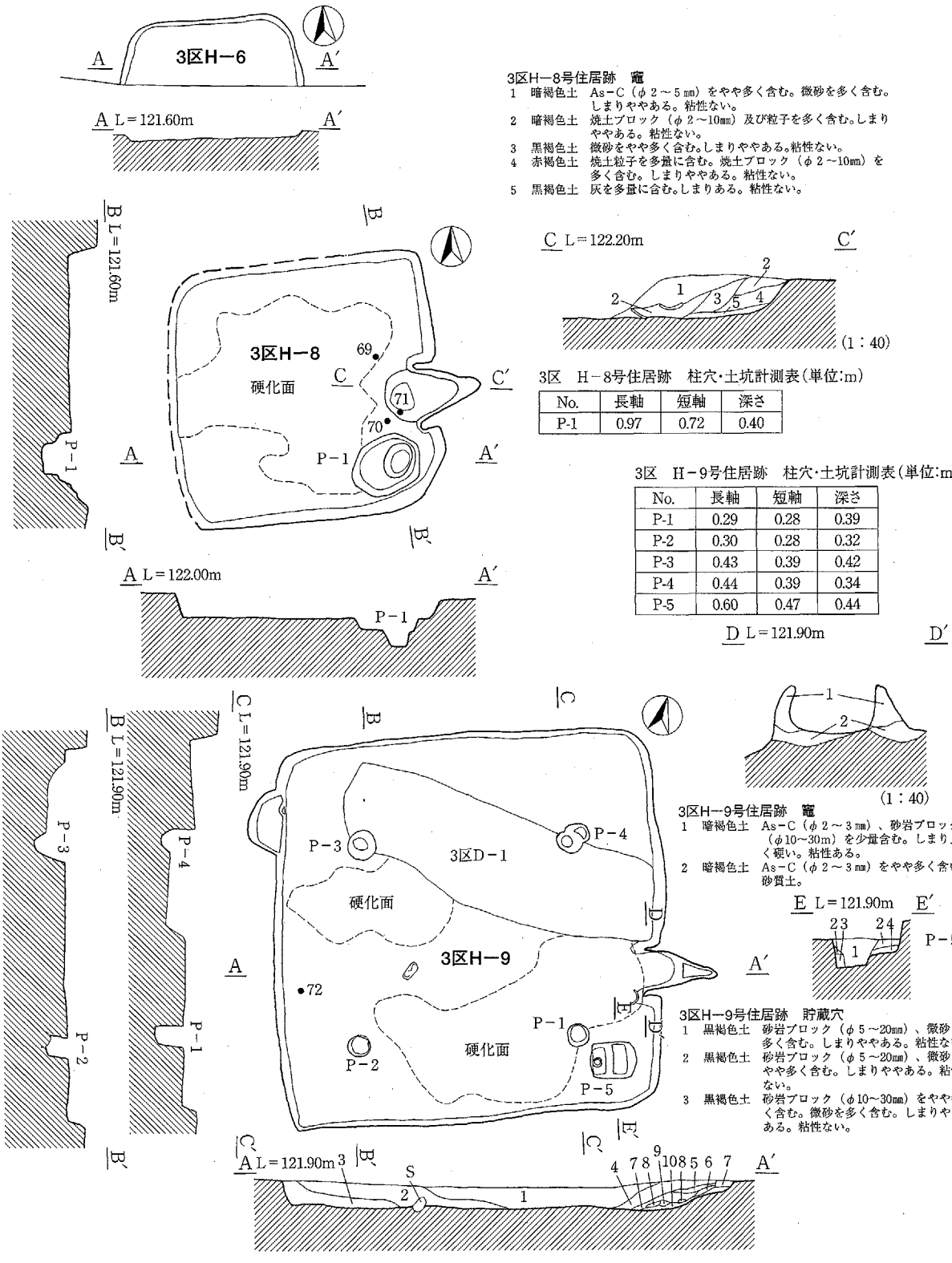


Fig.22　小見Ⅲ・3区Ｈ−1〜5号住居跡



3区H−8号住居跡　竈

1　暗褐色土　As−C（φ2～5㎜）をやや多く含む。微砂を多く含む。しまりややある。粘性ない。
2　暗褐色土　焼土ブロック（φ2～10㎜）及び粒子を多く含む。しまりややある。粘性ない。
3　黒褐色土　微砂をやや多く含む。しまりややある。粘性ない。
4　赤褐色土　焼土粒子を多量に含む。焼土ブロック（φ2～10㎜）を多く含む。しまりややある。粘性ない。
5　黒褐色土　灰を多量に含む。しまりある。粘性ない。

3区　H−8号住居跡　柱穴・土坑計測表（単位:m）

No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.97	0.72	0.40

3区　H−9号住居跡　柱穴・土坑計測表（単位:m）

No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.29	0.28	0.39
P-2	0.30	0.28	0.32
P-3	0.43	0.39	0.42
P-4	0.44	0.39	0.34
P-5	0.60	0.47	0.44

3区H−9号住居跡　竈

1　暗褐色土　As−C（φ2～3㎜）、砂岩ブロック（φ10～30m）を少量含む。しまり良く硬い。粘性ある。
2　暗褐色土　As−C（φ2～3㎜）をやや多く含む。砂質土。

3区H−9号住居跡　貯蔵穴

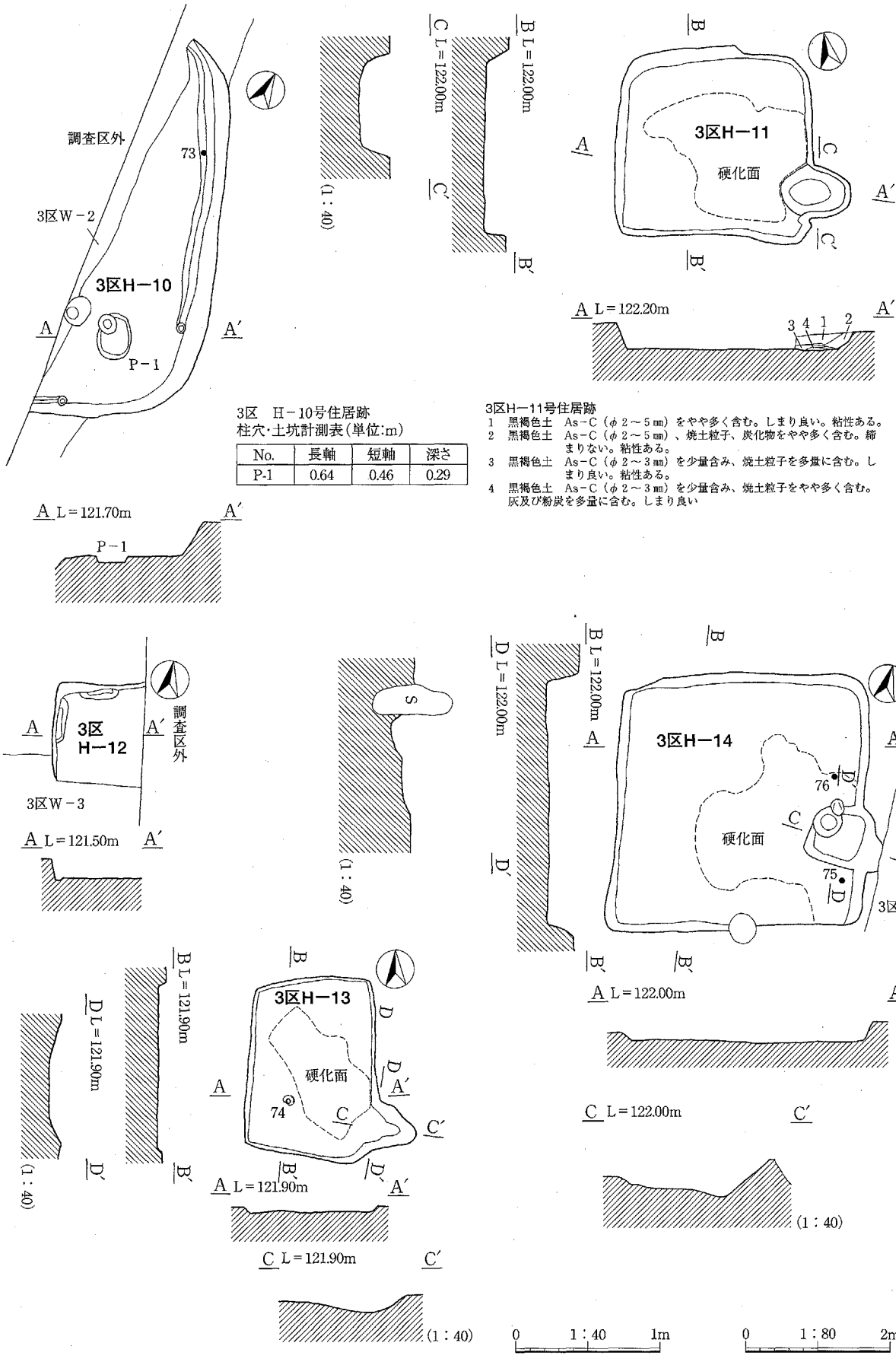
1　黒褐色土　砂岩ブロック（φ5～20㎜）、微砂を多く含む。しまりややある。粘性ない。
2　黒褐色土　砂岩ブロック（φ5～20㎜）、微砂をやや多く含む。しまりややある。粘性ない。
3　黒褐色土　砂岩ブロック（φ10～30㎜）をやや多く含む。微砂を多く含む。しまりややある。粘性ない。

3区H−9号住居跡

1　黒褐色土　As−C（φ2～5㎜）を多く含む。砂岩ブロック（φ3～30㎜）をやや多く含む。しまり良い。粘性弱い。
2　黒褐色土　As−C（φ2～5㎜）をやや多く含む。しまり良い。粘性弱い。
3　黒褐色土　As−C（φ2～5㎜）をやや多く含む。砂岩ブロック（φ5～20㎜）、微砂をやや多く含む。しまり良い。粘性弱い。
4　黒褐色土　砂岩ブロック（φ5～30㎜）をやや多く含む。微砂を多く含む。しまり良い。粘性弱い。
5　黒褐色土　微砂をやや多く含む。しまり良い。粘性弱い。
6　暗赤褐色土　粘性のある焼土（崩落）。
7　暗褐色土　微砂、灰を少量含む。しまり弱い。粘性ない。
8　赤褐色土　焼土ブロック（崩落）。
9　暗褐色土　焼土粒子、灰、微砂を多く含む。しまり弱い。粘性弱い。
10　灰層　灰と微砂の混合土。

0　1：40　1m
0　1：80　2m

Fig.23　小見Ⅲ・3区Ｈ−6・8・9号住居跡

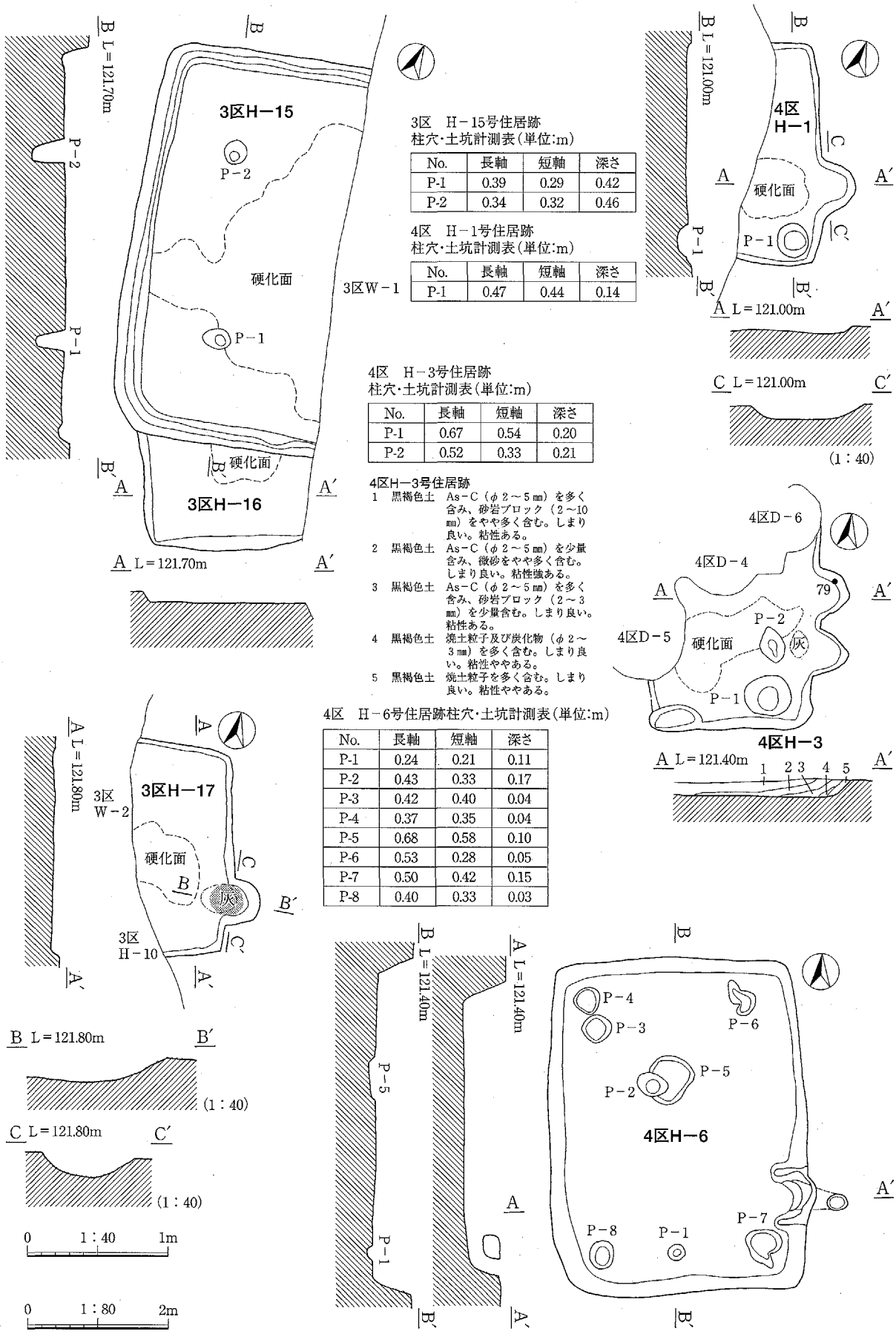


3区　H－10号住居跡
柱穴･土坑計測表(単位:m)

No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.64	0.46	0.29

3区H－11号住居跡
1　黒褐色土　As－C（φ2～5㎜）をやや多く含む。しまり良い。粘性ある。
2　黒褐色土　As－C（φ2～5㎜）、焼土粒子、炭化物をやや多く含む。締まりない。粘性ある。
3　黒褐色土　As－C（φ2～3㎜）を少量含み、焼土粒子を多量に含む。しまり良い。粘性ある。
4　黒褐色土　As－C（φ2～3㎜）を少量含み、焼土粒子をやや多く含む。灰及び粉炭を多量に含む。しまり良い

Fig.24　小見Ⅲ・3区Ｈ－10～14号住居跡



3区　H－15号住居跡
柱穴・土坑計測表（単位:m）

No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.39	0.29	0.42
P-2	0.34	0.32	0.46

4区　H－1号住居跡
柱穴・土坑計測表（単位:m）

No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.47	0.44	0.14

4区　H－3号住居跡
柱穴・土坑計測表（単位:m）

No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.67	0.54	0.20
P-2	0.52	0.33	0.21

4区H－3号住居跡

1　黒褐色土　As－C（φ2～5㎜）を多く含み、砂岩ブロック（2～10㎜）をやや多く含む。しまり良い。粘性ある。

2　黒褐色土　As－C（φ2～5㎜）を少量含み、微砂をやや多く含む。しまり良い。粘性強ある。

3　黒褐色土　As－C（φ2～5㎜）を多く含み、砂岩ブロック（2～3㎜）を少量含む。しまり良い。粘性ある。

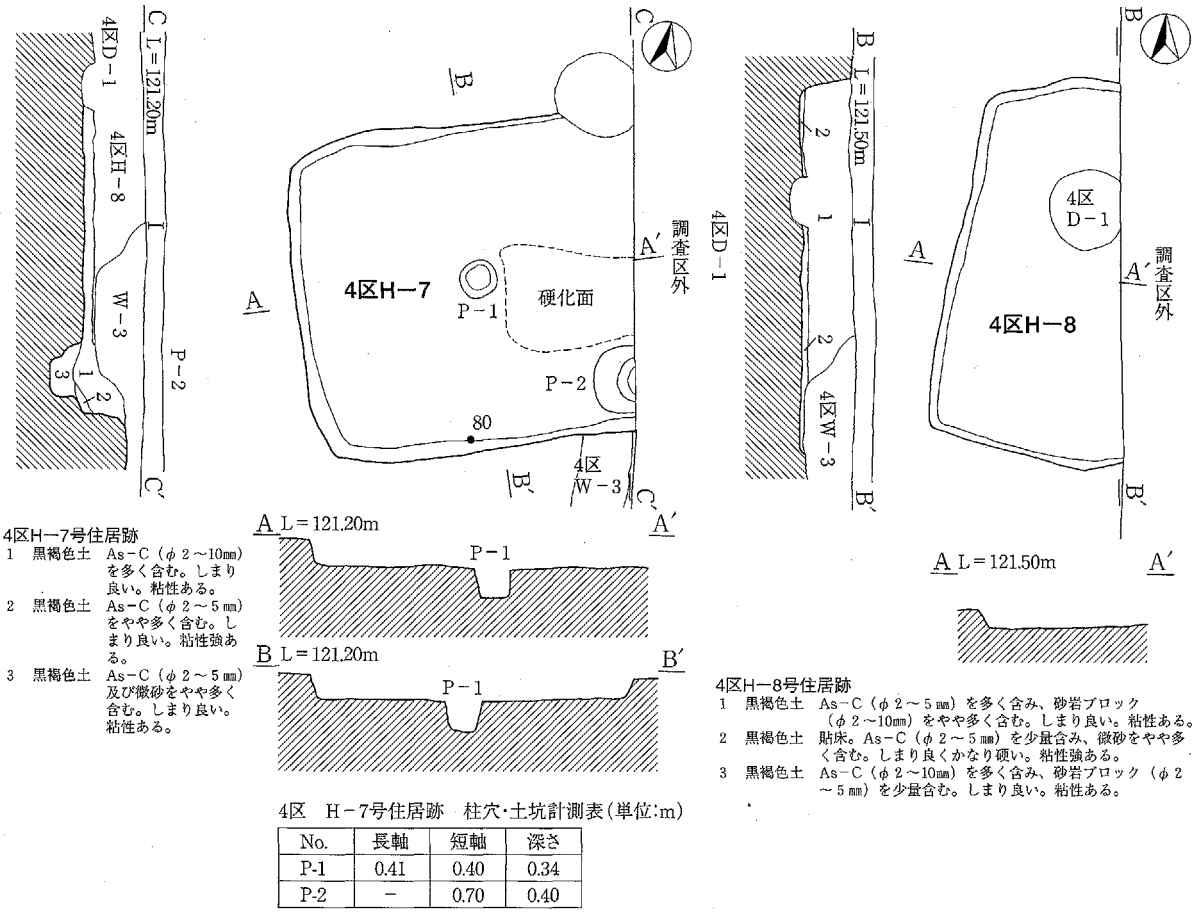
4　黒褐色土　焼土粒子及び炭化物（φ2～3㎜）を多く含む。しまり良い。粘性ややある。

5　黒褐色土　焼土粒子を多く含む。しまり良い。粘性ややある。

4区　H－6号住居跡柱穴・土坑計測表（単位:m）

No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.24	0.21	0.11
P-2	0.43	0.33	0.17
P-3	0.42	0.40	0.04
P-4	0.37	0.35	0.04
P-5	0.68	0.58	0.10
P-6	0.53	0.28	0.05
P-7	0.50	0.42	0.15
P-8	0.40	0.33	0.03

Fig.25　小見Ⅲ・3区Ｈ－15～17号住居跡、4区Ｈ－1・3・6号住居跡

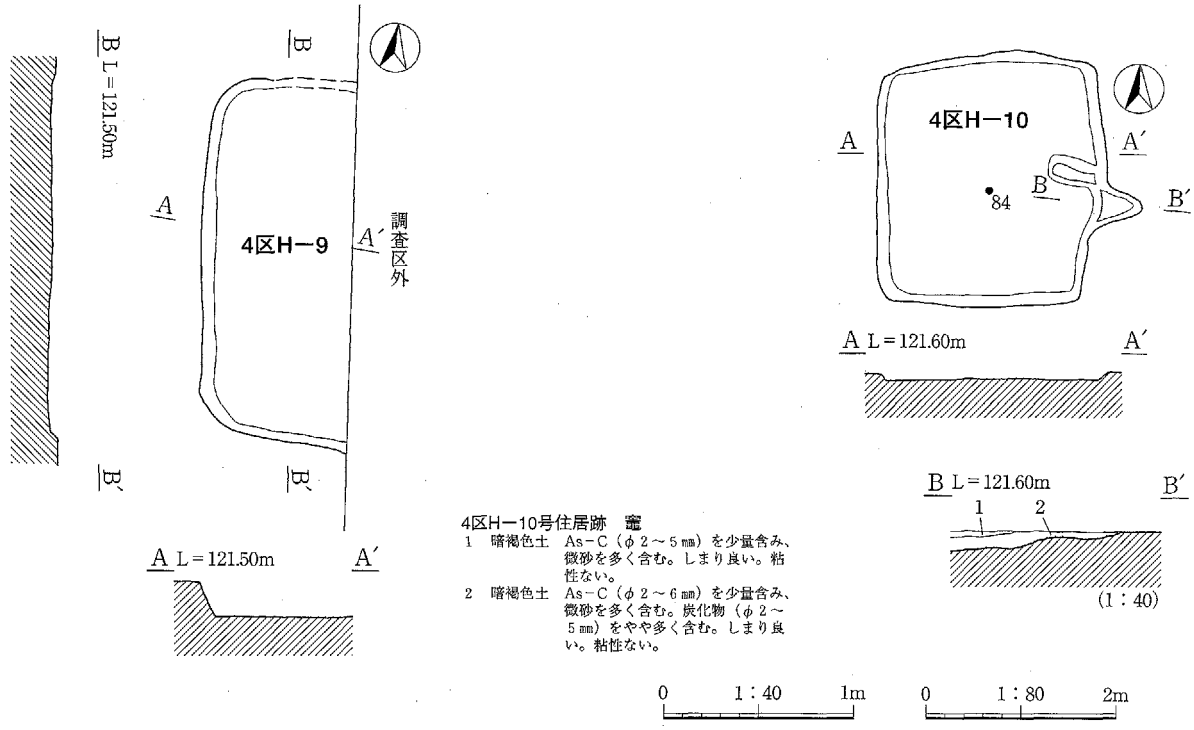


4区H－7号住居跡
1　黒褐色土　As－C（φ2～10㎜）を多く含む。しまり良い。粘性ある。
2　黒褐色土　As－C（φ2～5㎜）をやや多く含む。しまり良い。粘性強ある。
3　黒褐色土　As－C（φ2～5㎜）及び微砂をやや多く含む。しまり良い。粘性ある。

4区H－8号住居跡
1　黒褐色土　As－C（φ2～5㎜）を多く含み、砂岩ブロック（φ2～10㎜）をやや多く含む。しまり良い。粘性ある。
2　黒褐色土　貼床。As－C（φ2～5㎜）を少量含み、微砂をやや多く含む。しまり良くかなり硬い。粘性強ある。
3　黒褐色土　As－C（φ2～10㎜）を多く含み、砂岩ブロック（φ2～5㎜）を少量含む。しまり良い。粘性ある。

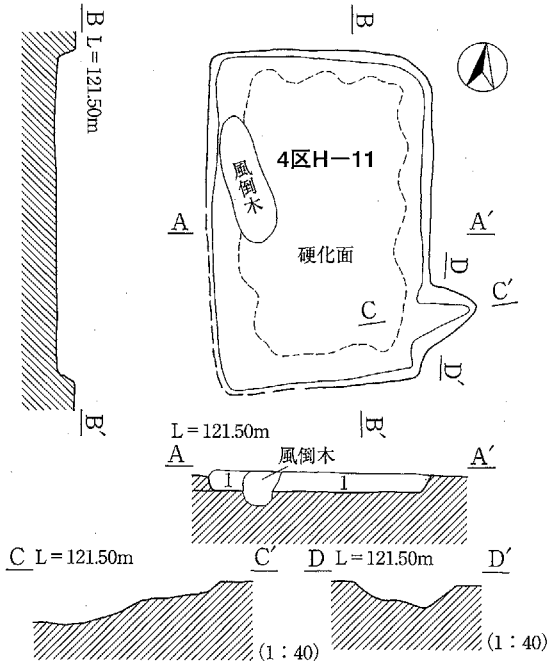
4区　H－7号住居跡　柱穴・土坑計測表（単位:m）

No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.41	0.40	0.34
P-2	－	0.70	0.40

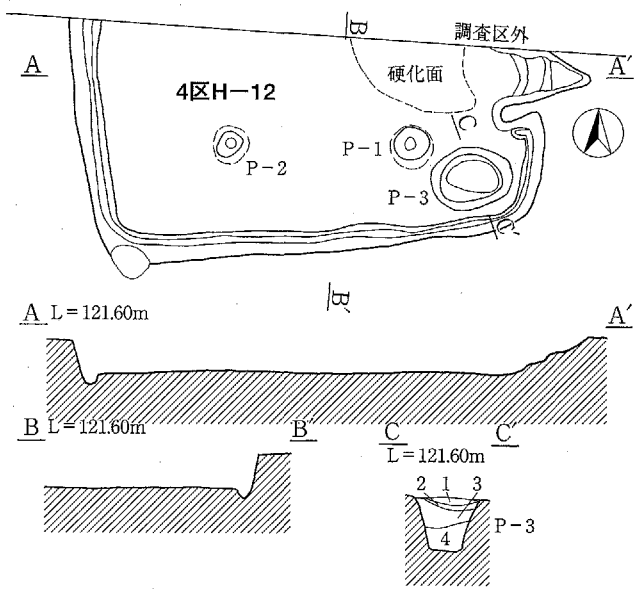


4区H－10号住居跡　竈
1　暗褐色土　As－C（φ2～5㎜）を少量含み、微砂を多く含む。しまり良い。粘性ない。
2　暗褐色土　As－C（φ2～6㎜）を少量含み、微砂を多く含む。炭化物（φ2～5㎜）をやや多く含む。しまり良い。粘性ない。

Fig.26　小見Ⅲ・4区Ｈ－7～10号住居跡



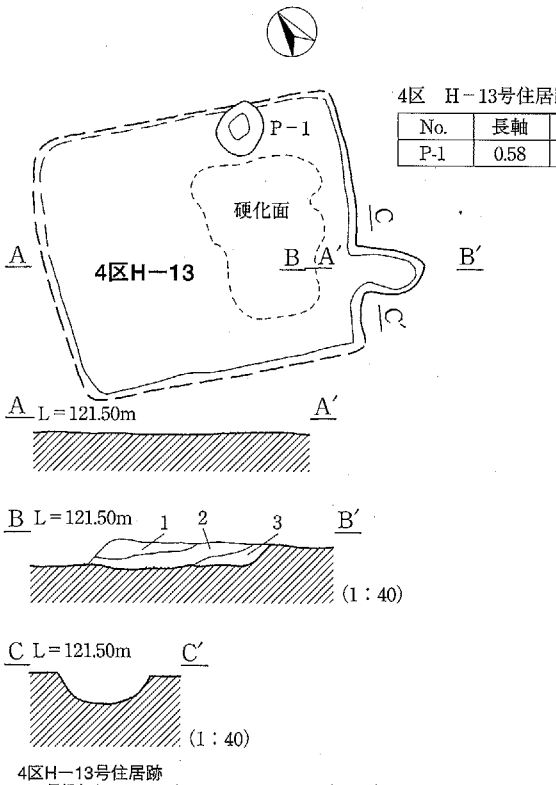
4区H−11号住居跡
1　黒褐色土　微砂をやや多く含む。しまり良い。粘性弱い。



4区　H−12号住居跡　柱穴・土坑計測表(単位:m)

No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.38	0.35	0.77
P-2	0.24	0.24	0.61
P-3	0.66	0.66	0.55

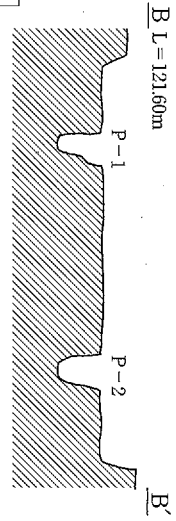
4区12号住居跡　P−3（貯蔵穴）
1　暗褐色土　砂岩ブロック（φ2～5㎜）を少量含む。しまりややある。粘性ない。
2　黒色土　灰を多量に含む。しまりややある。粘性ない。
3　暗褐色土　焼土粒子をやや多く含む。しまりややある。粘性ない。
4　暗褐色土　砂岩ブロック（φ2～5㎜）を多く含む。しまりややある。粘性ない。

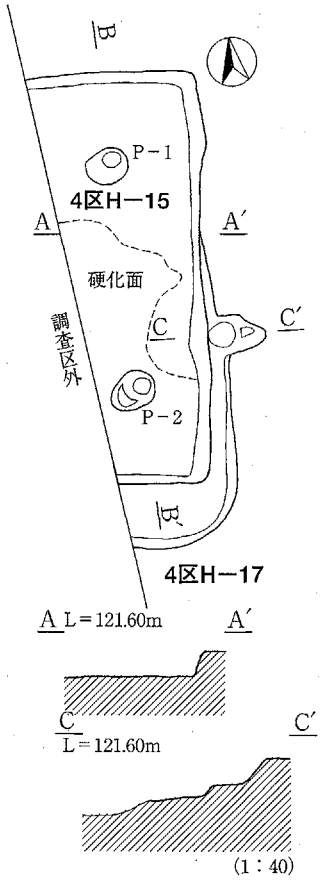


4区　H−13号住居跡　柱穴・土坑計測表(単位:m)

No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.58	0.47	0.38

4区H−13号住居跡
1　黒褐色土　As−C（φ4～8㎜大）を中～多量に含む。砂質ローム小ブロックを少量含む。ややしまりある。
2　黒褐色土　黒褐色土主体、軽石含まず。ややわらかい。
3　黒褐色土　焼土小ブロックを少量含む。ややしまりある。カマド前焼土層。





4区　H−15号住居跡
柱穴・土坑計測表(単位:m)

No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.45	0.35	0.48
P-2	0.51	0.39	0.45

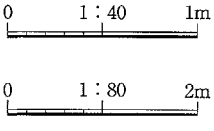


Fig.27　小見Ⅲ・4区Ｈ−11～13・15・17号住居跡

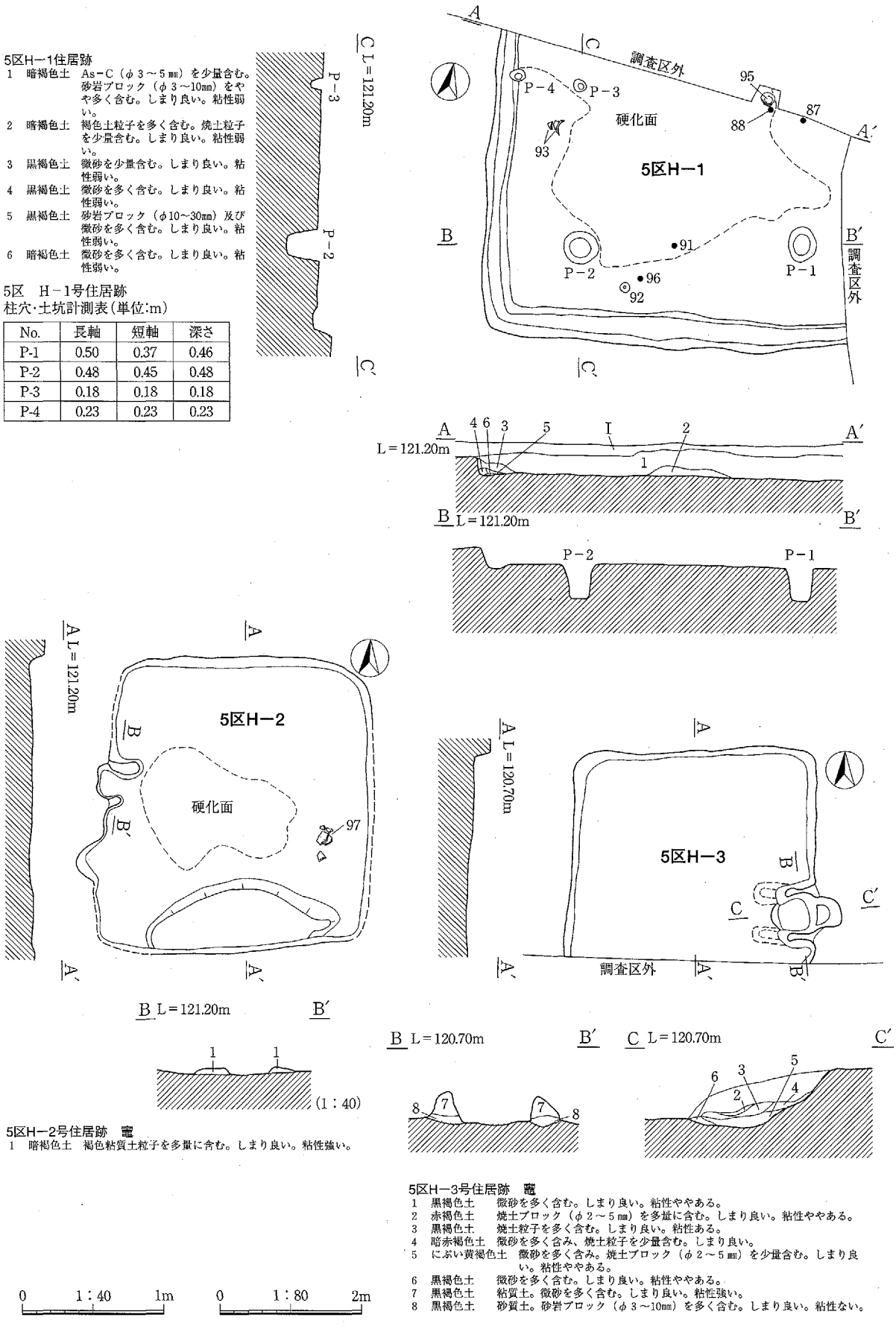
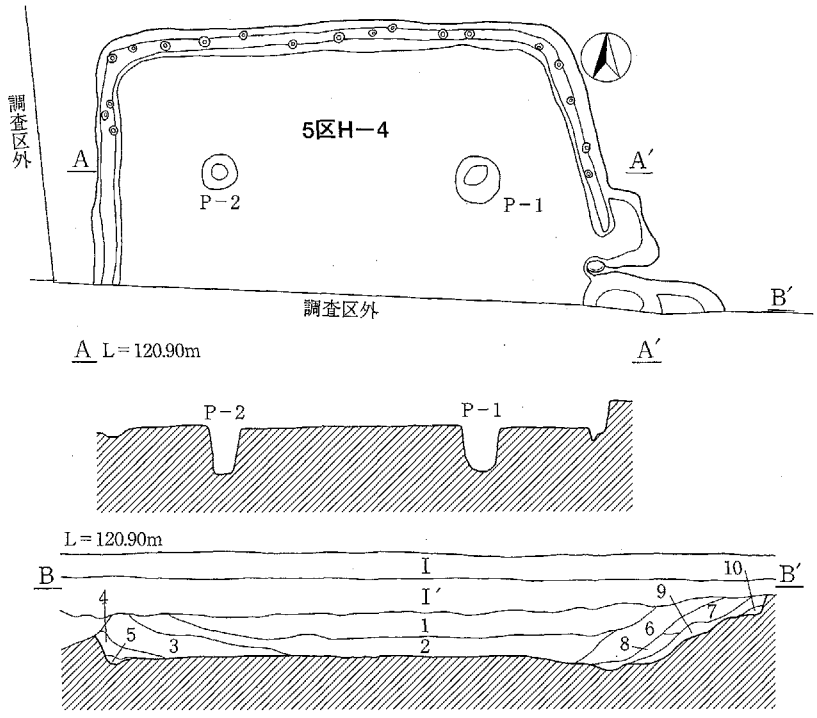


Fig.28 小見Ⅲ・5区Ｈ−1〜3号住居跡

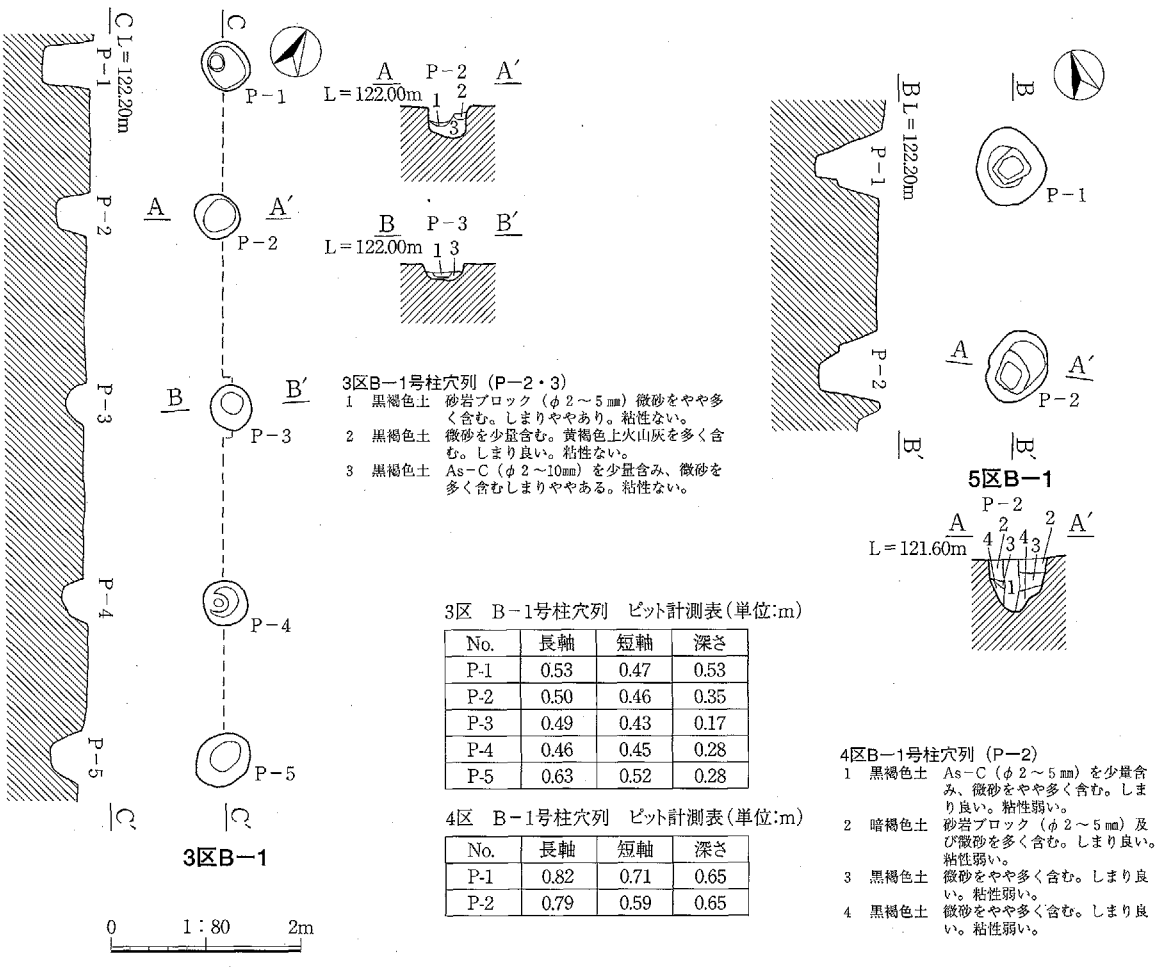


5区　H−4号住居跡
柱穴・土坑計測表(単位:m)

No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.52	0.48	0.48
P-2	0.37	0.35	0.46

5区H−4号住居跡

1　黒褐色土　As−C（φ2〜5㎜）及び焼土ブロックをやや多く含み、凝灰岩質砂岩粒子を多く含む。しまり良い。粘性ある。
2　黒褐色土　As−C（φ2〜5㎜）及び焼土ブロックを少量含み、凝灰岩質砂岩粒子を多量に含む。しまり良く硬い。粘性ある。
3　黒褐色土　As−C（φ2〜5㎜）及び焼土ブロックを少量含み、凝灰岩質砂岩粒子を多量に含む。しまり良く硬い。粘性ある。
4　黒褐色土　As−C（φ2〜5㎜）及び焼土ブロックを少量含み、凝灰岩質砂岩粒子を多く含む。しまり良く硬い。粘性ある。
5　黒褐色土　As−C（φ2〜5㎜）及び焼土ブロックを少量含み、凝灰岩質砂岩粒子をやや多く含む。しまり良く硬い。粘性ある。
6　黒褐色土　焼土ブロック（φ3〜10㎜）及び粒子を多く含む。しまりよく硬い。粘性ある。
7　赤褐色土　焼土ブロック（φ3〜20㎜）及び粒子を主体とし、黒褐色土を混入する。しまりよく硬い。粘性弱い。
8　黒褐色土　焼土粒子を多く含む。しまり良い。粘性ある。
9　黒褐色土　焼土ブロック（φ3〜10㎜）及び粒子を多量に含む。しまりよく硬い。粘性弱い。
10　黒褐色土　焼土ブロックを多量含む。しまり良く硬い。粘性ある。



3区B−1号柱穴列（P−2・3）

1　黒褐色土　砂岩ブロック（φ2〜5㎜）微砂をやや多く含む。しまりややあり。粘性ない。
2　黒褐色土　微砂を少量含む。黄褐色上火山灰を多く含む。しまり良い。粘性ない。
3　黒褐色土　As−C（φ2〜10㎜）を少量含み、微砂を多く含むしまりややある。粘性ない。

3区　B−1号柱穴列　ピット計測表(単位:m)

No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.53	0.47	0.53
P-2	0.50	0.46	0.35
P-3	0.49	0.43	0.17
P-4	0.46	0.45	0.28
P-5	0.63	0.52	0.28

4区　B−1号柱穴列　ピット計測表(単位:m)

No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.82	0.71	0.65
P-2	0.79	0.59	0.65

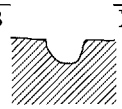
4区B−1号柱穴列（P−2）

1　黒褐色土　As−C（φ2〜5㎜）を少量含み、微砂をやや多く含む。しまり良い。粘性弱い。
2　暗褐色土　砂岩ブロック（φ2〜5㎜）及び微砂を多く含む。しまり良い。粘性弱い。
3　黒褐色土　微砂をやや多く含む。しまり良い。粘性弱い。
4　黒褐色土　微砂をやや多く含む。しまり良い。粘性弱い。

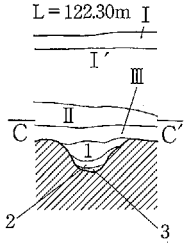
Fig.29　小見Ⅲ・5区Ｈ−4号住居跡、3区Ｂ−1号柱穴列、4区Ｂ−1号柱穴列

1区W−1（A−A′）

1区W−1（B−B′）



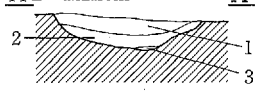
2区W−1（C−C′）



1区W−1号溝跡
1　黒褐色土　As−C（φ2〜10㎜）を多量に含む。しまり良い。粘性強い。
2　黒褐色土　As−C（φ2〜5㎜）を多く含む。しまり良い。粘性強い。
3　黒褐色土　As−C（φ2〜5㎜）を少量含む。しまり良い。粘性強い。

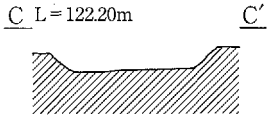
2区W−1号溝跡
1　黒褐色土　As−Bを多量に含む。しまり良い。粘性ややある。
2　黒褐色土　As−Bを多く含む。しまり良い。粘性ややある。
3　黒褐色土　As−Bを少量含む。しまり良い。粘性ややある。

2区W−1（A−A′）

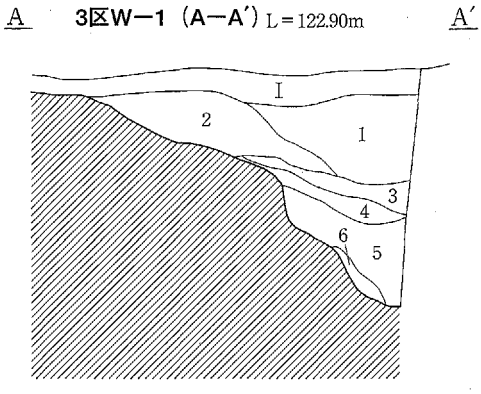


2区W−1（B−B′）

2区W−1（C−C′）

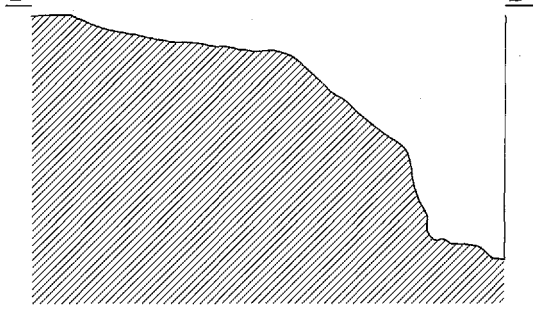


3区W−1（A−A′）

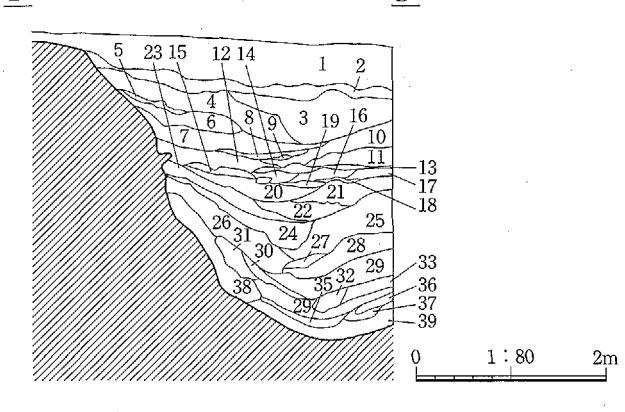


3区W−1号溝跡（A−A′）
1　黒褐色土　As−C多量に含む。砂岩ブロック（φ10〜30㎜）をやや多く含む。粘性弱い。砂質土。
2　黒褐色土　As−C多量に含む。砂岩ブロック（φ10〜30㎜）多量に含む。粘性弱い。砂質土。
3　暗褐色土　砂質土。
4
5　黒褐色土　As−Cやや多く含む。砂岩ブロック（φ5〜20㎜）をやや多く含む。粘性弱い。砂質土。
6　黒褐色土　微砂多量に含む。砂岩ブロック（φ5〜20㎜）をやや多く含む。しまり良い。粘性弱い。砂質土。

3区W−1（B−B′）

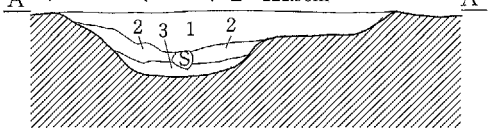


3区W−1（D−D′）



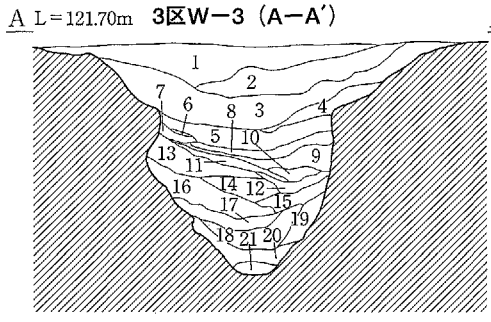
3区W−1号溝跡（D−D′）
1　暗褐色土
2　にぶい黄褐色土
3　暗褐色土　砂岩ブロック（φ2〜5㎜）をやや多く含む。しまり良い。粘性弱い。
4　暗褐色土　砂岩ブロック（φ2〜5㎜）を少量含む。しまり良い。粘性弱い。
5　暗褐色土　砂岩ブロック（φ2〜5㎜）を少量含む。しまり良い。粘性弱い。
6　暗褐色土　砂岩ブロック（φ5〜30㎜　灰色）をやや多く含む。しまり良い、粘性弱い。
7　暗褐色土　砂岩ブロック（φ5〜20㎜　黄色）を多量含む。しまり良い。粘性弱い。
8　暗褐色土　砂岩ブロック（φ2〜5㎜）を多量含む。しまり良い。粘性弱い。
9　暗褐色土　黄褐色微砂を多量に含む。しまり良い。粘性弱い。
10　暗褐色土　砂岩ブロック（φ2〜10㎜）及び微砂を多く含む。しまり良い。粘性弱い。
11　暗褐色土　微砂をやや多く含む。しまり良い。粘性弱い。
12　暗褐色土　砂岩ブロック（φ2〜30㎜）を多量含む。しまり良い。粘性弱い。
13　暗褐色土　川砂を多量に含む。しまり良い。粘性弱い。
14　暗褐色土　微砂を多く含む。しまり良い。粘性弱い。
15　黒褐色土　砂岩ブロック（φ3〜40㎜）及び微砂を多量に含む。しまり良い。粘性弱い。
16　黒褐色土　砂岩ブロック（φ2〜30㎜）及び微砂を多量に含む。しまり良い。粘性弱い。
17　黒褐色土　微砂をやや多く含む。しまり良い。粘性弱い。
18　黒褐色土　川砂を多量に含む。しまり良い。粘性弱い。
19　黒褐色土　微砂を多く含む。しまり良い。粘性弱い。
20　黒褐色土　砂岩ブロック（φ5〜50㎜）及び微砂を多量に含む。しまり良い。粘性弱い。
21　黒褐色土　砂岩ブロック（φ2〜10㎜）を少量含む。しまり良い。粘性弱い。
22　黒褐色土　微砂から成る。
23　黒褐色土　砂岩ブロック（φ10〜150㎜）を多量含む。しまり良い。粘性弱い。
24　暗褐色土　砂岩ブロック（φ10〜150㎜）及び微砂を多量含む。しまり良い、粘性弱い。
25　暗褐色土　砂岩ブロック（φ5〜20㎜）及び微砂をやや多く含む。しまり良い。粘性弱い。
26　暗褐色土　砂岩ブロック（φ5〜20㎜）及び微砂を多く含む。しまり良い。粘性弱い。
27　暗褐色土　砂岩ブロック（φ10〜20㎜）及び微砂を多く含む。しまり良い。粘性弱い。
28　暗褐色土　砂岩ブロック（φ10〜70㎜）及び微砂を多量含む。しまり良い。粘性弱い。
29　暗褐色土　砂岩ブロック（φ10〜30㎜）及び微砂をやや多く含む。しまり良い。粘性弱い。
30　にぶい黄褐色土　砂質土。地山崩落。
31　暗褐色土　砂岩ブロック（φ10〜50㎜）及び微砂を多く含む。しまり良い。粘性弱い。
32　にぶい黄褐色土　砂岩ブロック。
33　にぶい黄褐色土　砂岩ブロックの崩落。黒褐色土の混入。
34　暗褐色土　砂岩ブロック（φ5〜20㎜）及び微砂をやや多く含む。しまり良い、粘性弱い。
35　にぶい黄褐色土　砂質土。地山崩落。
36　暗褐色土　微砂をやや多く含む。しまり良い。粘性弱い。
37　暗褐色土　微砂をやや多く含む。しまり良い。粘性弱い。
38　にぶい黄褐色土　砂質土。地山崩落。
39　暗褐色土　砂岩ブロック（φ5〜20㎜）及び微砂を多く含む。しまり良い。粘性弱い。

A 3区W−2（A−A′）L=121.90m A′



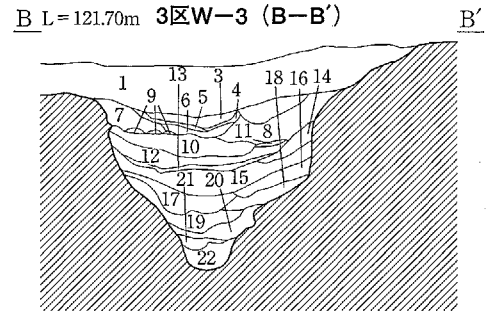
3区W−2号溝跡（A−A′）
1　黒褐色土　As−C及び微砂を多く含む。しまりない。粘性ない。
2　暗褐色土　As−C及び微砂を多く含む。しまりある。粘性ない。
3　暗褐色土　微砂を多量に含む。しまりある。粘性ない。

Fig.30　小見Ⅲ・1区W−1号溝跡、2区W−1号溝跡、3区W−1・2号溝跡



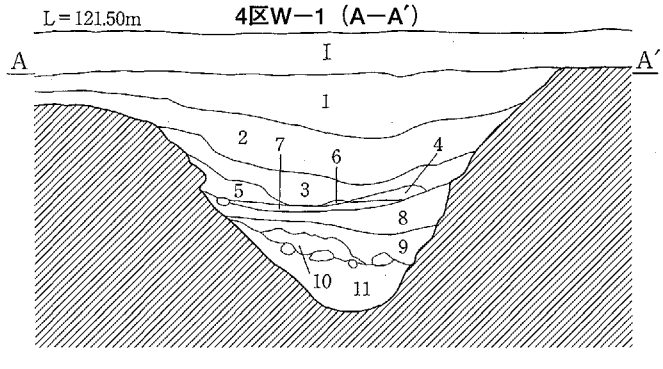
3区W−3号溝跡（A−A′）

1 暗褐色土 砂岩ブロック（φ2～10㎜）をやや多く含む。微砂を多量に含む。しまり良い。粘性ない。
2 褐色土 砂岩ブロック（φ5～150㎜）及び微砂の堆積層。しまり良い。粘性ない。
3 暗褐色土 As−Bを多く含む。砂岩ブロック（φ2～10㎜）、微砂、細砂、小礫を多量に含む。しまり良い。粘性ない。
4 暗褐色土 砂岩ブロック（φ2～20㎜）及び微砂を多量に含む。しまり良い。粘性ない。
5 暗褐色土 As−Bをやや多く含む。砂岩ブロック（φ2～20㎜）、微砂を多く含む。しまり良い。粘性弱い。
6 黒褐色土 As−B（ほぼB軽のみ）を多量に含む。微砂をやや多く含む。しまり良い。粘性弱い。
7 暗褐色土 As−B、砂岩ブロック（φ2～20㎜）をやや多く含む。しまり良い。粘性ない。
8 暗褐色土 As−B、砂岩ブロック（φ5～20㎜）、微砂を多く含む。しまり良い。粘性ない。
9 暗褐色土 As−B、微砂をやや多く含む。砂岩ブロック（φ5～20㎜）を多く含む。しまり良い。粘性ない。
10 暗褐色土 砂岩ブロック（φ20～50㎜）、微砂を多く含む。しまり良い。粘性ない。
11 暗褐色土 As−B、微砂を多量に含む。砂岩ブロック（φ3～10㎜）やや多く含む。しまり良い。粘性ない。
12 黒褐色土 As−B、砂岩ブロック（φ20～100㎜）を少量含む。微砂をやや多く含む。しまり良い。粘性ある(水流による堆積)。
13 暗褐色土 As−Bを少量含む。砂岩ブロック（φ10～40㎜）をやや多く含む。微砂を多く含む。しまり良い。粘性ない。
14 暗褐色土 As−B、微砂をやや多く含む。砂岩ブロック（φ30～230㎜）を多量に含む。しまり良い。粘性ない。
15 暗褐色土 砂岩ブロック（φ10～40㎜）をやや多く含む。微砂を多量に含む。しまり良い。粘性ない。
16 灰黄褐色土 砂岩ブロック（φ50～450㎜）を多く含む。地山くずれの微砂層の堆積。しまり良い。粘性ない。
17 暗褐色土 As−Bを少量含む。砂岩ブロック（φ2～20㎜）をやや多く含む。微砂を多く含む。しまり良い。粘性ない。
18 褐色土 砂岩ブロック（φ2～10㎜）、微砂を多く含む。しまり良い。粘性ない。
19 褐色土 砂岩ブロック（φ2～30㎜）、微砂を多量に含む。しまり良い。粘性ない。
20 にぶい黄褐色土 砂岩ブロック（φ2～30㎜）を多く含む。微砂を多量に含む。しまり良い。粘性ない。
21 暗褐色土 砂岩ブロック（φ2～30㎜）、微砂を多く含む。しまり良い。粘性ない。



3区W−3号溝跡（B−B′）

1 暗褐色土 As−Bを多量に含む。砂岩ブロック（φ5～30㎜）を多く含む。しまり良い。粘性弱い。
2 暗褐色土 As−B、砂岩ブロック（φ2～10㎜）をやや多く含む。しまり良い。粘性弱い。
3 暗褐色土 As−B、砂岩ブロック（φ2～5㎜）を少し含む。しまり良い。粘性弱い。
4 暗褐色土 As−Bを少し含む。砂岩ブロック（φ2～5㎜）、微砂を多く含む。しまり良い。粘性弱い。
5 暗褐色土 As−Bを少し含む。微砂をやや多く含む。しまり良い。粘性ややある。
6 暗褐色土 As−B、砂岩ブロック（φ2～10㎜）をやや多く含む。しまり良い。粘性弱い。
7 暗褐色土 As−B、砂岩ブロック（φ2～10㎜）を多く含む。しまり良い。粘性弱い。
8 暗褐色土 As−Bを少量含む。砂岩ブロック（φ2～20㎜）を多く含む。微砂をやや多く含む。しまり良い。粘性弱い。
9 黒褐色土 As−B、細砂、微砂を多量に含む。しまり良い。粘性ない。（水流で運ばれたもの）
10 暗褐色土 As−B、砂岩ブロック（φ2～10㎜）をやや多く含む。しまり良い。粘性ない。
11 黒褐色土 As−Bを少量含む。細砂、微砂を多量に含む。しまり良い。粘性ない。（水流で運ばれたもの）
12 暗褐色土 As−B、微砂を多量に含む。砂岩ブロック（φ2～10㎜）をやや多く含む。しまり良い。粘性弱い。
13 暗褐色土 As−Bを多くに含む。砂岩ブロック（φ2～10㎜）をやや多く含む。しまり良い。粘性ややある。
14 暗褐色土 砂岩ブロック（φ5～50㎜）、微砂を多量に含む。しまり良い。粘性ない。地山崩落。
15 暗褐色土 As−Bを多量に含む。砂岩ブロック（φ5～40㎜）をやや多く含む。しまり良い。粘性ややある。
16 暗褐色土 As−Bを少量含む。砂岩ブロック（φ5～50㎜）を多量に含む。微砂を多く含む。しまり良い。粘性弱い。地山崩落。
17 暗褐色土 As−Bを少量含む。砂岩ブロック（φ5～30㎜）を多量に含む。微砂を多く含む。しまり良い。粘性弱い。地山崩落。
18 褐色土 砂岩ブロック（φ10～50㎜）、微砂を多量に含む。しまり良い。粘性弱い。地山くずれ、地山そのもの。
19 暗褐色土 砂岩ブロック（φ10～100㎜）、微砂を多量に含む。しまり良い。粘性弱い。地山崩落。
20 暗褐色土 砂岩ブロック（φ10～40㎜）を多く含む。微砂を多量に含む。しまり良い。粘性弱い。地山崩落。
21 暗褐色土 微砂を多量に含む。しまり良い。粘性弱い。地山崩落。
22 褐色土 砂岩ブロック（φ10～50㎜）を多く含む。微砂を多量に含む。しまり良い。粘性弱い。地山くずれ、地山そのもの。

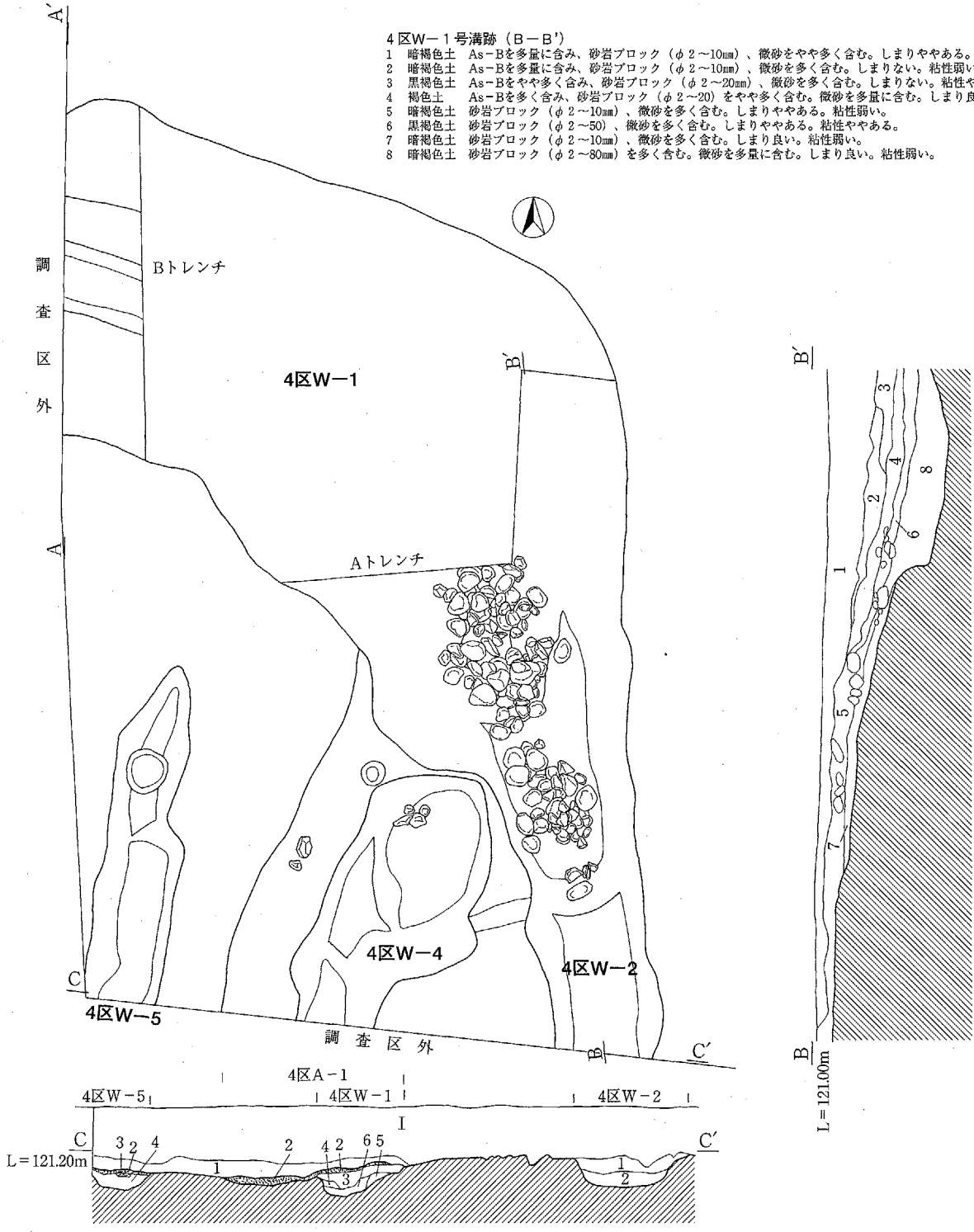


4区W−1号溝跡（A−A′）

1 暗褐色土 As−B、砂岩ブロック（φ5～30㎜）を多量に含む。しまり良く硬い。粘性ややある。
2 暗褐色土 As−B、砂岩ブロック（φ5～20㎜）を多量に含む。しまり良く硬い。粘性ややある。
3 黒褐色土 砂岩ブロック（φ2～30㎜）を多量に含む。しまり良い。粘性ややある。
4 黒褐色土 As−Bを少量含む。微砂を多量に含む。しまり良い。粘性ややある。
5 黒褐色土 As−B、微砂をやや多く含む。砂岩ブロック（φ2～30㎜）を多量に含む。しまり良い。粘性弱い。
6 黒褐色土 砂岩ブロック（φ2～20㎜）、微砂を多量に含む。しまり良い。粘性弱い。
7 黒褐色土 As−B（高比率）、微砂を多量に含む。しまり良い。粘性ややある。
8 黒褐色土 砂岩ブロック（φ2～20㎜）を多量に含む。しまり良い。粘性ややある。
9 暗褐色土 砂岩ブロック（φ5～40㎜）を多量に含む。しまり良い。粘性ややある。
10 暗褐色土 砂岩ブロック（φ5～10㎜）を多量に含む。しまり良い。粘性弱い。
11 暗褐色土 川原石（φ50～200㎜）（人為的に入れ込んだもの）を多量に含む。

0 1：80 2m

Fig.31 小見Ⅲ・3区W−3号溝、4区W−1号溝跡



4区W−1号溝跡（B−B′）
1　暗褐色土　As−Bを多量に含み、砂岩ブロック（φ2〜10㎜）、微砂をやや多く含む。しまりややある。粘性ない。
2　暗褐色土　As−Bを多量に含み、砂岩ブロック（φ2〜10㎜）、微砂を多く含む。しまりない。粘性弱い。
3　黒褐色土　As−Bをやや多く含み、砂岩ブロック（φ2〜20㎜）、微砂を多く含む。しまりない。粘性ややある。
4　褐色土　As−Bを多く含み、砂岩ブロック（φ2〜20）をやや多く含む。微砂を多量に含む。しまり良い。粘性ややある。
5　暗褐色土　砂岩ブロック（φ2〜10㎜）、微砂を多く含む。しまりややある。粘性弱い。
6　黒褐色土　砂岩ブロック（φ2〜50）、微砂を多く含む。しまりややある。粘性ややある。
7　暗褐色土　砂岩ブロック（φ2〜10㎜）、微砂を多く含む。しまり良い。粘性弱い。
8　暗褐色土　砂岩ブロック（φ2〜80㎜）を多く含む。微砂を多量に含む。しまり良い。粘性弱い。

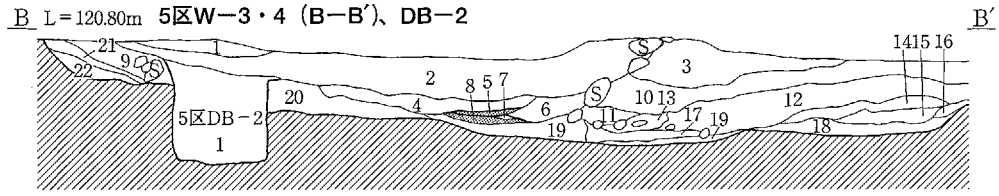
4区W−5号溝跡
1　暗褐色土　As−Bを多量に含む。しまり良い。粘性弱い。
2　黒色土　硬化面。As−Bを多く含む。しまり良く硬い。粘性ある。
3　黒色土　As−Bを多く含む。しまり良く硬い。粘性ある。
4　暗褐色土　As−Bを多く含む。しまり良く硬い。粘性ある。

4区W−2号溝跡
1　暗褐色土　As−Bを多量に含む。砂岩ブロック（φ5〜10㎜）を少量含む。しまり良い。粘性弱い。
2　暗褐色土　As−Bをやや多く含む。砂岩ブロック（φ5〜10㎜）多く含む。しまり良い。粘性弱い。

4区A−1・W−4号溝跡
1　暗褐色土　As−Bを多量に含む。しまり良い。粘性弱い。
2　暗褐色土　硬化面。As−Bを多く含む。しまり良く硬い。粘性ある。
3　暗褐色土　As−Bを多く含む。砂岩ブロック（φ2〜50㎜）、微砂を多く含む。しまり良い。粘性弱い。
4　暗褐色土　As−Bを多く含む。微砂を多量含む。しまり良い。粘性弱い。
5　暗褐色土　As−Bを多く含む。微砂を多量含む。しまり良い。粘性弱い。
6　暗褐色土　As−Bをやや多く含む、砂岩ブロック（φ2〜50㎜）、微砂を多量に含む。しまり良い。粘性弱い。

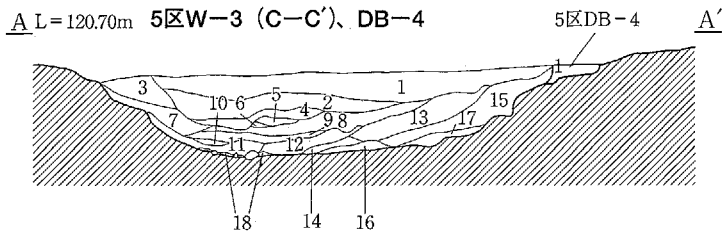
0　1：80　2m

Fig.32　小見Ⅲ・4区W−1・2・4・5号溝跡、A−1号道路状遺構



5区ＤＢ－２号土坑墓
1　暗褐色土　砂岩ブロック（φ10~50㎜）及び微砂を多量に含む。しまり良い。砂岩質土。

5区W－３・４号溝跡（Ｂ－Ｂ'）
1　黒褐色土　As－Bを少量含む。しまり良い。
2　暗褐色土　As－Bを少量含み、砂岩ブロック（φ２～３㎜）をやや多く含む。しまり良い。
3　暗褐色土　微砂、細砂を多く含む。しまり良く粘性ある。
4　暗褐色土　As－Bをやや多く含む。しまりよく硬い。粘性弱い。
5　暗褐色土　As－Bを多量に含む。しまり良くかなり硬い。粘性弱い。硬化面。
6　暗褐色土　As－Bをやや多く含む。しまりよく硬い。粘性弱い。
7　暗褐色土　As－Bを多く含む。しまり良くかなり硬い。粘性弱い（道路面として硬化していない）。
8　暗褐色土　As－Bを多量に含む。５層より比率が高い。しまり良く極めて硬い。硬化面。
9　暗褐色土　砂質土。砂岩ブロック（φ１～５㎜）を少量含む。しまりややある。粘性ない。
10　暗褐色土　As－Bをやや多く含み、砂岩ブロック（φ２～10㎜）を少量含む。しまりよく硬い。粘性ややある。
11　暗褐色土　凝灰岩砂岩粒子を少量含む。しまりよく硬い。粘性ある。
12　暗褐色土　As－Bやや多く含み、凝灰岩砂岩ブロック（φ３～10㎜）を多量に含む。しまりよく硬い。粘性ややある。
13　暗褐色土　凝灰岩砂岩ブロック（φ５～10㎜）をやや多く含む。しまりよく硬い。粘性ややある。
14　暗褐色土　As－Bを多く含み、砂岩ブロック（φ２～５㎜）を多く含む。しまり良い。粘性弱い。
15　暗褐色土　砂岩ブロック（φ２～10㎜）をやや多く含む。
16　暗褐色土　砂岩ブロック（φ２～10㎜）及び微砂を多量に含む。しまり良い。粘性ややある。
17　暗褐色土　砂岩ブロック（φ２～５㎜）及び微砂を多く含む。しまりよく硬い。粘性ない。
18　暗褐色土　微砂を多量に含む。しまりよく硬い。粘性ややある。
19　褐色土　砂質土。にぶい黄褐色砂岩ブロック（φ５～40㎜）を多量に含む。しまり良い。粘性ない。
20　褐色土　砂質土。砂岩ブロック（φ３～５㎜）をやや多く含む。しまり良い。粘性ない。
21　暗褐色土　砂質土。砂岩ブロック（φ３～10㎜）をやや多く含む。しまり良い。粘性ない。
22　暗褐色土　砂質土。砂岩ブロック（φ２～３㎜）を少量含む。しまり良い。粘性ない。



5区ＤＢ－４号土坑墓
1　暗褐色土　As－B及び砂岩ブロック（φ２～３㎜）及び微砂をやや多く含む。しまり良い。粘性弱い。

5区W－３号溝跡（Ｃ－Ｃ'）
1　黒褐色土　As－Bを多く含む。小礫をやや多く含む。しまり良い。粘性ややある。砂質土。
2　黒褐色土　As－Bを多く含む。小礫をやや多く含む。しまり良い。粘性ややある。砂質土。
3　黒褐色土　砂岩ブロック（φ３～５㎜）を多く含む。しまり良く硬い。粘性ややある。
4　暗褐色土　As－Bをやや多く含む。しまり良くやや硬い。粘性ややある。きめ細かい砂質土。
5　暗褐色土　As－Bをやや多く含む。しまり良く硬い。粘性ややある。きめ細かい砂質土。４層より硬い。
6　暗褐色土　As－Bを多量に含む。しまり良く硬い。粘性弱い（道路面とみれる。層の南側が高くなり、硬化している。後に４層に切られたとみられる）。
7　暗褐色土　As－B、砂岩ブロック（φ２～３㎜）をやや多く含む。しまり良く硬い。粘性ややある。
8　暗褐色土　As－Bを多くに含む。しまり良く硬い。粘性ややある。
9　黒褐色土　As－B、微砂を多くに含む。しまり良く硬い。粘性ややある。道路面。
10　黒褐色土　As－B、微砂を多くに含む。しまり良い。粘性弱い。
11　暗褐色土　微砂を多く含む。しまり良く硬い。粘性ややある。
12　黒褐色土　微砂、細砂から成り、As－Bを多く含む。しまり良く硬い。道路面。
13　暗褐色土　As－B、砂岩ブロック（φ２～３㎜）をやや多く含む。しまり良い。粘性弱い。
14　暗褐色土　As－Bを少量含む。しまり良い。粘性弱い。
15　暗褐色土　As－B、砂岩ブロック（φ２～10㎜）をやや多く含む。しまり良い。粘性弱い。
16　暗褐色土　微砂を多く含む。しまり良い。粘性弱い。
17　暗褐色土　As－B、微砂をやや多くに含む。しまり良い。粘性弱い。
18　暗褐色土　微砂を多く含む。本層中に礫（φ30~80㎜）が散かれている。

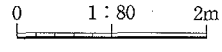
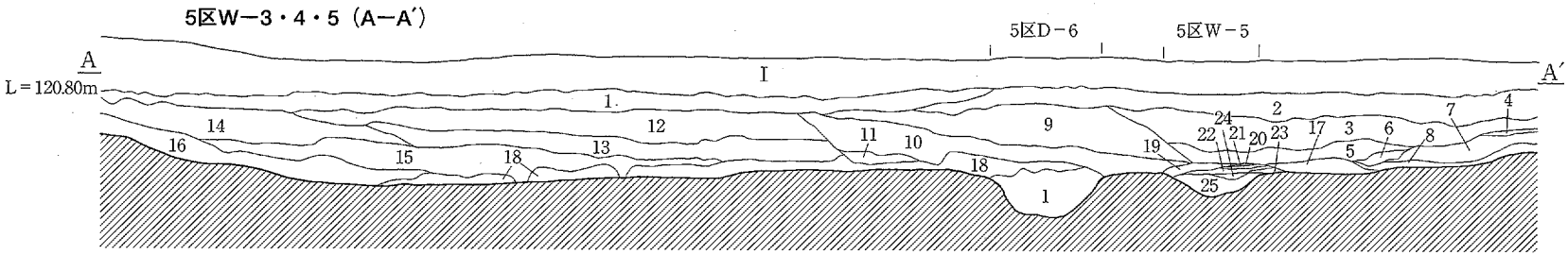


Fig.33　小見Ⅲ・5区W−3・4号溝跡、ＤＢ−2・4号土坑墓



5区D－6号土坑

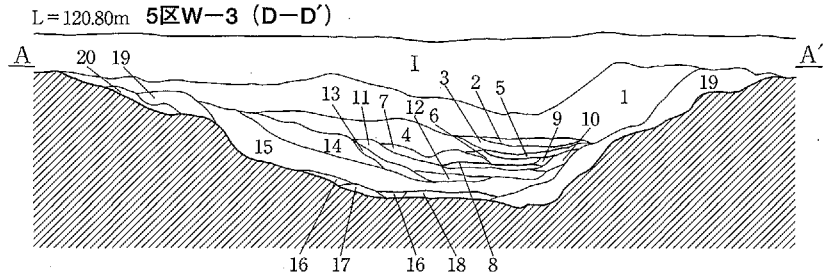
1　暗褐色土　砂岩ブロック（φ5～30㎜）及びその粒子を主体とし、暗褐色土粒子をやや多く含む。しまり良い。粘性ない。

5区W－3・4・5号溝跡

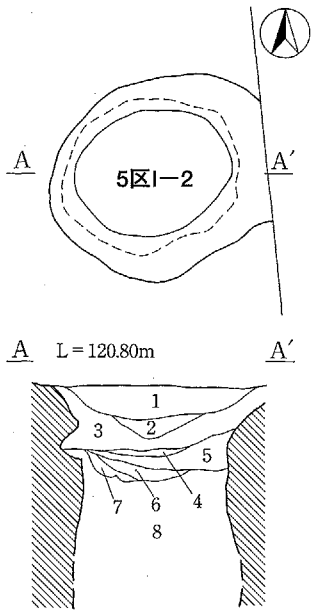
1　黒褐色土　As－Bを多量に含み、シルト質土粒子を少量含む。しまり良く硬い。粘性ややある。
2　黒褐色土　As－Bを多量に含み、シルト質土粒子をやや多く含む。しまり良く硬い。粘性ややある。
3　黒褐色土　As－Bを多量に含み、シルト質土粒子を少量含む。しまり良く硬い。粘性ややある。
4　暗褐色土　微砂をブロック状（φ10㎜前後）を多量に含む。しまり良い。粘性弱い。
5　黒褐色土　As－Bを少量含む。しまり良い。粘性弱い。
6　黒褐色土　As－Bをやや多く含む。微砂からなる層。粘性ない。
7　暗褐色土　As－Bを少量含み、砂岩ブロック（φ2～5㎜）及び微砂をやや多く含む。しまり良い。粘性弱い。砂質土。
8　暗褐色土　微砂を多く含む。しまり良い。粘性ない。
9　黒褐色土　As－Bを多量に含む。しまり良い。粘性ない。
10　黒褐色土　As－B及び凝灰岩質砂岩ブロック（φ2～5㎜）を多く含む。しまり良い。粘性ややある。
11　暗褐色土　As－Bを少量含み、砂岩ブロック（φ5～10㎜）及び微砂を多く含む。しまりよく硬い。粘性ある。
12　暗褐色土　As－Bを多量に含み、As-Cを少量含む。しまりよく硬い。粘性ややある。
13　暗褐色土　As－B及びシルト質土粒子を多く含む。しまり良い。粘性ある。
14　黒褐色土　As－Bを多く含む。しまりよく硬い。粘性弱い。
15　黒褐色土　As－Bを多く含み、シルト質土ブロック（φ2～10㎜）をやや多く含む。しまり良い。粘性ややある。
16　黒褐色土　As－B及びシルト質土粒子を少量含む。しまりよく硬い。粘性ややある。
17　黒褐色土　As－Bを少量含む。しまりややある。粘性ない。砂質土。
18　黒褐色土　凝灰岩質砂岩粒子と10層黒褐色土との混合土。
19　黒褐色土　As－Bを少量含む。しまり良くかなり硬い。粘性弱い。砂質土。
20　黒褐色土　As－B及び細砂を主体とする。しまり良くかなり硬い。粘性ない。硬化。
21　黒褐色土　細砂を多く含む。しまり良く硬い。粘性ない。20層より硬くない。
22　黒褐色土　As－B及び細砂を主体とする。しまり良く極めて硬い。粘性ない。硬化。
23　黒褐色土　As－Bを少量含む。しまりよく硬い。粘性ない。硬化。
24　褐色土　暗褐色土粒子を多く含む。しまりよく硬い。粘性ない。砂質土。硬化。
25　褐色土　砂岩ブロック（φ10～30㎜）及びその粒子からなる。しまり良い。粘性ない。

0　1：80　2m

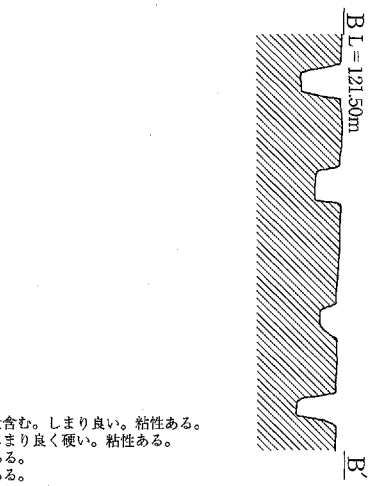
Fig.34　小見Ⅲ・5区W－3～5号溝跡、5区D－6号土坑



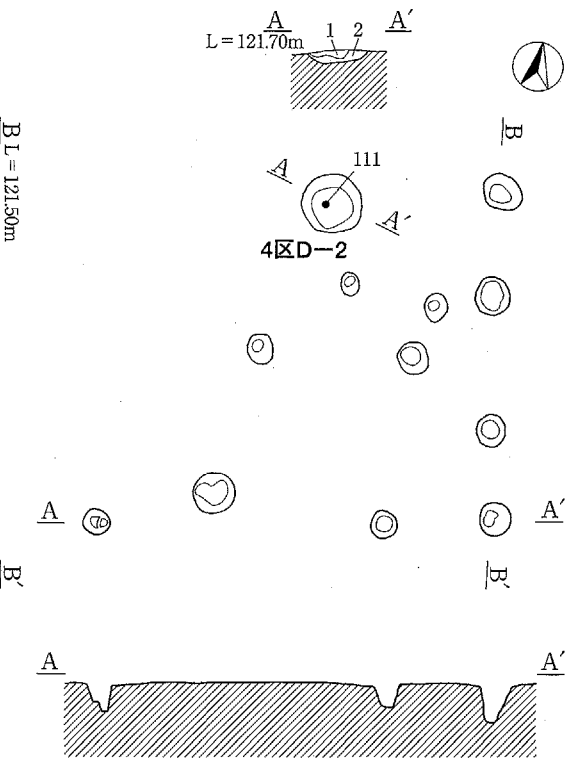
5区W－3号溝跡（D－D′）
1　暗褐色土　Ⅰ層に似る。As－Cを少量含む。As－Bを多く含む。しまりある。砂質土。
2　暗褐色土　As－Bを多量に含む。しまり良くかなり硬い。
3　黒褐色土　微砂を多量に含む。しまり良くかなり硬い。
4　黒褐色土　微砂を多量に含む。砂岩ブロック（φ2～5㎜）をやや多く含む。しまり良い。
5　黒褐色土　As－Bを多量に含む。しまり良くかなり硬い。
6　黒褐色土　微砂を多量に含む。しまり良く硬い。
7　黒褐色土　微砂を多量に含む。しまり良い。
8　黒褐色土　微砂を多量に含む。しまり良く硬い。
9　黒褐色土　微砂を多量に含む。しまり良い。
10　黒褐色土　微砂を多量に含む。砂岩ブロック（φ3～10㎜）をやや多く含む。しまり良い。
11　黒褐色土　細砂から成る層。As－B、As－Cを多量に含む。しまり良い。水流による堆積。
12　黒褐色土　細砂から成る層。As－Bを多量に含む。水流による堆積。
13　黒褐色土　細砂から成る層。As－B、As－Cを多く含む。しまり良い。水流による堆積。
14　黒褐色土　As－B、細砂、微砂を多量に含む。しまり良くやや硬い。水流による堆積。
15　黒褐色土　微砂、細砂から成る。As－Bは含れない。
16　黒褐色土　微砂、細砂を多量に含む。しまり良い。粘性ややある。
17　黒褐色土　微砂、細砂を多量に含む。しまり良く硬い。粘性ややある。
18　黒褐色土　微砂、細砂を多く含む。酸化鉄粒子をやや多く含む。しまり良くかなり硬い。
19　黒褐色土　微砂、小礫を多く含む。しまり良い。
20　暗褐色土　微砂、細砂を多量に含む。しまり良い。



5区I－2号井戸跡
1　暗褐色土　As－C（φ2～5㎜）及び微砂を少量含む。しまり良い。粘性ある。
2　黒褐色土　As－C（φ2～3㎜）を多く含む。しまり良く硬い。粘性ある。
3　黒褐色土　微砂を少量含む。しまり良い。粘性ある。
4　黒褐色土　微砂を多く含む。しまり良い。粘性ある。
5　黒褐色土　きめ細かい土質。砂岩ブロック（φ3～5㎜）を少量含む。しまり良い。粘性ある。
6　黒褐色土　微砂を多く含む。しまり良い。粘性ある。
7　黒褐色土　微砂及び砂岩ブロック（φ5～30㎜）を多量に含む。しまり良い。粘性ある。
8　黒褐色土　微砂を多く含む。しまり良い。粘性ある。

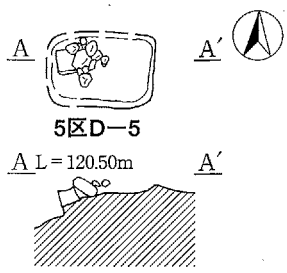


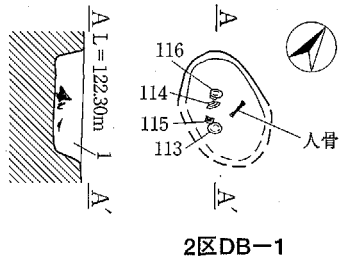
D－2号土坑
1　暗褐色土　焼土粒子を多く含む。しまり良い。粘性弱い。
2　赤褐色土　焼土粒子を多量に含む。しまり良い。粘性弱い。



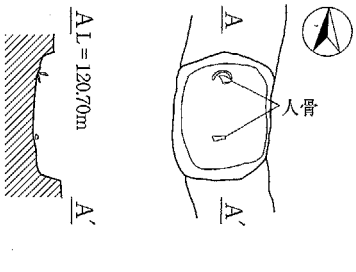
0　1：80　2m

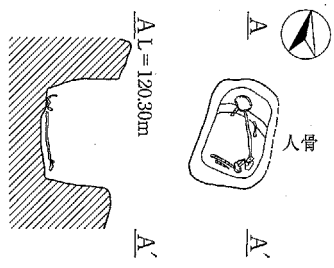
Fig.35　小見Ⅲ・5区W－3号溝跡、5区Ⅰ－2号井戸跡、4区D－2号土坑

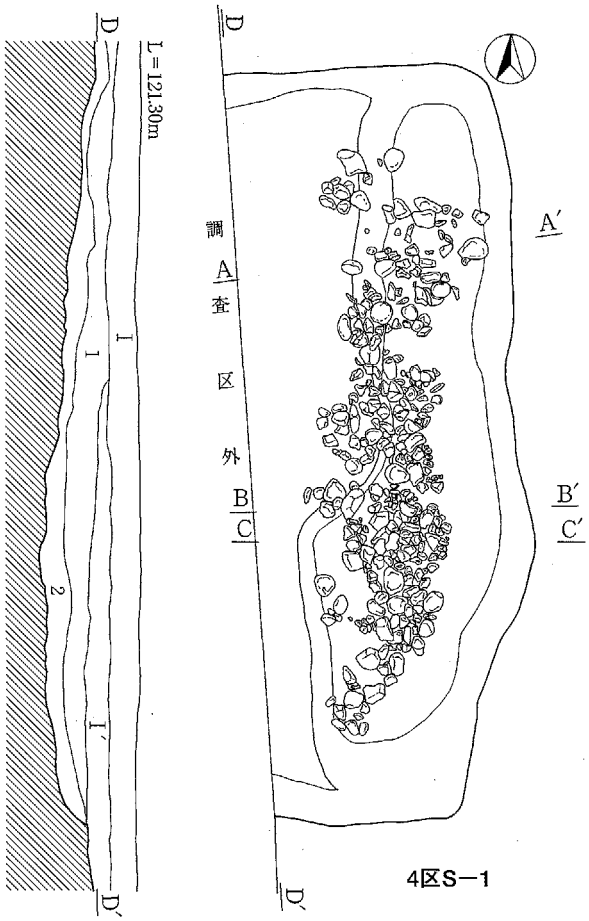


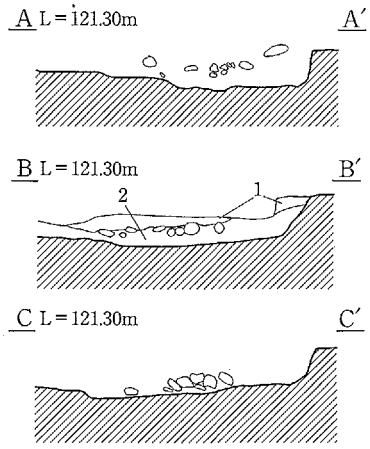


2区DB−1号土坑墓
1　黒褐色土　As−C（φ2〜3㎜）を多く含む。しまり良く硬い。粘性ある。









4区S−1号集石
1　黒褐色土　As−Bを多量に含む。しまり良い。粘性ややある。
2　黒褐色土　As−B、砂岩ブロック（φ2〜5㎜）を多く含む。しまり良い。粘性ある。

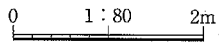
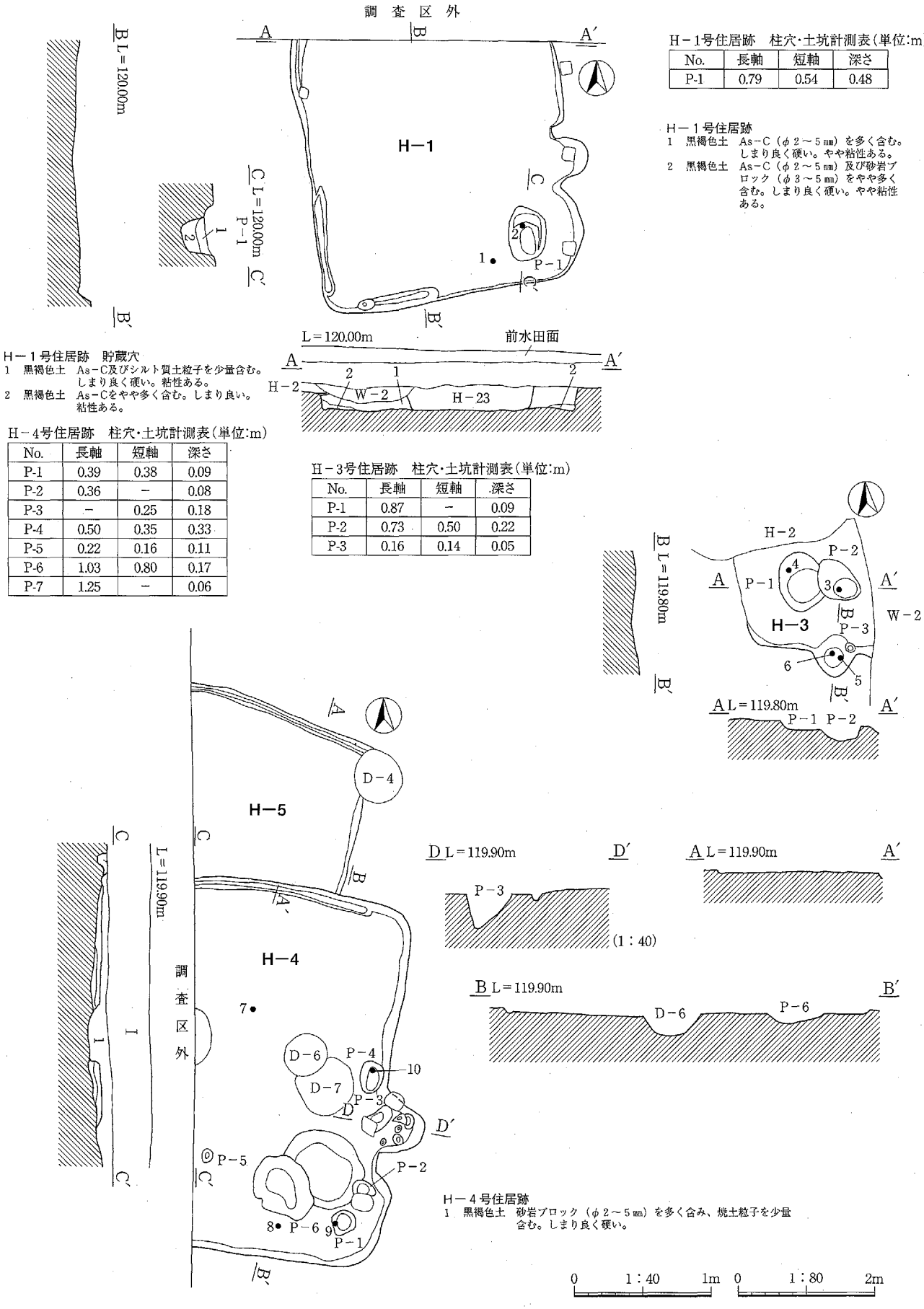


Fig.36　小見Ⅲ・5区Ｄ−5号土坑、２区ＤＢ−1号土坑墓、5区ＤＢ−1・2号土坑墓、4区Ｓ−１号集石



H−1号住居跡　柱穴・土坑計測表（単位:m）

No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.79	0.54	0.48

H−1号住居跡
1　黒褐色土　As−C（φ2〜5㎜）を多く含む。しまり良く硬い。やや粘性ある。
2　黒褐色土　As−C（φ2〜5㎜）及び砂岩ブロック（φ3〜5㎜）をやや多く含む。しまり良く硬い。やや粘性ある。

H−1号住居跡　貯蔵穴
1　黒褐色土　As−C及びシルト質土粒子を少量含む。しまり良く硬い。粘性ある。
2　黒褐色土　As−Cをやや多く含む。しまり良い。粘性ある。

H−4号住居跡　柱穴・土坑計測表（単位:m）

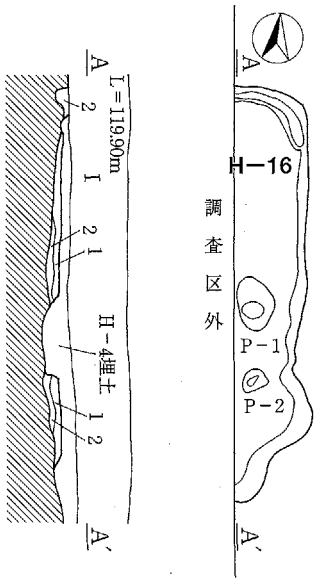
No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.39	0.38	0.09
P-2	0.36	−	0.08
P-3	−	0.25	0.18
P-4	0.50	0.35	0.33
P-5	0.22	0.16	0.11
P-6	1.03	0.80	0.17
P-7	1.25	−	0.06

H−3号住居跡　柱穴・土坑計測表（単位:m）

No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.87	−	0.09
P-2	0.73	0.50	0.22
P-3	0.16	0.14	0.05

H−4号住居跡
1　黒褐色土　砂岩ブロック（φ2〜5㎜）を多く含み、焼土粒子を少量含む。しまり良く硬い。

Fig.37　草作Ⅴ・H−1・3〜5号住居跡



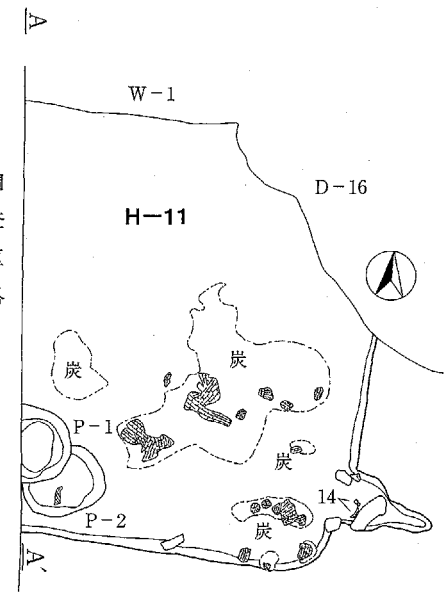
H−6号住居跡
1 黒褐色土 As−C（φ2〜3㎜）を多く含む。しまり良く硬い。粘性ややある。
2 黒褐色土 シルト質土ブロック（φ5〜10㎜）を多量に含む。しまり良く硬い。粘性ある。
3 黒褐色土 砂岩ブロック（φ2〜5㎜）を多く含む。焼土粒子を少量含む。しまり良く硬い。粘性ややある。

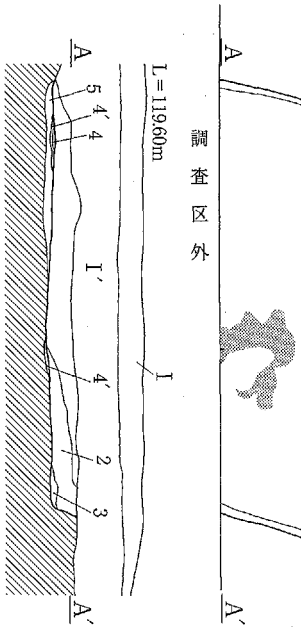
H−6号住居跡 柱穴・土坑計測表（単位:m）

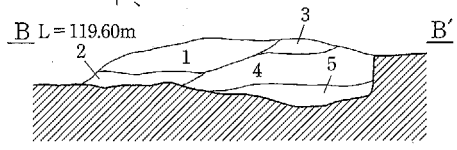
No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.58	0.36	0.18
P-2	0.29	0.20	0.22

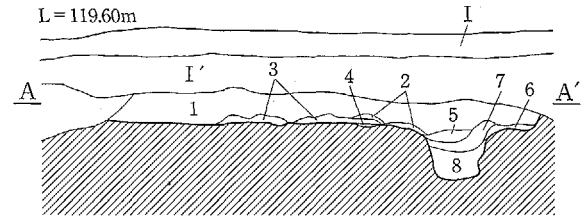
H−11号住居跡 柱穴・土坑計測表（単位:m）

No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.80	−	0.56
P-2	0.86	−	0.17

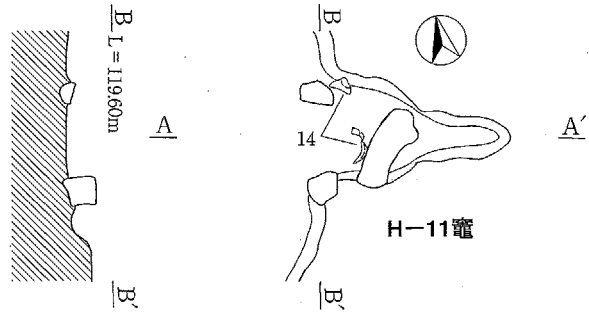


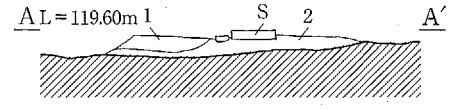






H-11号住居跡
1 黒褐色土 As−C（φ2〜3㎜）、凝灰岩質砂岩粒子を少量含む。しまり良く硬い。粘性強い。
2 黒褐色土 焼土粒子を多く含む。しまり良く硬い。粘性強い。
3 黒褐色土 木炭を多量に含む。しまり良く硬い。粘性強い。
4 明赤褐色土 床面が被熱により焼土化。粘質土が焼土化したため、極めて硬い。
5 暗褐色土 炭化物、焼土粒子をやや多く含む。しまり良く硬い。粘性強い。
6 暗褐色土 木炭をやや多く含む。しまり良く硬い。粘性ある。
7 黒褐色土 木炭を多量に含む。焼土粒子をやや多く含む。しまりも良く硬い。粘性ある。
8 黒褐色土 凝灰岩質砂岩ブロック（φ5〜10㎜）及び粒子を多く含む。炭化物（φ2〜5㎜）をやや含む。しまり良くかなり硬い。粘性強い。





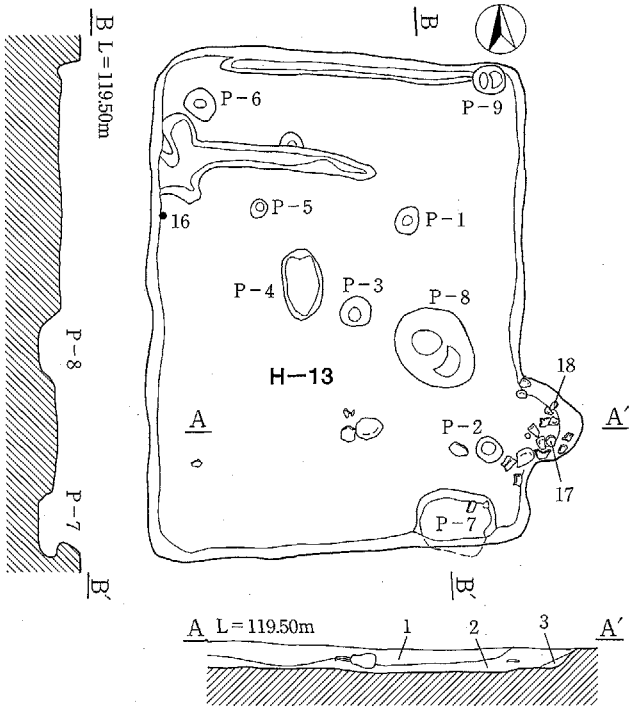
H−11号住居跡 竈
1 暗赤褐色土 As−C（φ2㎜大以下）を少量含む。しまり良い。粘性ある。
2 暗赤褐色土 焼土小ブロック（φ2〜5㎜）及び粒子を少量含む。しまり良い。粘性ある。

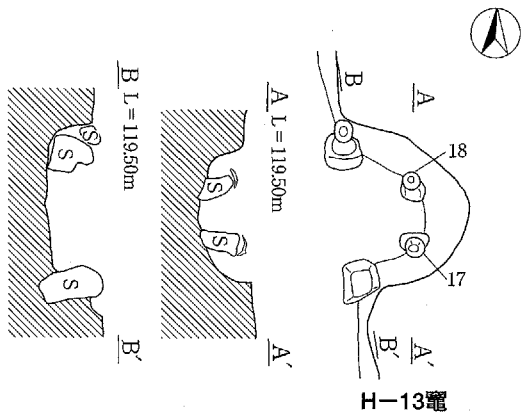
H−12号住居跡
1 黒褐色土 As−C（φ2〜3㎜）、凝灰岩質砂岩ブロック（φ2〜5㎜）を多量に含む。しまり良く硬い。粘性強い。
2 黒褐色土 As−C（φ2〜3㎜）多く含む。凝灰岩質砂岩ブロック（φ2〜5㎜）を多量に含む。しまり良く硬い。粘性強い。
3 にぶい黄橙色土 擬灰岩質砂岩ブロック（φ5〜10㎜）及び粒子から成る。充填する。
4 明赤褐色土 床面が被熱により焼土化。極めて硬い。
4′ 暗褐色土 床面が被熱により変色、やや赤みを帯びる。しまり良くかなり硬い。粘性ある。
5 黒褐色土 凝灰岩質砂岩ブロック（φ2〜5㎜）及び粒子をやや多く含む。しまり良く硬い。特に北より部分は硬化している。4・4′は5層が被熱を受けたもの。床下土。

H−12号住居跡 竈
1 黒褐色土 As−C（φ2〜5㎜）を少量含む。焼土粒子を微量含む。しまり良く硬い。粘性ある。
2 黒褐色土 粉炭、灰を多く含む。しまり良い。粘性ある。
3 黒褐色土 焼土ブロック（φ2〜3㎜）を多く含む。しまり良く硬い。粘性ある。
4 黒褐色土 黄褐色土粒子、炭化物（φ2〜3㎜）を少量含む。しまり良い。粘性ある。
5 黒褐色土 褐色土粒子を少量含む。しまり良く硬い。粘性ある。

0 1：40 1m 0 1：80 2m

Fig.38 草作Ⅴ・H−6・11・12号住居跡



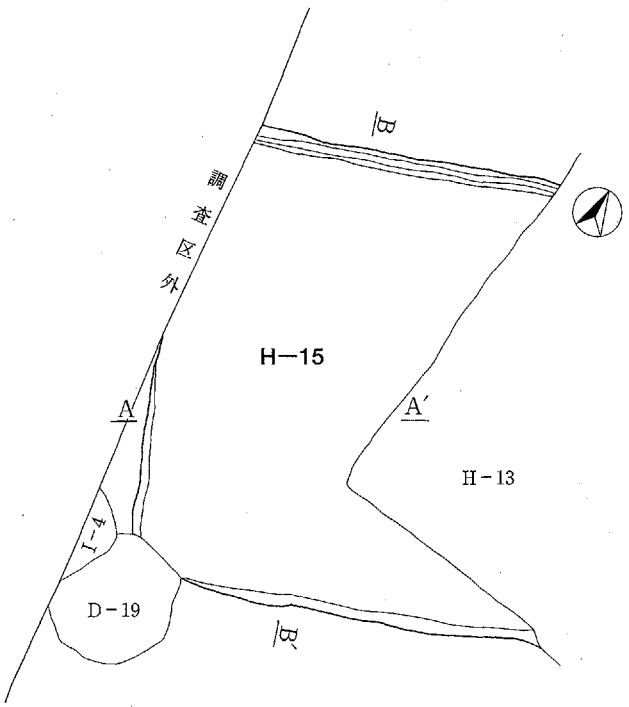


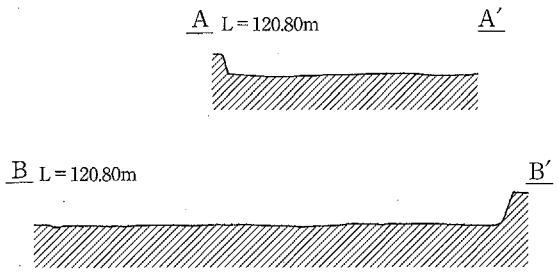
H-13竈

H-13号住居跡　柱穴・土坑計測表(単位:m)

No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.29	0.24	0.32
P-2	0.27	0.25	0.09
P-3	0.33	0.29	0.20
P-4	0.74	0.40	0.06
P-5	0.22	0.17	0.15
P-6	0.35	0.27	0.13
P-7	0.84	0.64	0.19
P-8	0.96	0.77	0.20
P-9	0.35	0.29	0.32

H-13号住居跡
1　黒褐色土　As-C（φ2～3㎜）を少量含む。木炭（φ5～50㎜）を多量に含む。焼土粒子をやや多く含む。しまり良く硬い、粘性ある。
2　黒褐色土　黄褐色土粒子、炭化物粒子をやや多く含む。しまり良く硬い。粘性ある。
3　黒褐色土　黄褐色土粒子を少量含む。しまり良く硬い。粘性ある。





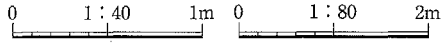
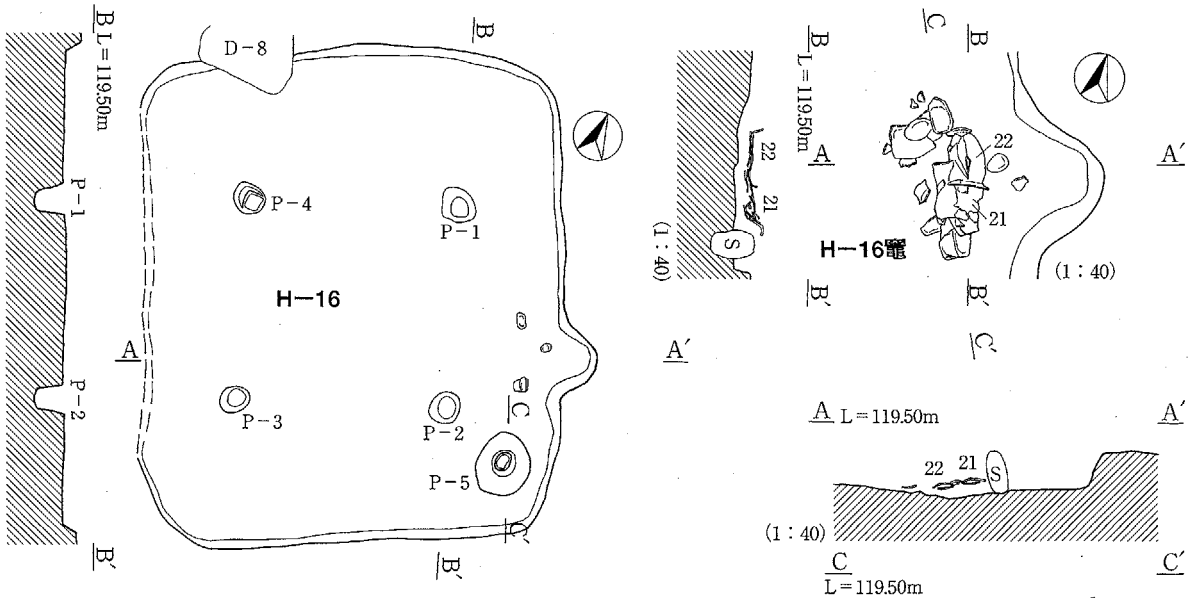


Fig.39　草作Ⅴ・H-13・15号住居跡



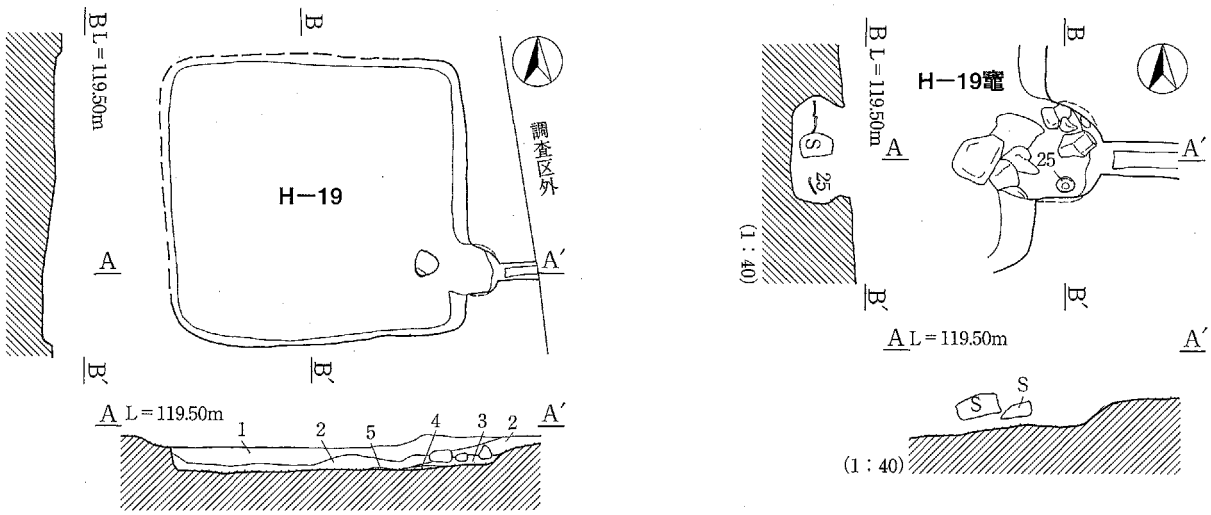
H−16号住居跡
1　黒褐色土　砂岩ブロック（φ2～5㎜）を多く含む。しまり良く硬い。粘性ある。
2　黒褐色土　砂岩ブロック（φ2～3㎜）を多く含む。しまり良く硬い。粘性ある。
3　黒褐色土　砂岩ブロック（φ2～3㎜）をやや多く含む。しまり良く硬い。粘性ある。
4　黒褐色土　焼土粒子を多く含む。しまり良く硬い。粘性ある。
5　黒褐色土　焼土粒子を多量に含む。しまり良く硬い。粘性ある。
6　黒褐色土　砂岩ブロック（φ2～3㎜）を多く含む。しまり良く硬い。粘性ある。

H−16号住居跡　P−5（貯蔵穴）
1　黒褐色土　褐色土ブロック（φ2～10㎜）をやや多く含む。しまり良く硬い。粘性ある。
2　黒褐色土　褐色土ブロック（φ2～10㎜）を少量含む。しまり良く硬い。粘性ある。
3　黒褐色土　褐色土ブロック（φ2～5㎜）を多く含む。炭化物（φ2～5㎜）を少量含む。しまり良く硬い。粘性ある。
4　黒褐色土　褐色土ブロック（φ2～5㎜）を多量に含む。炭化物（φ2～5㎜）を少量含む。しまり良く硬い。粘性ある。

H−16号住居跡　竈
1　黒褐色土　微砂を少量含む。しまりよく硬い。粘性強い。

H−16号住居跡　柱穴・土坑計測表（単位:m）

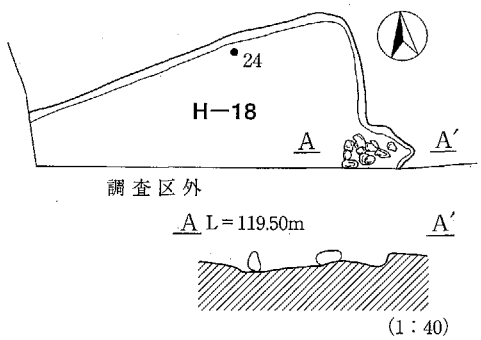
No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.44	0.35	0.30
P-2	0.32	0.29	0.31
P-3	0.31	0.24	0.34
P-4	0.33	0.28	0.36
P-5	0.64	0.56	0.68

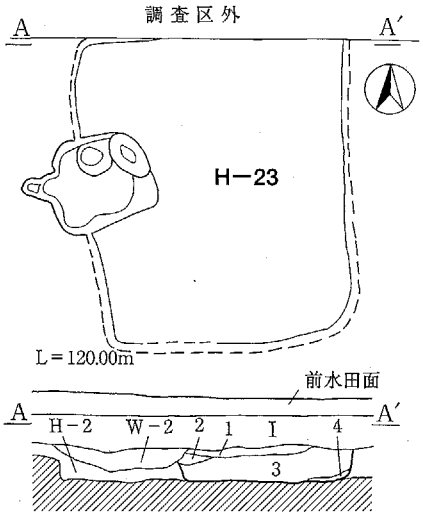


H−19号住居跡
1　黒褐色土　As−C（φ2～3㎜）を多く含む。しまり良く硬い。粘性ある。
2　黒褐色土As−C（φ2～3㎜）、焼土粒子を少量含む。しまり良く硬い。粘性ある。
3　黒褐色土　木炭（φ2～5㎜）、焼土粒子を少量含む。しまり良く硬い。粘性ある。
4　黒褐色土　焼土粒子を多量に含む。しまり良い。粘性ある。
5　黒色土　　粉炭、灰の堆積層。

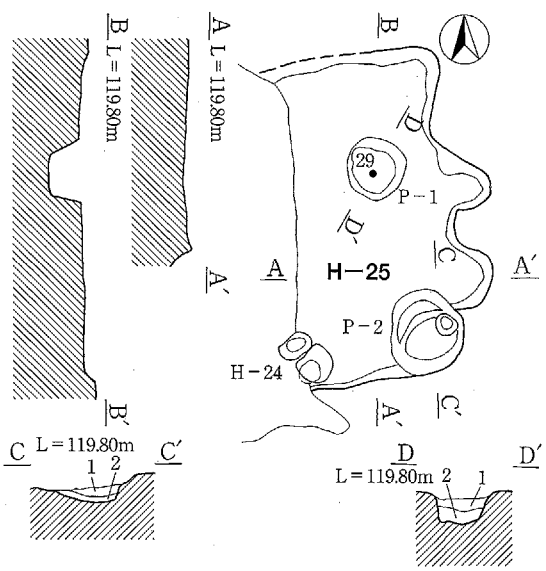
0　1：40　1m　　0　1：80　2m

Fig.40　草作Ⅴ・H−16・19号住居跡



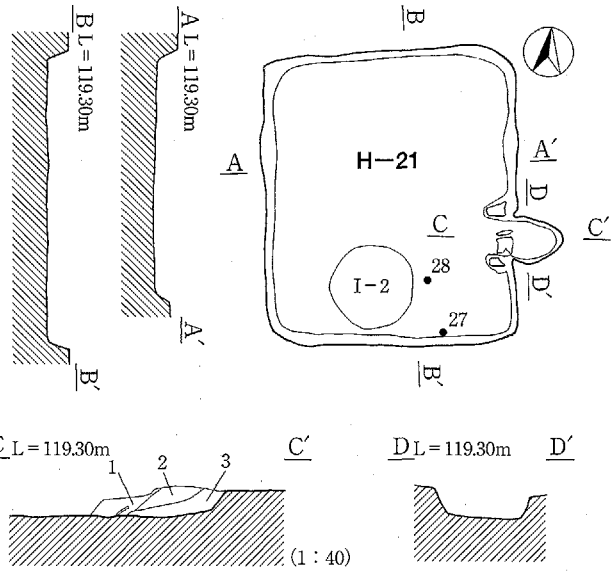


H−23号住居跡
1 黒褐色土 As−C（φ2～5㎜）を多く含む。しまり良く硬い。粘性ややあり。
2 黒褐色土 赤褐色土の焼土ブロック（φ5～15㎜）を多量に含む。しまり良く硬い。粘性ややある。
3 黒褐色土 As−C（φ2～5㎜）及び砂岩ブロック（φ2～15㎜）をやや多く含む。しまり良く硬い。粘性ややある。
4 黒褐色土 岩ブロック（φ2～5㎜）を少量含む。しまり良く硬い。粘性ややある。

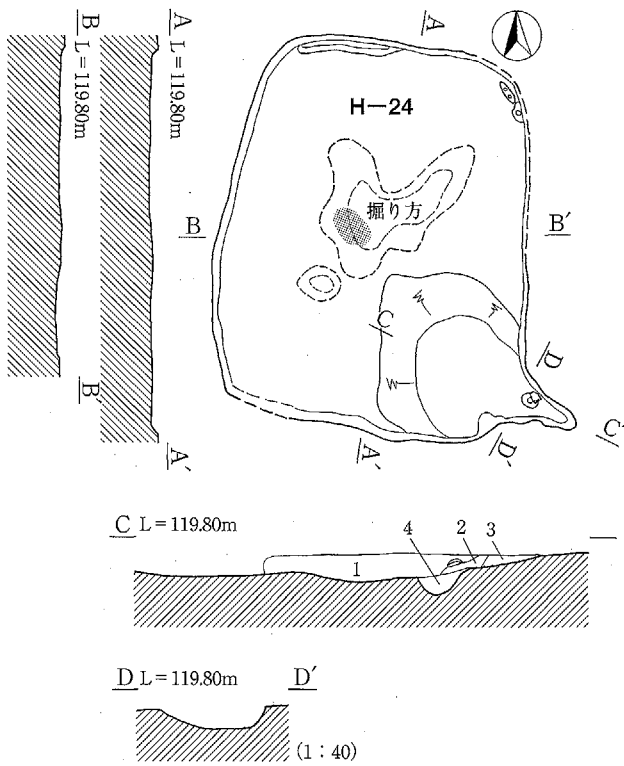


H−25号住居跡　柱穴・土坑計測表（単位:m）

No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.61	0.64	0.35
P-2	0.83	0.80	0.13



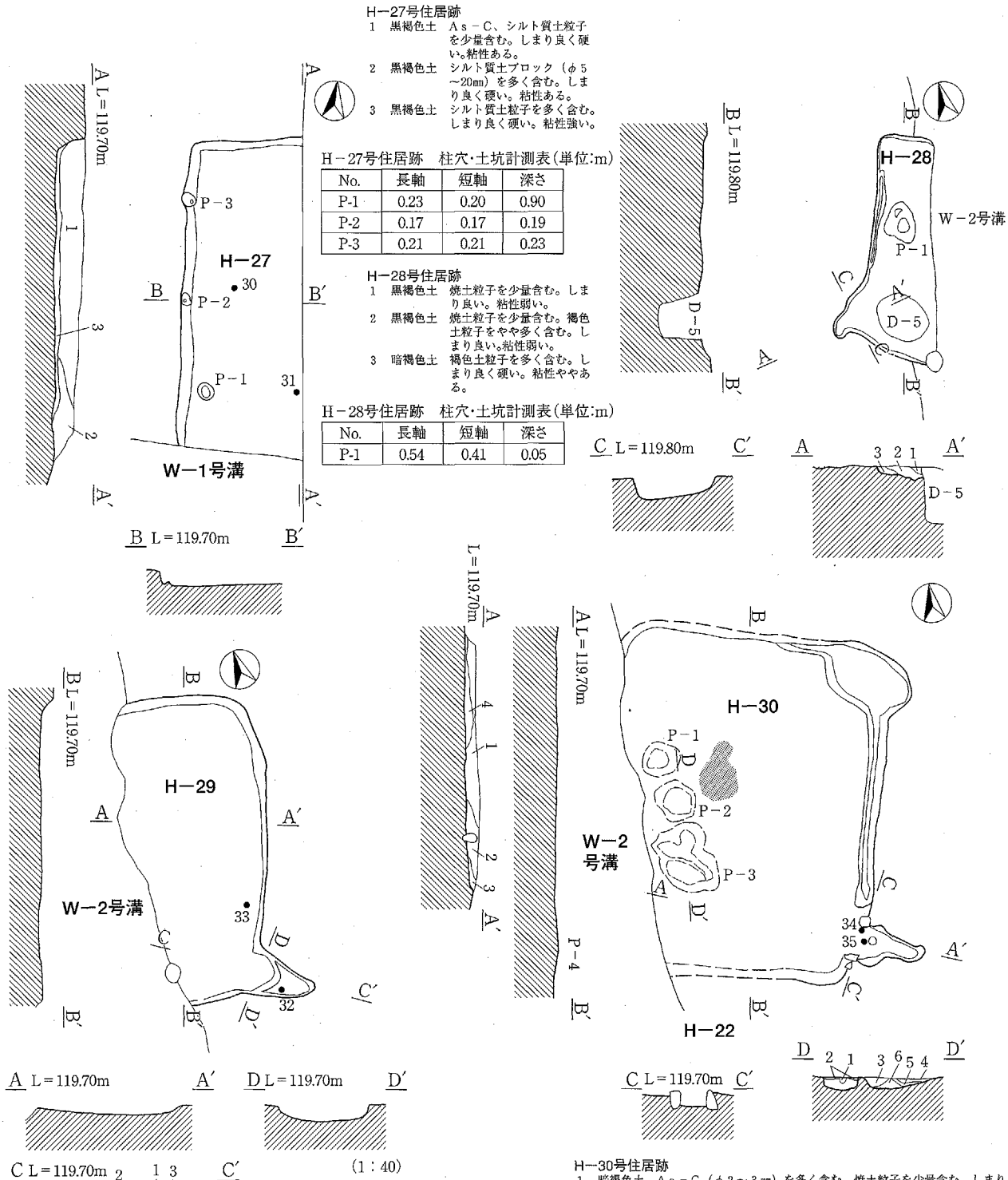
H−21号住居跡　竈
1 黒褐色土 As−C（φ2～3㎜）を少量含む。しまりよく硬い。粘性ある。
2 黒褐色土 As−C（φ2～4㎜）を少量含み、焼土粒子をやや多く含む。しまりよく硬い。粘性ある。
3 黒褐色土 焼土粒子及び炭化粒子をやや多く含む。しまりよく硬い。粘性ある。



H−11号住居跡　竈
1 暗赤褐色土 As−C（φ2～3㎜）を少量含む。しまり良い。粘性ある。
2 極暗赤褐色土 焼土ブロック（φ2～5㎜）及び粒子を少量含む。しまり良い。粘性ある。

0 1：40 1m　0 1：80 2m

Fig.41　草作Ⅴ・H−18・21・23～25号住居跡



H−27号住居跡
1 黒褐色土 As−C、シルト質土粒子を少量含む。しまり良く硬い。粘性ある。
2 黒褐色土 シルト質土ブロック（φ5〜20㎜）を多く含む。しまり良く硬い。粘性ある。
3 黒褐色土 シルト質土粒子を多く含む。しまり良く硬い。粘性強い。

H−27号住居跡 柱穴・土坑計測表（単位:m）

No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.23	0.20	0.90
P-2	0.17	0.17	0.19
P-3	0.21	0.21	0.23

H−28号住居跡
1 黒褐色土 焼土粒子を少量含む。しまり良い。粘性弱い。
2 黒褐色土 焼土粒子を少量含む。褐色土粒子をやや多く含む。しまり良い。粘性弱い。
3 暗褐色土 褐色土粒子を多く含む。しまり良く硬い。粘性ややある。

H−28号住居跡 柱穴・土坑計測表（単位:m）

No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.54	0.41	0.05

H−29号住居跡 竈
1 黒褐色土 焼土ブロック（φ2〜5㎜）及び粒子をやや多く含む。しまり良く硬い。粘性弱い。
2 黒褐色土 As−C（φ2〜5㎜）、砂岩ブロック（φ2〜5㎜）をやや多く含む。しまり良く硬い。粘性弱い。
3 黒褐色土 焼土ブロック（φ2〜5㎜）及び粒子を多量に含む。しまり良い。粘性弱い。

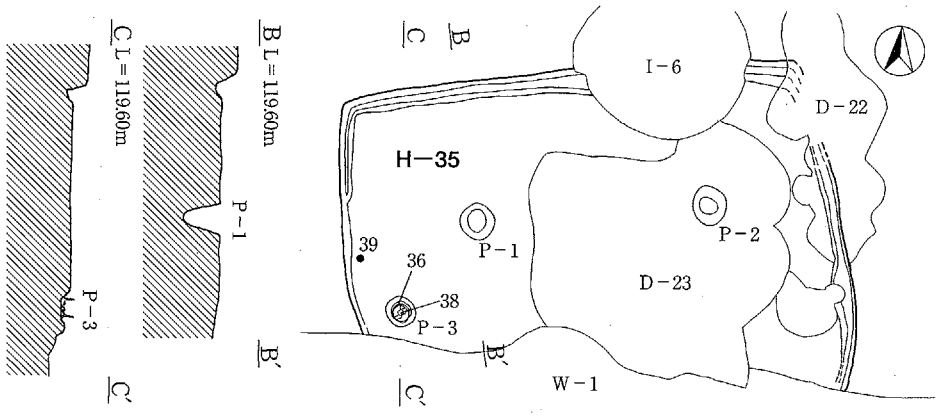
H−35号住居跡 柱穴・土坑計測表（単位:m）

No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.49	0.45	0.10
P-2	0.54	0.49	0.16
P-3	0.90	0.69	0.18

H−30号住居跡
1 暗褐色土 As−C（φ2〜3㎜）を多く含む。焼土粒子を少量含む。しまり良い。粘性弱い。
2 暗褐色土 As−C（φ2〜3㎜）を少量含む。焼土ブロック（φ2〜5㎜）をやや多く含む。しまり良い。粘性弱い。
3 暗褐色土 焼土ブロック（φ2〜5㎜）及び粒子を多く含む。しまり良い。粘性弱い。
4 暗褐色土 シルト質土粒子を多く含む。しまり良い。粘性弱い。
5 暗褐色土 シルト質ブロック（φ2〜20㎜）及び粒子を多く含む。しまり良い。粘性弱い。

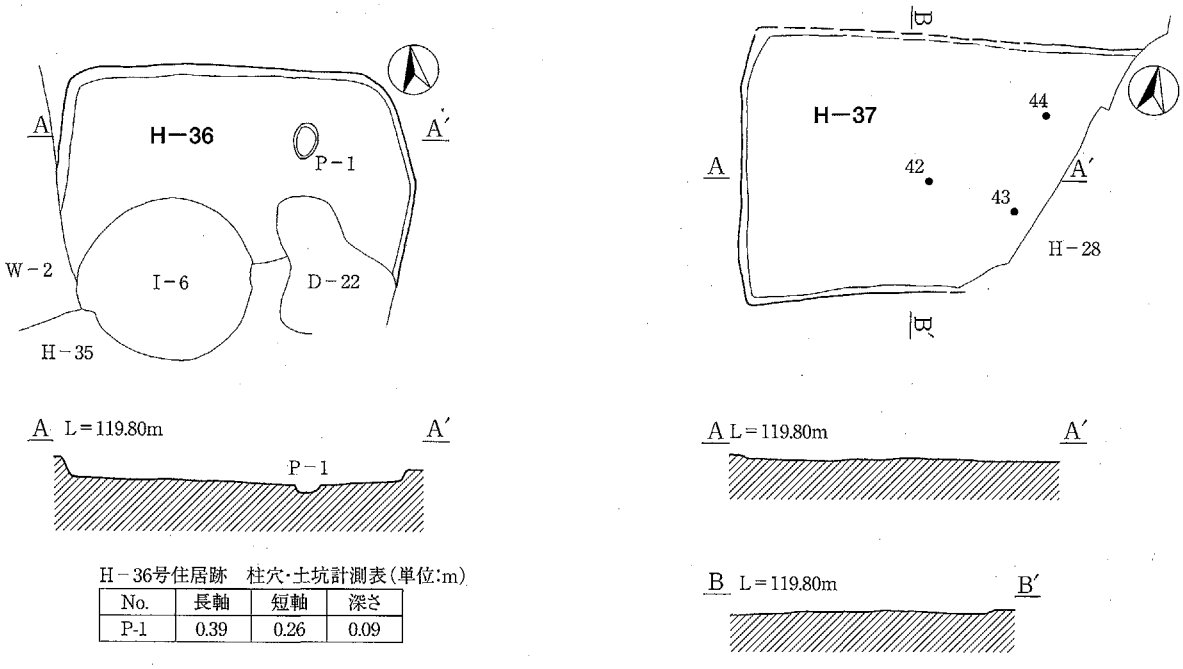
H−30号住居跡 P−2〜4（床下土坑）
1 黒褐色土 As−C（φ2〜3㎜）、微砂を少量含む。しまり良く硬い。粘性弱い。
2 暗褐色土 As−C（φ2〜5㎜）を少量含む。微砂を多く含む。しまり良く硬い。粘性弱い。貼床。
3 黒褐色土 As−C（φ2〜3㎜）を少量含む。シルト質土粒子をやや多く含む。しまり良く硬い。粘性弱い。
4 黒褐色土 シルト質土粒子、微砂をやや多く含む。しまり良く硬い。（P2と違い、土台は変わらないが、上面は貼床となっている。）
5 黒褐色土 砂岩ブロック（φ10〜20㎜）を多く含む。しまり良く硬い。粘性ややある。
6 黒褐色土 砂岩ブロック（φ10〜20㎜）、微砂を多量に含む。しまり良く硬い。粘性ややある。

Fig.42 草作V・H−27〜30号住居跡



H－35号住居跡　柱穴・土坑計測表（単位：m）

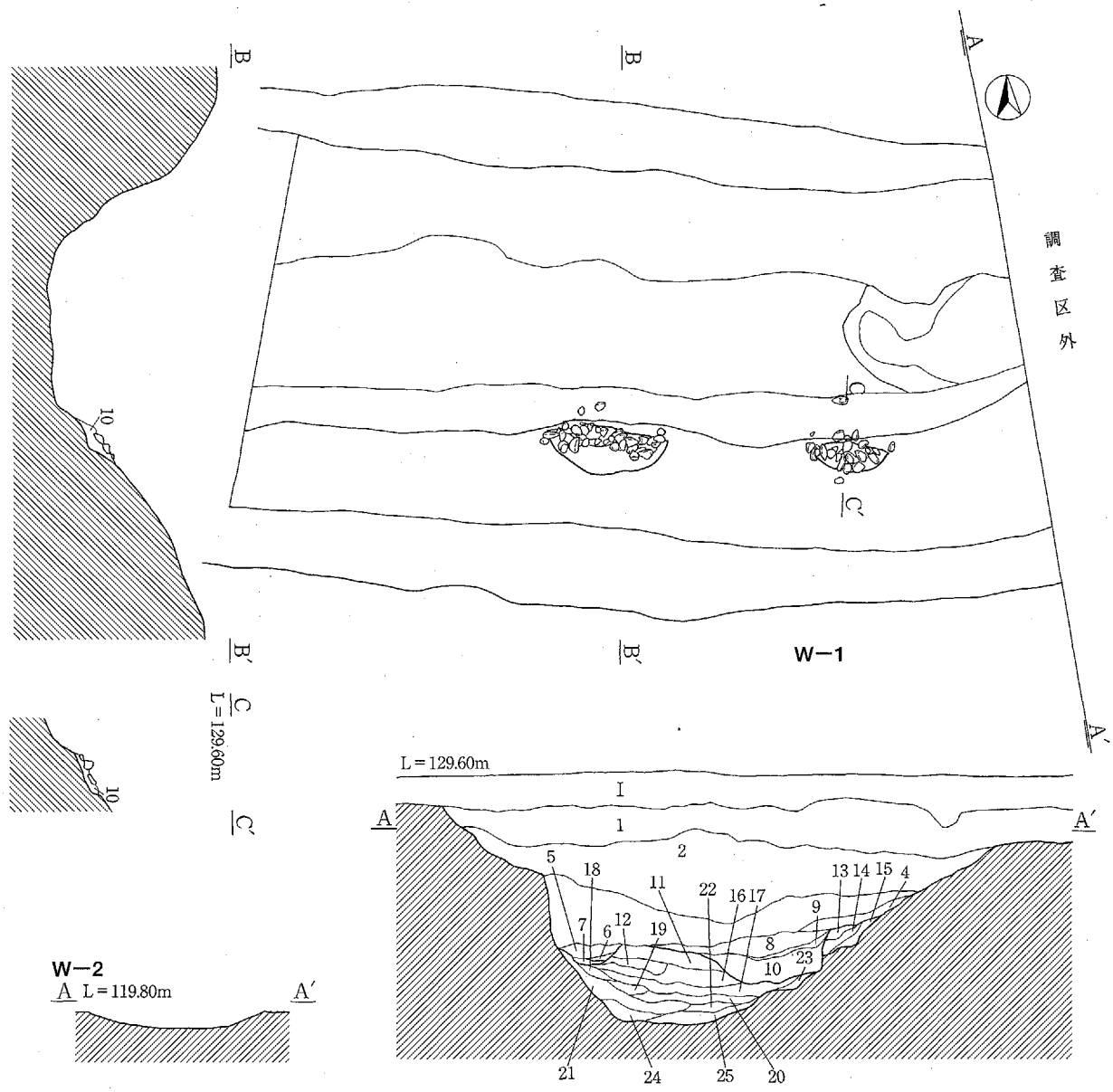
No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.39	0.37	0.40
P-2	0.43	0.35	0.50
P-3	0.34	0.29	0.07



H－36号住居跡　柱穴・土坑計測表（単位：m）

No.	長軸	短軸	深さ
P-1	0.39	0.26	0.09

Fig.43　草作Ⅴ・H－35～37号住居跡

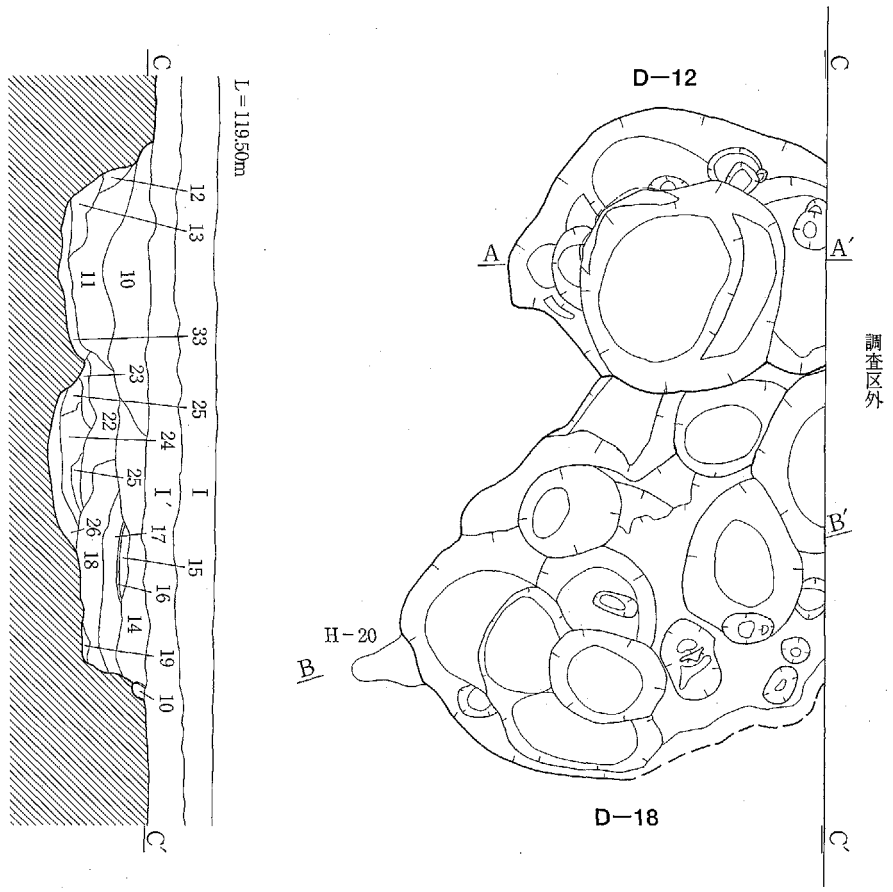


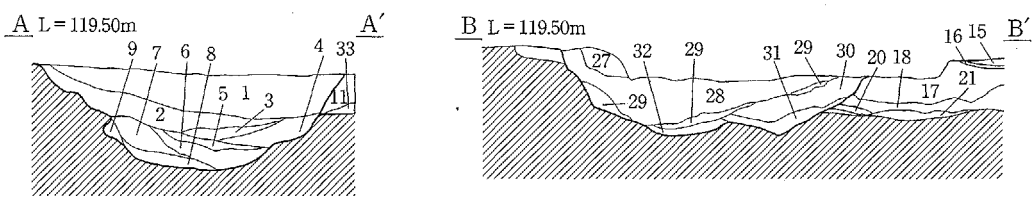
W−1号溝跡

1	暗褐色土	灰色軽石（As−A？φ3〜5㎜）を少量含む。As−Bをやや多く含む。しまり良く硬い。粘性ややある。
2	暗褐色土	As−Bを多く含む。砂岩ブロック（φ3〜5㎜）をやや多く含む。炭化物（φ5〜10㎜）を少量含む。しまり良く硬い。粘性ある。
3	暗褐色土	にぶい黄褐色土ブロック（φ3〜10㎜）、As−Bを多く含む。しまり良く硬い。粘性ややある。
4	暗褐色土	にぶい黄褐色土ブロック（φ3〜10㎜）及び粒子を多量に含む。しまり良く硬い。粘性ややある。
5	暗褐色土	にぶい黄褐色土ブロック（φ3〜5㎜）をやや多く含む。しまり良く硬い。粘性ややある。
6	暗褐色土	にぶい黄褐色土ブロック（φ2〜5㎜）を少量含む。しまり良く硬い。粘性ややある。
7	暗褐色土	微砂、炭化物（φ2〜3㎜）を少量含む。しまり良く硬い。粘性ややある。
8	黒褐色土	微砂を多く含む。As−Bをやや多く含む。しまり良い。粘性弱い。
9	黒褐色土	微砂を多量に含む。As−Bを少量含む。しまり良い。粘性弱い。
10	黒褐色土	微砂を多量に含む。炭化物（φ3〜5㎜）を少量含む。しまり良い。粘性弱い。
11	黒褐色土	微砂をやや多く含む。にぶい黄褐色シルト質土ブロック（φ2〜5㎜）を少量含む。しまり良く硬い。粘性ある。
12	黒褐色土	微砂をやや多く含む。しまり良く硬い。粘性ややある。
13	暗褐色土	にぶい黄褐色シルト質土ブロック（φ2〜5㎜）をやや多く含む。しまり良く硬い。粘性ある。
14	暗褐色土	にぶい黄褐色シルト質土ブロック（φ3〜10㎜）及び粒子をやや多く含む。しまり良く硬い。粘性ある。
15	にぶい黄褐色土	暗褐色土がやや多く混入している。側面地山の崩落土。
16	暗褐色土	にぶい黄褐色シルト質土ブロック（φ2〜10㎜）及び粒子を多く含む。しまり良く硬い。粘性ある。
17	暗褐色土	にぶい黄褐色シルト質土ブロック（φ2〜5㎜）及び粒子を多量に含む。しまり良く硬い。粘性ある。
18	暗褐色土	にぶい黄褐色シルト質土ブロック（φ3〜5㎜）を少量含む。しまり良く硬い。粘性ある。
19	暗褐色土	にぶい黄褐色シルト質土ブロック（φ3〜10㎜）及び粒子を多量に含む。砂岩ブロック（φ2〜5㎜）を少量含む。しまり良く硬い。粘性ある。
20	暗褐色土	にぶい黄褐色シルト質土ブロック（φ3〜10㎜）及び粒子をやや多く含む。しまり良く硬い。粘性ある。
21	暗褐色土	にぶい黄褐色シルト質土ブロック（φ3〜10㎜）及び粒子を多量に含む。しまり良く硬い。粘性ある。
22	暗褐色土	にぶい黄褐色シルト質土ブロックを多く含む。
23	暗褐色土	にぶい黄褐色シルト質土ブロック（φ3〜20㎜）及び粒子を多量に含む。しまり良く硬い。粘性ある。
24	暗褐色土	にぶい黄褐色シルト質土ブロック（φ3〜5㎜）及び粒子をやや多く含む。しまり良く硬い。粘性ある。
25	暗褐色土	にぶい黄褐色シルト質土ブロック（φ3〜10㎜）及び粒子を多量に含む。しまり良く硬い。粘性ある。

0　1：80　2m

Fig.44　草作Ⅴ・W−1・2号溝跡



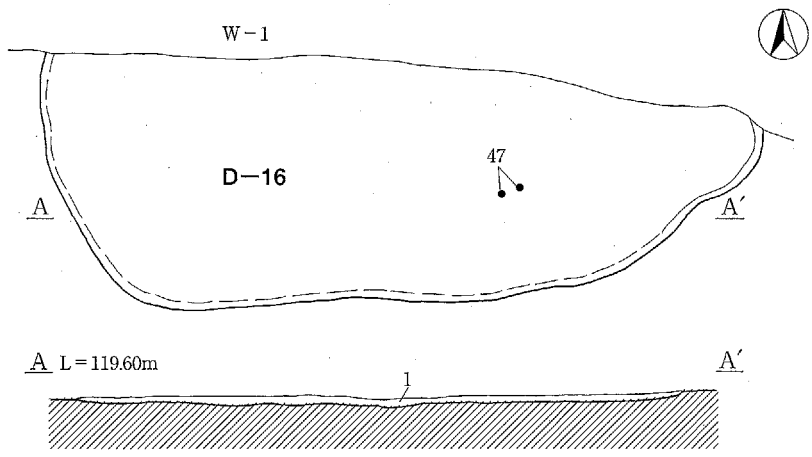


D−12・18号土坑

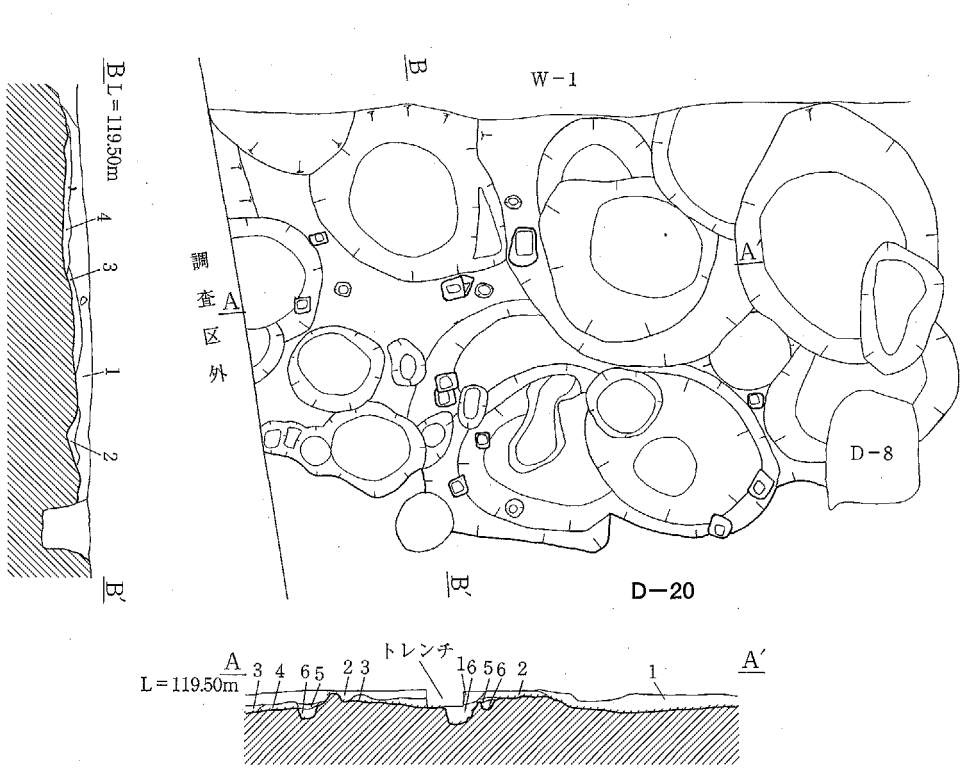
1	黒褐色土	As−C（φ1～8㎜）を多く含む。しまり良く硬い。粘性ある。
2	黒褐色土	褐色軽石（φ1～5㎜）を多く含む。砂岩ブロック（φ5～30㎜）を少量含む。しまり良く硬い。粘性ある。
3	黒褐色土	褐色軽石（φ1～2㎜）、砂岩ブロック（φ5～10㎜）をやや多く含む。しまり良く硬い。粘性ある。
4	黒褐色土	褐色軽石（φ1～2㎜）、砂岩ブロック（φ5～10㎜）を少量含む。しまり良く硬い。粘性ある。
5	黒褐色土	(7.5YR5/3にぶい褐色土）シルト質土ブロック（φ5～30㎜）を多量に含む。しまり良く硬い。粘性強い。
6	黒褐色土	シルト質土粒子を少量含む。しまり良く硬い。粘性ある。
7	黒褐色土	(7.5YR5/3にぶい褐色土）シルト質土ブロック（φ5～30㎜）を少量含む。しまり良く硬い。粘性強い。
8	灰褐色土	(7.5YR5/3にぶい褐色土）シルト質土ブロック（φ5～30㎜）及び粒子を多量に含む。しまり良く硬い。粘性強い。
9		シルト質土粒子を少量含む。しまり良く硬い。粘性強い。
10	黒褐色土	As−C（φ2～3㎜）、シルト質土粒子を多く含む。しまり良く硬い。粘性ある。
11	黒褐色土	As−C（φ2～3㎜）を多く含む。10YR6/2灰黄褐色シルト質土ブロック（φ3～20㎜）を多量に含む。しまり良く硬い。粘性ある。
12	黒褐色土	粘性強い。側面地山のくずれ。
13	黒褐色土	As−C（φ2～3㎜）を少量含む。シルト質土ブロック（φ5～10㎜）及び粒子を少量含む。しまり良く硬い。粘性強い。
14	黒褐色土	As−C（φ2～3㎜）少量含む。シルト質土ブロック（φ2～5㎜）及び粒子、砂岩ブロック（φ3～5㎜）を多く含む。しまり良く硬い。粘性ある。
15	黒褐色土	As−C（φ2～3㎜）を少量含む。シルト質土ブロック（φ2～5㎜）及び粒子、砂岩ブロック（φ3～5㎜）をやや多く含む。しまり良く硬い。粘性ある。
16	黒褐色土	シルト質土粒子、微砂をやや多く含む。しまり良く硬い。粘性ある。
17	黒褐色土	As−C（φ2～5㎜）を多量に含む。シルト質土粒子を多く含む。焼土粒子を少量含む。しまり良く硬い。粘性ある。
18	黒褐色土	As−C（φ2～5㎜）を多く含む。シルト質土ブロック（φ2～10㎜）及び粒子をやや多く含む。しまり良く硬い。粘性ある。（地山黒褐色粘質土を含む）
19	黒褐色土	シルト質土ブロック（φ3～5㎜）及び粒子を多く含む。しまり良く硬い。粘性強い。
20	黒褐色土	砂岩ブロック（φ2～10㎜）を多く含む。しまり良く硬い。粘性ややある。
21	黒褐色土	砂岩ブロック（φ2～10㎜）、微砂を多量に含む。しまり良く硬い。粘性ややある。
22	黒褐色土	As−C（φ2～3㎜）を多量に含む。シルト質土粒子をやや多く含む。しまり良く硬い。粘性ある。
23	黒褐色土	As−C（φ2～3㎜）を少量含む。シルト質土粒子をやや多く含む。しまり良く硬い。粘性強い。
24	黒褐色土	As−C（φ2～3㎜）、シルト質土粒子をやや多く含む。しまり良く硬い。粘性ある。（地山黒褐色粘質土を含む）
25	黒褐色土	シルト質土ブロック（φ5～10㎜）及び粒子、砂岩ブロック（φ10～20㎜）をやや多く含む。しまり良く硬い。粘性ある。
26	黒褐色土	シルト質土ブロック（φ5～20㎜）及び粒子を多量に含む。しまり良く硬い。粘性ある。
27	黒褐色土	As−C（φ2～3㎜）をやや多く含む。焼土粒子，炭化粒子を少量含む。しまり良く硬い。粘性弱い。
28	黒褐色土	As−C（φ2～3㎜）をやや多く含む。しまり良く硬い。粘性弱い。
29	にぶい黄褐色土	シルト質土，黒褐色土を混入して堆積する。
30	黒褐色土	As−C（φ2～3㎜）、シルト質土粒子をやや多く含む。しまり良く硬い。粘性弱い。
31	黒褐色土	As−C（φ2～3㎜）、砂岩ブロック（φ2～10㎜）をやや多く含む。しまり良く硬い。粘性ややある。
32	黒褐色土	As−C（φ2～3㎜）、シルト質土粒子を少量含む。しまり良く硬い。粘性ある。
33	黒褐色土	シルト質土ブロック（φ5～50㎜）及び粒子を多量に含む。しまり良く硬い。粘性ある。

0　1：80　2m

Fig.45　草作Ⅴ・D−12・18号土坑



D－16号土坑
1　暗褐色土　擬灰岩質土ブロック（φ２～５㎜）及び粒子を多量に含む。砂岩ブロック（φ３～５㎜）をやや多く含む。しまり良く硬い。粘性ある。



D－20号土坑
1　黒褐色土　砂岩ブロック（φ２～５㎜）を多く含む。しまり良く硬い。粘性あり。
2　黒褐色土　砂岩ブロック（φ２～３㎜）を多量に含み、炭化物（φ２～３㎜）を中量含む。微砂をやや多く含む。しまり良く硬い。粘性あり。
3　黒褐色土　微砂をやや多く含む。しまり良く硬い。粘性あり。
4　黒褐色土　砂岩ブロック（φ２～５㎜）をやや多く含み、微砂を多く含む。しまり良く硬い。粘性あり。
5　黒褐色土　砂岩ブロック（φ２～10㎜）及び微砂を多量に含む。しまり良く硬い。粘性あり。
6　黒褐色土　砂岩ブロック（φ２～10㎜）をやや多く含み、微砂を多く含む。しまり良く硬い。粘性あり。

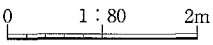
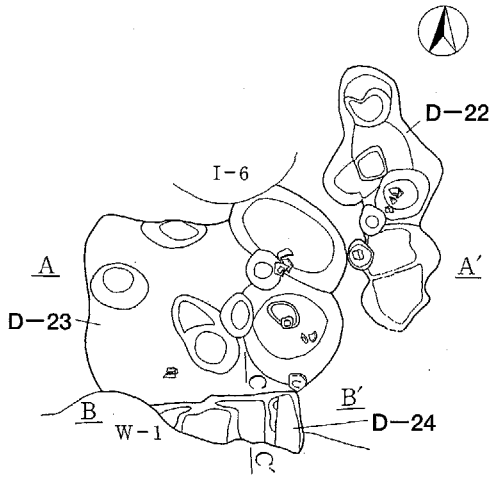
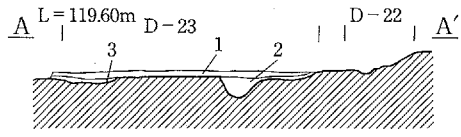
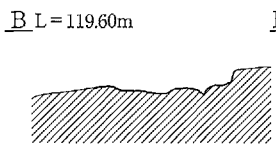
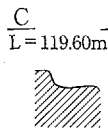


Fig.46　草作Ⅴ・D－16・20号土坑

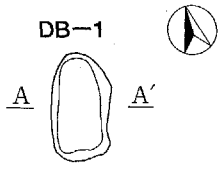


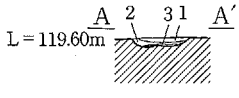




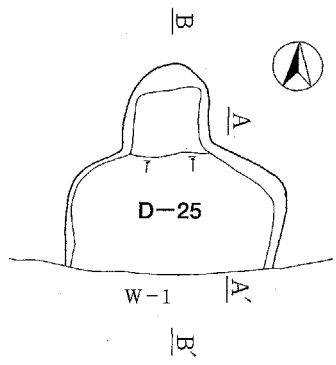


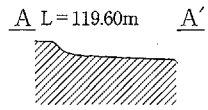
D−22・23号土坑
1　黒褐色土　砂岩ブロック（φ2～5㎜）及び粒子をやや多く含む。しまり良く硬い。粘性弱い。
2　黒褐色土　砂岩ブロック（φ2～10㎜）を多く含む。微砂をやや多く含む。しまり良く硬い。粘性ややある。
3　黒褐色土　砂岩ブロック（φ2～10㎜）、炭化物（φ2～5㎜）を多く含む。焼土粒子を少量含む。しまり良く硬い。粘性ややある。

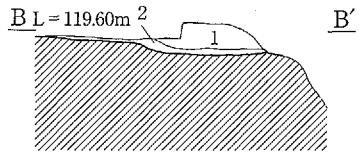




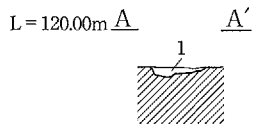
DB−1号土坑墓
1　黒褐色土　砂岩ブロック（φ2～5㎜）をやや多く含む。しまり良い。粘性ある。
2　黒褐色土　砂岩粒子を少量含む。しまりよく硬い。粘性ある。
3　黒色土　　層厚1～5㎜。しまり良い。粘性強い。







D−25号土坑
1　黒褐色土　微砂をやや多く含む。しまりよく硬い。粘性ややある。
2　黒褐色土　微砂を多く含む。しまりよく硬い。粘性ある。



1号火葬跡
1　黒褐色土　炭化物を多量に含む。焼骨を含む。しまりよく硬い。粘性強い。

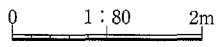


Fig.47　草作Ⅴ・D−22～25号土坑、DB−1号土坑墓、1号火葬跡

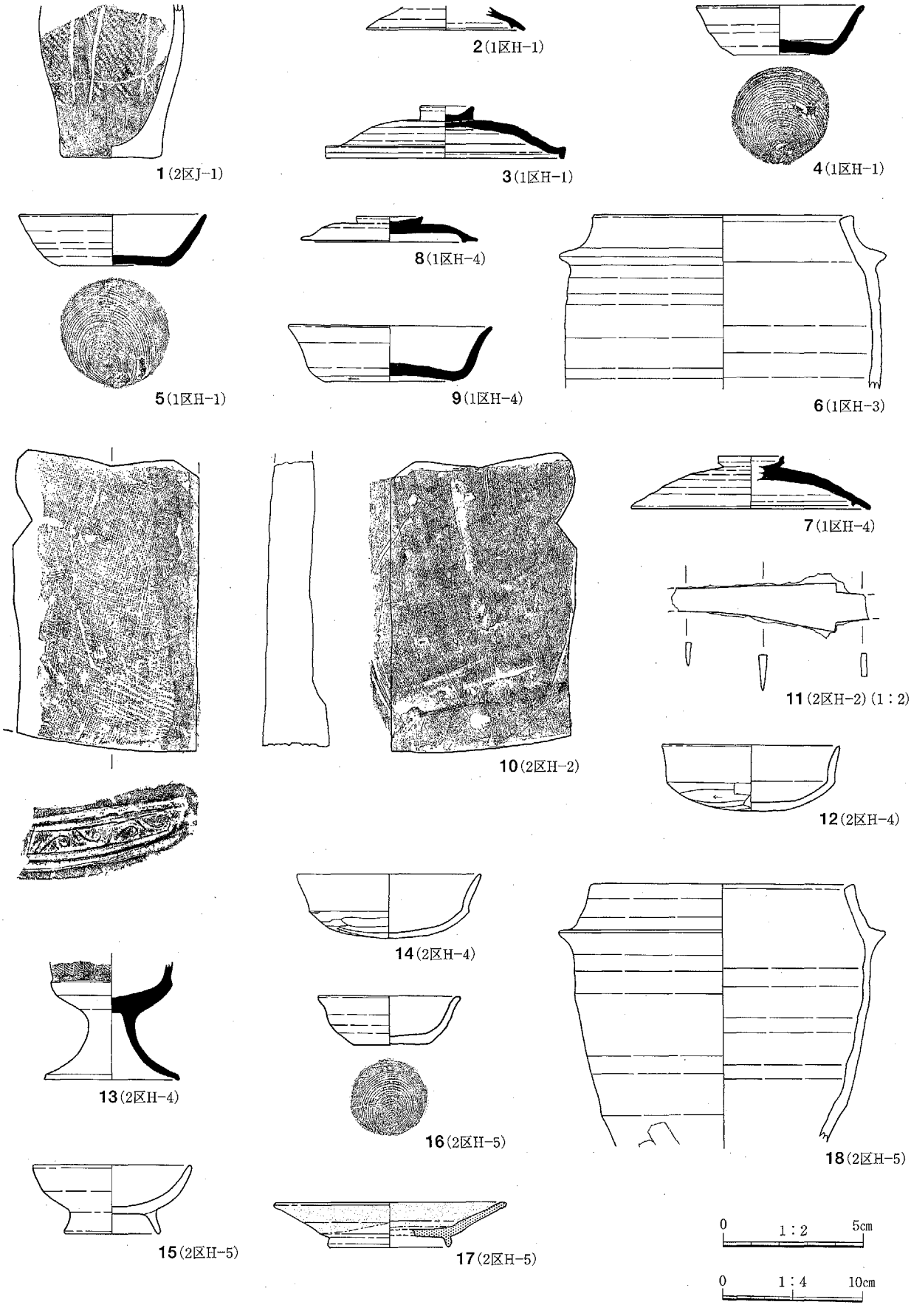


Fig.48　小見Ⅲ・２区Ｊ－１号住居跡、１区Ｈ－１・３・４号住居跡、２区Ｈ－２・４・５号住居跡出土遺物

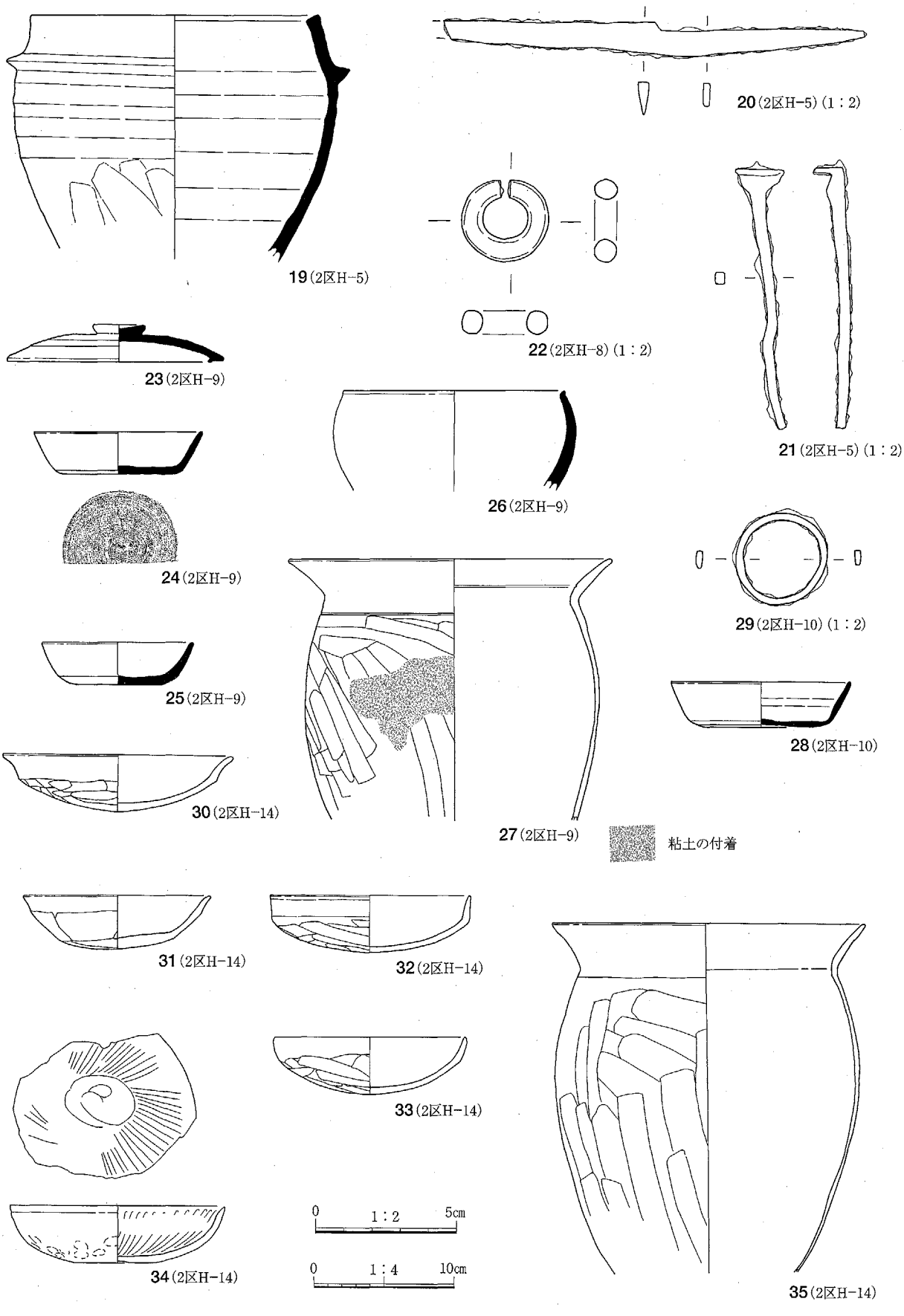


Fig.49　小見Ⅲ・２区Ｈ－５・８・９・10・14号住居跡出土遺物

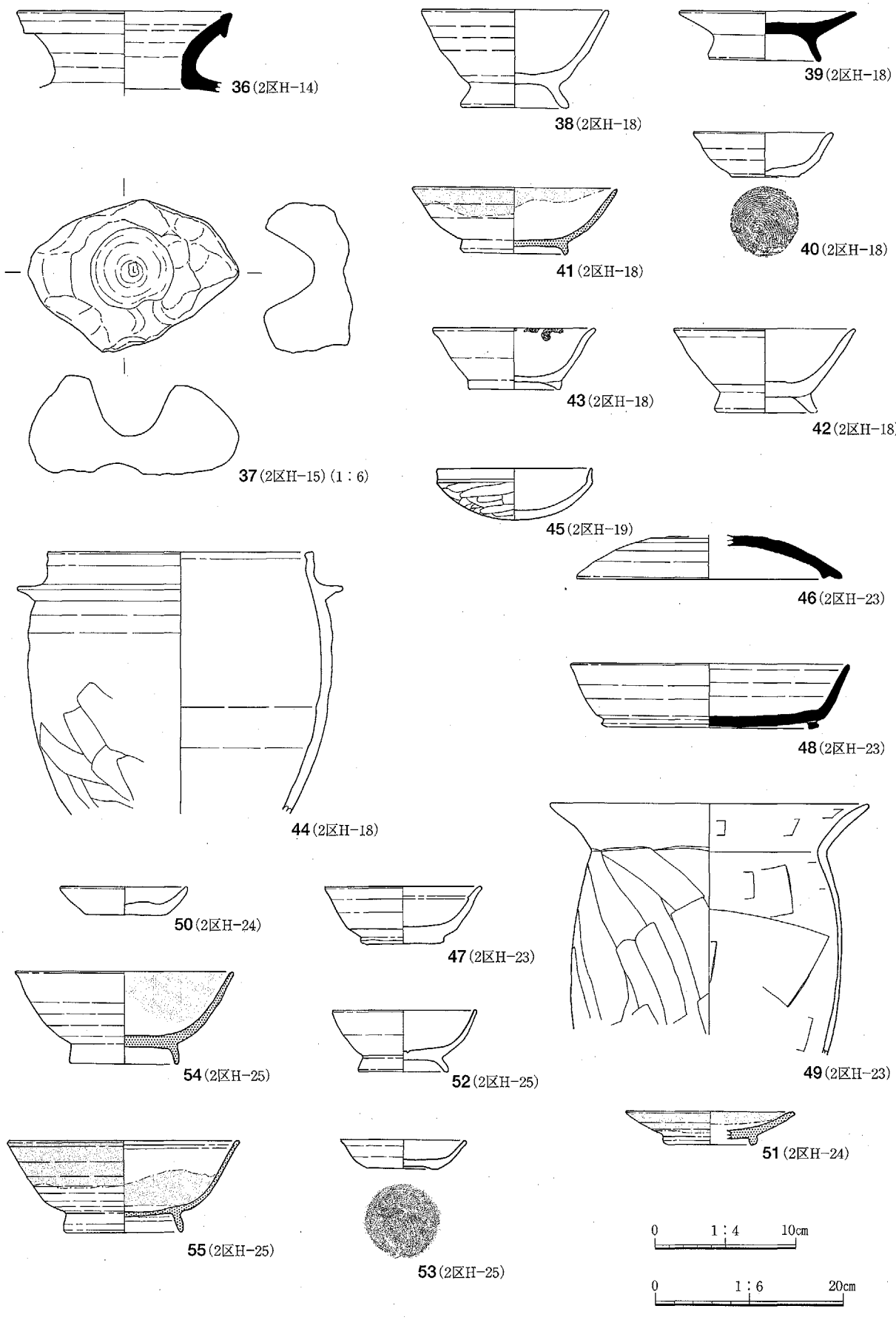


Fig.50 小見Ⅲ・2区H－14・15・18・19・23・24・25号住居跡出土遺物

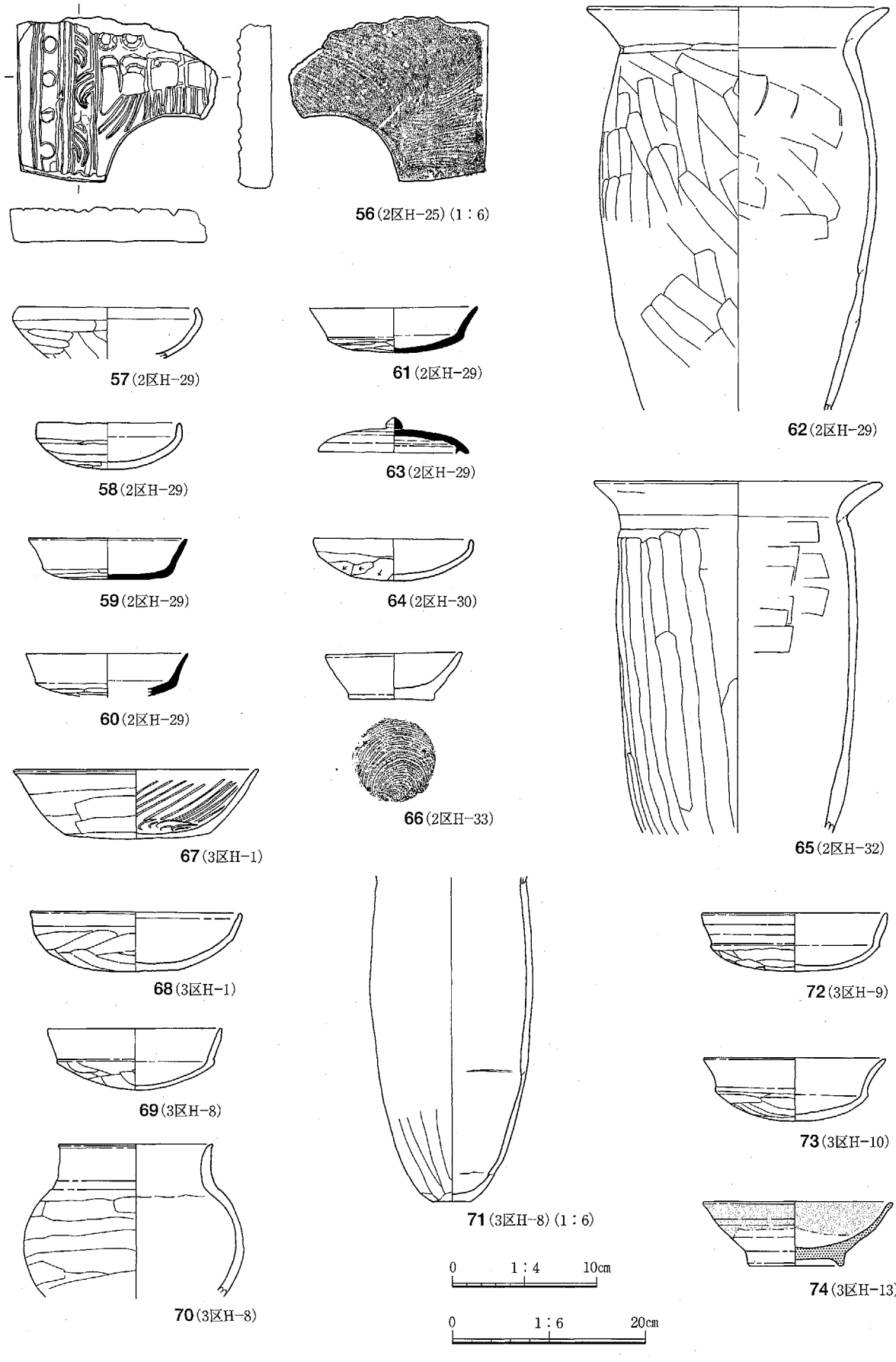


Fig.51　小見Ⅲ・2区H−25・29・30・32・33号住居跡、3区H−1・8〜10・13号住居跡出土遺物

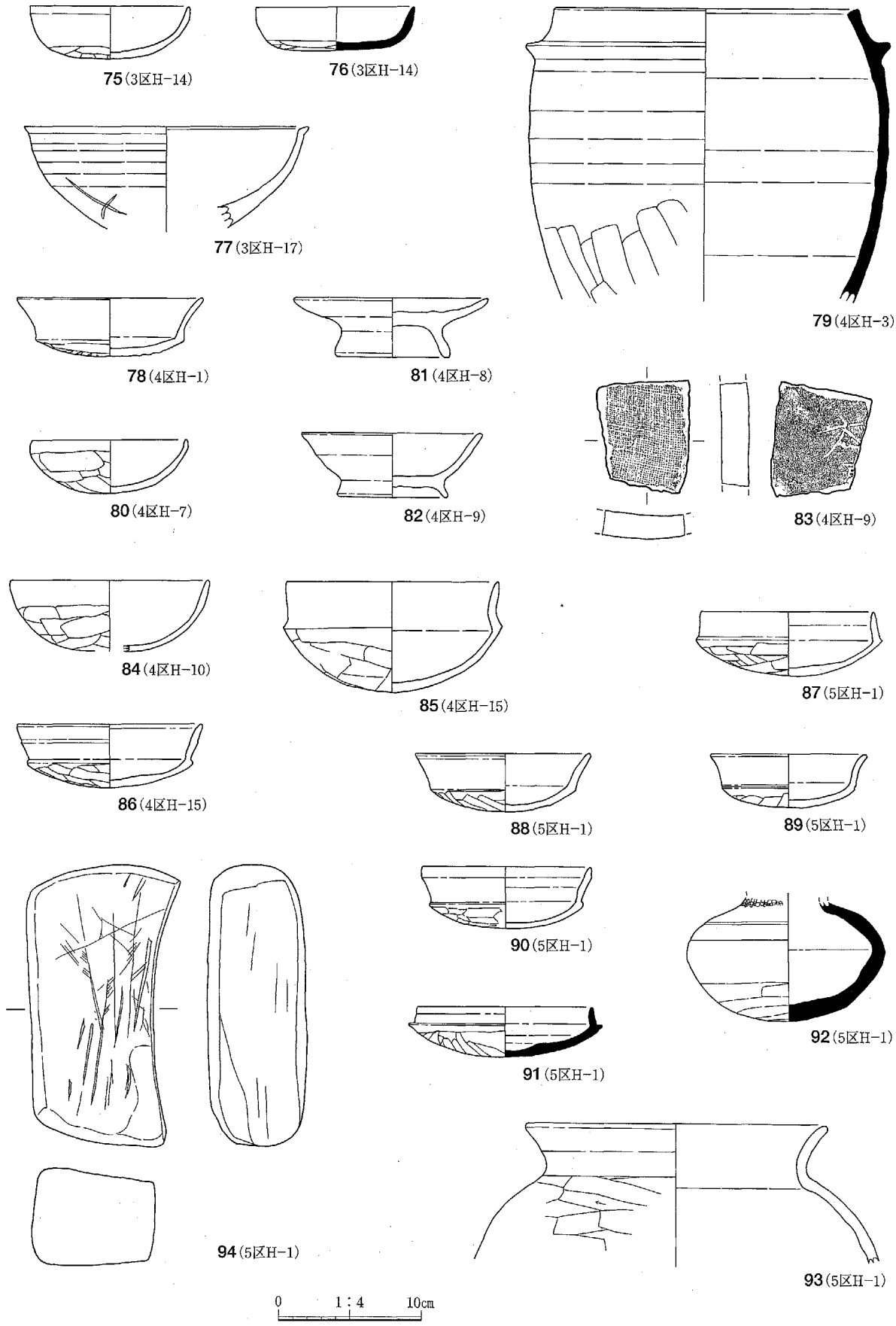


Fig.52 小見Ⅲ・3区H－14・17号住居跡、4区H－1・3・7～10・15号住居跡、
5区H－1号住居跡出土遺物

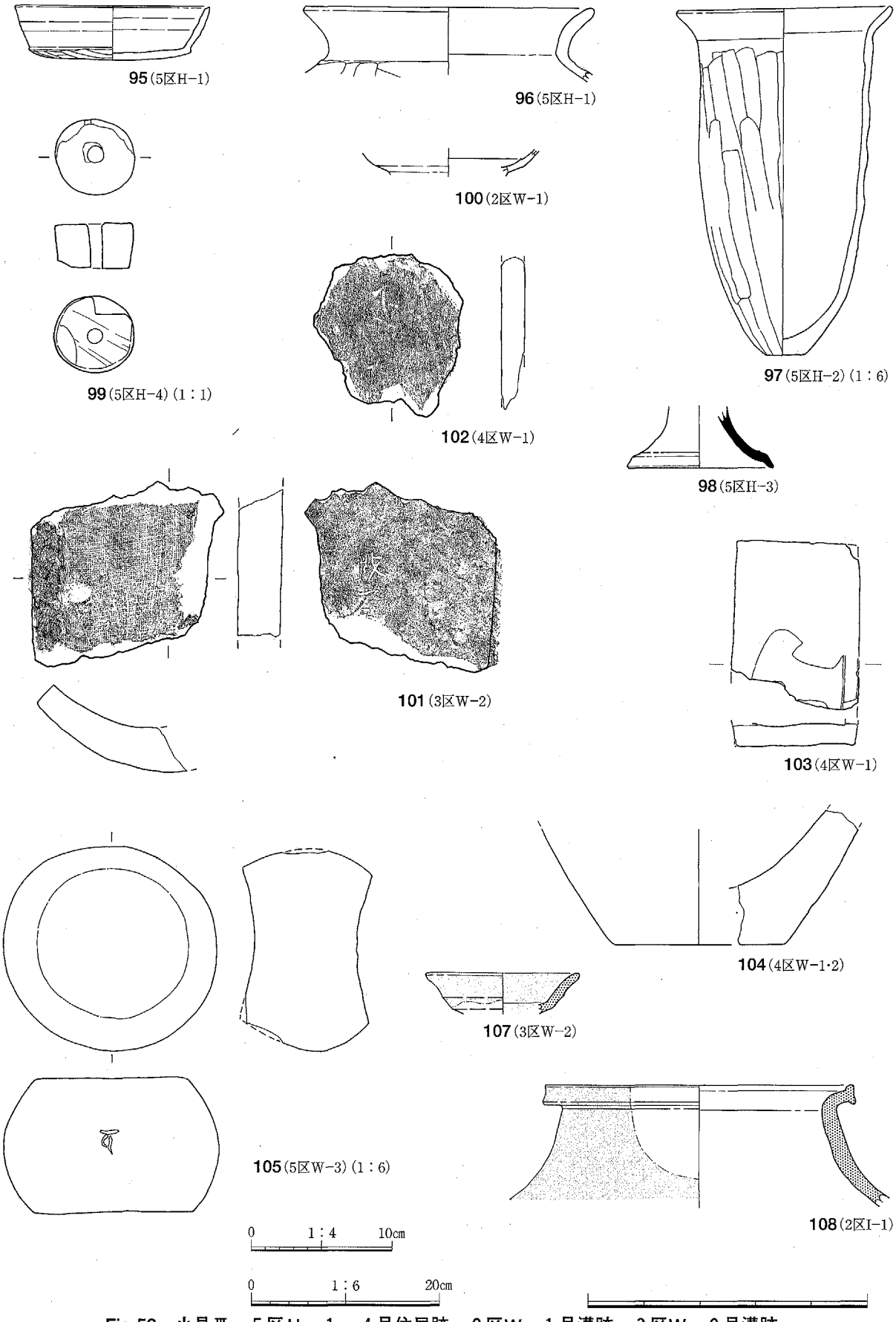


Fig.53 小見Ⅲ・5区H－1～4号住居跡、2区W－1号溝跡、3区W－2号溝跡、4区W－1・2号溝跡、5区W－3号溝跡、2区Ⅰ－1号井戸跡出土遺物

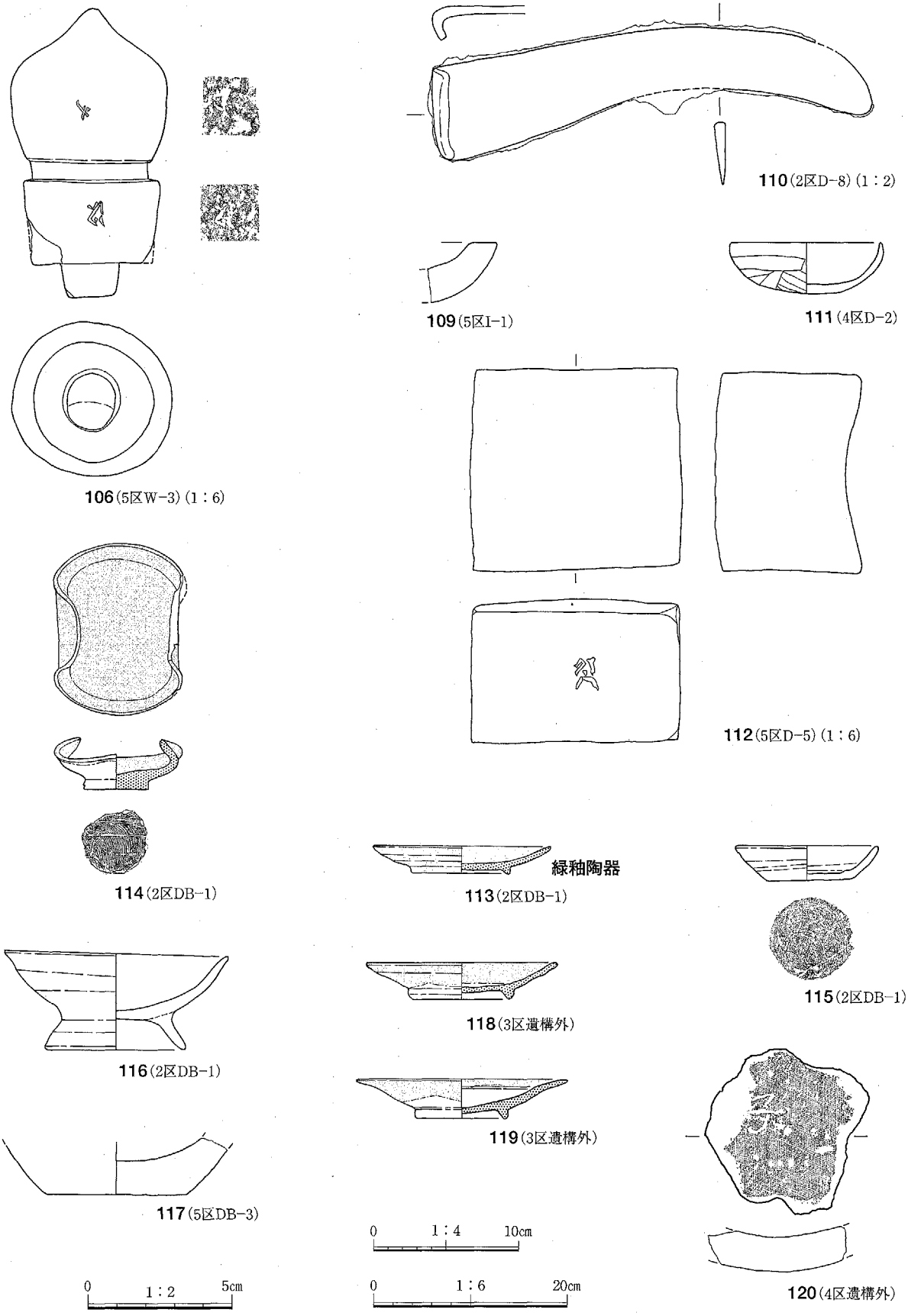


Fig.54　小見Ⅲ・5区W－3号溝跡、5区Ⅰ－1号井戸跡、2区D－8号土坑、4区D－2号土坑、5区D－5号土坑、2区DB－1号土坑墓、5区DB－3号土坑墓、3区遺構外、4区遺構外出土遺物

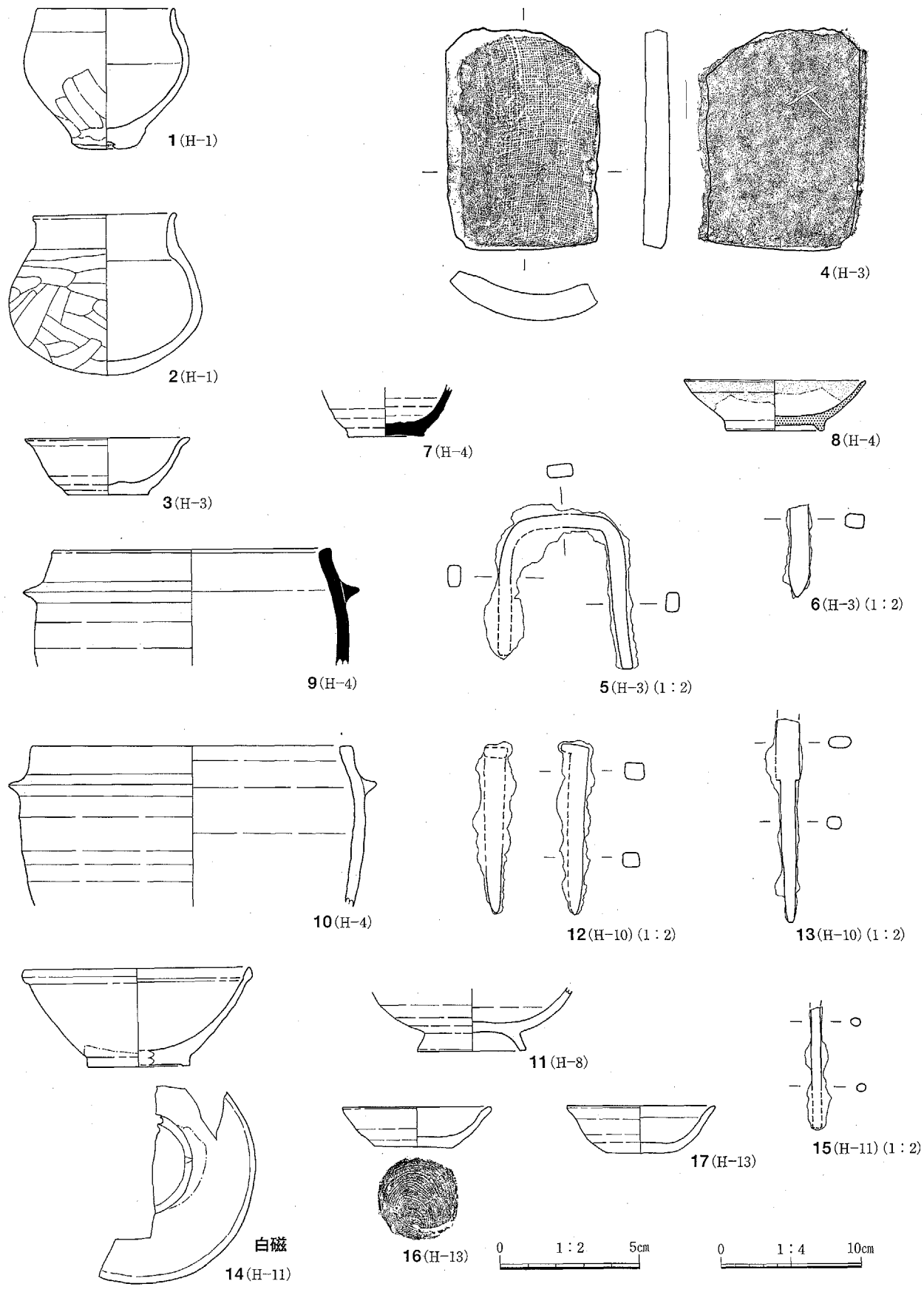


Fig.55 草作Ⅴ・H－1・3・4・8・10・11・13号住居跡出土遺物

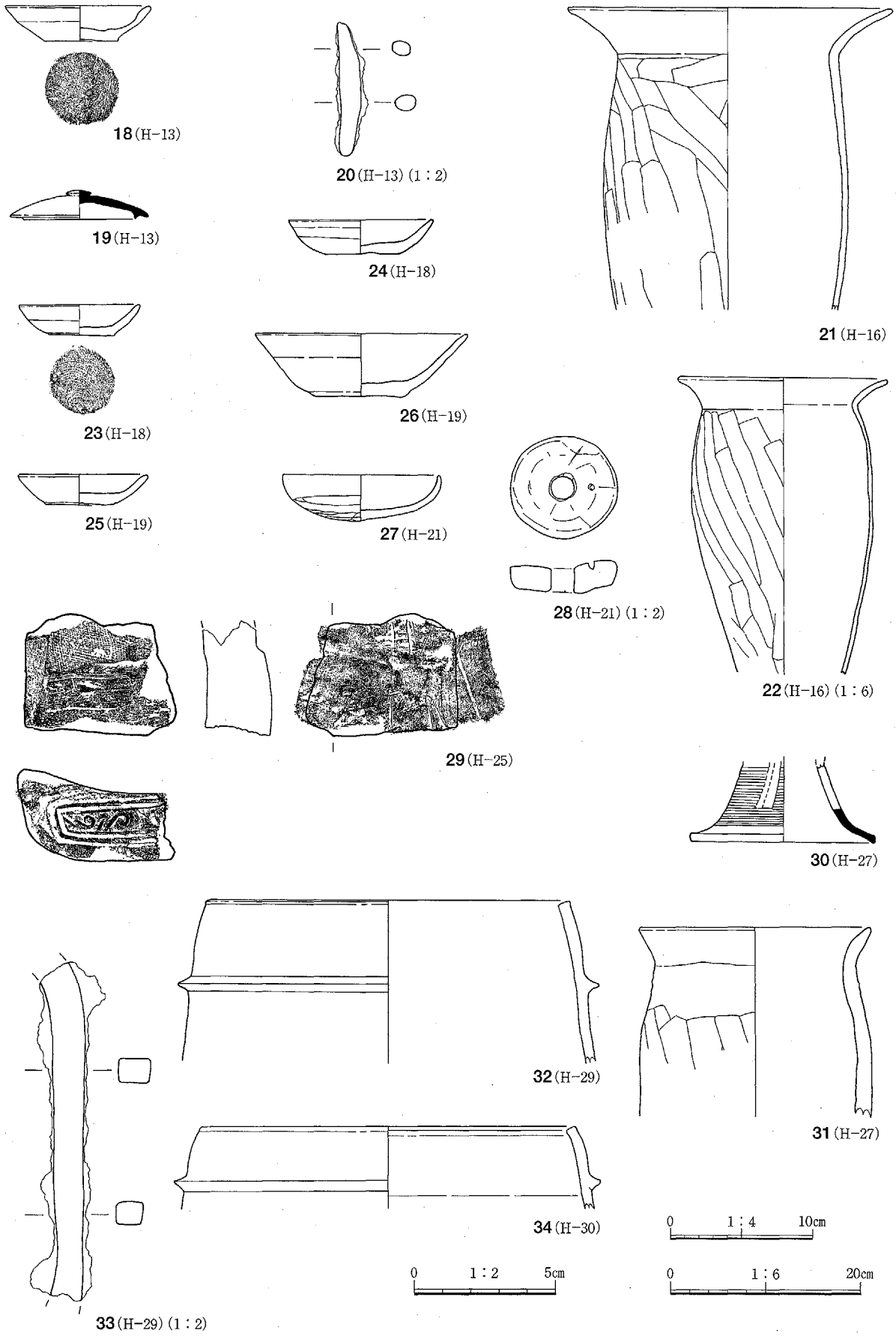


Fig.56 草作Ⅴ・H－13・16・18・19・21・25・27・29・30号住居跡出土遺物

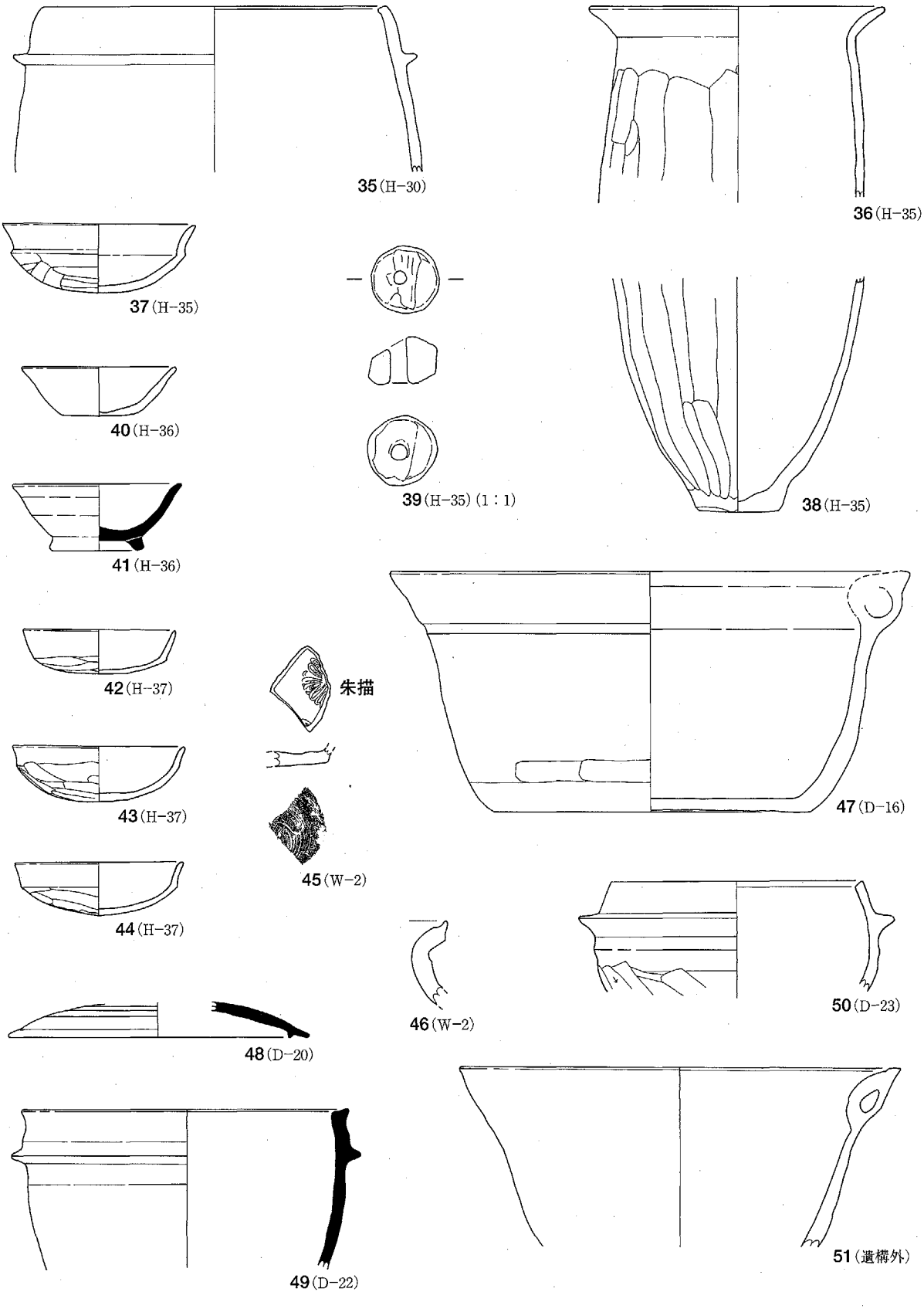
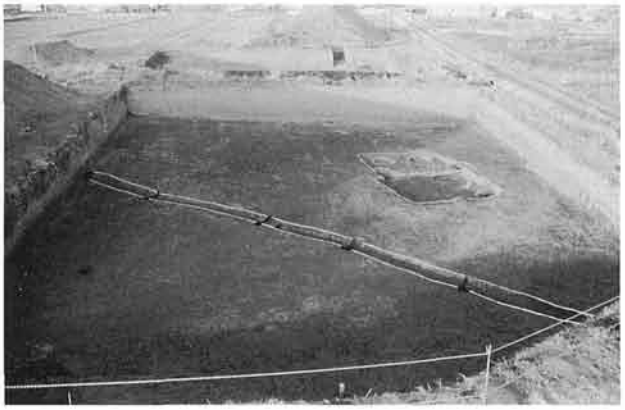


Fig.57　草作Ⅴ・H－30・35～37号住居跡、W－2号溝跡、D－16・20・22・23号土坑、遺構外出土遺物



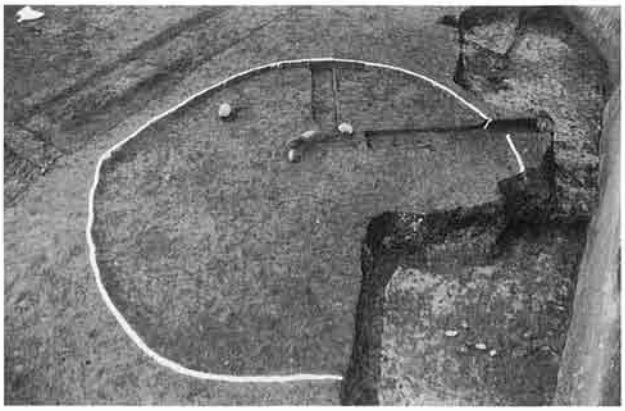
小見Ⅲ・１区全景（南から）

小見Ⅲ・２区全景（南から）

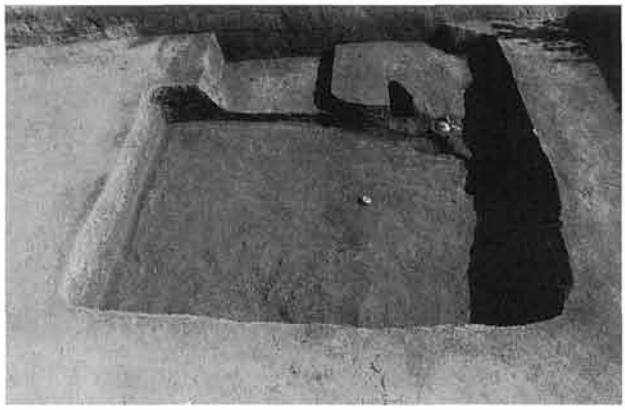
小見Ⅲ・３区全景（南から）

小見Ⅲ・４区全景（南から）

小見Ⅲ・５区全景（南から）



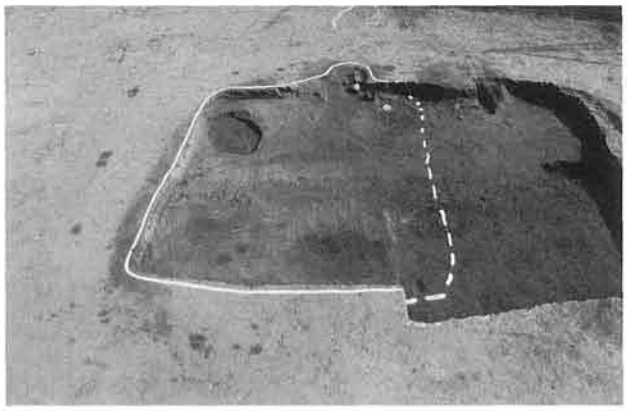
小見Ⅲ・２区Ｊ－１号住居跡全景（南から）



小見Ⅲ・１区Ｈ－１号住居跡全景（西から）

小見Ⅲ・１区Ｈ－２号住居跡全景（北から）

PL.2



小見Ⅲ・１区Ｈ－３号住居跡全景（西から）

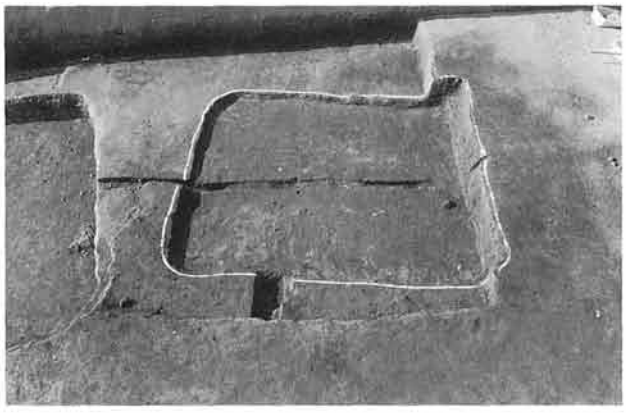
小見Ⅲ・１区Ｈ－４号住居跡全景（西から）

小見Ⅲ・２区Ｈ－２号住居跡全景（西から）

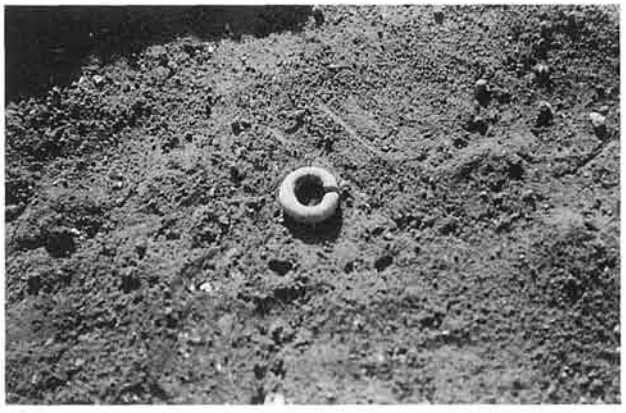
小見Ⅲ・２区Ｈ－４号住居跡全景（東から）

小見Ⅲ・２区Ｈ－４号住居跡竈全景（西から）

小見Ⅲ・２区Ｈ－５号住居跡全景（西から）



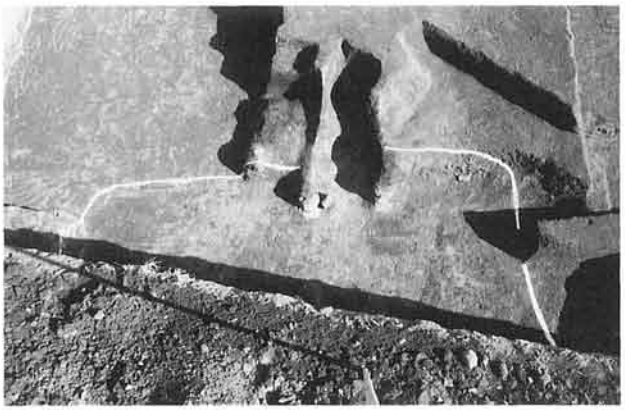
小見Ⅲ・２区Ｈ－８号住居跡全景（東から）



小見Ⅲ・２区Ｈ－８号住居跡出土耳環出土状況（南から）

小見Ⅲ・２区Ｈ－９号住居跡全景（北から）

小見Ⅲ・２区Ｈ－９号住居跡竈全景（西から）



小見Ⅲ・２区Ｈ－10号住居跡全景（西から）

小見Ⅲ・２区Ｈ－14号住居跡全景（西から）

小見Ⅲ・２区Ｈ－15号住居跡全景（西から）

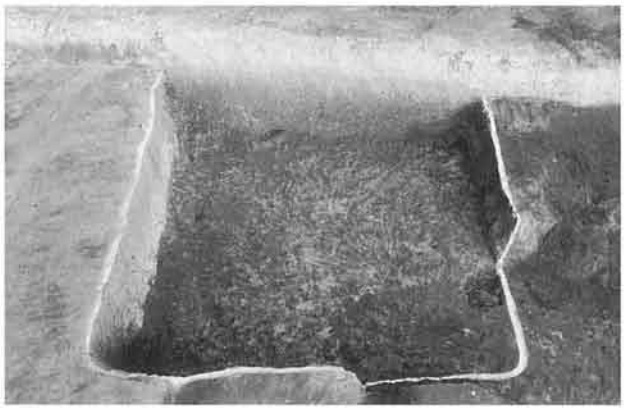
小見Ⅲ・２区Ｈ－16号住居跡全景（北から）

小見Ⅲ・２区Ｈ－17号住居跡全景（西から）

小見Ⅲ・２区Ｈ－18号住居跡遺物出土状況（西から）

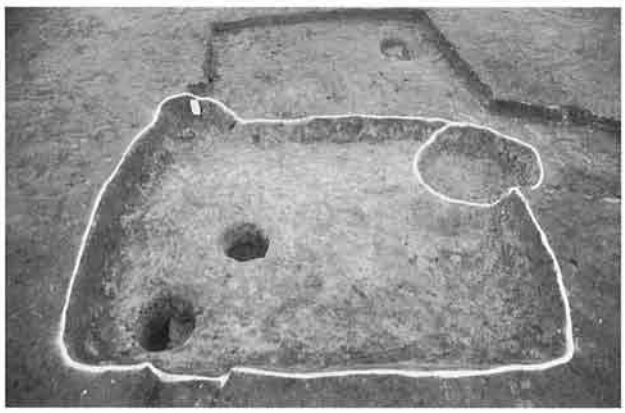
PL.4

小見Ⅲ・２区Ｈ－18号住居跡全景（西から）

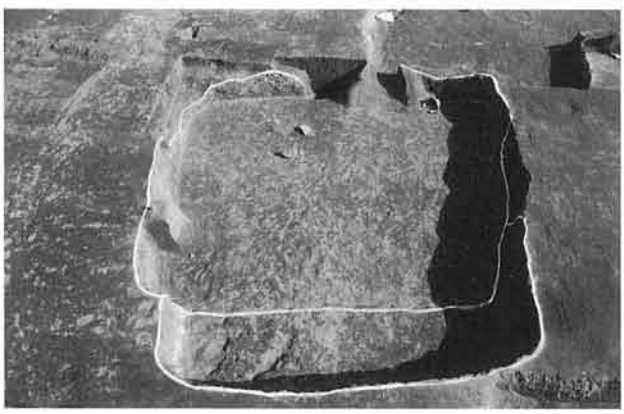


小見Ⅲ・２区Ｈ－19号住居跡全景（西から）

小見Ⅲ・２区Ｈ－21号住居跡全景（西から）



小見Ⅲ・２区Ｈ－22号住居跡全景（東から）



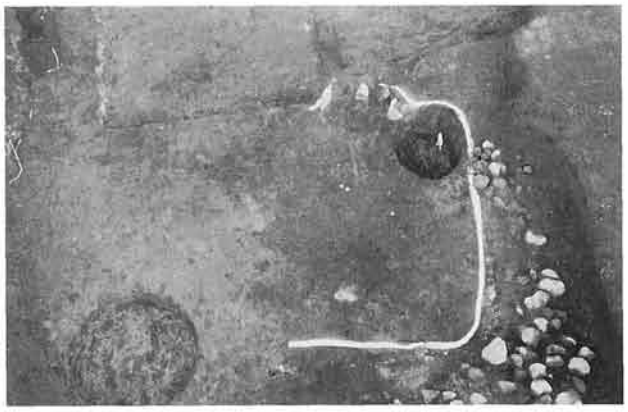
小見Ⅲ・２区Ｈ－23・35号住居跡全景（西から）

小見Ⅲ・２区Ｈ－24号住居跡全景（西から）

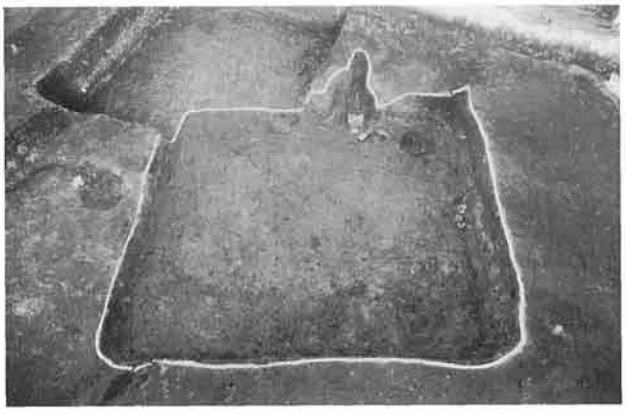
小見Ⅲ・２区Ｈ－25号住居跡出土遺物（西から）

小見Ⅲ・２区Ｈ－25号住居跡全景（西から）

小見Ⅲ・２区Ｈ－26・30・31・34・36号住居跡全景（南から）

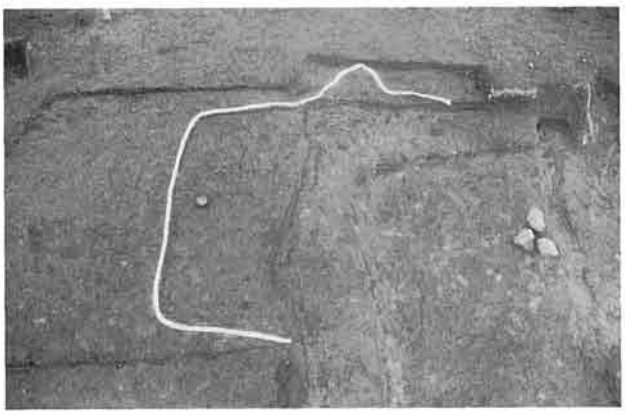


小見Ⅲ・２区Ｈ－27号住居跡全景（西から）



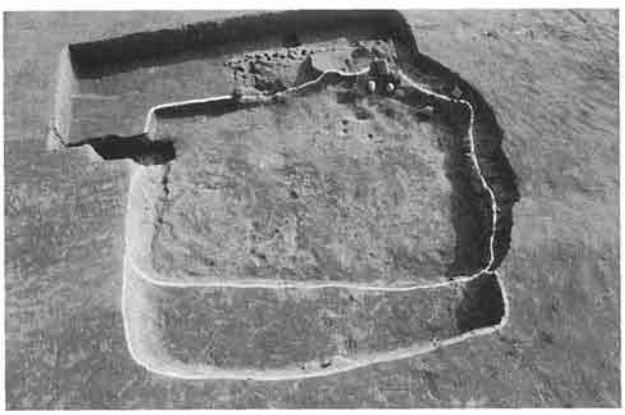
小見Ⅲ・２区Ｈ－29号住居跡全景（南西から）

小見Ⅲ・２区Ｈ－32号住居跡全景（南西から）



小見Ⅲ・２区Ｈ－33号住居跡全景（西から）

小見Ⅲ・３区Ｈ－１号住居跡全景（西から）

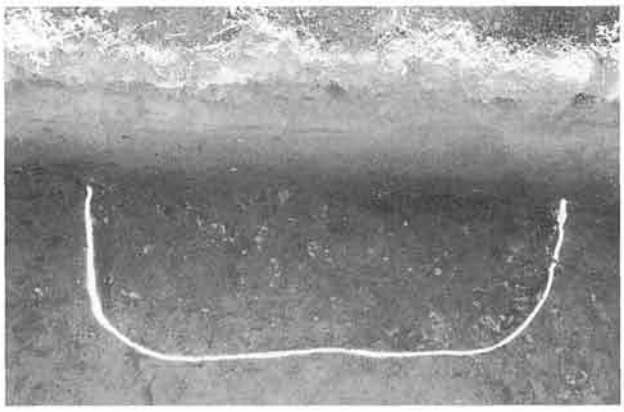


小見Ⅲ・３区Ｈ－２・３号住居跡全景（西から）

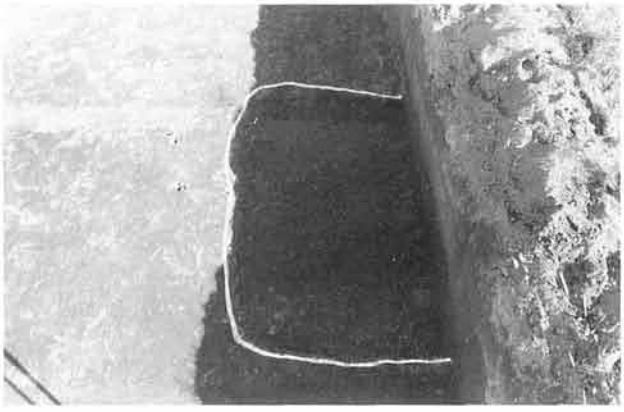
小見Ⅲ・３区Ｈ－４号住居跡全景（北から）

PL.6

小見Ⅲ・3区H－5号住居跡全景（西から）



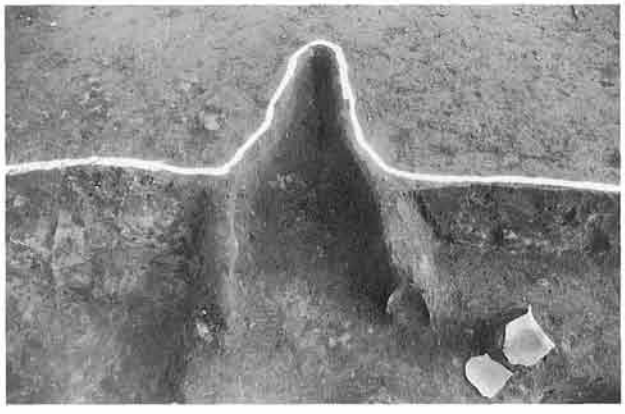
小見Ⅲ・3区H－6号住居跡全景（北から）



小見Ⅲ・3区H－7号住居跡全景（西から）

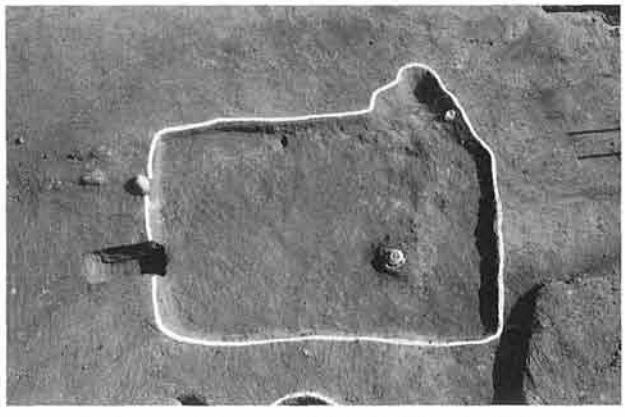
小見Ⅲ・3区H－8号住居跡全景（西から）

小見Ⅲ・3区H－9号住居跡全景（西から）



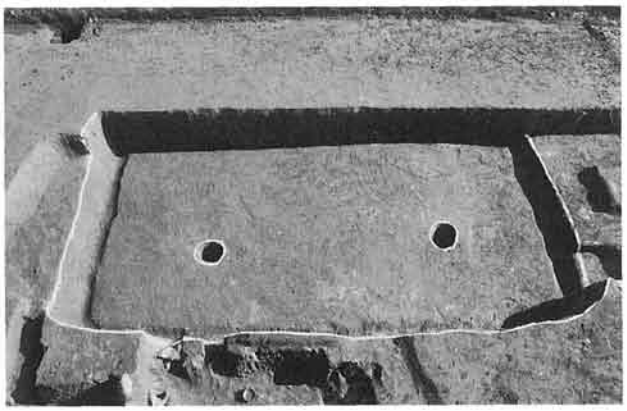
小見Ⅲ・3区H－9号住居跡竈全景（西から）

小見Ⅲ・3区H－11号住居跡全景（西から）

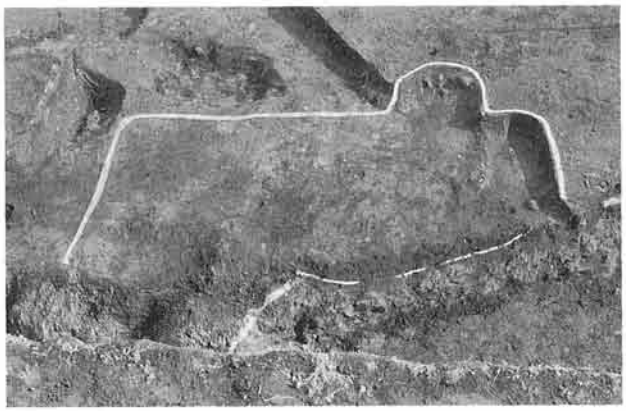


小見Ⅲ・3区H－13号住居跡全景（西から）

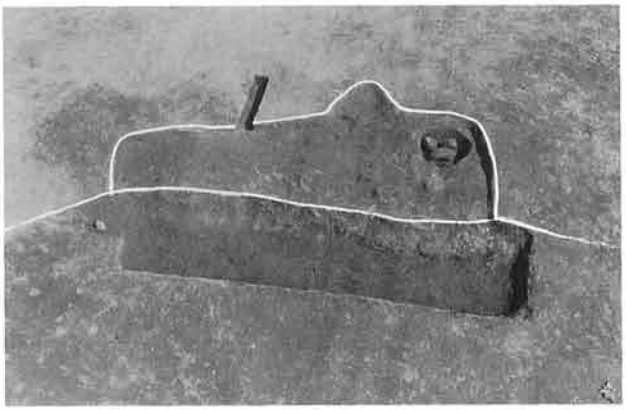
小見Ⅲ・３区Ｈ－14号住居跡全景（西から）



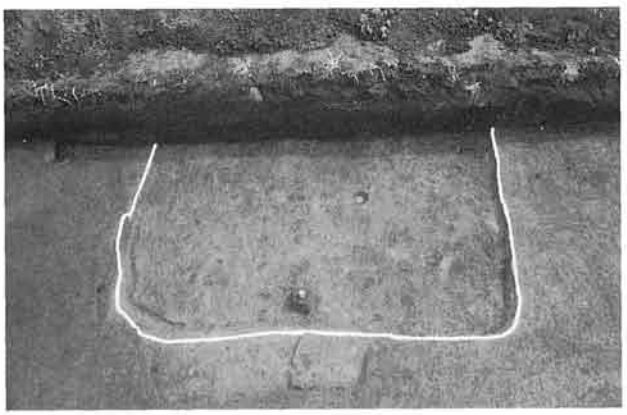
小見Ⅲ・３区Ｈ－15号住居跡全景（西から）



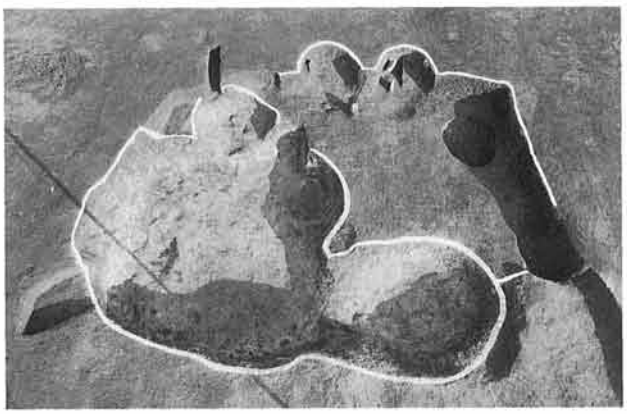
小見Ⅲ・３区Ｈ－17号住居跡全景（西から）



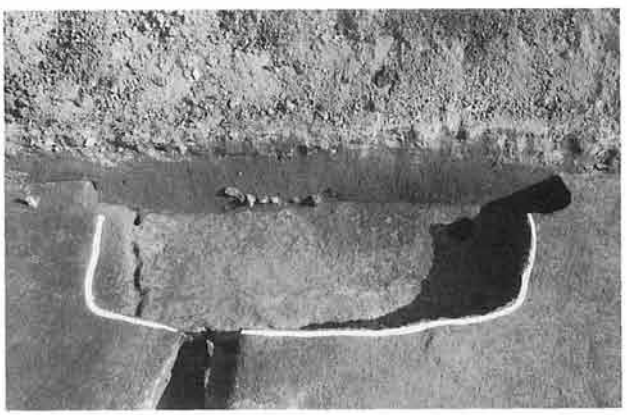
小見Ⅲ・４区Ｈ－１号住居跡全景（西から）



小見Ⅲ・４区Ｈ－２号住居跡全景（西から）



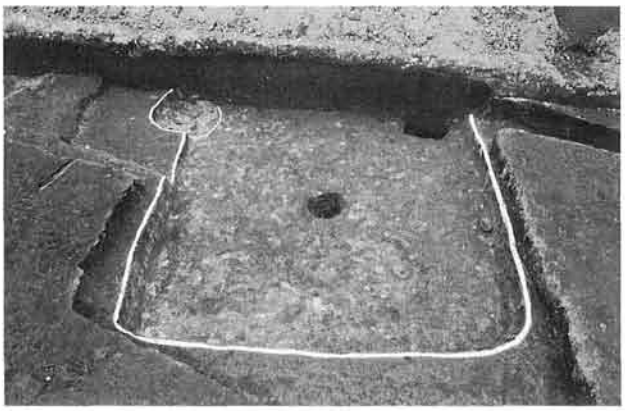
小見Ⅲ・４区Ｈ－３号住居跡全景（西から）



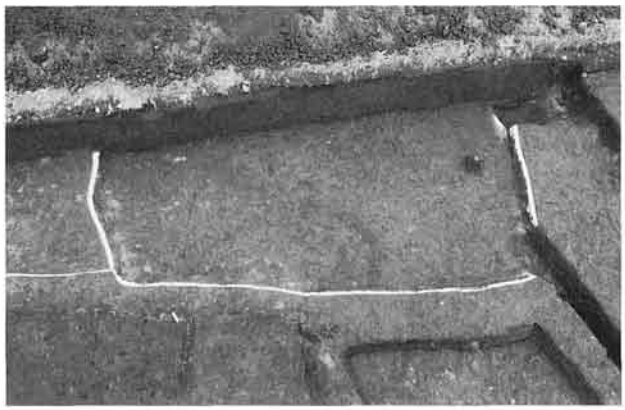
小見Ⅲ・４区Ｈ－５号住居跡全景（西から）

小見Ⅲ・４区Ｈ－６号住居跡全景（西から）

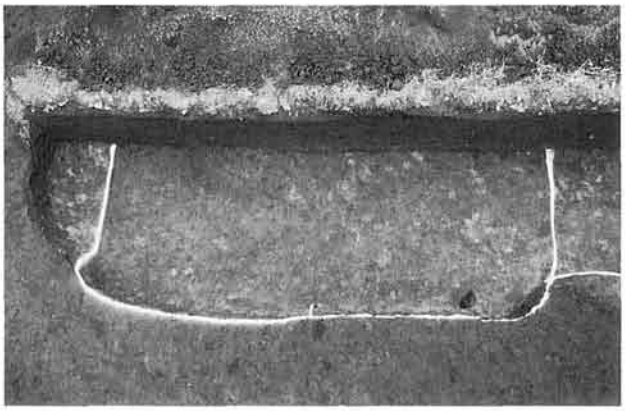
PL.8



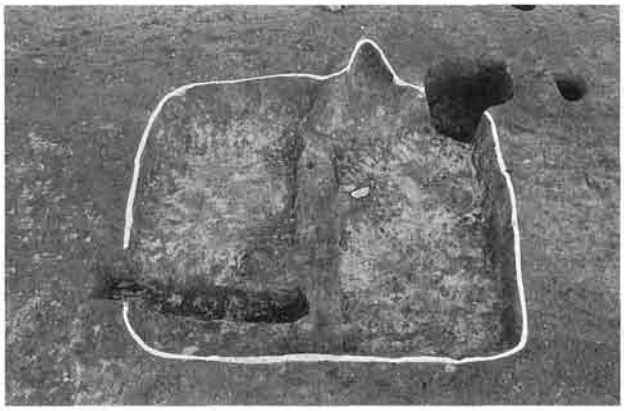
小見Ⅲ・4区H－7号住居跡全景（西から）



小見Ⅲ・4区H－8号住居跡全景（西から）

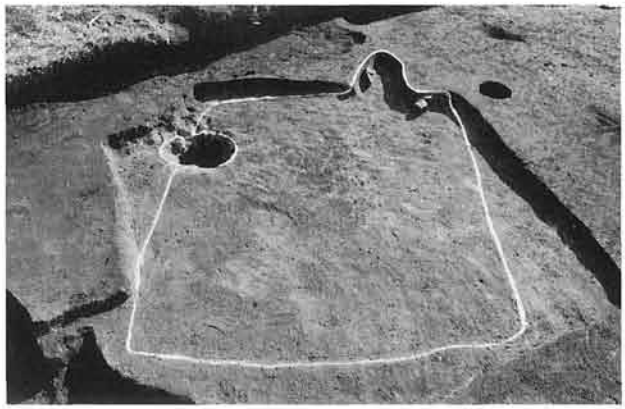


小見Ⅲ・4区H－9号住居跡全景（西から）

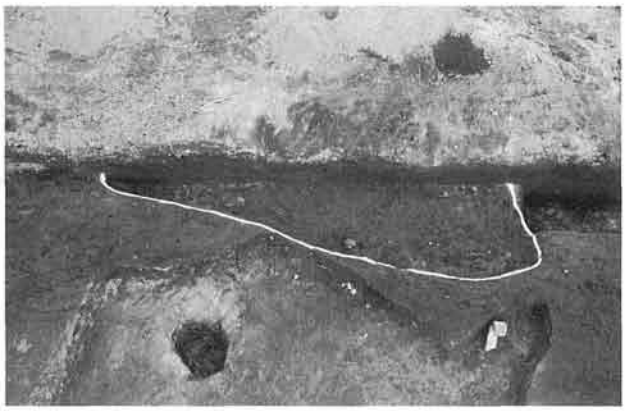


小見Ⅲ・4区H－10号住居跡全景（西から）

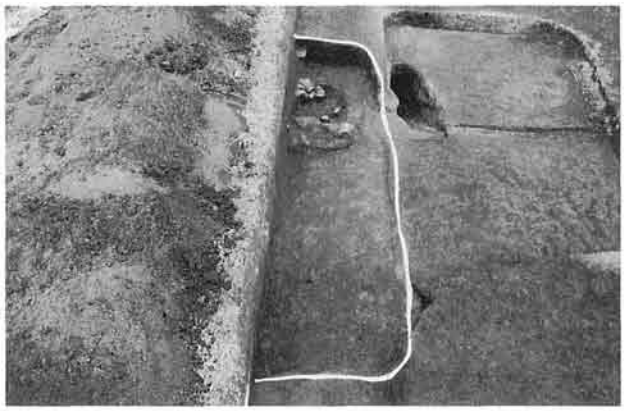
小見Ⅲ・4区H－12号住居跡全景（西から）



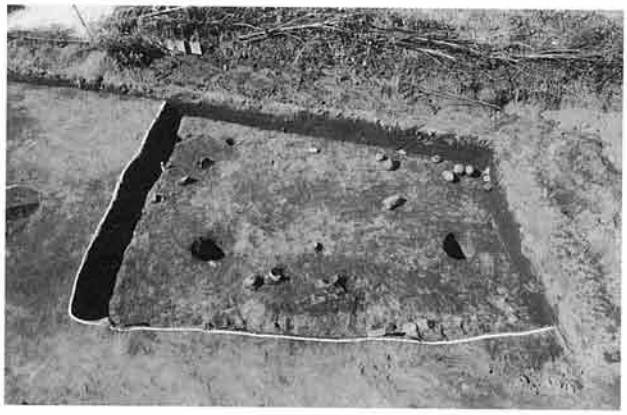
小見Ⅲ・4区H－13号住居跡全景（北西から）



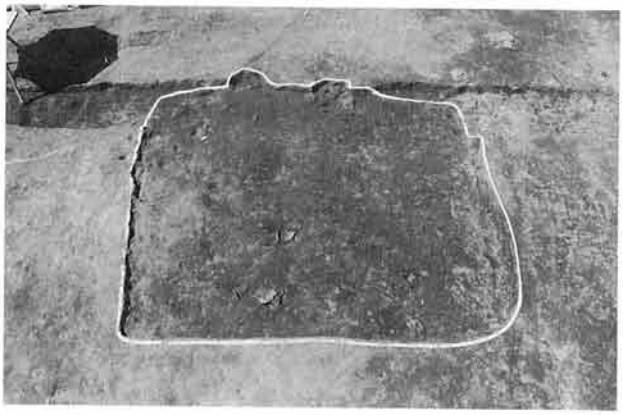
小見Ⅲ・4区H－14号住居跡全景（西から）



小見Ⅲ・4区H－18号住居跡全景（南から）

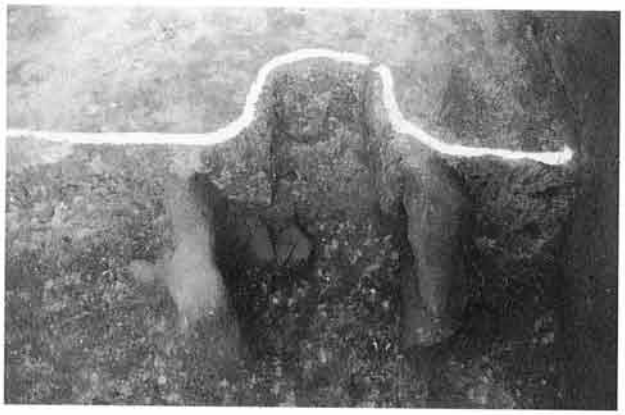


小見Ⅲ・５区Ｈ－１号住居跡全景（南から）



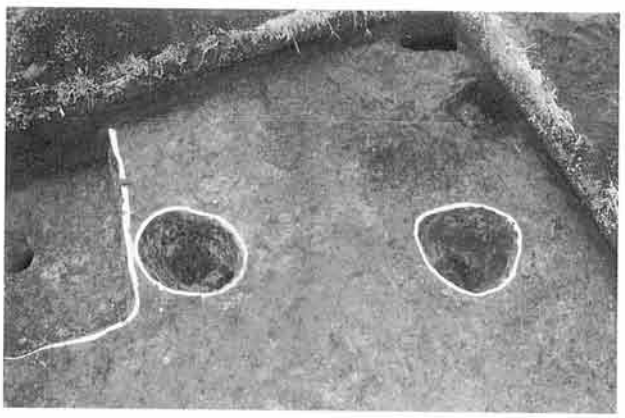
小見Ⅲ・５区Ｈ－２号住居跡全景（東から）

小見Ⅲ・５区Ｈ－３号住居跡全景（西から）



小見Ⅲ・５区Ｈ－３号住居跡竈全景（西から）

小見Ⅲ・５区Ｈ－４号住居跡全景（西から）



小見Ⅲ・４区Ｂ－１号柱穴列全景（南東から）

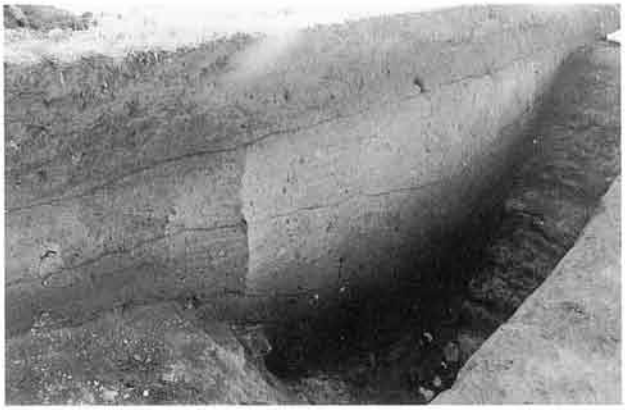
小見Ⅲ・３区Ｗ－１号溝跡Ｂトレンチセクション（東から）

小見Ⅲ・３区Ｗ－１号溝跡Ｄトレンチセクション（南から）

PL.10

小見Ⅲ・3区W－3号溝跡Aトレンチセクション（西から）

小見Ⅲ・3区W－3号溝跡Bトレンチセクション（西から）



小見Ⅲ・4区W－1号溝跡Bトレンチセクション（南東から）

小見Ⅲ・4区W－1・2号溝跡礫出土状況（東から）

小見Ⅲ・5区W－3号溝跡Aトレンチ（北から）

小見Ⅲ・5区W－3号溝跡Bトレンチ道路面（北西から）

小見Ⅲ・5区W－3号溝跡Bトレンチ道路面近景（東から）

小見Ⅲ・5区Ⅰ－2号井戸跡全景（南から）

小見Ⅲ・２区Ｄ－８号土坑全景（東から）

小見Ⅲ・３区Ｄ－１号土坑全景（西から）

小見Ⅲ・４区Ｄ－１号土坑遺物出土状況（南から）

小見Ⅲ・５区Ｄ－５号土坑遺物出土状況（西から）

小見Ⅲ・２区ＤＢ－１号土坑墓遺物出土状況（南西から）

小見Ⅲ・２区ＤＢ－１号土坑墓セクション（西から）

小見Ⅲ・５区ＤＢ－２号土坑墓人骨出土状況（南から）

小見Ⅲ・４区S－１集石セクション（南から）

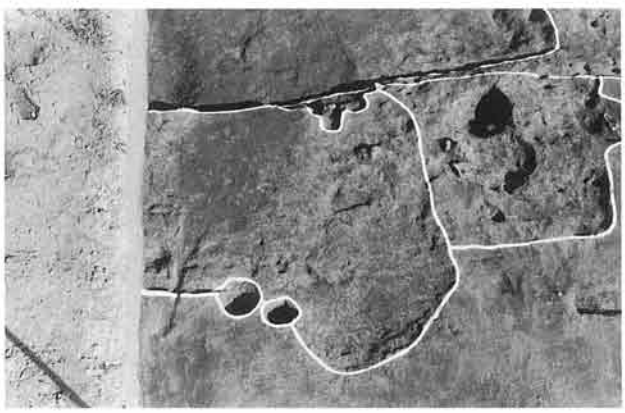
ＰＬ.12

小見Ⅲ・４区S－１集石礫出土状況（南から）

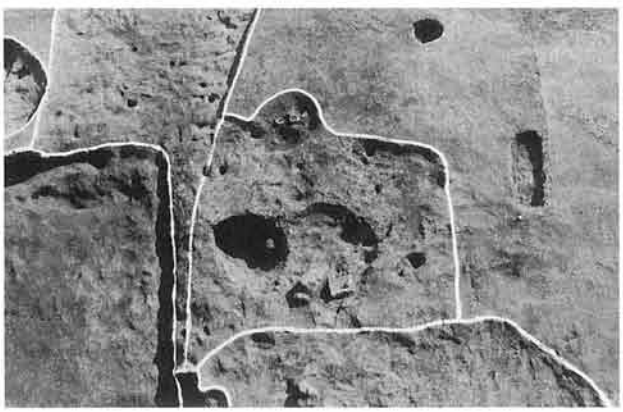
草作Ⅴ・全景（北から）

草作Ⅴ・全景（南部）（北から）

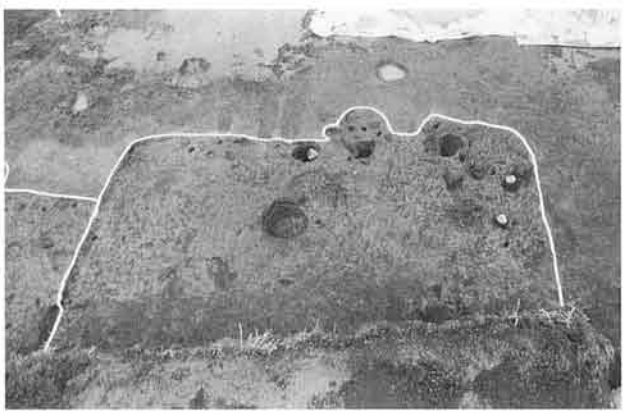
草作Ⅴ・Ｈ－１号住居跡全景（西から）



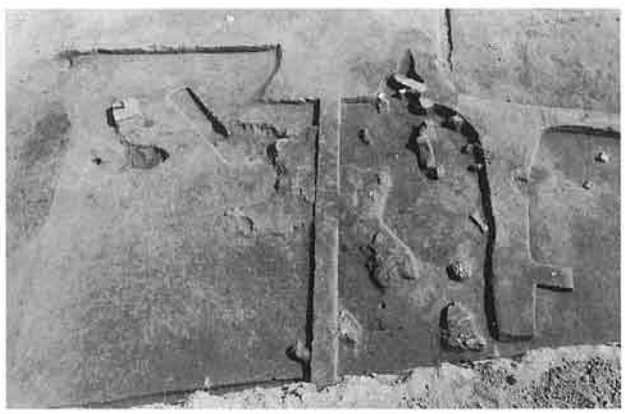
草作Ⅴ・Ｈ－２号住居跡全景（西から）



草作Ⅴ・Ｈ－３号住居跡全景（北から）



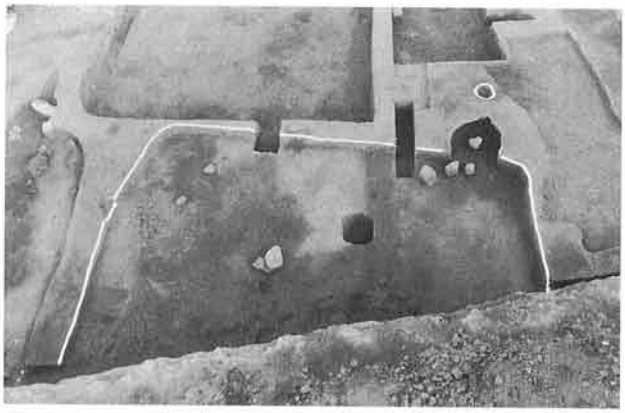
草作Ⅴ・Ｈ－４号住居跡全景（西から）



草作Ⅴ・Ｈ－11号住居跡炭化物出土状況（西から）

草作Ⅴ・Ｈ－11号住居跡竈全景（西から）

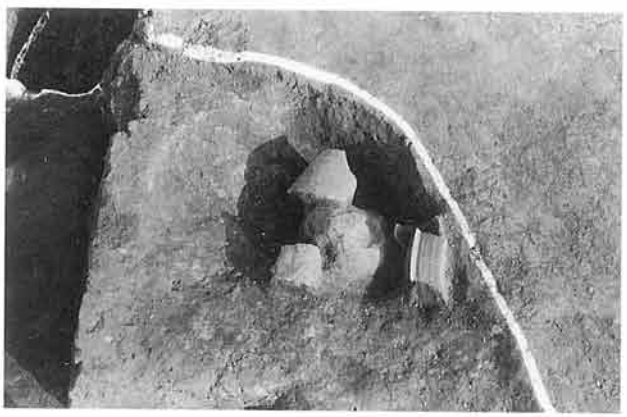
草作Ⅴ・Ｈ－11号住居跡白磁椀出土状況（西から）



草作Ⅴ・Ｈ－12号住居跡全景（西から）

草作Ⅴ・Ｈ－13号住居跡竈遺物出土状況（西から）

草作Ⅴ・Ｈ－13号住居跡全景（西から）

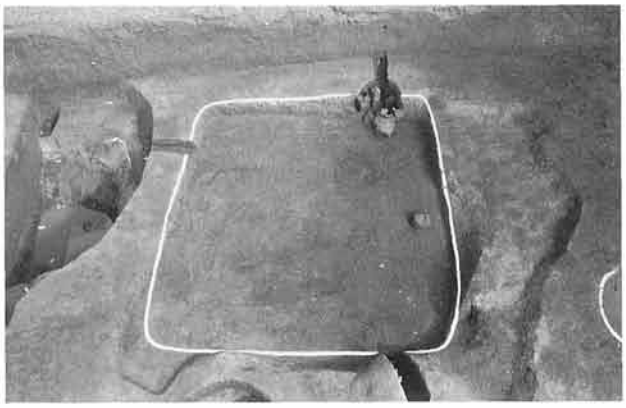


草作Ⅴ・Ｈ－14号住居跡遺物出土状況（西から）

草作Ⅴ・Ｈ－16号住居跡竈遺物出土状況（南西から）

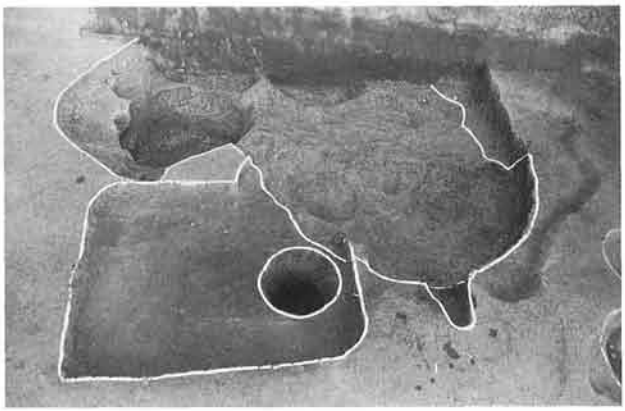
草作Ⅴ・Ｈ－16号住居跡全景（南西から）

PL.14

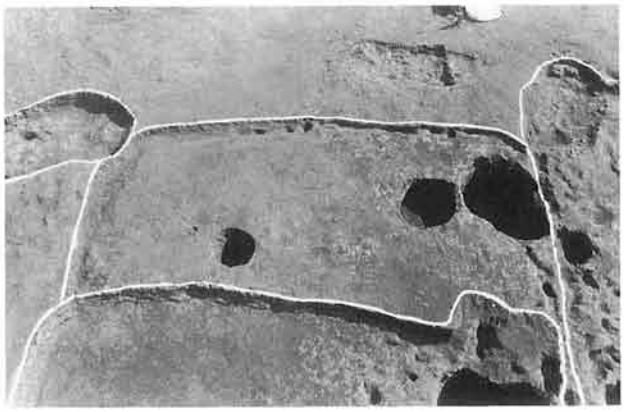


草作V・H－19号住居跡全景（西から）

草作V・H－19号住居跡竈全景（西から）

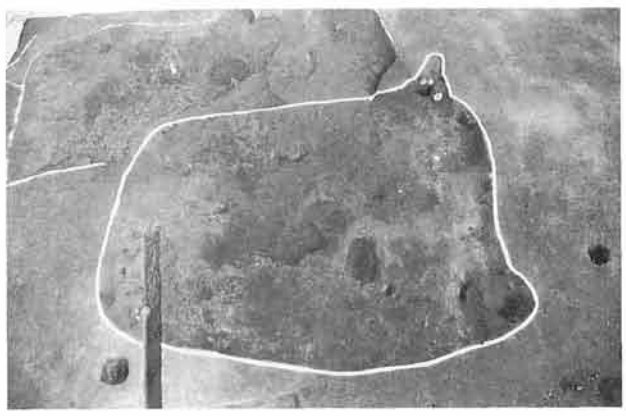


草作V・H－21号住居跡、D－12・18号土坑全景（西から）

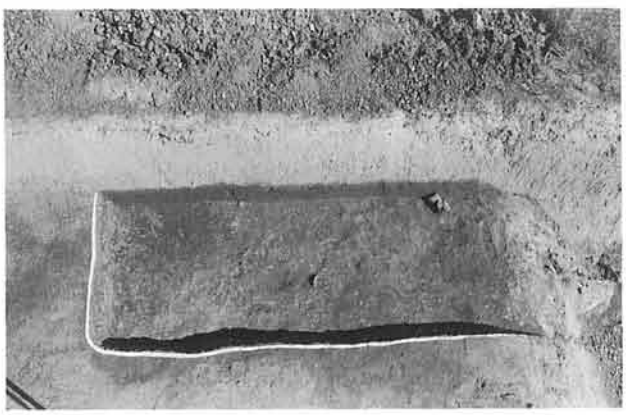


草作V・H－22号住居跡全景（西から）

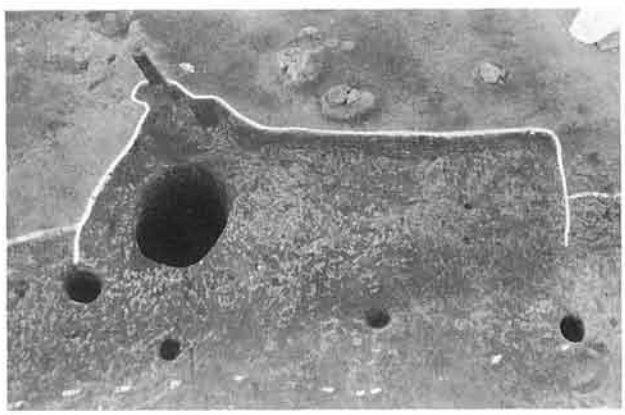
草作V・H－23号住居跡全景（東から）



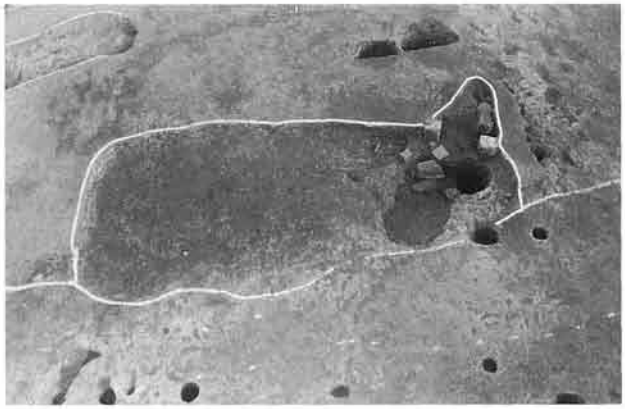
草作V・H－24号住居跡全景（西から）



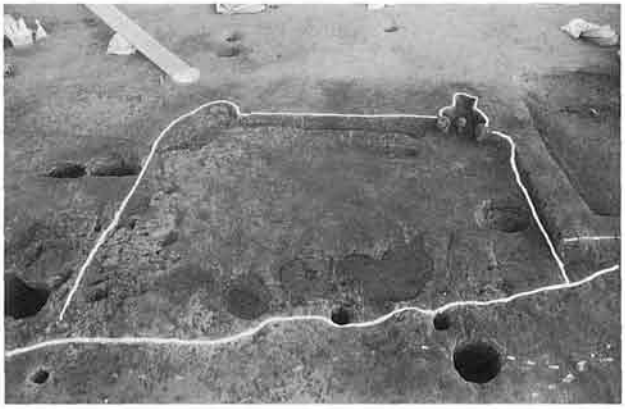
草作V・H－27号住居跡全景（西から）



草作V・H－28号住居跡全景（東から）

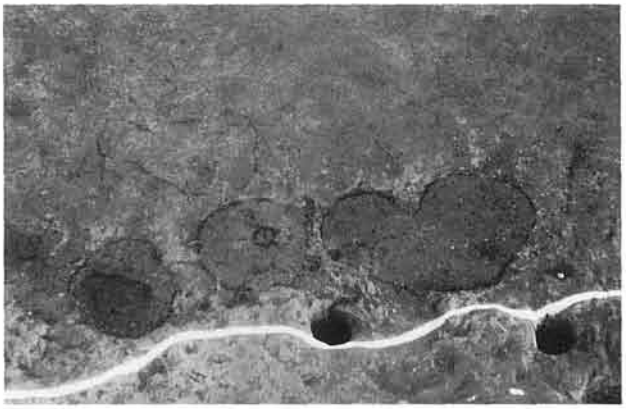


草作Ⅴ・Ｈ－29号住居跡全景（西から）

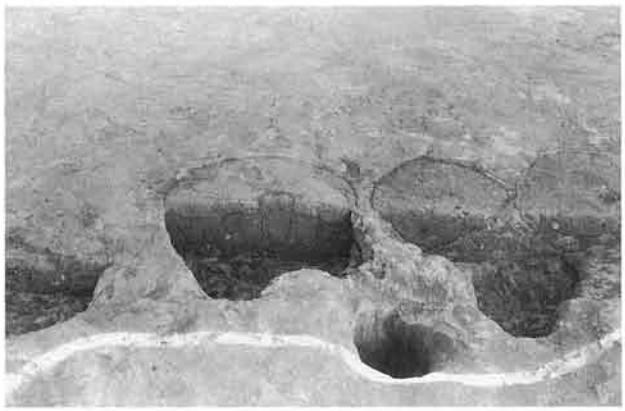


草作Ⅴ・Ｈ－30号住居跡全景（西から）

草作Ⅴ・Ｈ－30号住居跡竈全景（西から）



草作Ⅴ・Ｈ－30号住居跡Ｐ－１～５確認状況（西から）

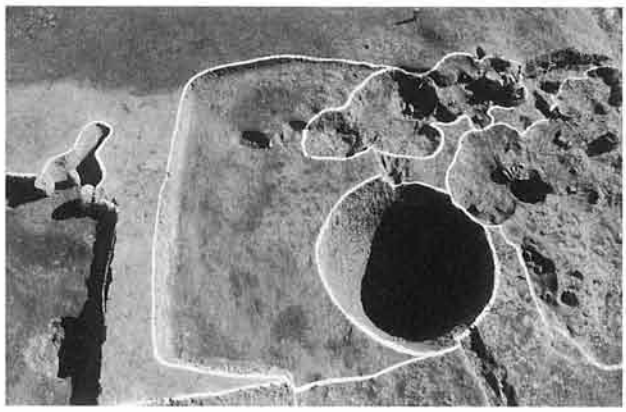


草作Ⅴ・Ｈ－30号住居跡Ｐ－１～５セクション（西から）

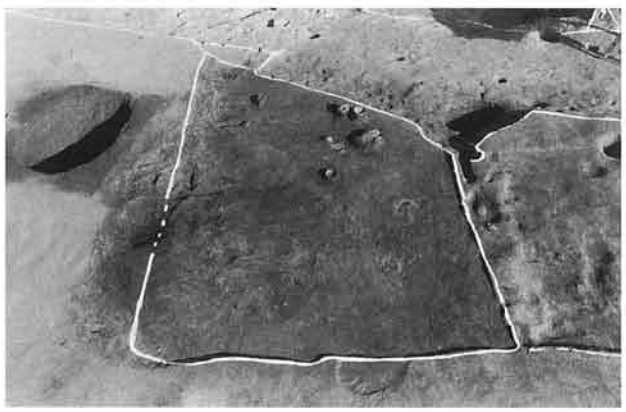
草作Ⅴ・Ｈ－30号住居跡掘り方全景（西から）

草作Ⅴ・Ｈ－31～33号住居跡全景（西から）

草作Ⅴ・Ｈ－35号住居跡全景（東から）



草作Ｖ・Ｈ－36号住居跡全景（西から）



草作Ｖ・Ｈ－37号住居跡全景（西から）

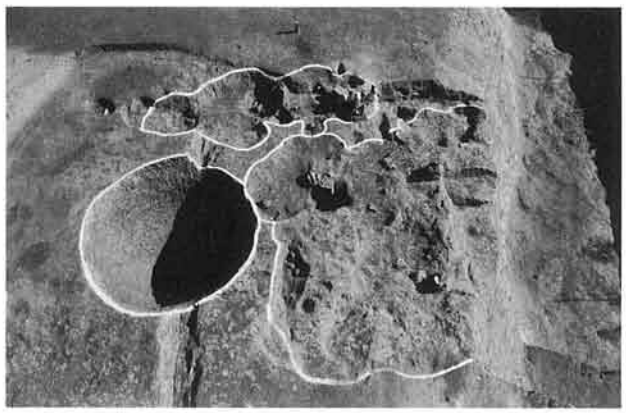
草作Ｖ・Ｗ－１号溝跡全景（西から）

草作Ｖ・Ｗ－１号溝跡南側面礫出土状況（東から）

草作Ｖ・Ｗ－２号溝跡全景（南から）

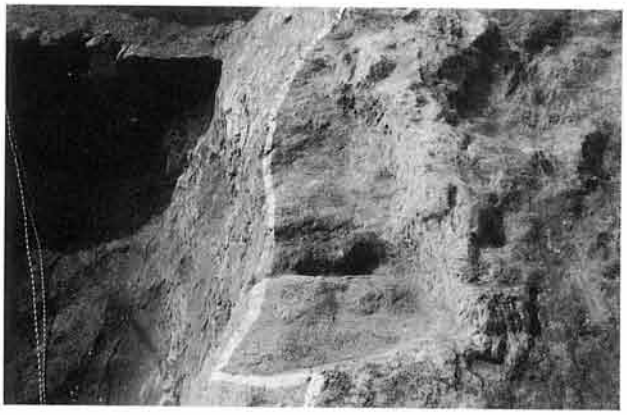
草作Ｖ・Ｄ－16号土坑全景（南東から）

草作Ｖ・Ｄ－20号土坑全景（西から）

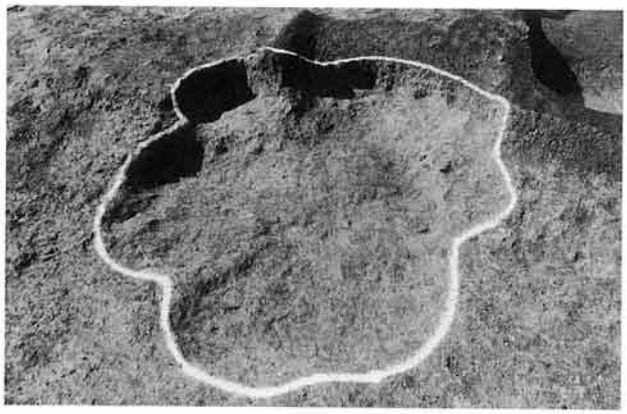


草作Ｖ・Ｄ－22～24号土坑全景（西から）

草作Ⅴ・Ｄ－22・23号土坑遺物出土状況（西から）



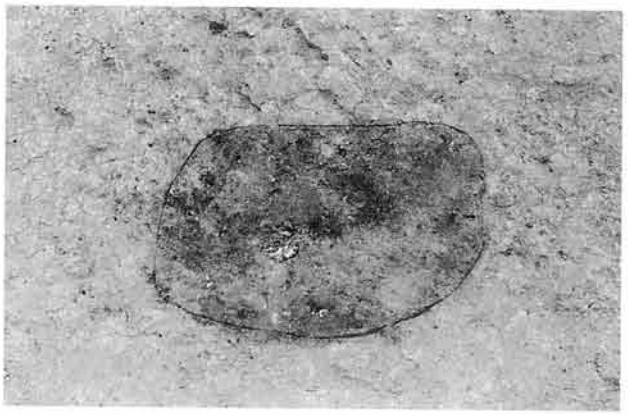
草作Ⅴ・Ｄ－24号土坑全景（東から）



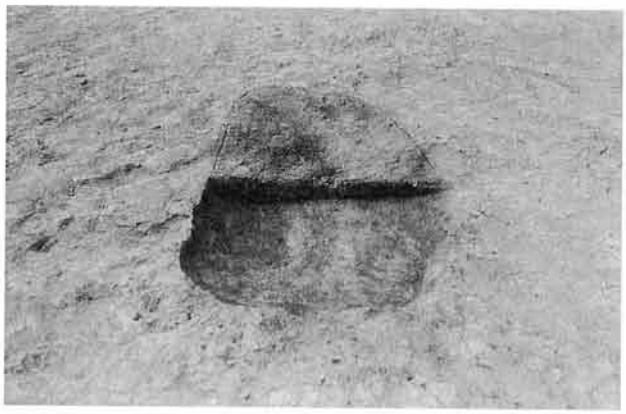
草作Ⅴ・Ｄ－26号土坑全景（東から）

草作Ⅴ・Ｄ－28～30号土坑全景（西から）

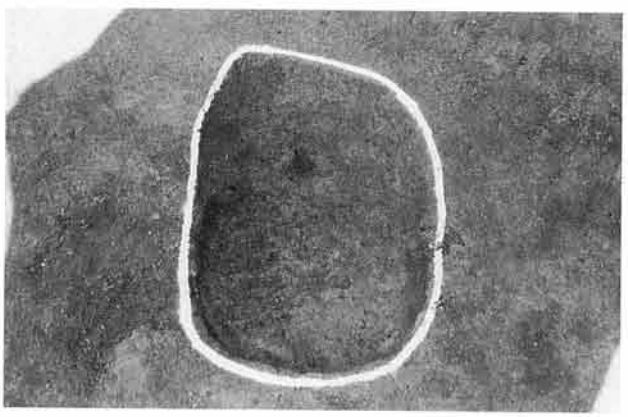
草作Ⅴ・ＤＢ－２号土坑墓人骨出土状況（南から）



草作Ⅴ・１号火葬跡確認状況（東から）



草作Ⅴ・１号火葬跡セクション（南から）



草作Ⅴ・１号火葬跡完掘（南から）

P L.18

1 (2区J－1)

2 (1区H－1)

3 (1区H－1)

4 (1区H－1)

5 (1区H－1)

7 (1区H－4)

8 (1区H－4)

6 (1区H－3)

9 (1区H－4)

10 (2区H－2)

11 (2区H－2) (1：2)

12 (2区H－4)

13 (2区H－4)

14 (2区H－4)

15 (2区H－5)

16 (2区H－5)

17 (2区H－5)

18 (2区H－5)

19 (2区H－5)

20 (2区H－5) (1：2)

21 (2区H－5) (1：2)

22 (2区H－8) (1：2)

23 (2区H－9)

24 (2区H－9)

25 (2区H－9)

26 (2区H－9)

28 (2区H－10)

31 (2区H－14)

27 (2区H－9)

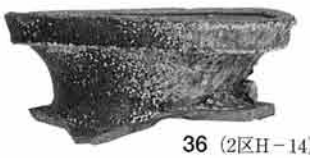
29 (2区H－10)
(1：2)

30 (2区H－14)

32 (2区H－14)

33 (2区H－14)

35 (2区H－14)



36 (2区H－14)

34 (2区H－14)

37 (2区H－15)

38 (2区H－18)

44 (2区H－18)

39 (2区H－18)

40 (2区H－18)

41 (2区H－18)

42 (2区H－18)

43 (2区H－18)

45 (2区H－19)

P L .20

46 (2区H－23)

47 (2区H－23)

48 (2区H－23)

52 (2区H－25)

50 (2区H－24)

53 (2区H－25)

49 (2区H－23)

54 (2区H－25)

55 (2区H－25)

57 (2区H－29)

58 (2区H－29)

56 (2区H－25) (1：4)

59 (2区H－29)

60 (2区H－29)

61 (2区H－29)

63 (2区H－29)

64 (2区H－30)

65 (2区H－32)

62 (2区H－29)

66 (2区H－33)

68 (3区H－1)

69 (3区H－8)

70 (3区H－8)

71 (3区H－8)

72 (3区H－9)

73 (3区H－10)

74 (3区H－13)

75 (3区H－14)

76 (3区H－14)

77 (3区H－17)

78 (4区H－1)

80 (4区H－7)

79 (4区H－3)

85 (4区H－15)

81 (4区H－8)

82 (4区H－9)

87 (5区H－1)

88 (5区H－1)

90 (5区H－1)

91 (5区H－1)

93 (5区H－1)

94 (5区H－1)

92 (5区H－1)

95 (5区H－1)

96 (5区H－1)

P L .22

97 (5区H－2)

98 (5区H－3)

99 (5区H－4) (1：1)

101 (3区W－2)

102 (4区W－1)

103 (4区W－1)

104 (4区W－1・2)

106 (5区W－3) (1：6)

108 (2区I－1)

109 (5区I－1)

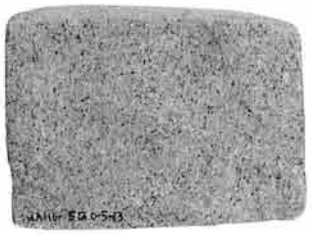
107 (5区W－3)

105 (5区W－3)
(1：6)

110 (2区D－8)

111 (4区D－2)

117 (5区DB－3)



112 (5区D－5)
(1：6)

113 (2区DB－1)

114 (2区DB－1)

116 (2区DB－1)

120 (4区遺構外)

115 (2区DB－1)

118 (3区遺構外)

小見Ⅲ・出土遺物

1 (H－1)

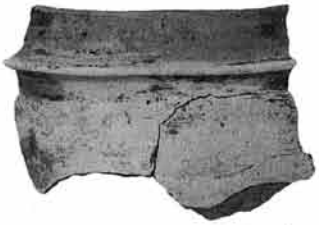
2 (H－1)

4 (H－3)

3 (H－3)

5 (H－3) (1：2)

7 (H－4)



9 (H－4)

10 (H－4)

8 (H－4)

6 (H－3) (1：2)

14 (H－11)

17 (H－13)

12 (H－10)
(1：2)

13 (H－10) (1：2)

15 (H－11)
(1：2)

16 (H－13)

21 (H－16) (1：6)

18 (H－13)

20 (H－13)
(1：2)

22 (H－16) (1：4)

19 (H－13)

25 (H－19)

27 (H－19)

23 (H－18)

24 (H－18)

26 (H－19)

28 (H－21)
(1：2)

29 (H－25)

P L .24

30 (H－27)

31 (H－27)

32 (H－29)

33 (H－29)
(1：2)

34 (H－30)

36 (H－35)

38 (H－35)

40 (H－36)

35 (H－30)

37 (H－35)

39 (H－35) (1：1)

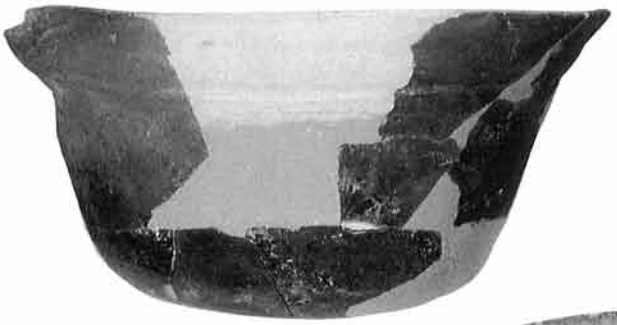
41 (H－36)

42 (H－37)

43 (H－37)

44 (H－37)

45 (W－2)



47 (D－16)

49 (D－22)

46 (W－2)

50 (D－23)

51 (遺構外)

報告書抄録

フリガナ	モトソウジャオミサンイセキ・モトソウジャクサヅクリゴイセキ
書名	元総社小見Ⅲ遺跡・元総社草作Ⅴ遺跡
副書名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	齊木一敏、長谷川一郎、土生朗治、松川由之
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団、山武考古学研究所
所在地	〒371－0018　群馬県前橋市三俣町二丁目10－2、〒286－0045　千葉県成田市並木町221番地
発行機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
所在地	〒371－0018　群馬県前橋市三俣町二丁目10－2
発行年月日	西暦　2003年　3月　7日

所収遺跡（フリガナ）	所在地（フリガナ）	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	（世界測地系）				
元総社（モトソウジャ）小見Ⅲ遺跡（オミサンイセキ）	群馬県前橋市（グンマケンマエバシシ）元総社町地内（モトソウジャマチチナイ）	10201	14A116	36°23′30″	139°1′44″	20020820～20030307	4,594㎡	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業
元総社（モトソウジャ）草作Ⅴ遺跡（クサヅクリゴイセキ）	群馬県前橋市（グンマケンマエバシシ）元総社町地内（モトソウジャマチチナイ）	10201	14A117	36°23′22″	139°1′45″	20020820～20030307	846㎡	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社小見Ⅲ	集落跡 集落跡 溝跡、土坑墓	縄文時代 古墳～奈良・平安時代 中世	住居跡 住居跡、柱穴列、溝跡、井戸、土坑、土坑墓 道路状遺構、土坑、溝跡、井戸跡、土坑墓	加曾利E式土器、石器類 土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、瓦、鉄製品 陶磁器、石臼、五輪塔	
元総社草作Ⅴ	集落跡 溝跡、土坑墓、火葬跡	古墳～奈良・平安時代 中世	住居跡、土坑 溝跡、井戸跡、土坑、土坑墓、火葬跡	土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、白磁、瓦、鉄製品 陶器類	

出土遺物及び図面等の取り扱いについて

項　目		内　容
水洗い		・すべて行った。
注　記		・インクジェットプリンターを使用した。 ・遺跡略号　元総社小見Ⅲ遺跡（14A116）　元総社草作Ⅴ遺跡（14A117） ・遺構（H：住居跡、B：柱穴列、T：竪穴状遺構、A：道路状遺構、W：溝跡、I：井戸跡、D：土坑、DB：土坑墓、X：性格不明遺構、例外として火葬墓には略称を付していない）
復　元		・接合は可能な限り行った。必要に応じてエポキシ樹脂を充填し、強度的に必要最小限の復元を行った。
実　測		・遺物実測は報告書掲載分についてのみ作成した。
台　帳		・遺物台帳、図面台帳、写真台帳があり、それぞれ資料の検索が可能であるよう作成した。
保管方法	出土遺物	・出土遺物は、報告書使用分と未使用に分け、コンテナあるいは段ダンボール箱に収納した。各箱には収納内容を明記した。 ・遺物については、注記番号・台帳番号・報告書掲載番号の3種類が存在するが、基本的に報告書掲載番号を優先して記載・収納してある。
	図　面	・遺構実測図と遺物実測図に分け、それぞれ図面ケースに収納した。
	写　真	・遺構写真は、モノクロ35㎜、カラーリバーサル35㎜の2種類がある。 ・遺物写真は、報告書掲載分についてのみモノクロ6×7㎝フィルムを使用して行った。なお、写真中の番号は、遺物の台帳番号である。

元総社蒼海遺跡群

元総社小見Ⅲ遺跡
元総社草作Ⅴ遺跡

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業
に伴う埋蔵文化財発掘調査

印　刷　平成15年3月5日
発　行　平成15年3月7日

編　集　山武考古学研究所
発　行　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
印　刷　㈱文化総合企画
TEL 0476－93－0593